

次期「彦根市子ども・若者プラン」 策定に係る調査結果報告書

**平成 31 年3月
彦根市**

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 実施要領	1
3 報告書の見方	2
II. 調査結果	3
II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査	3
1 お住まいの地域	3
2 お子さんご家族の状況について	4
3 子どもの育ちをめぐる環境について	8
4 保護者の就労状況	21
5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前のみ）	29
6 地域の子育て支援事業の利用状況	41
7 土日・祝日、長期休業中の「定期的」な幼稚園・保育所等の利用希望（就学前のみ）	45
8 病気の際の対応	48
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について（就学前のみ）	58
10 放課後の過ごし方	62
11 子育て観やサービスの満足度などについて	67
12 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	78
II-2. 若者の意識調査（18歳～39歳の市民用調査）	97
1 回答者について	97
2 将来について	102
3 ご自身の状況について	104
4 仕事と家庭、子育てについて	120
5 全体を通して	130
II-3. 子どもの生活に関する調査	135
A 回答者について	135
B お子さんについて	138
C 世帯の状況	155
D 暮らしの状況	166
E 市の取り組み	174
II-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）	184

1	機関・団体について	184
2	困難な家庭の状況	184
3	現行の支援の取組と課題	187
4	今後必要な支援制度と連携による支援体制、具体的な支援方法	191
II-5. 子どもへの支援に関する調査(保幼小中高大対象)		196
II-6. 子どもへの調査(学習支援児童生徒対象)		212
II-7. 関係団体への聞き取り調査		219

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、平成 27 年 3 月に策定した「彦根市子ども・若者プラン」、平成 29 年 3 月に策定した「彦根市子どもの貧困対策計画」の見直しにあたり、市内にお住まいのお子さんのいるご家庭、18 歳～39 歳の若者、施設・団体等を対象に、子育てに関する実態や子どもたちの生活実態、市民のみなさまのご意見などをおうかがいし、今後の市の子育て支援、子ども・若者支援に係る事業計画策定の基礎資料として活用することを目的として実施したものです。

2 実施要領

	調査対象	配布数	回収数	回収率	調査期間	調査方法
就学前児童調査・小学生児童調査	市内在住 小学校入学前（0～5歳児）の子どもがいる世帯	2,000 人 (無作為抽出)	835 人	41.8%	平成 30 年 12 月 13 日 ～ 12 月 28 日	郵送配布・郵送回収
	市内在住 小学生（1～4年生）の子どもがいる世帯	1,000 人 (無作為抽出)	378 人	37.8%		郵送配布・郵送回収
若者の意識調査	市内在住 18 歳～39 歳の若者	769 人 (無作為抽出)	183 人	23.8%	平成 30 年 12 月 13 日 ～ 平成 31 年 1 月 7 日	郵送又は大学等を通じた手渡しによる配布・郵送回収
貧困対策に関する調査	小学 5 年生、中学 2 年生の子どもがいる世帯	2,051 人 (悉皆調査)	776 人	37.8%		学校経由配布・郵送回収
	市内の支援団体・行政機関・児童福祉施設	16 カ所	11 カ所	68.8%		郵送又は直接配布・回収
	市内の保育所・幼稚園・認定子ども園・小学校・中学校・高校・大学	75 カ所	58 カ所	77.3%		郵送又は直接配布・回収
	定期的な学習支援を利用している児童・生徒	66 人	24 人	36.4%	手渡しによる配布・回収	

3 報告書の見方

- (1) 図表中の「N (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
- MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - 3 LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
 - 2 LA % (2 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
- これ以外の場合は、特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問です。
- (5) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

Ⅱ. 調査結果

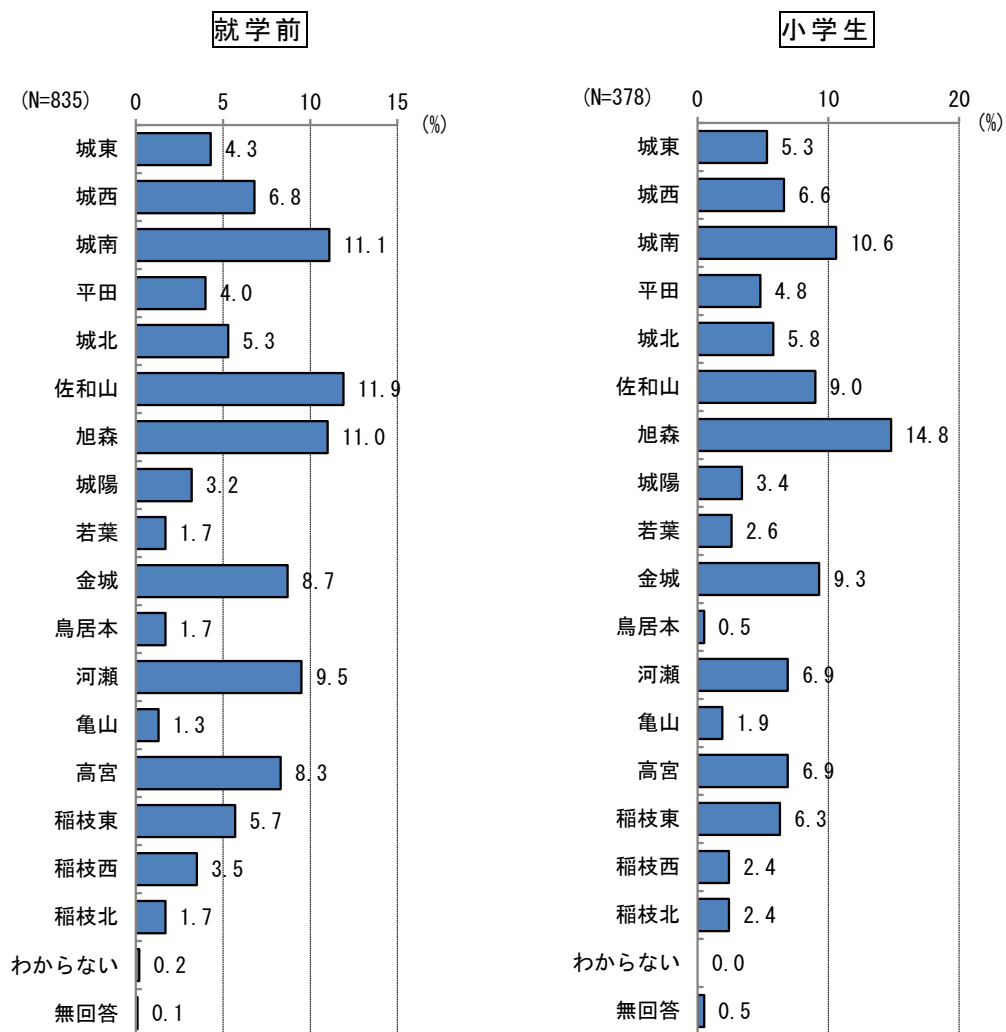
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

1 お住まいの地域

〔1〕 居住する小学校区

【 就学前：問1／小学生：問1 】

お住まいの小学校区はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。



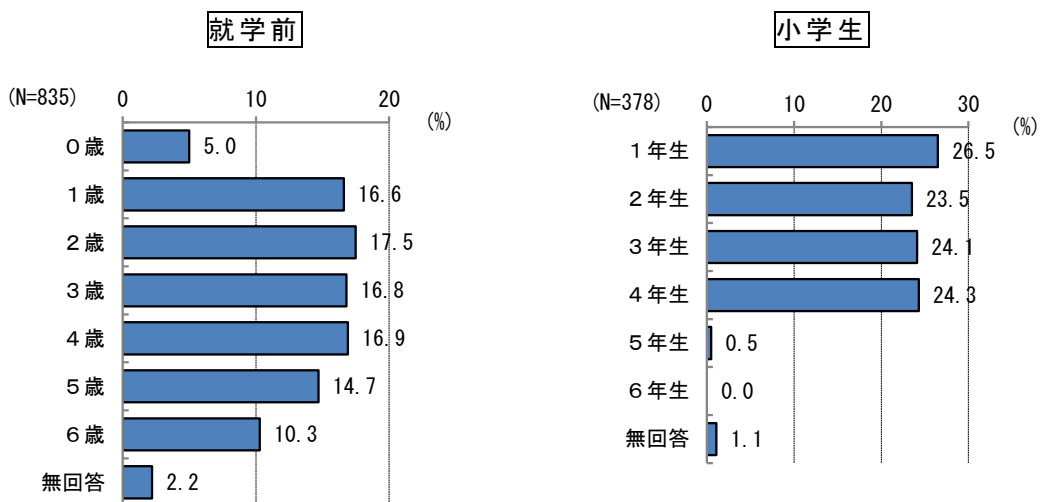
回答者の居住地（小学校区）は、就学前では「佐和山」が11.9%と最も多く、小学生では「旭森」が14.8%と最も多くなっています。

2 お子さんご家族の状況について

〔1〕対象の子どもの年齢と学年（平成30年12月1日現在）

【 就学前：問2 / 小学生：問2 】

お子さんの生年月月をご記入ください。（（ ）内に数字でご記入ください。）



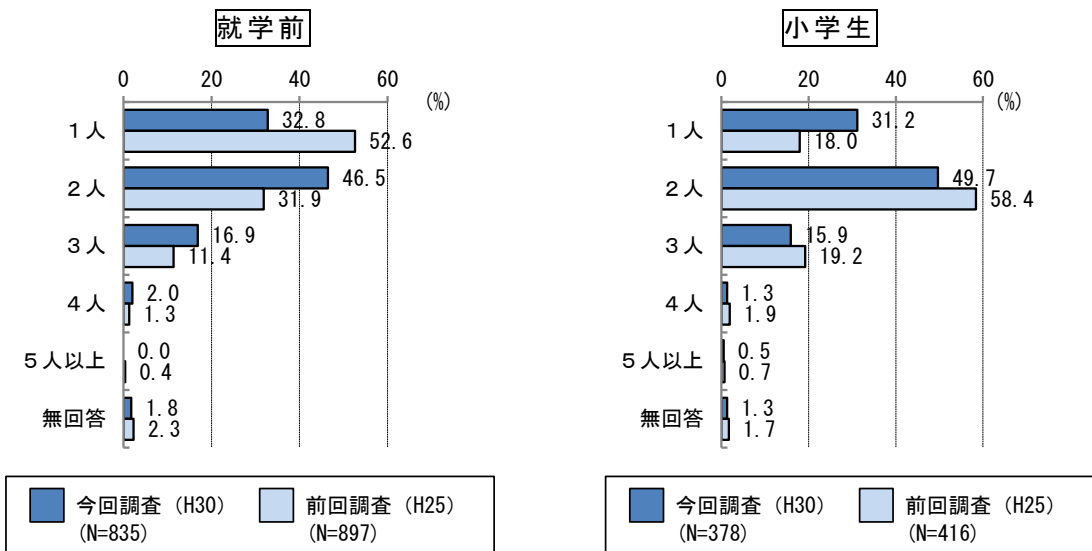
対象の子どもの年齢は、就学前では「2歳」が17.5%と最も多く、小学生では「1年生」が26.5%と最も多くなっています。

〔2〕 きょうだいの人数

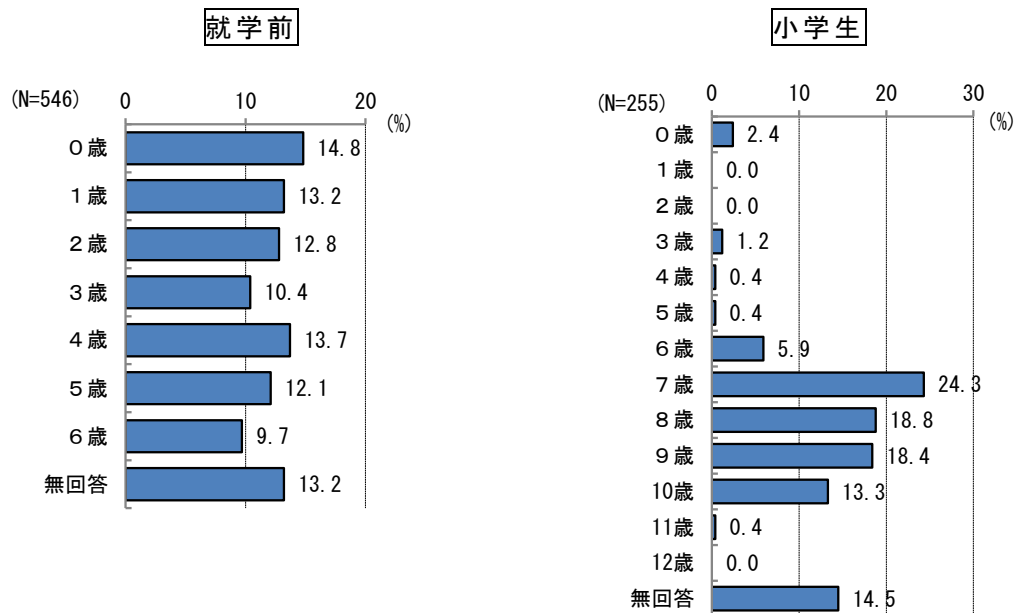
【 就学前：問3／小学生：問3 】

お子さんのきょうだいは、お子さんを含め何人いらっしゃいますか。人数を（ ）内に数字でご記入ください。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月月をご記入ください。

■ きょうだいの人数



■ きょうだいが2人以上いる場合の末子の年齢



きょうだいの人数は、「2人」が、就学前では46.5%、小学生では49.7%と最も多くなっています。

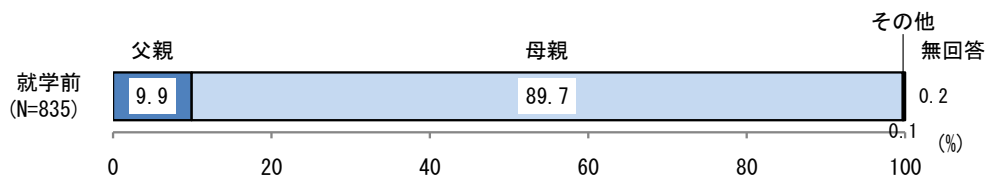
また、きょうだいが2人以上いる場合の末子の年齢は、就学前では「0歳」が14.8%と最も多く、小学生では「7歳」が24.3%と最も多くなっています。

〔3〕 調査票の回答者

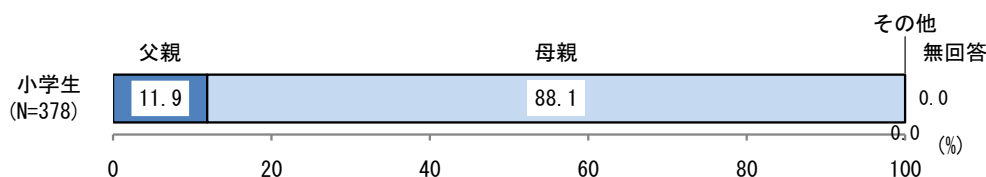
【 就学前：問4／小学生：問4 】

この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



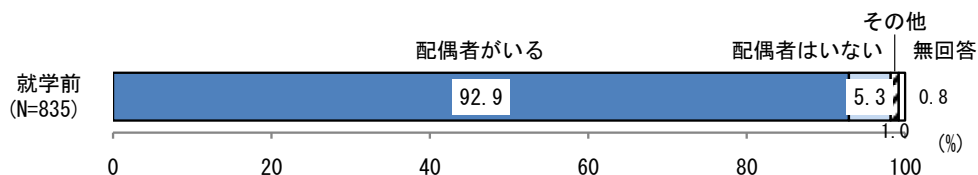
調査票の回答者は、「母親」が、就学前では89.7%、小学生では88.1%と最も多くなっています。

〔4〕 調査票の回答者の配偶関係

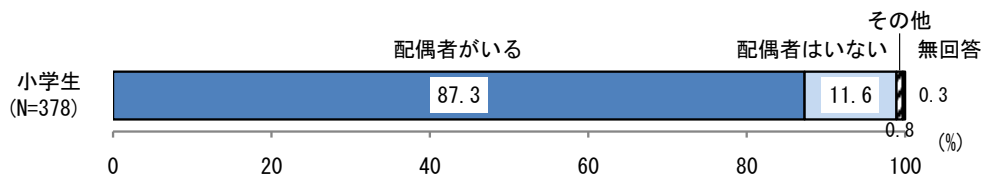
【 就学前：問5／小学生：問5 】

この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



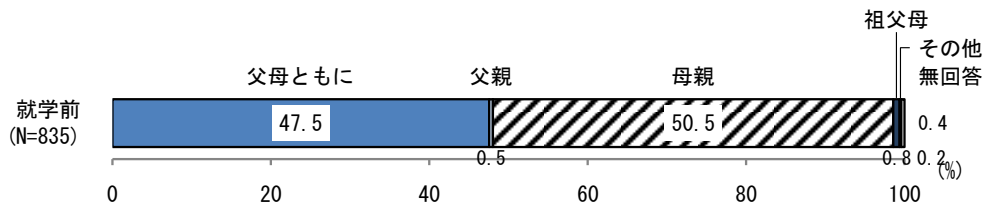
回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が、就学前では92.9%、小学生では87.3%と最も多くなっています。

〔5〕子育てを主に行っている人

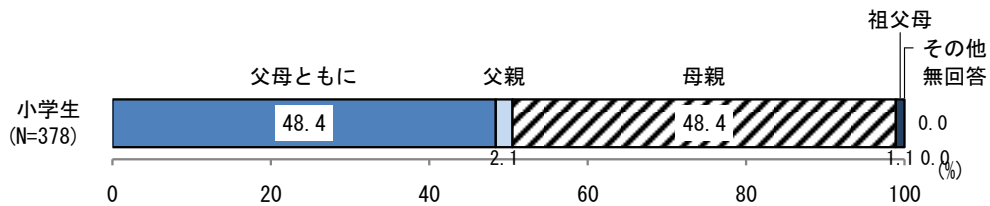
【 就学前：問6／小学生：問6 】

お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



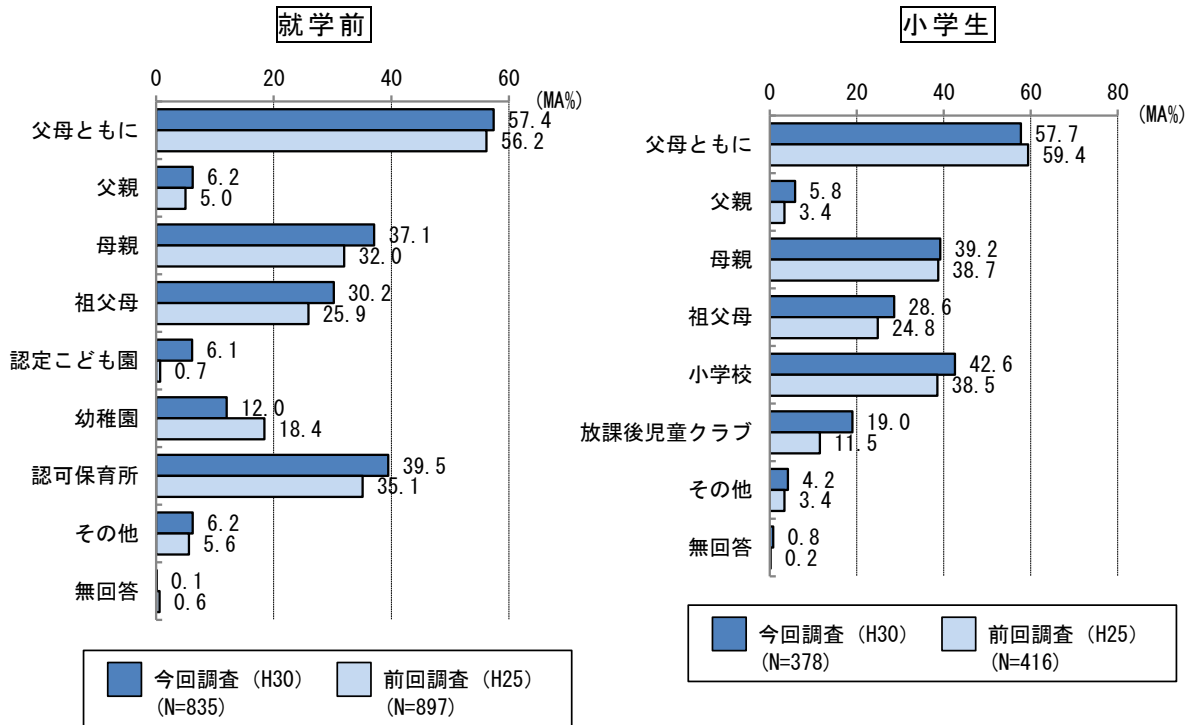
子育て（教育を含む）を主に行っている人については、就学前では「母親」が50.5%と最も多く、小学生では「父母ともに」、「母親」がそれぞれ48.4%と最も多くなっています。

3 子どもの育ちをめぐる環境について

[1] 日常的に子育てに関わっている人（施設）

【 就学前：問7／小学生：問11 】

お子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか（緊急時を除く）。お子さんからみた関係で当てはまる番号すべてに○をつけてください。

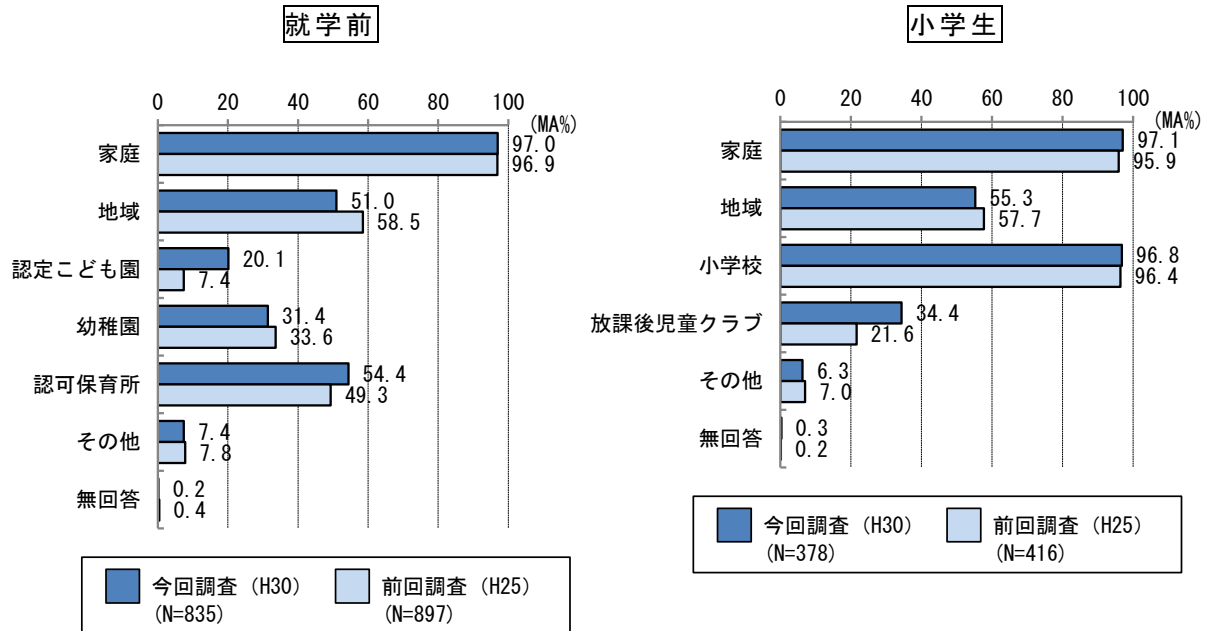


子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）については、「父母ともに」が、就学前では 57.4%、小学生では 57.7%と最も多くなっています。

〔2〕子育てに影響すると思われる環境

【 就学前：問8／小学生：問12 】

お子さんの子育て（教育を含む）に、影響すると思われる環境すべてに○を付けてください。

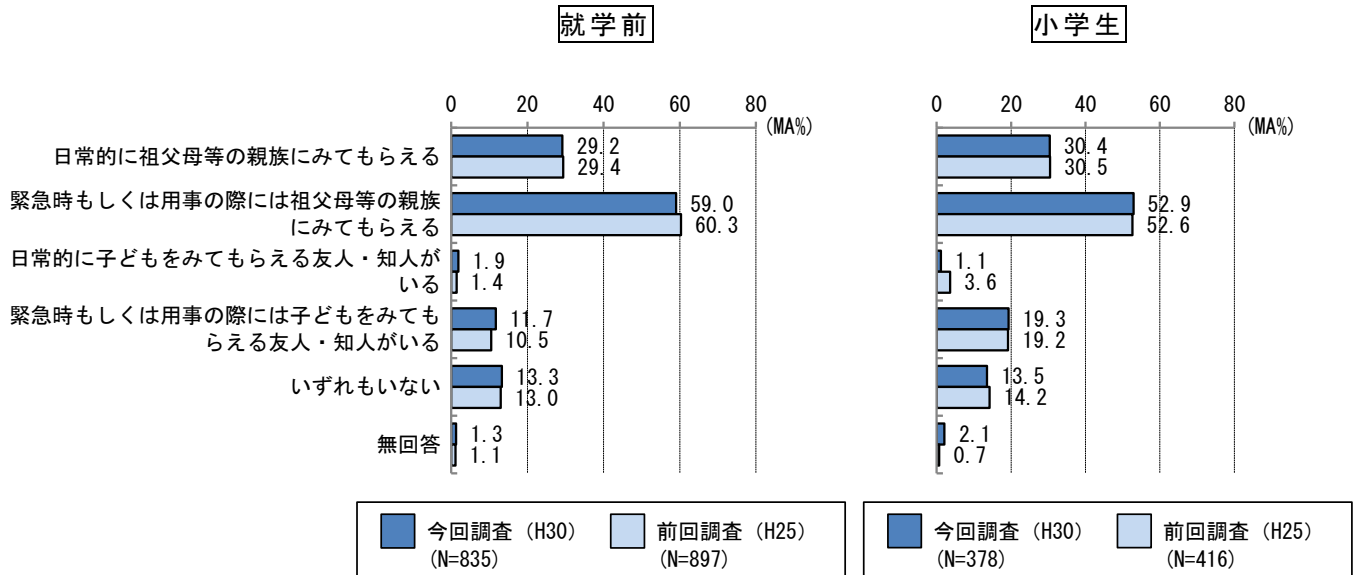


子育て（教育を含む）に影響すると思われる環境については、「家庭」が、就学前では97.0%、小学生では97.1%と最も多くなっています。

〔3〕子どもをみてもらえる親族・知人の有無

【 就学前：問9／小学生：問13 】

日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



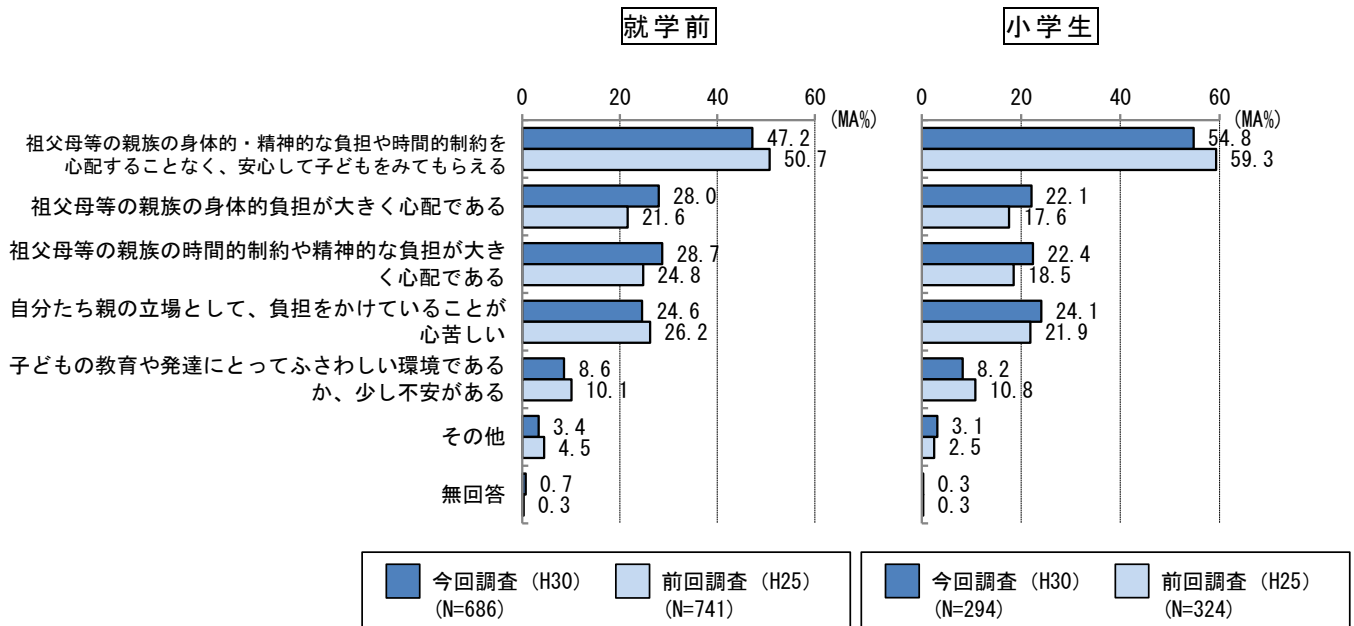
お子さんをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が、就学前では 59.0%、小学生では 52.9%と最も多くなっています。

〔4〕 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況

問9／問13で「1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選んだ方のみ

【 就学前：問9-1／小学生：問13-1 】

祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



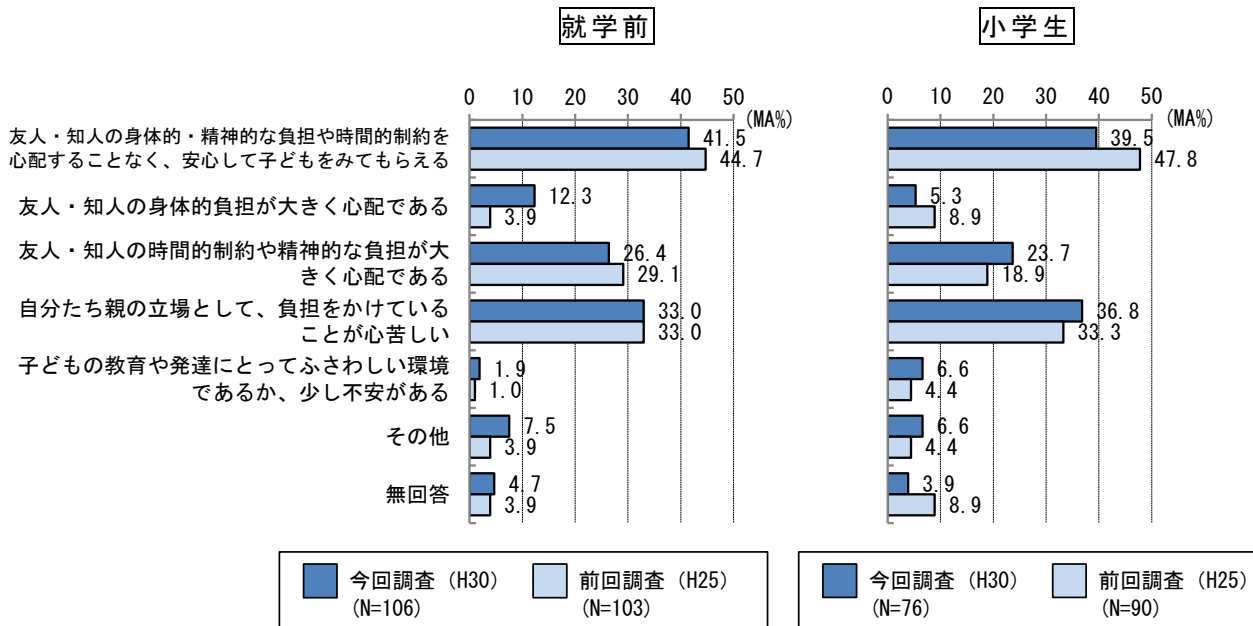
祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が、就学前では 47.2%、小学生では 54.8%と最も多くなっています。

〔5〕友人・知人に子どもをみてもらっている状況

問9／問13で「3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「4. 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」を選んだ方のみ

【 就学前：問9-2／小学生：問13-2 】

友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



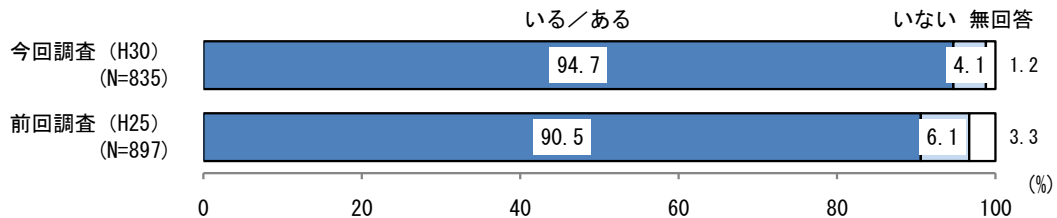
友人・知人にお子さんをみてもらっている状況については、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が、就学前では41.5%、小学生では39.5%と最も多くなっています。

〔6〕子育てについて相談できる人や場所の有無

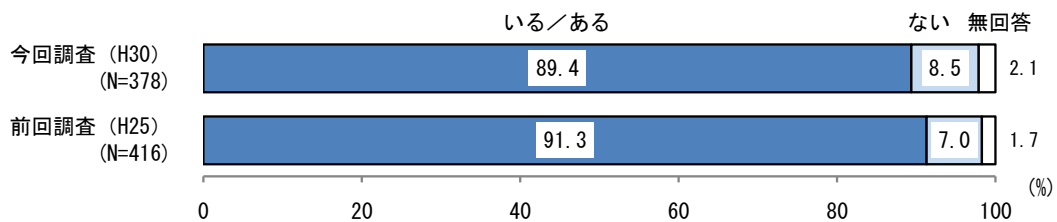
【 就学前：問10／小学生：問14 】

あなたは、子育て（教育を含む）に関して気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



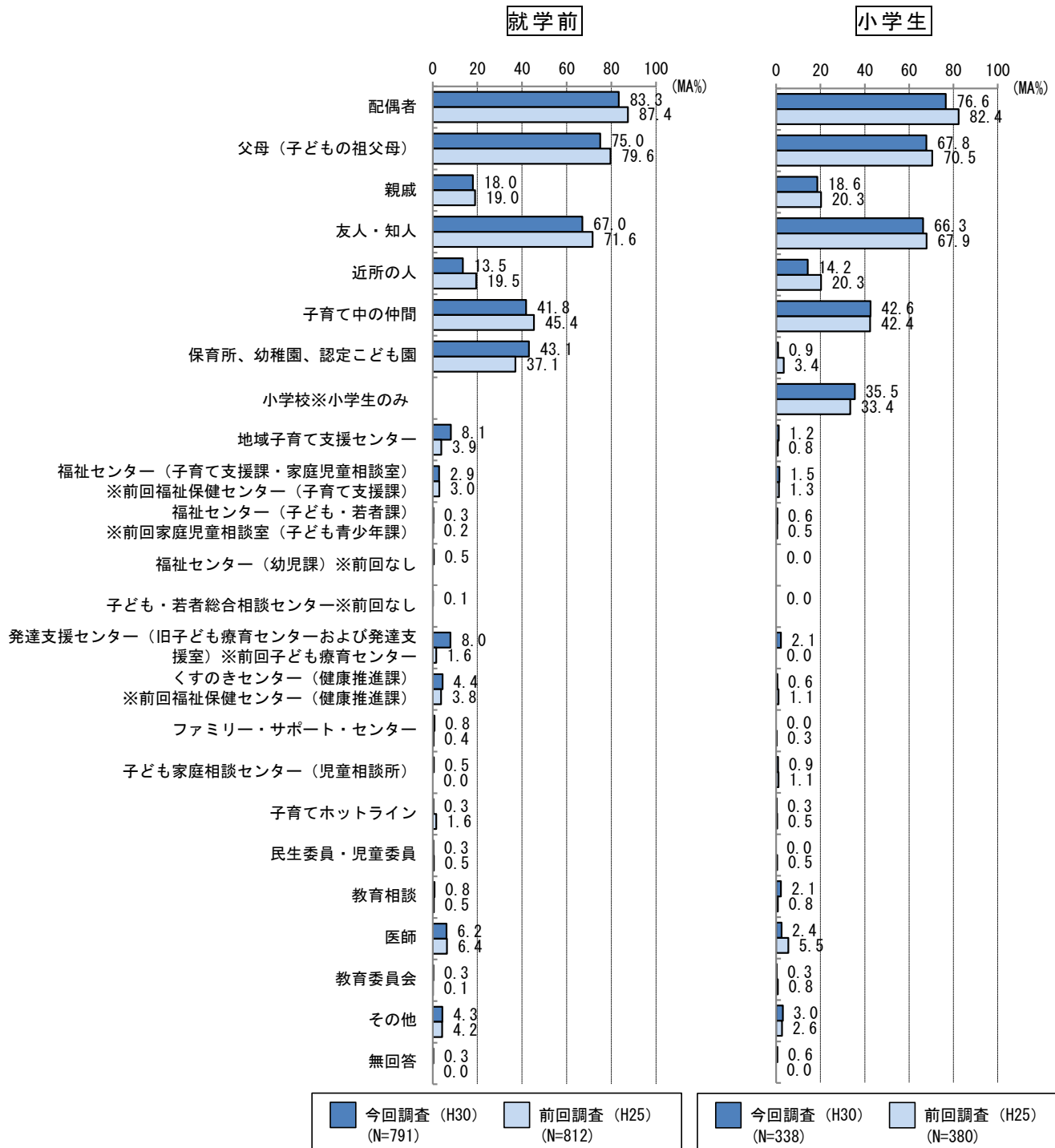
子育てをする上で相談できる人や場所の有無については、「いる／ある」が、就学前では94.7%、小学生では89.4%と最も多くなっています。

〔7〕相談相手（相談先）

問10/問14で「いる/ある」を選んだ方のみ

【 就学前：問10-1/小学生：問14-1 】

どのようなところ（誰に）相談していますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



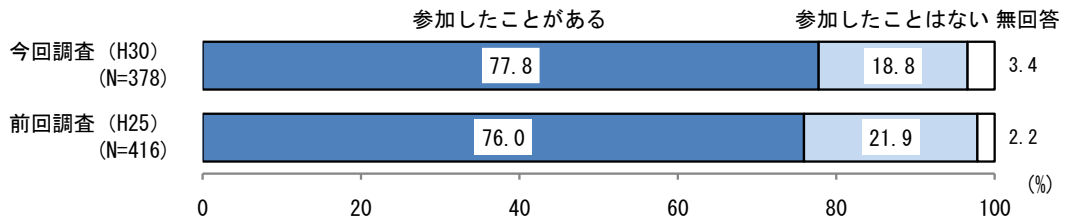
悩みや不安の相談相手・相談場所については、「配偶者」が、就学前では 83.3%、小学生では 76.6%と最も多くなっています。

〔8〕 地域活動やグループ活動などの参加経験（小学生のみ）

【 就学前：- / 小学生：問15 】

お子さんは、地域活動やグループ活動などに参加されたことがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

小学生



地域活動やグループ活動などの参加の有無については、「参加したことがある」が77.8%と多くなっています。

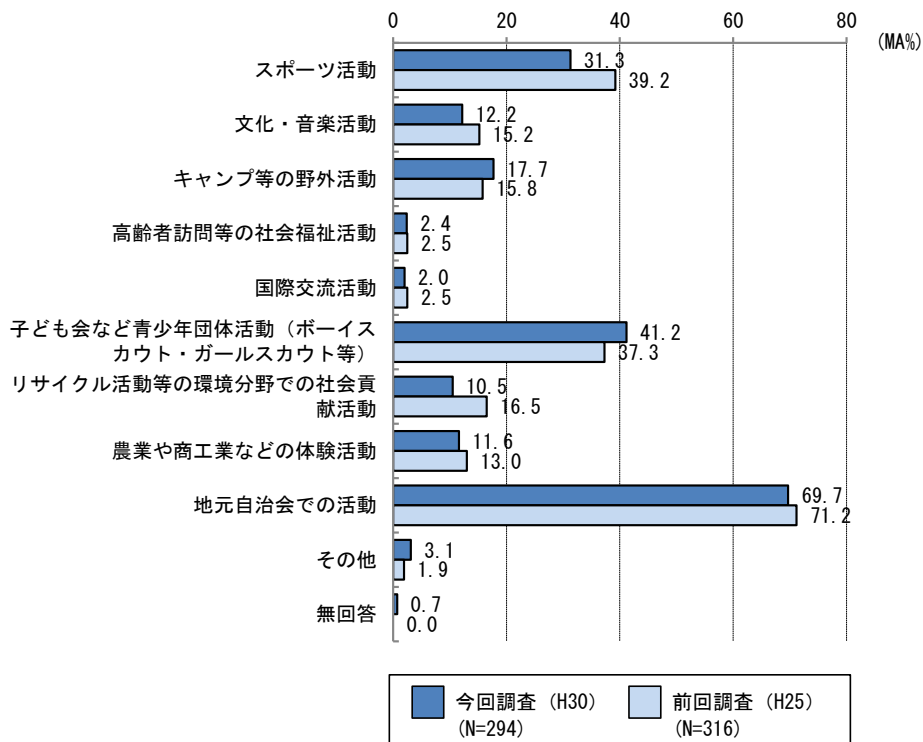
〔9〕 参加したことがある活動（小学生のみ）

問15で「参加したことがある」に○をつけた方のみ

【 就学前：- / 小学生：問15-1 】

参加したことがある活動は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

小学生



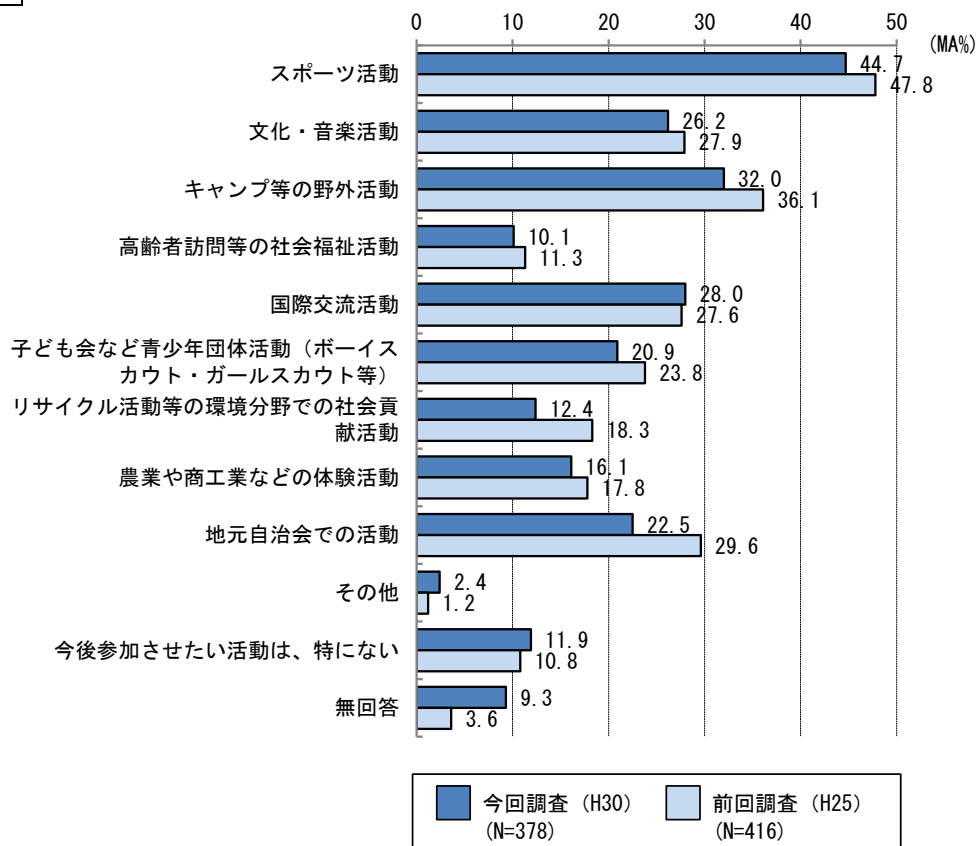
参加したことがある活動については、「地元自治会での活動」が69.7%と最も多くなっています。

〔10〕 今後参加させたい活動（小学生のみ）

【 就学前：- /小学生：問16 】

今後、参加させたいと思われる活動はありますか。また、それは何ですか。当
てはまる番号すべてに○をつけてください。

小学生



今後、参加させたいと思う活動については、「スポーツ活動」が 44.7%と最も多くなっています。

〔11〕子育てをする上で、周囲からあればよいサポート（自由記述）

【 就学前：問11／小学生：問17 】

子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

気軽に相談できること

〔就学前〕26件

- ・たいしたことない話でも聞いてもらえるところがあればうれしいです。
- ・どこに言えばよいのか分からないや、こんなことを言っているのか、など様々ですが、もっと窓口を広げて気軽に相談出来るようにすれば良いのでは。

〔小学生〕3件

- ・子どもがもしいじめ等で悩んでいるときに親子それぞれ気軽に相談できる場所があればいいなと思います。

受容的、肯定的なサポート

〔就学前〕8件

- ・母親の不満や心配ごとなどを肯定的に聞いてもらえる人が身近にいるとよい。
- ・いつも温かい目で見、母親にたとえ至らない点があったとしても、否定せず話を聞いて下さる姿勢。その上で、適切なアドバイスを、安心できる助言をして下さること。

〔小学生〕3件

- ・子育てに悩んだ時に、精神的な支援がしてもらえるとありがたいと思います。

声かけをしてほしい

〔就学前〕6件

- ・子どもセンター等でスタッフさんから声をかけてもらえる。声かけをもっと増やしてほしい。
- ・気軽に話せる場所で声をかけてもらえると、相談しやすく悩みをうちあけやすい。

〔小学生〕4件

- ・昔のように気軽に声をかけてくれる言葉がけ、あいさつなど。

専門的な助言がほしい

〔就学前〕4件、〔小学生〕1件

- ・悩んだときに専門家に定期的に相談できると安心（ママ友や専門でない人には答えられないようなことが多々あるため）。
- ・気持ちに寄りそって専門的なアドバイスがもらえるとうれしい。
- ・地域子育て支援センターなど身近な福祉施設に常時相談できる保健師さん等プロがいるとよい。

相談支援体制の充実

〔就学前〕7件

- ・相談できる行政窓口が、わかりやすく行きやすい場所があればよいと思う。
- ・気軽に相談できる時間帯（夜や休みの日）があると、働いてる人には、いいのでは？

〔小学生〕3件

- ・悩んだ時、困った時、どこに言えば良いか分かりません。総合窓口があり、そこで、ふるい分けというか案内があれば良い。

様々な媒体による情報提供

〔就学前〕21件

- ・情報のまとまった冊子などの定期的な配布。

II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

<ul style="list-style-type: none"> ・事前登録で健診のお知らせや子育てに役立つ情報をメールで配信してほしい。自分でわざわざ調べたりする手間を省きたい。
<p>〔小学生〕 3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て（教育を含む）関係の身近な情報が自然に得られるようになったらいいと思います。
<h3>子どもを預かってもらえるサービスの充実</h3>
<p>〔就学前〕 69件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通院や買い物等の短時間、預けられる施設があれば気疲れすることなく育児がしやすくなる。 ・地域のボランティアによる託児サービス。知り合いなら安心。少々の料金が発生しても良い。
<p>〔小学生〕 3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間に子どもを見てもらえる場所があればありがたいと思います。
<h3>病児保育の充実</h3>
<p>〔就学前〕 28件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが病気で保育園に行けない時に預ってもらえる場所が増えてほしい。 ・共働きなので、子どもが体調不良の時にでも預けられる場が、もう少し増えたらいいなと思う。
<p>〔小学生〕 4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共働きのため、子どもがインフルエンザなどの病気になった時に、気軽に子どもを看病してもらえる病院があればすごく助かります。
<h3>緊急時のサポートの充実</h3>
<p>〔就学前〕 14件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か緊急のときに子どもを預けられてみてもらえる場所が欲しい。 ・自分が病院に行きたい時、近くの保育園の一時預かりも、急な依頼だと定員オーバーで困った。
<p>〔小学生〕 9件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急な病気の迎えなど、一時的にサポートしていただくとありがたいと思う。
<h3>保育所、幼稚園等によるサポートの充実</h3>
<p>〔就学前〕 11件、〔小学生〕 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きたい、働かないといけない家庭がスムーズに保育園に通える体制を作してほしい ・医療的ケアが必要であっても保育園で預かってもらえるようにしてほしい。 ・自分の家から近い保育園に入園できる様にしてほしい。
<h3>遊び場の充実</h3>
<p>〔就学前〕 13件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを伸び伸びと安全に遊ばせることのできる場所をもっと増やして欲しいです。 ・土、日、祝日も遊べる遊び場をもっとほしいです。
<p>〔小学生〕 5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと外で遊べる場所がほしい。中規模グラウンド（運動公園）。子どもが自転車で行ける範囲。
<h3>イベント等の充実</h3>
<p>〔就学前〕 12件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しめるイベント。 ・情報交換会や研修のようなイベント。 ・自治会レベルの地域行事が活発になれば、地域の横のつながりが向上すると考えます。
<p>〔小学生〕 6件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何させるにもお金がかかるので、参加させたくてもできない。子ども教室をもっと増やしてほしい。バスで工場見学など増やしてほしい。 ・親や保護者が一緒に参加するものが多いため、日常的に忙しい親などは、なかなか参加しにくい所があると思うので、子どもだけの参加ができると、少し気が楽に感じる。

<ul style="list-style-type: none"> ・学校や学童で地域の地元企業などの場や人との交流をして、視野を広げてもらいたい。
サロン等の親子が集まれる場所の充実
<p>〔就学前〕 14 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区ごとの未就学児、未就園児とママのつどいが増えたとよい。町内の集いだと限られる。 ・子どもの数が少なく、子どもが遊べる場があまりないため、孤立しているように感じています。保育園や幼稚園の開放日を設けて遊べる場や地域のママさんにつながる場がほしいです。
<p>〔小学生〕 2 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配事（教育についてや、友人関係など）を共感できる子育て中の仲間と顔を合わせて話せることで大変助かっている。気軽に顔を合わせる場所があればもっといいと思う。
医療費の軽減
<p>〔就学前〕 9 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費の無料化の拡大。中学校まで無料にしてほしい。経済的負担が大きいので子育てが難しい。 ・マル福を中3まで利用できるようにしてほしい。
<p>〔小学生〕 5 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費の無償化、中学生までにしてほしい。
経済的支援
<p>〔就学前〕 11 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計への負担が減るように医療費や教育費の負担額を減らしてほしい。
<p>〔小学生〕 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的サポート
職場の理解
<p>〔就学前〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気がねなく休めるよう職場の改革やサポートをしてほしい。 ・職場において時短勤務ができるよう配慮して欲しい。 ・仕事をしている親にとって、子どもが病気の時に、仕事を休みやすいような世の中の認識、意識改革、子どもを増やしたいならそういうところも大切かと思う。
<p>〔小学生〕 4 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てと仕事の両立に職場の人が理解してくれること ・子どもが低学年。育児に負担のない程度で仕事を割り振ってほしいが、職場の理解が得られない。
地域のサポート
<p>〔就学前〕 6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご近所さんとのつながり。日中母子2人だけなので、声をかけてくれるだけで嬉しい。 ・両親以外に祖父母や地域の人など世代を越えたサポートがあると一番理想だと思っています。 ・子育て世代が民生委員さん達とふれあえる機会が増えればと思います。
<p>〔小学生〕 3 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町並みをきれいにするなど魅力的なまちを目指して行けばおのずと心豊かな子どもが育つと思う。
子どもの安全
<p>〔就学前〕 2 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯強化のため、パトロールを増やしてほしい。
<p>〔小学生〕 9 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校下校の立ち当番。少人数（2、3人）による集団登校下校に不安を感じる。 ・不審者対策はしっかりしてほしい。
発達不安

II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔就学前〕 4 件 ・発達障害に不安をかかえる母親のサークルのような交流会や、ネットの掲示板があれば良い。 ・療育センターの方の家庭訪問があったら良いなと思いました。
〔小学生〕 1 件 ・発達障害児だが、情報（知識）が入ってこなくて、状況、情報が解らない。
放課後児童クラブに関すること
〔就学前〕 1 件、〔小学生〕 13 件 ・学校の長期休暇中に子どもを預って頂ける環境（学童等）を充実させてほしい。 ・学童の延長ができ、有料でいいので夕食の提供など。 ・放課後児童クラブへ迎えの時間がまにあわない時自宅までおくってくれるサポート。
学習支援
〔小学生〕 5 件 ・学業支援。勉強について行けないと学校が楽しくなくなるので学業の支援があると良い。
図書館、公民館、児童館などの充実
〔就学前〕 2 件 ・近くに図書館がほしい。
〔小学生〕 8 件 ・子どもが自分の力で通える所に図書館があると学習への意欲が増す。 ・子どもが自由に利用できる身近な児童館を各所に設置してほしい。
その他
〔就学前〕 50 件 ・学校、園に直接かかわりがない第三者の相談機関があるとよいと思う。 ・小学校の夏休み冬休み春休みの学童でお弁当が頼めるシステムがほしい。
〔小学生〕 14 件 ・外国人なのでこれから子ども日本語教育の面、これからの進学についての心配です。

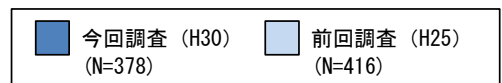
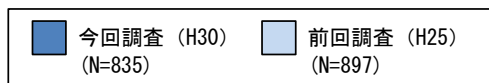
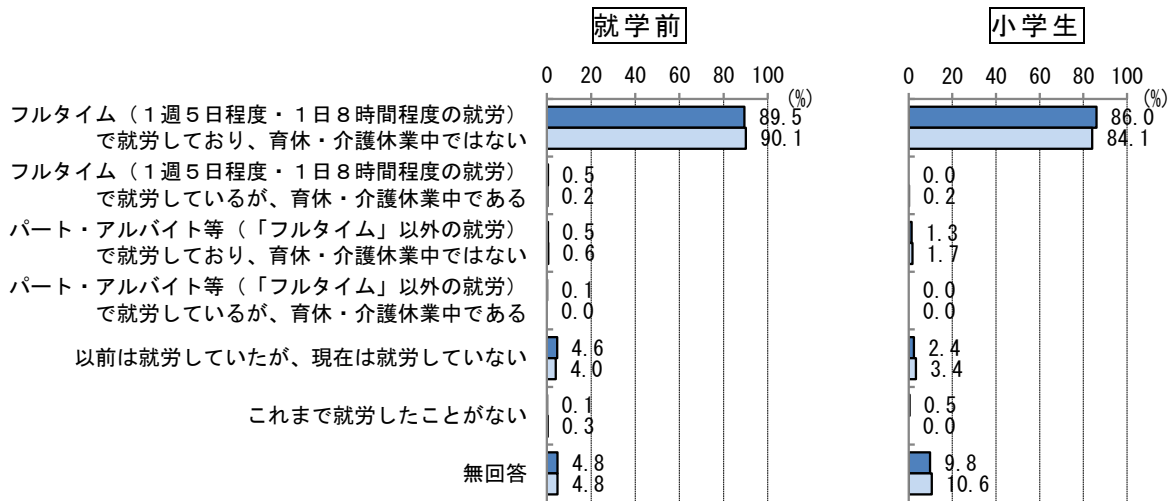
4 保護者の就労状況

〔1〕保護者の就労状況

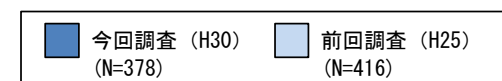
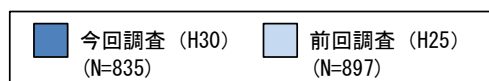
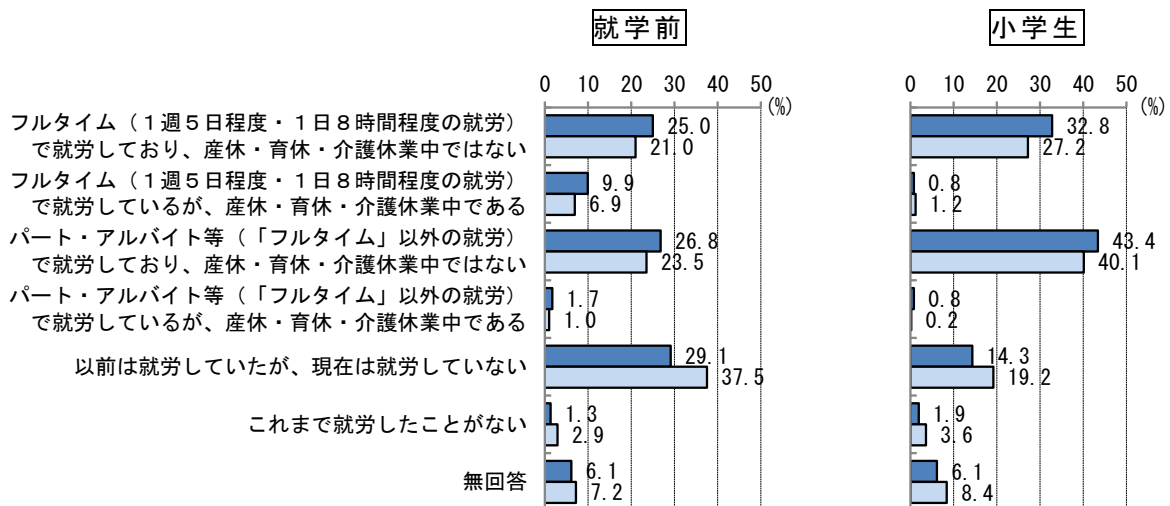
【就学前：問12／小学生：問18】

お子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。当てはまる番号1つに○をつけてください。

【父親】



【母親】



II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

【母親・子どもの年齢別】

		N	介護休業中ではない・産休・育休・介護・就	フルタイム（1週5日程度）	パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）	パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
年齢別	全体	835	25.0	9.9	26.8	1.7	29.1	1.3	6.1
	0歳	42	7.1	38.1	4.8	4.8	40.5	0.0	4.8
	1歳	139	15.8	23.7	15.8	1.4	33.8	2.9	6.5
	2歳	146	23.3	14.4	21.9	2.7	32.2	0.0	5.5
	3歳	140	29.3	5.0	20.0	0.7	32.9	0.7	11.4
	4歳	141	27.7	0.7	36.9	1.4	28.4	1.4	3.5
	5歳	123	34.1	1.6	41.5	1.6	15.4	2.4	3.3
学年別	6歳	86	27.9	2.3	36.0	1.2	25.6	1.2	5.8
	全体	378	32.8	0.8	43.4	0.8	14.3	1.9	6.1
	1年生	100	28.0	1.0	49.0	2.0	16.0	1.0	3.0
	2年生	89	32.6	1.1	40.4	1.1	16.9	2.2	5.6
	3年生	91	37.4	1.1	36.3	0.0	14.3	1.1	9.9
4年生	92	32.6	0.0	46.7	0.0	10.9	3.3	6.5	

父親の就労状況は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・介護休業中ではない」が、就学前では89.5%、小学生では86.0%と最も多くなっています。

母親の就労状況は、就学前では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が29.1%と最も多く、小学生では「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が43.4%と最も多くなっています。

〔2〕 就労日数、就労時間

問12/問18で「1」～「4」(就労している)を選んだ方のみ

【 就学前：問12-(1)-1、問12-(2)-1/小学生：問18-(1)-1、問18-(2)-1 】

1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。就労日数や就労時間が、一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。(() 内に数字でご記入ください。)

■ 1週当たりの就労日数

		N	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	(%)
父親	就学前	756	0.1	0.5	1.1	0.7	74.9	19.8	1.7	1.2	
	小学生	330	0.3	0.3	0.3	0.6	73.0	21.5	2.4	1.5	
母親	就学前	530	1.5	3.8	6.8	14.9	66.0	5.3	0.6	1.1	
	小学生	294	0.0	2.0	7.1	18.0	63.6	6.5	0.7	2.0	

■ 1日当たりの就労時間

		N	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間以上	無回答	(%)
父親	就学前	756	0.0	0.3	0.1	0.1	0.3	0.1	1.6	26.5	69.2	1.9	
	小学生	330	0.6	0.6	0.9	0.3	0.3	0.6	2.4	29.1	61.8	3.3	
母親	就学前	530	0.8	1.1	4.3	7.7	11.3	14.9	15.7	28.3	14.5	1.3	
	小学生	294	0.0	0.3	4.8	10.5	15.0	16.3	14.6	24.8	12.9	0.7	

就労している母親の1週当たりの就労日数は、「5日」が就学前では66.0%、小学生では63.6%と最も多くなっています。

就労している母親の1日当たりの就労時間は、「8時間」が、就学前では28.3%、小学生では24.8%と最も多くなっています。

〔3〕 出発時間、帰宅時間

問12/問18で「1」～「4」（就労している）を選んだ方のみ

【 就学前：問12-(1)-2、問12-(2)-2/小学生：問18-(1)-2、問18-(2)-2 】

家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時間は、必ず（例）8時～18時のように、24時間制でお答えください。（（ ）内に数字でご記入ください。）

■ 出発時間

		N	1 5 2 時	3 5 4 時	5 5 6 時	7 5 8 時	9 5 0 時	1 1 2 時	1 3 5 時	1 5 1 時	1 7 8 時	1 9 0 時	2 1 2 時	2 3 2 時	無 回 答
父親	就学前	756	0.1	0.7	15.3	70.1	4.0	0.9	0.4	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	7.9
	小学生	330	0.0	0.6	11.8	72.1	5.2	1.2	0.6	0.9	0.0	0.0	0.0	0.3	7.3
母親	就学前	530	0.0	0.2	1.9	71.9	17.4	0.6	0.4	0.0	0.4	0.2	0.4	0.2	6.6
	小学生	294	0.0	0.0	1.0	70.7	22.4	0.7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7

■ 帰宅時間

		N	1 5 2 時	3 5 4 時	5 5 6 時	7 5 8 時	9 5 0 時	1 1 2 時	1 3 5 時	1 5 1 時	1 7 8 時	1 9 0 時	2 1 2 時	2 3 2 時	無 回 答
父親	就学前	756	0.8	0.1	1.5	2.4	2.4	0.8	0.0	1.1	17.2	41.0	20.5	4.1	8.2
	小学生	330	0.9	0.3	0.0	2.1	3.6	0.3	1.2	1.5	17.9	37.9	23.0	3.9	7.3
母親	就学前	530	0.6	0.4	1.1	1.5	0.4	2.5	7.2	15.7	50.6	11.9	1.3	0.4	6.6
	小学生	294	0.0	1.4	1.0	1.0	0.0	3.4	13.6	24.8	37.8	10.9	2.4	0.3	3.4

就労している母親の家を出る時間は、「7～8時」が就学前では71.9%、小学生では70.7%と最も多くなっています。

就労している母親の帰宅時間は、「17～18時」が就学前では50.6%、小学生では37.8%と最も多くなっています。

[4] パート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望

問12/問18で「3」、「4」(パート・アルバイト等で就労している)を選んだ方のみ

【 就学前：問13/小学生：問19 】

フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

		N	が現希就日週フ あで望労85ル るきが〜時日タ るあへ間程イ 見りの程度ム 込、転度・(へ み実換の11	み実希就日週フ は現望労85ル なでは〜時日タ いきあへ間程イ るるの程度ム 見が転度・(へ 込、換の11	このタイパ と就イトー を労ム等ト 希を「(へ・ 望続以ーア け外フル る)ルバ	たやをタイパ い家やイトー 事めム等ト にて「(へ・ 専子以ーア 念育外フル して)ルバ	(%) 無 回 答
父親	就学前	5	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0
	小学生	5	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0
母親	就学前	238	9.7	22.7	55.9	2.9	8.8
	小学生	167	5.4	21.6	61.7	2.4	9.0

「パート・アルバイト等で就労している」とお答えの方に、フルタイムへの転換希望をたずねたところ、母親では、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」が就学前では 55.9%、小学生では 61.7%と最も多くなっています。

〔5〕就労していない方の今後の就労の希望

問12/問18で「5. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6. これまで就労したことがない」を選んだ方のみ

【 就学前：問14/小学生：問20 】

就労したいという希望はありますか。当てはまる番号・記号それぞれ1つに○をつけ、該当する()内には数字をご記入ください。

■就労していない方の就労希望

		N	ない() 〜に育 た念や 予し家 定た事 はいな	1年 より 先に 就	すくぐ はに し1で た年 も、 以 内も	(%) 無 回 答
父親	就学前	39	0.0	2.6	2.6	94.9
	小学生	11	9.1	9.1	9.1	72.7
母親	就学前	254	16.9	44.5	27.6	11.0
	小学生	61	39.3	11.5	41.0	8.2

■一番下の子どもが何歳になれば就労したいか

		N	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳以上	(%) 無 回 答
父親	就学前	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小学生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
母親	就学前	113	9.7	8.0	20.4	8.8	5.3	14.2	18.6	5.3	0.9	1.8	0.0	0.0	0.0	7.1
	小学生	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3

■希望する就労形態

		N	就 日 間 程 度 ・ の 1	週 5 日 程 度 ・ の 1	フル タイム 程 度 ・ の 1	パート ・ ア ル バ イ ト 等 、 以 外 の 等 、	(%) 無 回 答
父親	就学前	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	小学生	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母親	就学前	70	8.6	88.6	2.9	0.0	0.0
	小学生	25	4.0	80.0	16.0	0.0	0.0

■パートタイム、アルバイト等で希望する就労形態

・希望する1週当たりの就労日数

		N	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	(%) 無 回 答
父親	就学前	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	小学生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母親	就学前	62	0.0	9.7	35.5	33.9	14.5	0.0	0.0	6.5
	小学生	20	0.0	10.0	45.0	20.0	25.0	0.0	0.0	0.0

・希望する1日当たりの就労時間

		N	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間以上	(%) 無回答
父親	就学前	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	小学生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母親	就学前	62	0.0	0.0	12.9	30.6	37.1	11.3	0.0	1.6	6.5
	小学生	20	0.0	0.0	15.0	45.0	20.0	15.0	0.0	5.0	0.0

就労していない方に、就労希望をたずねたところ、母親では、就学前では「1年より先に就労したい」が44.5%と最も多く、小学生では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が41.0%と最も多くなっています。

「1年より先に就労したい」とお答えの方に、一番下の子どもが何歳になれば就労したいかをたずねたところ、母親では、就学前では「3歳」が20.4%と最も多く、小学生では「10歳」が28.6%と最も多くなっています。

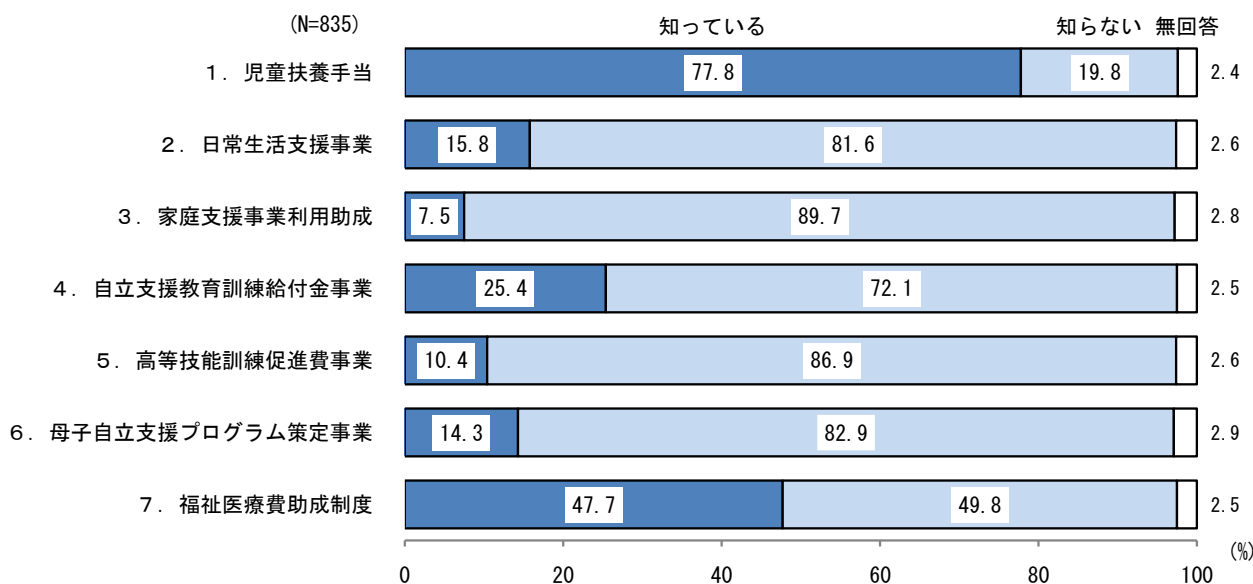
「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」とお答えの方の希望する希望する就労形態は、母親では、「パートタイム、アルバイト等」が就学前では88.6%、小学生では80.0%と最も多くなっています。パートタイム、アルバイト等で希望する1週当たりの就労日数は、「3日」が就学前では35.5%、小学生では45.0%と最も多くなっています。希望する1日当たりの就労時間は、就学前では「5時間」が37.1%と最も多く、小学生では「4時間」が45.0%と最も多くなっています。

〔6〕ひとり親家庭のためのサービスの認知度

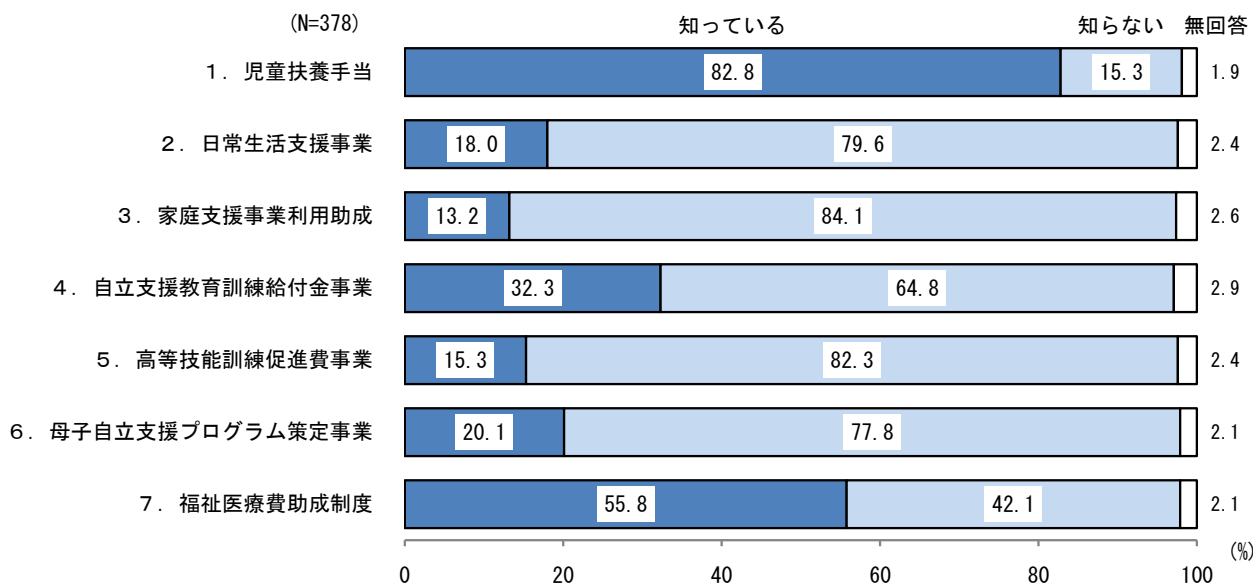
【 就学前：問15／小学生：問21 】

彦根市にはひとり親家庭のために次のような制度やサービスがあります。あなたはこれらを知っていますか。それぞれ、「知っている」「知らない」のいずれかに○をつけてください。

就学前



小学生



ひとり親家庭のための制度やサービスの認知度については、「児童扶養手当」の認知度が高く、「知っている」が就学前では77.8%、小学生では82.8%と最も多くなっています。

5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前のみ）

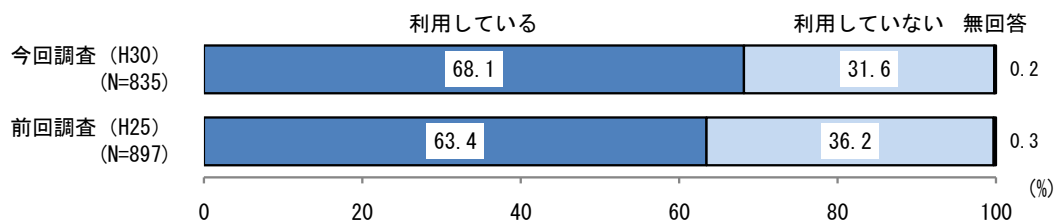
※「定期的な幼稚園・保育所等」：月単位で定期的に利用しているもの

〔1〕 平日の定期的な教育・保育事業の利用（就学前のみ）

【 就学前：問16／小学生：- 】

お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



【年齢別・就労形態別】

		N	(%)		
			利用している	利用していない	無回答
年齢別	全体	835	68.1	31.6	0.2
	0歳	42	7.1	92.9	0.0
	1歳	139	30.9	69.1	0.0
	2歳	146	48.6	51.4	0.0
	3歳	140	65.0	34.3	0.7
	4歳	141	97.2	2.8	0.0
	5歳	123	100.0	0.0	0.0
	6歳	86	100.0	0.0	0.0
就労状況別	全体	835	68.1	31.6	0.2
	ひとり親	44	93.2	6.8	0.0
	共働き（両親ともフルタイム）	270	75.9	24.1	0.0
	共働き（フルタイム×パート）	221	89.1	10.9	0.0
	専業主婦（夫）	244	43.0	57.0	0.0
	共働き（パート×パート）	2	50.0	50.0	0.0
	無業×無業	1	0.0	100.0	0.0

現在の定期的な教育・保育事業の利用については、「利用している」が68.1%、「利用していない」が31.6%となっています。

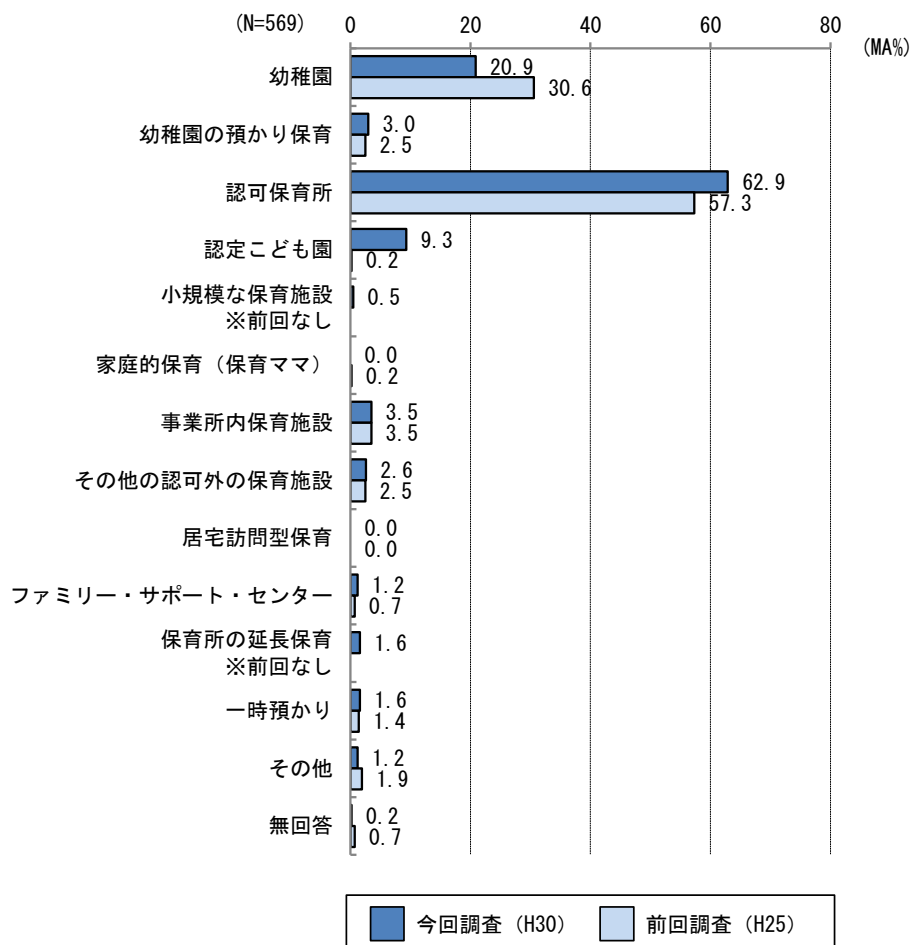
〔2〕 利用状況（就学前のみ）

問16-1～問16-4は、問16で「利用している」を選んだ方のみ

【 就学前：問16-1 / 小学生： - 】

お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



【年齢別・就労形態別】

		(MA%)														
		N	幼稚園	幼稚園の預かり保	認可保育所	認定こども園	小規模な保育施設	家庭的保育（保育ママ）	事業所内保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・センター	保育所の延長保育	一時預かり	その他	無回答
年齢別	全体	569	20.9	3.0	62.9	9.3	0.5	0.0	3.5	2.6	0.0	1.2	1.6	1.6	1.2	0.2
	0歳	3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1歳	43	0.0	0.0	67.4	0.0	4.7	0.0	14.0	7.0	0.0	0.0	0.0	4.7	4.7	0.0
	2歳	71	0.0	0.0	84.5	1.4	1.4	0.0	5.6	5.6	0.0	1.4	1.4	1.4	1.4	0.0
	3歳	91	12.1	0.0	69.2	11.0	0.0	0.0	5.5	1.1	0.0	3.3	4.4	2.2	1.1	0.0
	4歳	137	31.4	4.4	55.5	11.7	0.0	0.0	2.9	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0	0.7	0.0
	5歳	123	27.6	5.7	59.3	11.4	0.0	0.0	0.8	0.8	0.0	1.6	0.8	1.6	0.8	0.0
	6歳	86	30.2	3.5	54.7	14.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	1.2	0.0	1.2	1.2	0.0
就労状況別	全体	569	20.9	3.0	62.9	9.3	0.5	0.0	3.5	2.6	0.0	1.2	1.6	1.6	1.2	0.2
	ひとり親	41	7.3	2.4	82.9	4.9	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	0.0
	共働き（両親ともフルタイム）	205	1.5	0.0	87.8	4.9	1.0	0.0	4.9	2.4	0.0	1.5	2.9	1.0	0.0	0.0
	共働き（フルタイム×パート）	197	20.3	6.1	62.9	8.1	0.0	0.0	5.1	3.0	0.0	1.0	1.0	1.5	0.5	0.0
	専業主婦（夫）	105	64.8	3.8	5.7	21.9	1.0	0.0	0.0	2.9	0.0	1.9	0.0	1.9	5.7	1.0
	共働き（パート×パート）	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

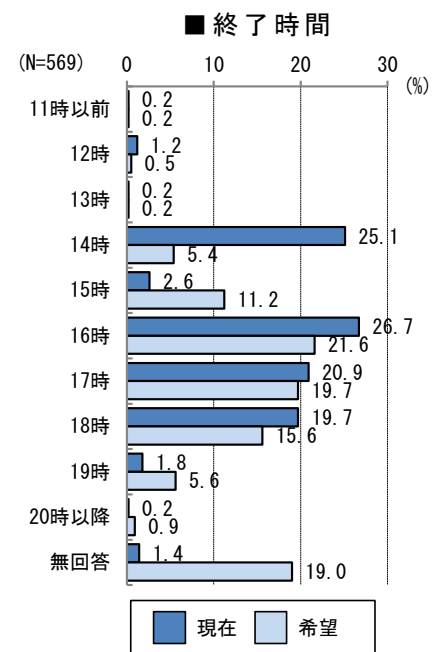
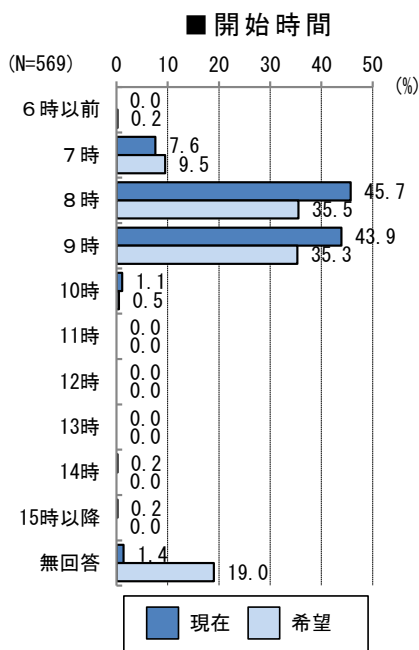
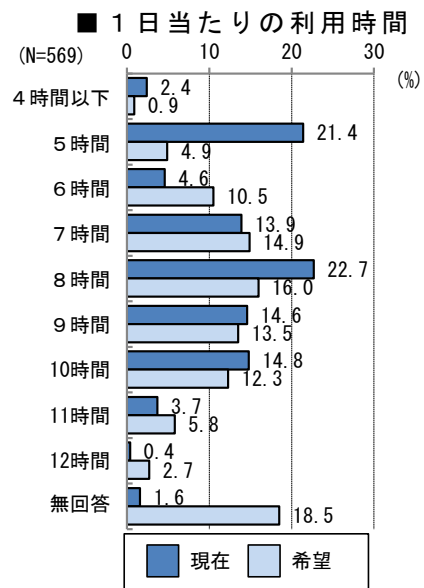
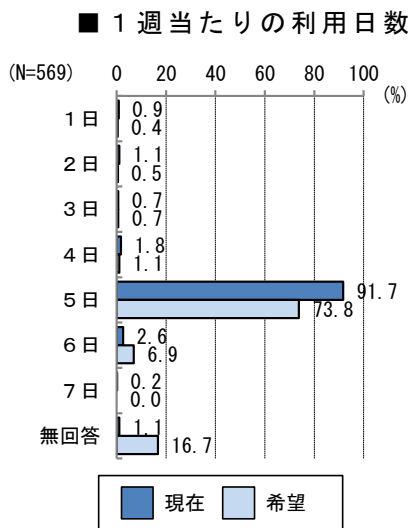
定期的な教育・保育の事業を「利用している」とお答えの方に、平日に利用している教育・保育事業についてたずねたところ、「認可保育所」が62.9%と最も多く、次いで、「幼稚園」が20.9%、「認定こども園」が9.3%となっています。

〔3〕 利用時間（就学前のみ）

【 就学前：問16-2／小学生： - 】

平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週あたり何日、1日あたり何時間（何時から何時まで）かを、（ ）内に具体的な数字でご記入ください。時間は、必ず（例）9時～18時のように24時間制でご記入ください。

就学前



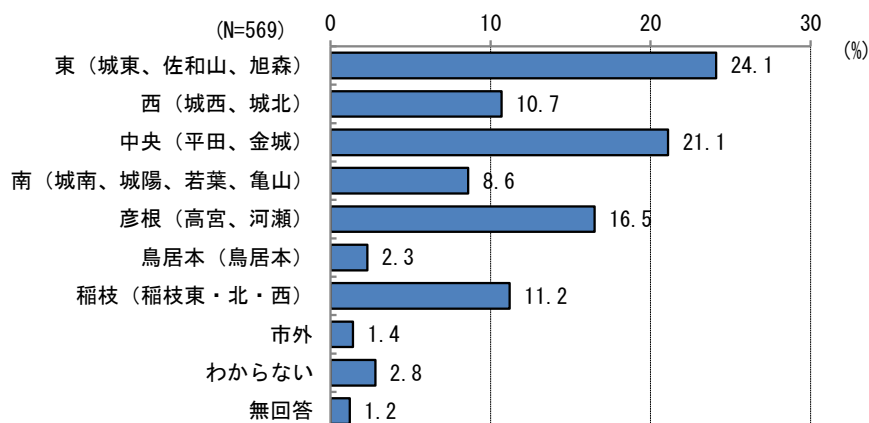
平日、定期的に利用している教育・保育の事業の1週あたりの利用日数は、「5日」が、現在では91.7%、希望では73.8%と最も多くなっています。1日当たりの利用時間は、「8時間」が、現在では22.7%、希望では16.0%と最も多くなっています。開始時間は、「8時」が、現在では45.7%、希望では35.5%と最も多く、終了時間は、「16時」が、現在では26.7%、希望では21.6%と最も多くなっています。

〔4〕実施場所（就学前のみ）

【 就学前：問16-3／小学生： - 】

現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。当てはまる中学校区の番号1つに○をつけてください。なお、（ ）内は小学校区名です。

就学前



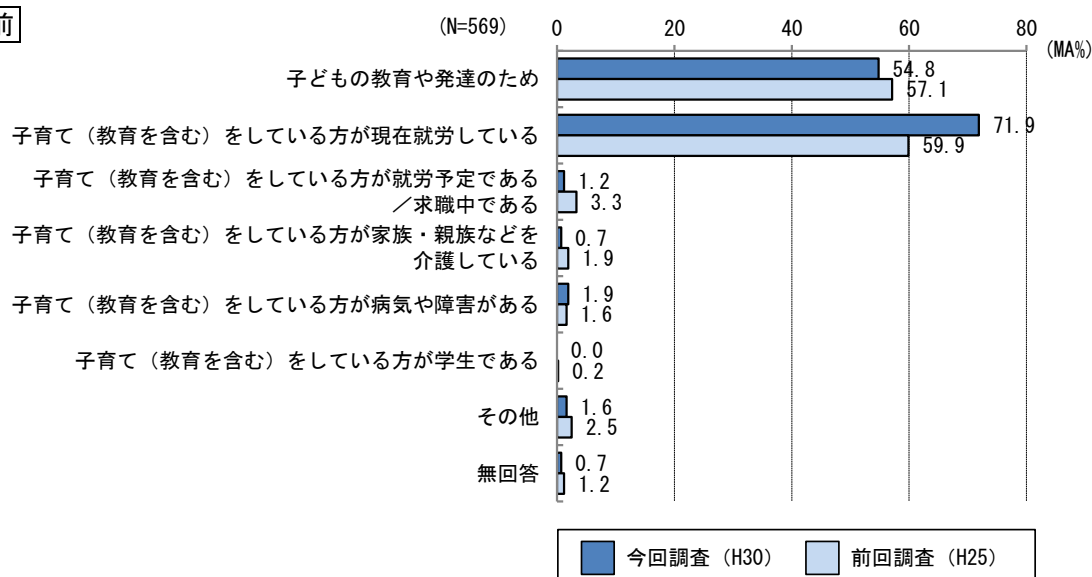
平日、定期的にご利用している教育・保育事業の実施場所は、「東（城東、佐和山、旭森）」が24.1%と最も多くなっています。

〔5〕利用している理由（就学前のみ）

【 就学前：問16-4／小学生： - 】

平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてうかがいます。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



平日、定期的にご利用している理由は、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が71.9%と最も多くなっています。

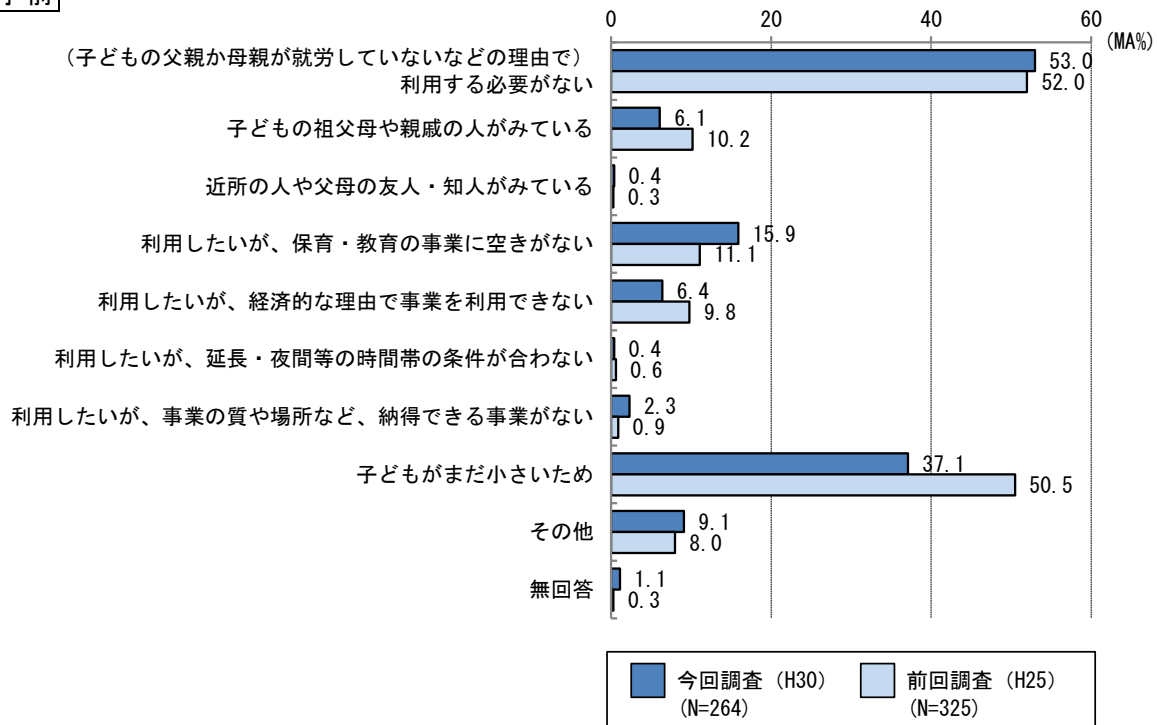
〔6〕 利用していない理由（就学前のみ）

問16で「利用していない」を選んだ方のみ

【 就学前：問16-5 / 小学生： - 】

利用していない理由は何ですか。理由としてもっとも当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



■ 利用したい時の子どもの年齢

N	年齢 (%)					
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	無回答
98	8.2	15.3	53.1	19.4	0.0	4.1

平日、定期的に教育・保育事業を「利用していない」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「(子どもの父親か母親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が53.0%と最も多くなっています。

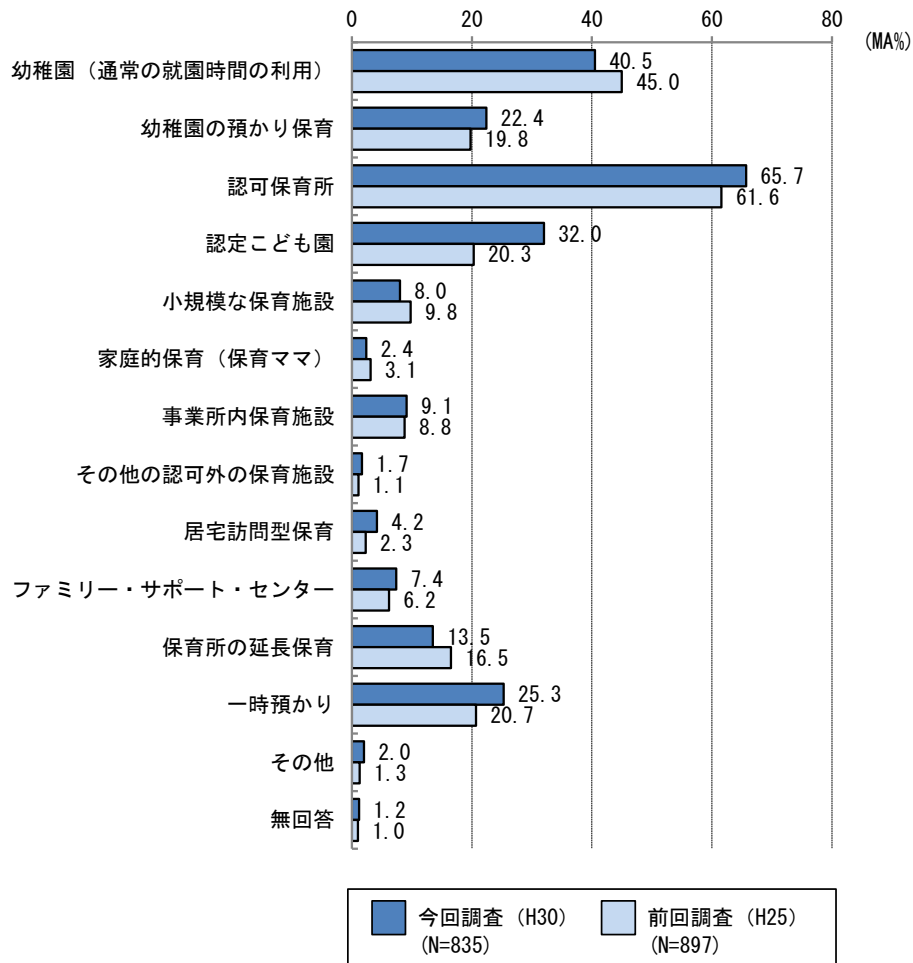
また、利用していない理由として、「子どもがまだ小さいため」とお答えの方に、子どもが何歳になったら利用したいかをたずねたところ、「3歳」が53.1%と最も多くなっています。

〔7〕 今後利用したい事業（就学前のみ）

【 就学前：問17／小学生：- 】

現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。認可保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

就学前



II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

【年齢別・就労形態別】

(MA%)

	N	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	小規模な保育施設	家庭的保育（保育ママ）	事業所内保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・センター	保育所の延長保育	一時預かり	その他	無回答	
年齢別	全体	835	40.5	22.4	65.7	32.0	8.0	2.4	9.1	1.7	4.2	7.4	13.5	25.3	2.0	1.2
	0歳	42	45.2	23.8	76.2	33.3	14.3	2.4	11.9	0.0	0.0	7.1	21.4	35.7	0.0	0.0
	1歳	139	38.1	18.7	71.9	41.7	15.1	2.2	12.2	2.2	6.5	5.0	15.1	28.8	2.2	2.2
	2歳	146	46.6	21.9	69.2	33.6	8.2	3.4	8.2	0.0	6.2	7.5	15.1	26.0	2.7	2.1
	3歳	140	42.1	25.0	62.1	35.0	7.9	2.1	7.1	0.7	1.4	12.1	10.0	30.7	2.1	0.7
	4歳	141	39.0	25.5	66.0	27.0	5.0	2.1	9.2	2.8	5.0	5.7	14.9	23.4	1.4	0.7
	5歳	123	31.7	18.7	65.9	22.8	3.3	0.8	6.5	2.4	2.4	6.5	8.1	17.9	2.4	0.0
6歳	86	41.9	22.1	52.3	32.6	5.8	3.5	10.5	3.5	5.8	8.1	15.1	16.3	2.3	0.0	
就労状況別	全体	835	40.5	22.4	65.7	32.0	8.0	2.4	9.1	1.7	4.2	7.4	13.5	25.3	2.0	1.2
	ひとり親	44	13.6	4.5	81.8	15.9	4.5	2.3	6.8	2.3	4.5	4.5	13.6	20.5	4.5	0.0
	共働き（両親ともフルタイム）	270	14.4	7.0	89.6	27.8	8.5	1.1	11.1	1.9	5.6	10.7	25.9	26.3	1.9	0.4
	共働き（フルタイム×パート）	221	36.2	19.0	71.0	28.1	8.6	3.2	9.5	0.9	5.0	5.9	11.3	20.4	1.4	2.3
	専業主婦（夫）	244	73.8	43.9	33.6	42.6	8.2	2.9	7.4	2.5	2.5	7.0	3.7	31.1	2.5	0.8
	共働き（パート×パート）	2	50.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無業×無業	1	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	

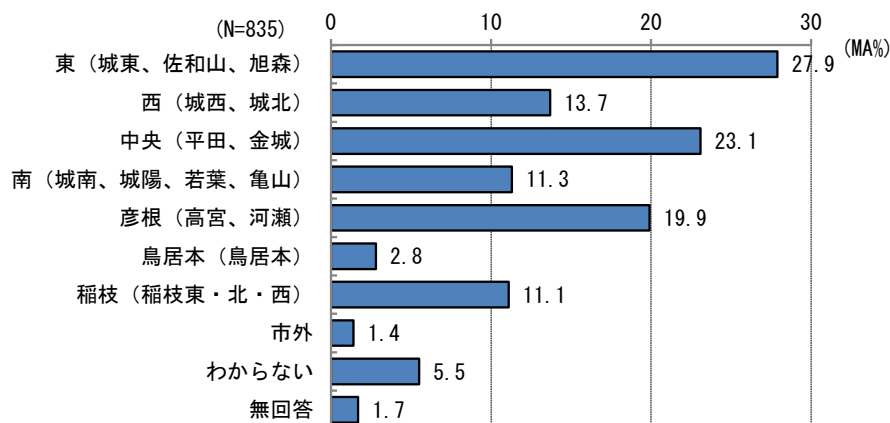
平日、定期的な教育・保育事業の利用希望については、「認可保育所」が65.7%と最も多く、次いで、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が40.5%、「認定こども園」が32.0%となっています。

〔8〕 利用したい場所（就学前のみ）

【 就学前：問17-1 / 小学生： - 】

教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。当てはまる中学校区の番号すべてに○をつけてください。なお、（ ）内は小学校区名です。

就学前



平日、定期的な教育・保育事業を利用したい場所は、「東（城東、佐和山、旭森）」が27.9%と最も多くなっています。

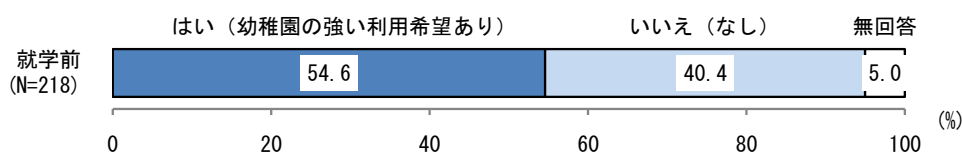
〔9〕 幼稚園の利用の強い希望（就学前のみ）

問17で「1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「2. 幼稚園の預かり保育」を選び、かつ3～12も選んだ方のみ

【 就学前：問17-2 / 小学生： - 】

特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



幼稚園の利用を希望されている方に、特に幼稚園の利用を強く希望するかたすねたところ、「はい」が54.6%、「いいえ」が40.4%となっています。

〔10〕 幼稚園の利用を強く希望する理由（就学前のみ）

問17-2で「はい」を選んだ方のみ

【 就学前：問17-3 / 小学生： - 】

幼稚園の利用を強く希望する理由は何ですか。

教育がしっかりしている（34件）

- ・ 保育内容の充実、教育面がしっかりしているから。
- ・ 教員免許のある先生方がみてくださる環境のよさに保育との差を感じるから。
- ・ 幼稚園は学び、保育園は遊びというイメージがあるので何となく幼稚園寄りです。
- ・ 就学に向けて、幼稚園での生活や教育がいいと考えるので。

幼稚園のほうが安心できる（6件）

- ・ 一番安心出来そう。
- ・ 信頼のおける園で子どもを見てもらいたいから。

子どもの発達や成長のため（5件）

- ・ 子どもの発達のため。

集団生活を通して社会性を身につける（27件）

- ・ 他のお子さんとの交流や団体行動をさせたい。
- ・ 協調性を身につけさせたい。
- ・ 子に社会性を学ばせるのに理想的だと考えているから。
- ・ コミュニケーション能力をつけるため。
- ・ 集団教育の場として、小学校入学の準備になる。

子どもと関わる時間を大切にしたい（17件）

- ・ 子どもとの関わる時間も大事にしていきたいので幼稚園を利用します。
- ・ 働かずに子どもが小さいうちは見られたら一番だと思う。
- ・ 子どもの成長を親が毎日見たいと思っているので保育園の利用は最小限にしたい。
- ・ 子育て及び、家事に専念したいと考えているため。
- ・ 子どもと一緒にいる時間を大切にしたいから。

子どもの負担が少ない（3件）

- ・ 子どもにとって負担のない程度の保育時間であるため。
- ・ 放課後、友達と遊ぶ時間があるから。

保護者同士のつながりができる（3件）

- ・ 保護者のつながりが、他の施設よりもあるので安心できる。
- ・ 母も子も横のつながりが出来る。

経済的な負担が少ない（25件）

- ・ 経済負担が少ない。
- ・ 低予算の短時間保育を希望している。
- ・ 保育園は保育料が高いイメージがあり、負担が大きい。
- ・ 保育園よりも料金が低いから。
- ・ 保育料が高すぎて保育所に入られない。

フルタイムで就労していないため（13件）

- ・ 仕事をしていないので。
- ・ 保育園の様に両親が働かないと入れないという事がないため。

<ul style="list-style-type: none"> フルタイムでの勤務予定がないので、幼稚園で良いかと考えております。 今妊娠中で就労の予定もなく保育園には入れないため。 親の就労に関係なく保育所やこども園を利用できるのであれば、選択肢は広がるが、現状では確実に行ける幼稚園を利用する他ない。
<p>就労するため（15件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きたいから。 就労が可能になるからです。 14時までだと短いし、仕事をするのに預りをしたら少しは長く働くことができるから。 就労場所をさがす場合、働ける範囲が広がるから。 共働きのため、子どもの面倒を見てくれる人がいないから。
<p>預かり保育について（9件）</p> <ul style="list-style-type: none"> パートのある日に子どもを預り保育してもらえるととても助かるから。 きょうだいの用事などで時間通りに迎えに行く事が出来ない場合など預かり保育があると助かるから。 通常の幼稚園の時間ではお迎えの時間が早く、短時間の仕事がなかなか見つからないため。
<p>親が休息したり自分の時間を作るため（7件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 母親の自由時間確保のため。煮詰まり防止。 数年後の再就職に向けて勉強中のため、その時間を確保してきたいから。 親の体調がすぐれない時の休息。 少しだけでも自分の時間がほしい。
<p>きょうだい通っている、通っていたため（17件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 上の子が幼稚園に通っているの、下の子も一緒に園に入れたい。 兄が登園していて子どもにとって良い環境だと思ったから。 上の子が幼稚園での生活の中で大きな成長を感じたから。私自身も保護者とのふれあいで仲間が増えたと感じているから。
<p>自宅から近い、小学校の学区内を希望（8件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校が同じ、または、近くの学区の子との関わりがとれるため。 小学校に入学する際に、学区内の幼稚園に通っていたら友だちが多くて安心だから。 家から近い。 学区内にあるので。 家から近く同世代の子どもたちとのびのび遊べる。 学区内で通わせるには、幼稚園しか空きがないため（保育園は常に空きがなく入れる状態にない）。
<p>その他（20件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者も保育園と関わることができ、子どもの教育に参加できる。 今はまだ2歳なので保育園ですが、3歳から色々な体験ができる幼稚園でもよいのかなと思ってます。保育園も幼稚園も違いがあまり分からない。 保育所は入園制限がいろいろあるため、幼稚園の方が入園しやすいから。 希望保育所に空きがなく、入れなかったため。 小学校へのスムーズな連携は幼稚園の方がしやすい。

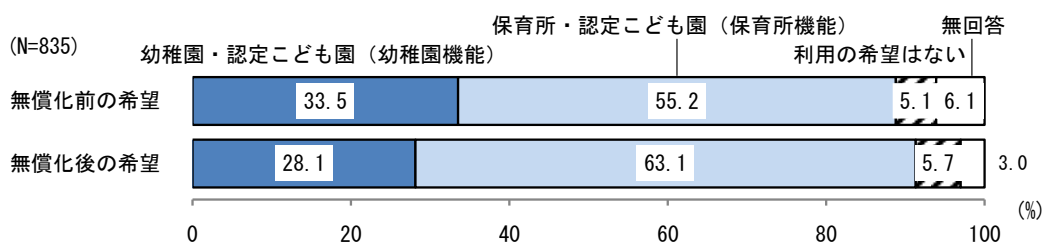
〔11〕 幼児教育・保育の無償化による希望の変化（就学前のみ）

【 就学前：問17-4／小学生： - 】

2019年10月から幼児教育・保育の無償化が実施される予定です。幼児教育・保育の無償化が実現したら、利用を希望する施設が変わりますか。無償化前と無償化後で希望する施設をそれぞれ1つずつ選んでください。当てはまる番号1つずつに○をつけてください。

※幼児教育・保育の無償化では、3～5歳児の保育料が無償に、0～2歳児の保育料は住民税非課税世帯のみが無償化になることなどが検討されています。

就学前



無償化後の希望を、無償化前の希望と比較すると、「幼稚園・認定こども園（幼稚園機能）」が5.4ポイント少なく、「保育所・認定こども園（保育所機能）」が7.9ポイント多くなっています。

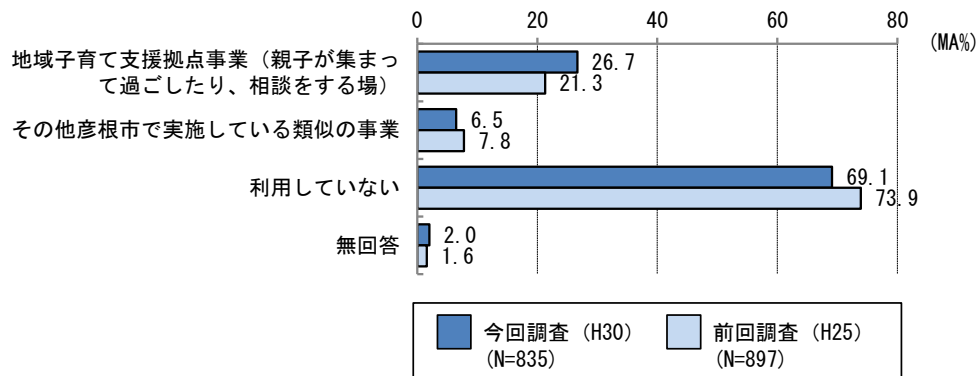
6 地域の子育て支援事業の利用状況

〔1〕 地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前のみ）

【就学前：問18／小学生：問-】

お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、地域子育て支援センターとして「きらきらひろば」「まんまるひろば」「チャチャひろば」等と呼ばれています）を利用していますか。次の中から、利用されているものすべてに○をつけてください。また、おおよその利用回数（頻度）を（ ）内に数字でご記入ください。

就学前



■ 利用回数

		N						（%）	
			1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答	
地域子育て支援拠点事業	週当たり	223	13.5	9.0	2.7	2.2	0.9	71.7	
	月当たり	223	41.3	21.5	6.3	9.9	17.9	3.1	
その他彦根市で実施している類似の事業	週当たり	54	14.8	5.6	3.7	0.0	0.0	75.9	
	月当たり	54	61.1	7.4	1.9	9.3	13.0	7.4	

地域子育て支援拠点事業の利用状況については、26.7%の方が利用しています。

1週当たりの利用回数は、「1回」が13.5%と最も多くなっています。

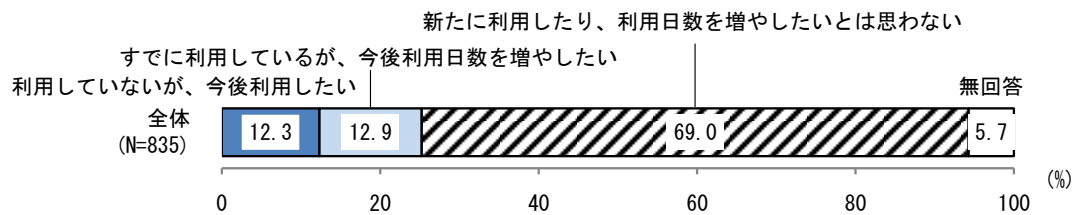
1ヶ月当たりの利用回数は、「1回」が41.3%と最も多くなっています。

〔2〕地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向（就学前のみ）

【 就学前：問19／小学生：- 】

問18のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけて、おおよその利用回数（頻度）を（ ）内に数字でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。

就学前



■ 希望利用回数

		N	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
利用していないが、今後利用したい	週当たり	103	19.4	4.9	1.0	1.0	1.0	72.8
	月当たり	103	42.7	21.4	5.8	12.6	7.8	9.7
すでに利用しているが、今後利用日数を増やした	週当たり	108	24.1	11.1	2.8	0.9	0.9	60.2
	月当たり	108	10.2	20.4	9.3	22.2	24.1	13.9

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が69.0%と最も多くなっています。

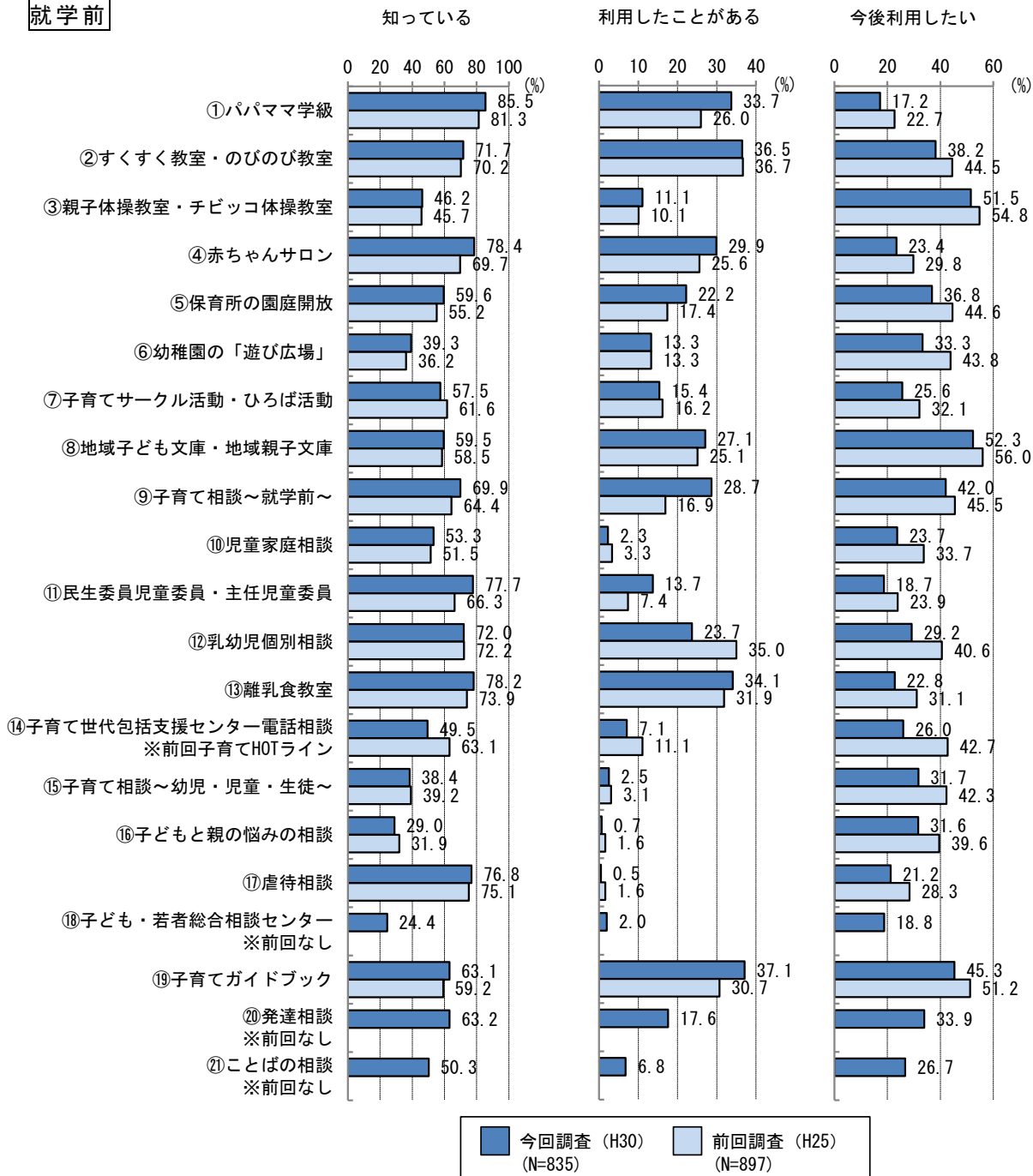
「利用していないが、今後利用したい」とお答えの方の、1週当たりの利用希望回数は、「1回」が19.4%と最も多くなっています。1ヶ月当たりの利用希望回数は、「1回」が42.7%と最も多くなっています。

〔3〕子育て支援サービスの認知度、利用度、利用希望（就学前のみ）

【 就学前：問20／小学生：- 】

彦根市には次のような子育て支援サービスがありますが、知っていたり、利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いますか。サービスごとにA、B、Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。

就学前



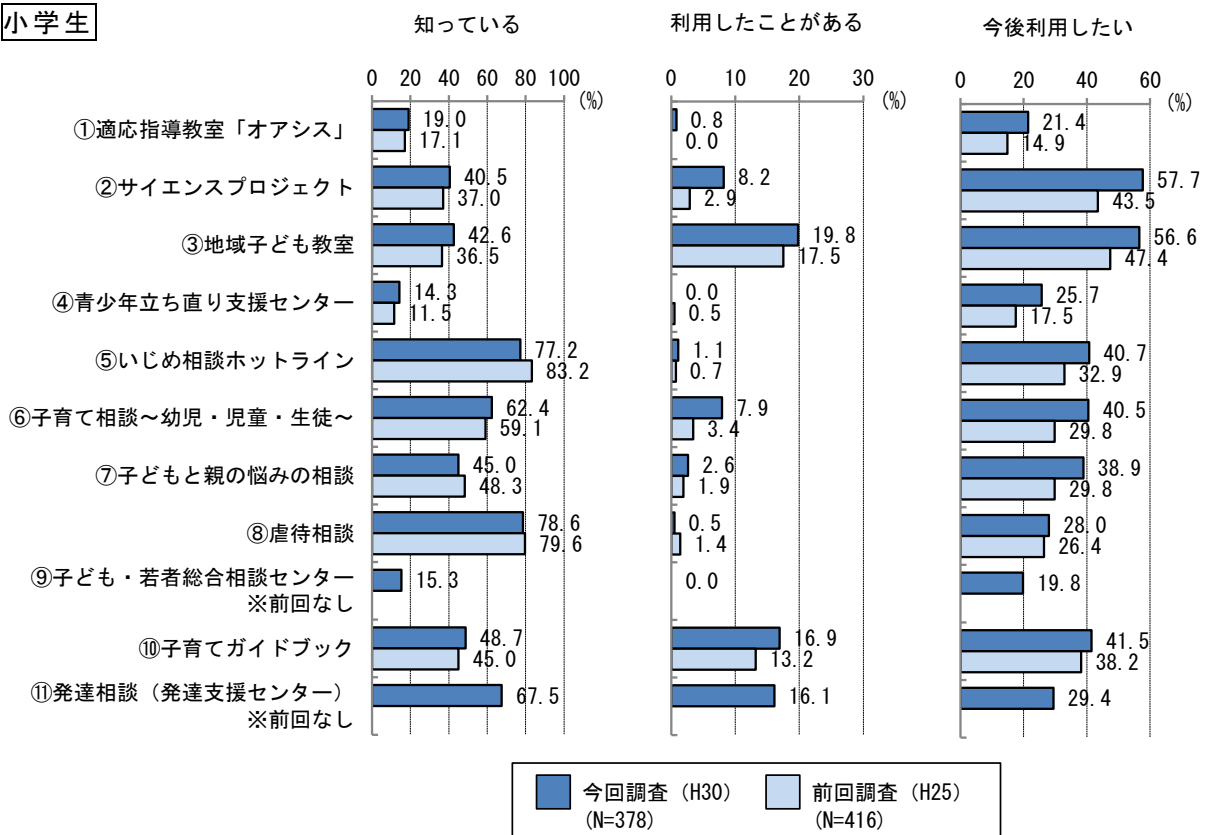
彦根市の子育て支援サービスの認知度、利用経験、利用意向については、認知度では、「①パパママ学級」が85.5%と最も多くなっています。利用経験では、「⑲子育てガイドブック」が37.1%と最も多くなっています。利用意向では、「⑧地域子ども文庫・地域親子文庫」が52.3%と最も多くなっています。

〔4〕学習支援・子育て支援サービスの認知度、利用度、利用希望(小学生のみ)

【 就学前：- / 小学生：問24 】

彦根市には次のような学習支援・子育て支援サービスがありますが、知っている、利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いますか。サービスごとにA、B、Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。

小学生



彦根市の学習支援・子育て支援サービスの認知度、利用経験、利用意向については、認知度では、「⑧虐待相談」が78.6%と最も多くなっています。利用経験では、「③地域子ども教室」が19.8%と最も多くなっています。利用意向では、「②サイエンスプロジェクト」が57.7%と最も多くなっています。

7 土日・祝日、長期休業中の「定期的」な幼稚園・保育所等の利用希望（就学前のみ）

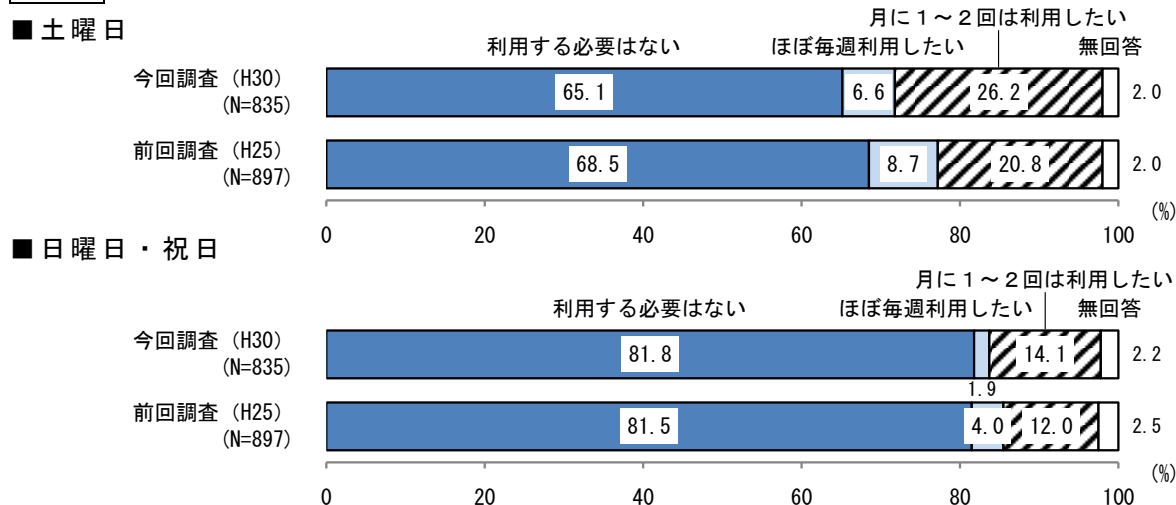
〔1〕 土日・祝日の、定期的な教育・保育事業の利用希望（就学前のみ）

【 就学前：問21／小学生： - 】

宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。希望がある場合は、利用したい時間帯を、（例）9時～18時のように24時間制でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

※教育・保育事業とは、保育所、幼稚園、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

就学前



■ 利用希望開始時間

	N	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時以降	無回答
土曜日	274	0.0	10.6	40.1	38.3	5.1	0.4	0.0	0.7	0.0	0.4	4.4
日曜日・祝日	134	0.0	11.9	42.5	32.1	5.2	0.7	0.0	0.7	0.0	0.7	6.0

■ 利用希望終了時間

	N	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時以降	無回答
土曜日	274	0.4	4.7	4.4	6.6	10.2	15.7	24.5	23.0	5.1	0.4	5.1
日曜日・祝日	134	0.0	2.2	0.0	3.0	8.2	17.2	27.6	27.6	7.5	0.0	6.7

土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」が、土曜日では 65.1%、日曜日・祝日では 81.8%と最も多くなっています。

利用希望時間については、利用希望開始時間は、「8時」が土曜日では 40.1%、日曜日・祝日では 42.5%と最も多くなっています。利用希望終了時間は、土曜日では「17時」が 24.5%と最も多く、日曜日・祝日では「17時」、「18時」がそれぞれ 27.6%と最も多くなっています。

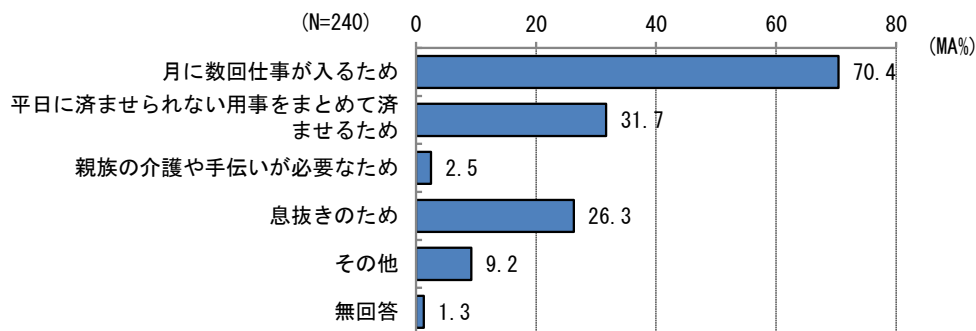
〔2〕毎週ではなく、たまに利用したい理由（就学前のみ）

問21で、「3. 月に1～2回は利用したい」を選んだ方のみ

【 就学前：問21-1 / 小学生：- 】

毎週ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用を「月に1～2回は利用したい」とお答えの方に、毎週ではなく、たまに利用したい理由をたずねたところ、「月に数回仕事が入るため」が70.4%と最も多くなっています。

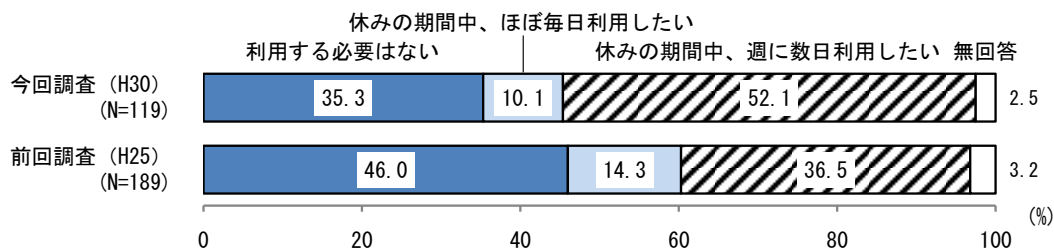
〔3〕夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望（就学前のみ）

「幼稚園」を利用されている方のみ

【 就学前：問22 / 小学生：- 】

お子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例)9時～18時のように24時間制でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

就学前



■ 利用希望開始時間

N	(%)										
	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時以降	無回答
74	0.0	0.0	16.2	78.4	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4

■ 利用希望終了時間

N	(%)										
	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時以降	無回答
74	1.4	5.4	4.1	27.0	33.8	16.2	8.1	2.7	0.0	0.0	1.4

夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「休みの期間中、週に数日利用したい」が52.1%と最も多くなっています。

利用希望時間については、利用希望開始時間は、「9時」が78.4%と最も多くなっています。利用希望終了時間は、「15時」が33.8%と最も多くなっています。

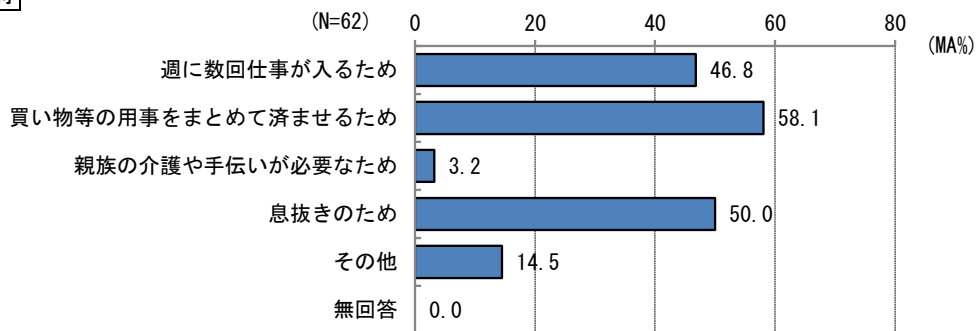
〔4〕 毎日ではなく、たまに利用したい理由（就学前のみ）

問22で、「3. 週に数日利用したい」を選んだ方のみ

〔就学前：問22-1 / 小学生：- 〕

毎日ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用を「週に数日利用したい」とお答えの方に、毎日ではなく、たまに利用したい理由をたずねたところ、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が58.1%と最も多くなっています。

8 病気の際の対応

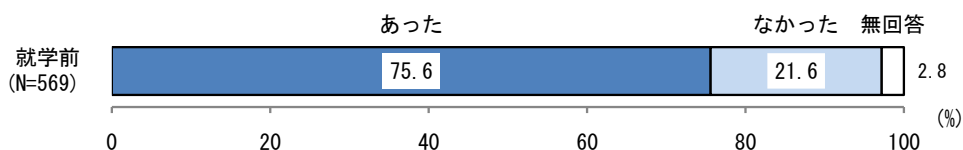
〔1〕 1年間に子どもが病気やケガで通常の利用ができなかったことの有無

就学前は平日に幼稚園・保育所等を利用している方のみ

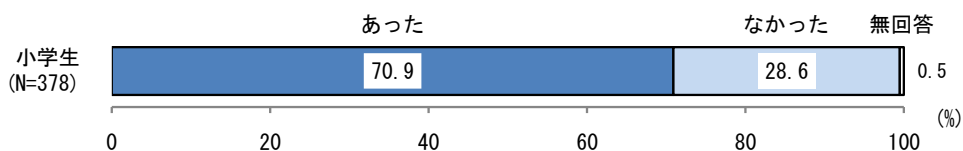
【 就学前：問23／小学生：問22 】

この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか／病気やケガで学校を休んだことはありますか。

就学前



小学生



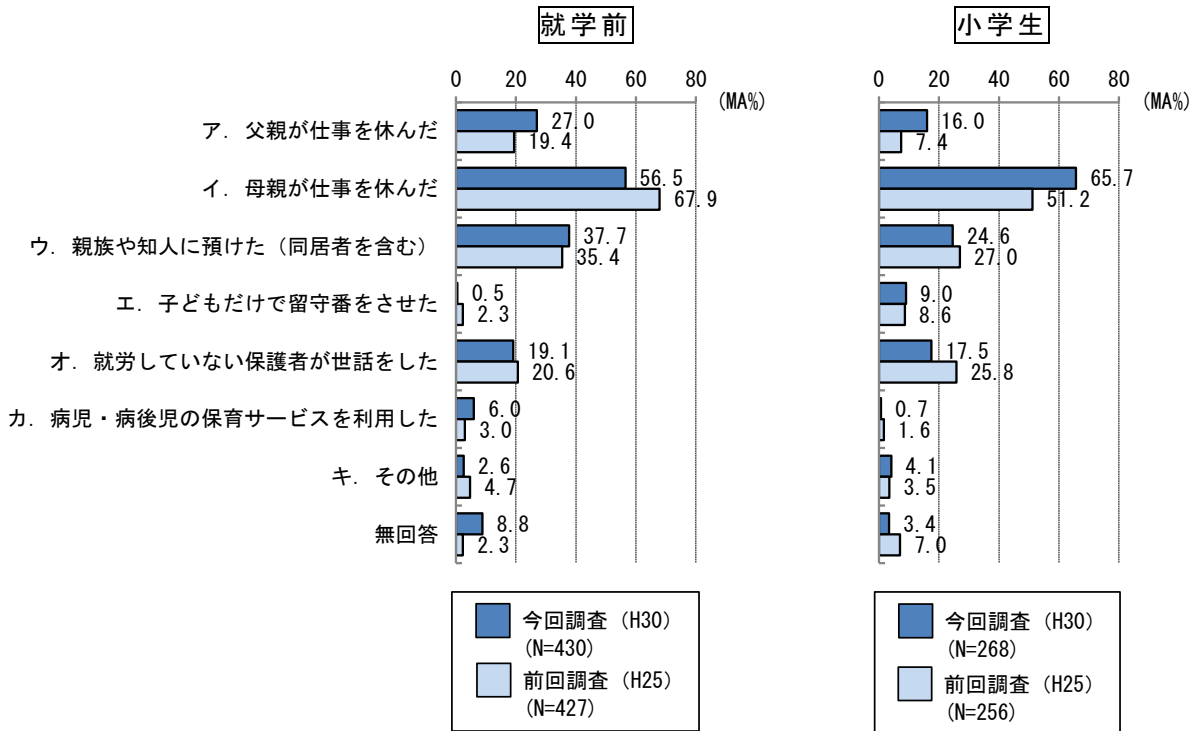
平日に幼稚園・保育所等を利用している方に、この1年間に病気やケガで通常の利用ができなくなったことの有無をたずねたところ、就学前では、「あった」が75.6%と多くなっています。小学生では、病気やケガで学校を休んだことが「あった」が70.9%と多くなっています。

〔2〕子どもが病気やケガで普段利用している施設や事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法

問23/問22で「あった」を選んだ方のみ

【 就学前：問23-1/小学生：問22-1】

お子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に/病気やケガで学校を休んだ場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数も()内に数字でご記入ください(半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。)



■子どもが病気やケガの際の対処方法別の日数

	(日/年)			
	就学前		小学生	
	N	平均日数	N	平均日数
ア. 父親が仕事を休んだ	114	4.8	43	1.7
イ. 母親が仕事を休んだ	235	7.2	171	3.5
ウ. 親族や知人に預けた(同居者を含む)	159	5.5	64	3.0
エ. 子どもだけで留守番をさせた	2	4.0	24	2.3
オ. 就労していない保護者が世話をした	79	8.3	43	3.2
カ. 病児・病後児の保育サービスを利用した	25	2.5	2	1.0
キ. その他	8	7.6	11	2.2

お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかった/病気やケガで学校を休んだことが「あった」とお答えの方に、この1年間に行った対処方法についてたずねたところ、「イ. 母親が仕事を休んだ」が就学前では56.5%、小学生では65.7%と最も多くなっています。

「イ. 母親が仕事を休んだ」とお答えの方の平均日数は、就学前では7.2日、小学生では3.5日となっています。

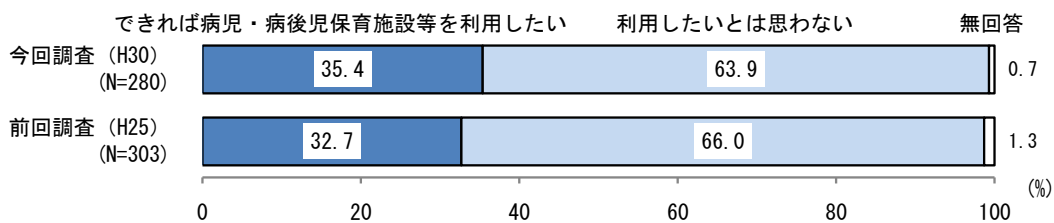
〔3〕病児・病後児保育の利用希望

問23-1 / 問22-1で「ア. 父親が仕事を休んだ」「イ. 母親が仕事を休んだ」のいずれかを選んだ方のみ

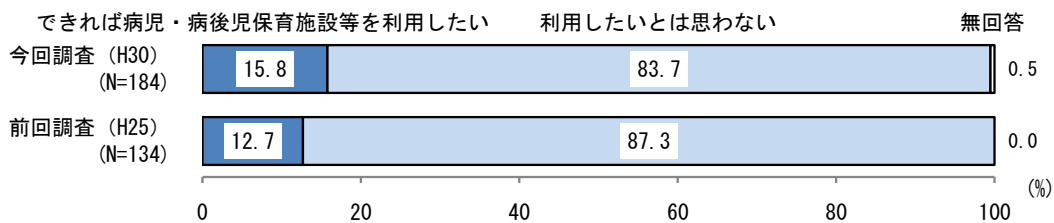
【 就学前：問23-2 / 小学生：問22-2 】

その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけ、日数についても（ ）内に数字でご記入ください。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前に医師の受診が必要となります。

就学前



小学生



■ 病児・病後児保育施設等を利用したい方の利用希望日数

	N	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	無回答
就学前	99	15.2	10.1	19.2	1.0	17.2	0.0	3.0	0.0	0.0	21.2	13.1
小学生	29	27.6	17.2	17.2	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	24.1

父親または母親が休んだとお答えの方に、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったかをたずねたところ、「利用したいとは思わない」が就学前では63.9%、小学生では83.7%と最も多くなっています。

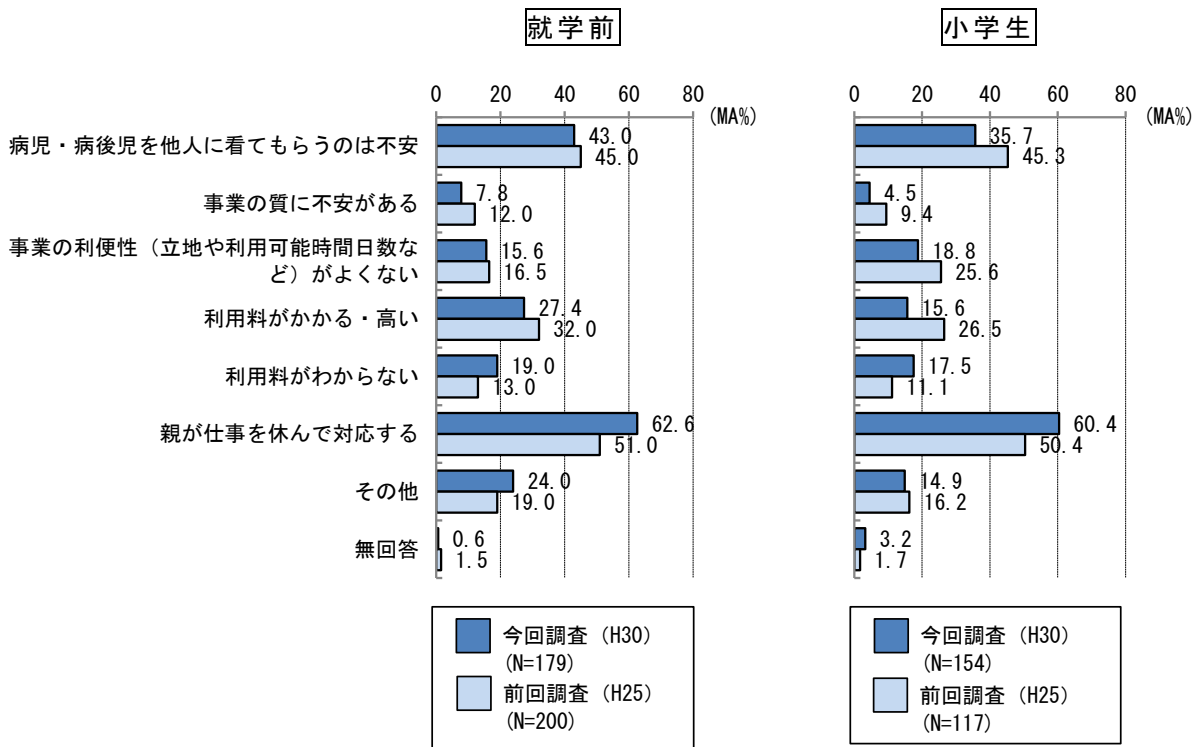
病児・病後児のための保育施設等を利用したいとお答えの方の利用希望日数は、就学前では「10日以上」が21.2%と最も多く、小学生では「1日」が27.6%と最も多くなっています。

〔4〕 利用したいと思わない理由

問23-2/問22-2で「利用したいと思わない」を選んだ方のみ

【 就学前：問23-3/小学生：問22-3 】

そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。



病児・病後児のための保育施設等について「利用したいとは思わない」とお答えの方に、利用したいと思わない理由をたずねたところ、「親が仕事を休んで対応する」が就学前では62.6%、小学生では60.4%と最も多くなっています。

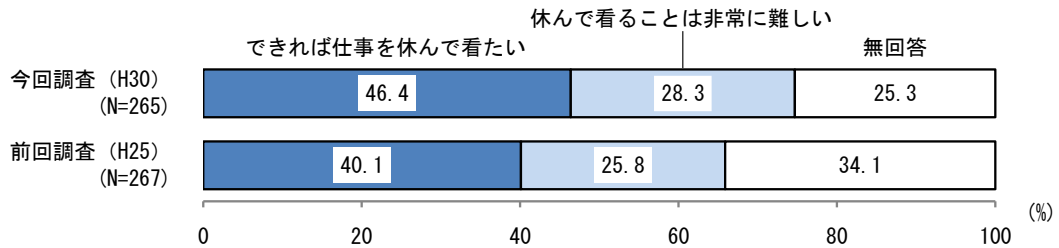
〔5〕 できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったか

問23-1/問22-1で「ウ」から「キ」のいずれかを選んだ方のみ

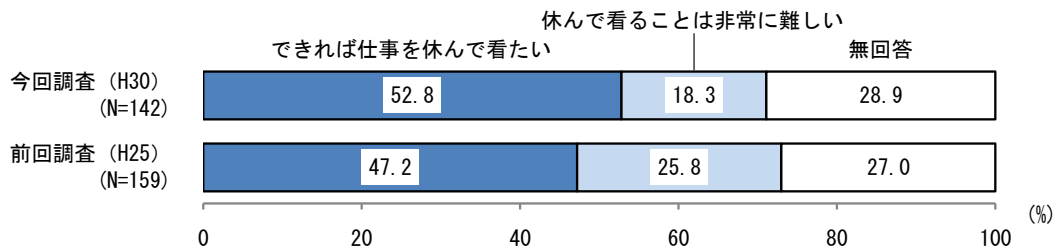
【 就学前：問23-4/小学生：問22-4 】

その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけ、「ウ」から「キ」の日数のうち仕事を休んで看たかった日数についても数字でご記入ください。

就学前



小学生



■ 仕事を休んで看たかった日数

	N	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	無回答
就学前	123	9.8	15.4	21.1	6.5	15.4	2.4	1.6	0.0	0.8	13.0	13.8
小学生	75	32.0	24.0	16.0	1.3	6.7	0.0	2.7	0.0	0.0	2.7	14.7

父親・母親が休まなかったとお答えの方に、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われたかたずねたところ、「できれば仕事を休んで看たい」が就学前では46.4%、小学生では52.8%と最も多くなっています。

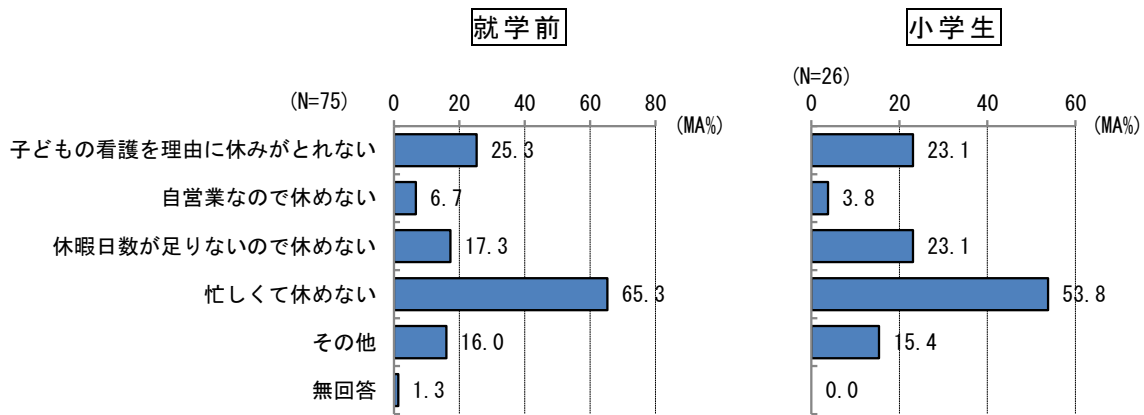
できれば仕事を休んで看たかったとお答えの方の、仕事を休んで看たかった日数は、就学前では「3日」が21.1%と最も多く、小学生では「1日」が32.0%と最も多くなっています。

〔6〕休んで見ることは非常に難しいと思われる理由

問23-4/問22-4で「休んで見ることは非常に難しい」を選んだ方のみ

【 就学前：問23-5 / 小学生：問22-5 】

そうと思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。



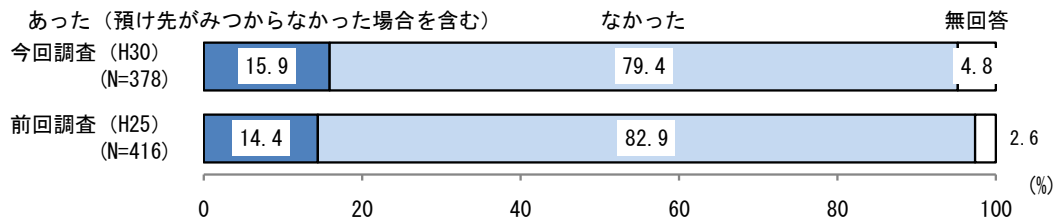
「休んで見ることは非常に難しい」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「忙しくて休めない」が就学前では 65.3%、小学生では 53.8%と最も多くなっています。

〔7〕泊りがけで預けなければならなかったことの有無（小学生のみ）

【 就学前：- / 小学生：問23 】

この1年間に、保護者の用事などにより、お子さんを泊りがけで預けなければならぬことはありませんでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

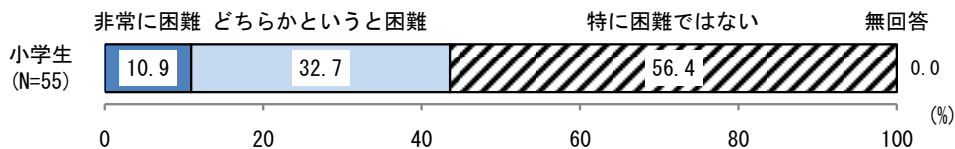
小学生



■ 対処方法別の日数

	（泊/年）	
	N	平均日数
1. （同居者を含む）親族・知人に預けた	49	4.9
2. 短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した	0	0.0
3. 仕方なく子どもも同行させた	3	1.3
4. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	0	0.0
5. その他	2	1.5

■ 親族・知人に預けた場合の困難度



この1年間に子どもを泊りがけで預けなければならぬことがあったかについては、「なかった」が79.4%と最も多くなっています。

子どもを泊りがけで預けなければならなかったときの対処方法別の平均日数は、「（同居者を含む）親族・知人に預けた」が4.9泊となっています。

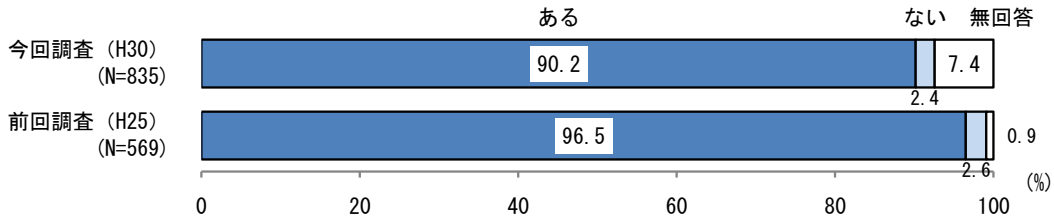
「（同居者を含む）親族・知人に預けた」とお答えの方の、親族・知人に預けた場合の困難度は、「特に困難ではない」が56.4%と最も多くなっています。

〔8〕 かかりつけ医の有無（就学前のみ）

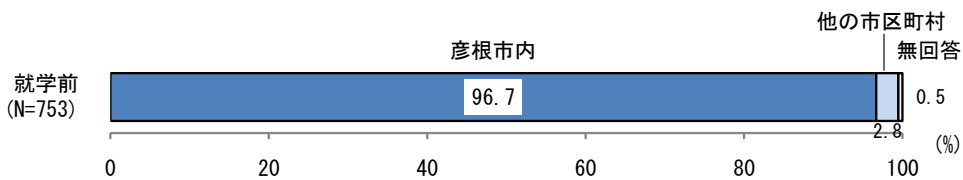
【 就学前：問24／小学生：- 】

お子さんが病気やケガをした場合の、かかりつけ医はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



■ かかりつけ医の所在地



病気やケガをした場合の、かかりつけ医の有無については、「ある」が 90.2%と多くなっています。

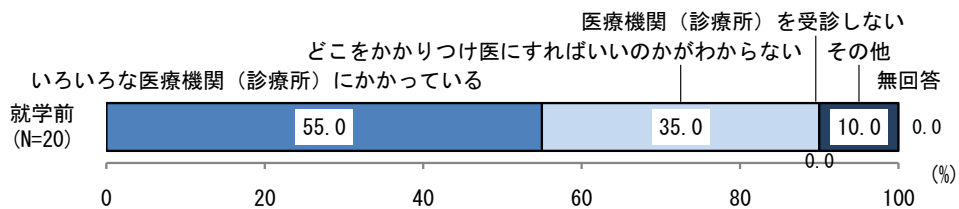
かかりつけ医のある方の、かかりつけ医の所在地は、「彦根市内」が 96.7%と多くなっています。

〔9〕 かかりつけ医のいない理由（就学前のみ）

【 就学前：問24-2／小学生：- 】

かかりつけ医のいない理由について伺います。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



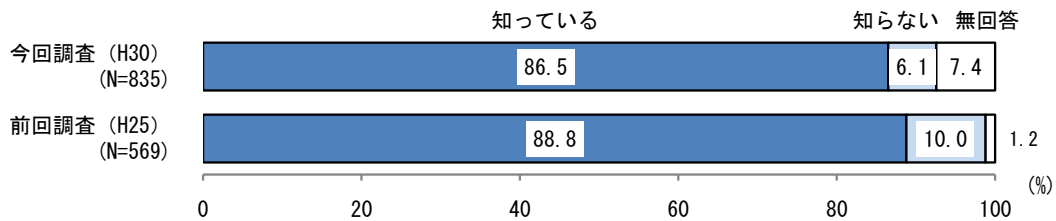
かかりつけ医のいない理由は、「いろいろな医療機関（診療所）にかかっている」が 55.0%と最も多くなっています。

〔10〕 夜間・休日の小児救急電話相談（#8000）の認知度（就学前のみ）

【 就学前：問25／小学生：- 】

夜間・休日の小児救急電話相談（#8000）を知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



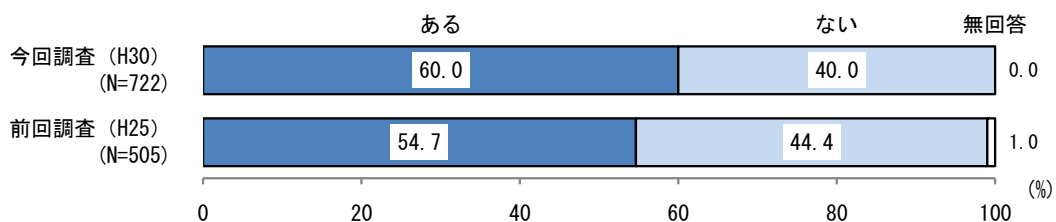
夜間・休日の小児救急電話相談（#8000）の認知度は、「知っている」が86.5%と多くなっています。

〔11〕 小児救急電話相談（#8000）を利用状況（就学前のみ）

【 就学前：問25-1／小学生：- 】

小児救急電話相談（#8000）を利用したことはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



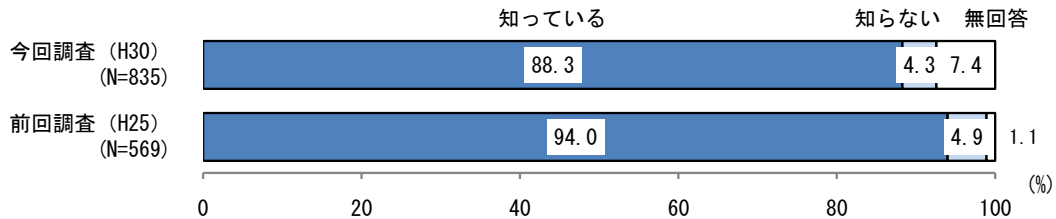
小児救急電話相談（#8000）を利用状況については、利用したことが「ある」が60.0%と多くなっています。

〔12〕彦根休日急病診療所の認知度（就学前のみ）

【 就学前：問26／小学生：- 】

日曜・祝日・年末年始に開設している彦根休日急病診療所を知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



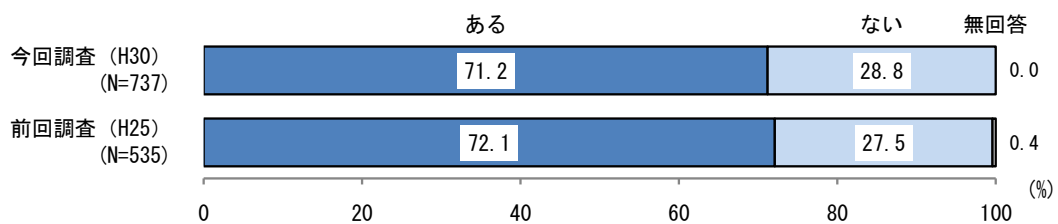
日曜・祝日・年末年始に開設している彦根休日急病診療所の認知度については、「知っている」が88.3%と多くなっています。

〔13〕彦根休日急病診療所の利用状況（就学前のみ）

【 就学前：問26-1／小学生：- 】

彦根休日急病診療所を利用したことはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



彦根休日急病診療所を利用状況については、利用したことが「ある」が71.2%と多くなっています。

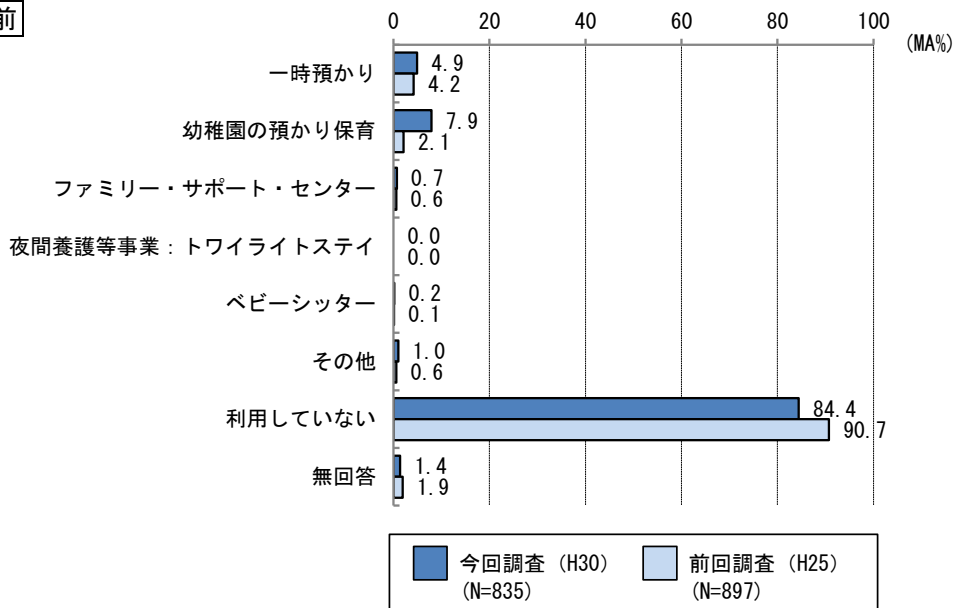
9 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について（就学前のみ）

〔1〕リフレッシュ、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業（就学前のみ）

【 就学前：問27／小学生：- 】

お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、リフレッシュ、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）も（ ）内に数字でご記入ください。

就学前



■ 1年間の利用日数

	(日/年)	
	N	平均 平均
1. 一時預かり	36	11.4
2. 幼稚園の預かり保育	63	10.4
3. ファミリー・サポート・センター	6	13.7
4. 夜間養護等事業：トワイライトステイ	0	0.0
5. ベビーシッター	2	31.0
6. その他	8	22.1

不定期的に利用している事業については、「幼稚園の預かり保育」が7.9%と最も多くなっています。

「幼稚園の預かり保育」を利用しているとお答えの方の利用日数は、平均で10.4日となっています。

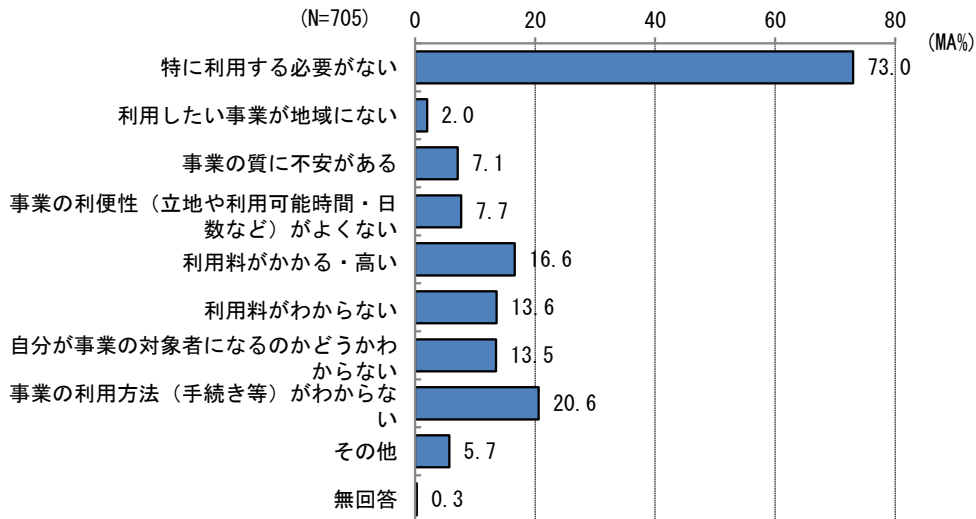
〔2〕 利用していない理由（就学前のみ）

問27で「利用していない」を選んだ方のみ

【 就学前：問27-1 / 小学生： - 】

現在利用していない理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



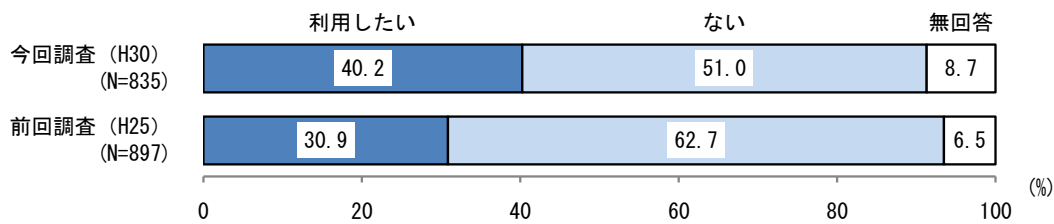
不定期に利用する事業を「利用していない」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「特に利用する必要がない」が73.0%と最も多くなっています。

〔3〕 不定期に利用する事業の利用希望（就学前のみ）

【 就学前：問28／小学生：- 】

お子さんについて、リフレッシュ、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください（利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を（ ）内に数字でご記入ください。）。なお事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

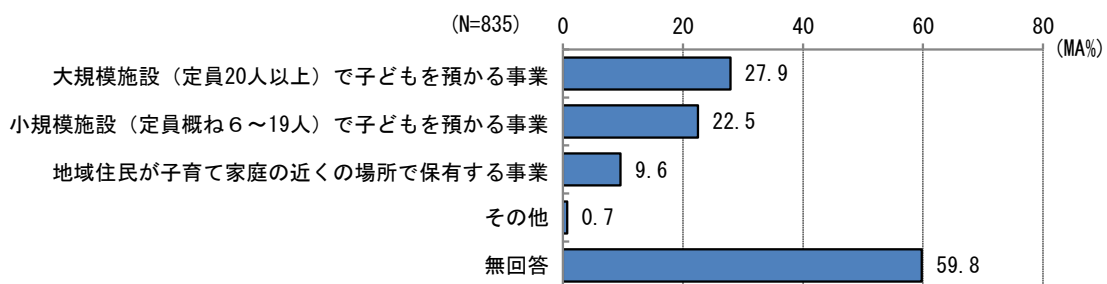
就学前



■ 利用したい年間日数、目的別の内訳の日数

	N	平均日数 (日/年)
利用したい日数計	314	20.8
①私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的	218	11.3
②冠婚葬祭、子どもの親の通院	138	6.8
③不定期の就労	90	26.4
④その他	43	7.8

■ 利用したい方の子どもを預ける場合の望ましい事業形態



不定期に利用する事業の利用希望については、利用の希望が「ない」が51.0%と多くなっています。

目的別の利用希望日数は、平均で20.8日となっています。

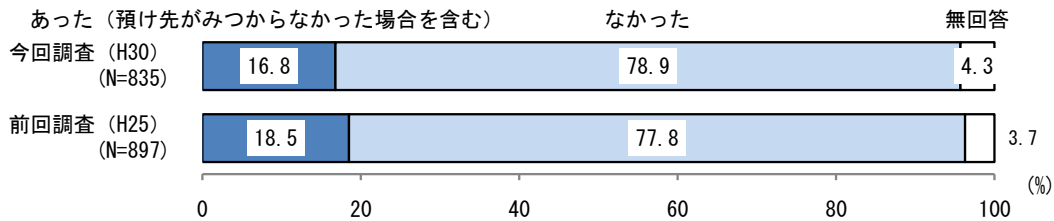
また、「利用したい」とお答えの方に、子どもを預ける場合に望ましいと思われる事業形態をたずねたところ、「大規模施設（定員20人以上）で子どもを預かる事業」が27.9%と最も多くなっています。

[4] 保護者の用事などにより泊りがけで預けなければならなかったことの有無
(就学前のみ)

【 就学前：問29／小学生：- 】

この1年間に、保護者の用事などにより、お子さんを泊りがけで預けなければならぬことはありませんでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

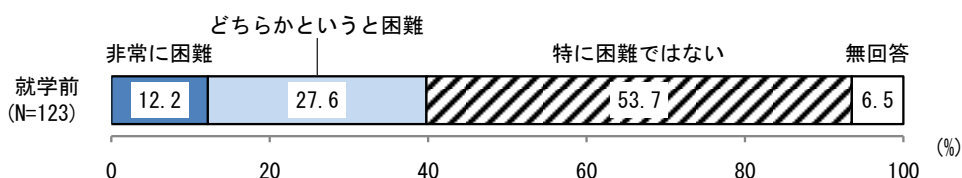
就学前



■ 対処方法別の日数

	(泊/年)	
	N	平均日数
1. (同居者を含む) 親族・知人に預けた	102	4.1
2. 短期入所生活援助事業 (ショートステイ) を利用した	11	6.2
3. 2以外の保育事業 (認可外保育施設等を利用した)	1	3.0
4. 仕方なく子どもも同行させた	9	5.8
5. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	0	0.0
6. その他	4	1.3

■ 親族・知人に預けた場合の困難度



この1年間に子どもを泊りがけで預けなければならぬことがあったかについては、「なかった」が78.9%と多くなっています。

子どもを泊りがけで預けなければならぬときの対処方法別の平均日数は、「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」が4.1泊となっています。

「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」と回答された方の、親族・知人に預けた場合の困難度は、「特に困難ではない」が53.7%と最も多くなっています。

10 放課後の過ごし方

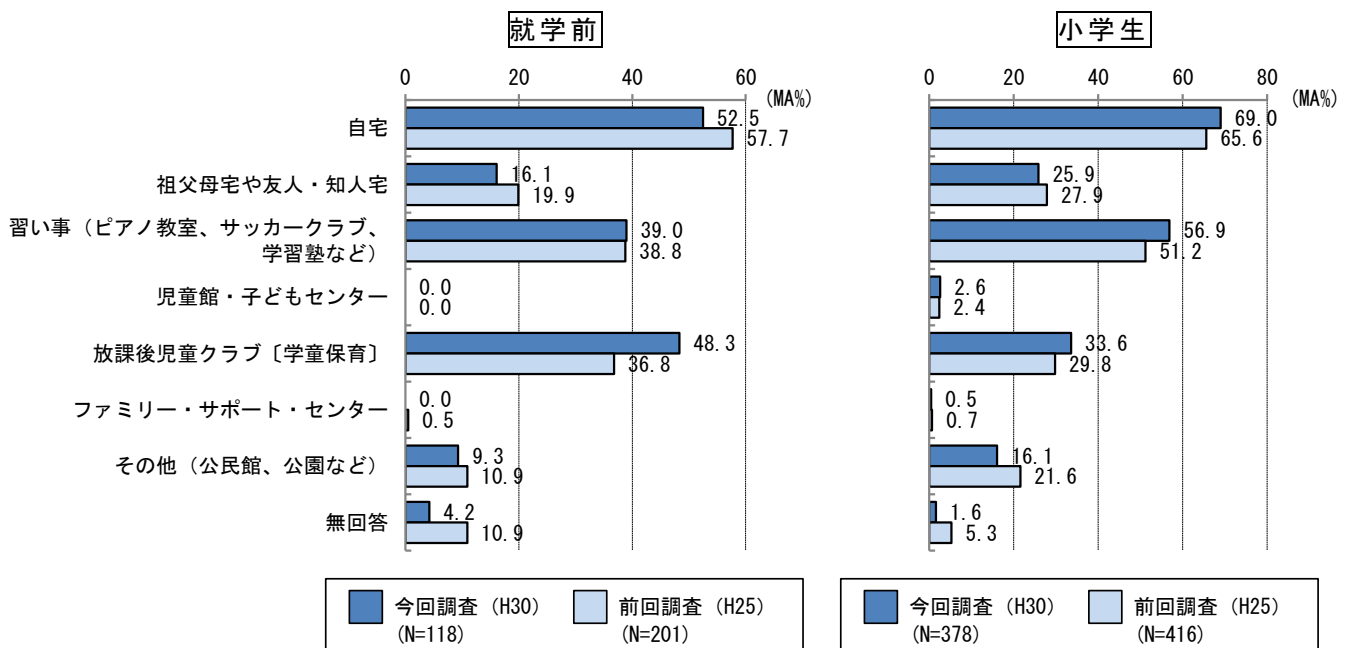
〔1〕放課後（平日の小学校終了後）過ごさせたい場所

就学前はお子さんが来年小学校に入学する方のみ

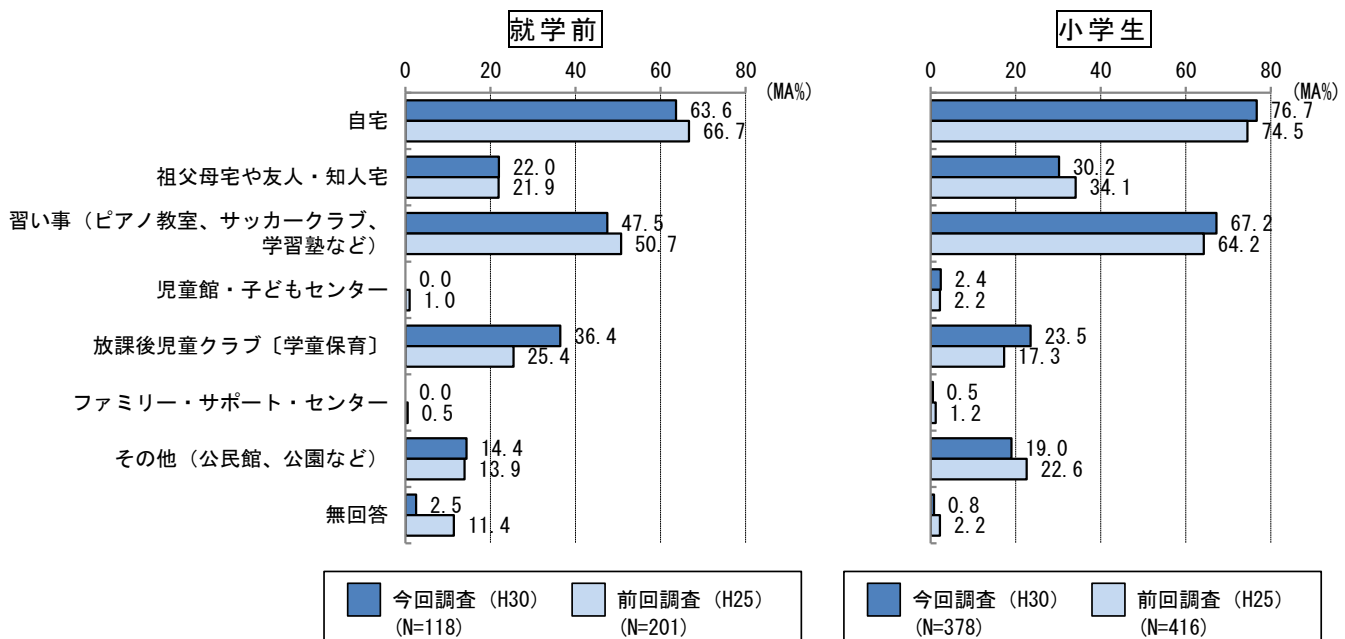
【 就学前：問30、問31／小学生：問7、問8 】

お子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは／小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数を（ ）に具体的な数字でお答えください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も（ ）内に数字でご記入ください。

■小学生低学年（1～3年生）の間



■小学生高学年（4～6年生）の間



【就労形態別】

小学生

		N	自宅	知人 父母宅 や友人・	習い事 （ピアノ教 室、サッカ ークラブ、 学習塾など）	児童館・子 どもセン ター	放課後 児童クラ ブ〔学童 保育〕	ファミリ ー・サポ ート・セ ンター	その他 （公民館 、公園 など）	無 回 答
小学 校 低 学 年	全体	378	69.0	25.9	56.9	2.6	33.6	0.5	16.1	1.6
	ひとり親	44	54.5	13.6	38.6	4.5	54.5	0.0	4.5	2.3
	共働き（両親ともフルタイム）	98	46.9	18.4	38.8	1.0	66.3	1.0	9.2	0.0
	共働き（フルタイム×パート）	161	79.5	28.6	65.8	2.5	20.5	0.0	18.6	1.2
	専業主婦（夫）	58	89.7	36.2	74.1	5.2	5.2	1.7	29.3	3.4
	共働き（パート×パート）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学 校 高 学 年	全体	378	76.7	30.2	67.2	2.4	23.5	0.5	19.0	0.8
	ひとり親	44	61.4	22.7	56.8	2.3	40.9	2.3	15.9	0.0
	共働き（両親ともフルタイム）	98	70.4	23.5	57.1	2.0	41.8	0.0	11.2	0.0
	共働き（フルタイム×パート）	161	82.0	32.3	71.4	1.9	14.3	0.0	21.1	0.6
	専業主婦（夫）	58	89.7	39.7	79.3	5.2	6.9	1.7	29.3	1.7
	共働き（パート×パート）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 1週あたりの希望日数

	(日/週)							
	低学年の期間				高学年の期間			
	就学前		小学生		就学前		小学生	
	N	平均 日数	N	平均	N	平均	N	平均
1. 自宅	59	3.7	258	3.5	69	3.4	282	3.3
2. 知人父母宅や友人・知人宅	19	3.0	95	2.0	26	2.9	110	2.1
3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	43	2.3	214	2.0	53	2.5	247	2.3
4. 児童館・子どもセンター	0	0.0	9	1.9	0	0.0	8	1.5
5. 放課後児童クラブ〔学童保育〕	54	4.5	124	4.2	41	4.4	87	3.8
6. ファミリー・サポート・センター	0	0.0	2	1.5	0	0.0	2	2.0
7. その他（公民館、公園など）	10	2.0	60	2.0	14	1.8	70	1.8

■ 放課後児童クラブの利用希望時間帯（まで）

		N	1 6 時	1 7 時	1 8 時	1 9 時	2 0 時 以 降	(%) 無 回 答
低学年の間	就学前	57	12.3	26.3	43.9	12.3	0.0	5.3
	小学生	127	3.9	33.1	49.6	9.4	0.8	3.1
高学年の間	就学前	43	2.3	20.9	53.5	11.6	2.3	9.3
	小学生	89	3.4	25.8	47.2	11.2	1.1	11.2

希望する放課後の過ごし方は、小学生低学年の間は、「自宅」が、小学生では 69.0%と最も多くなっています。小学生高学年の間も、「自宅」が、小学生では 76.7%と最も多くなっています。

1週あたりの希望の平均日数は、小学生低学年の間は、「自宅」が、小学生では 3.5日となっています。小学生高学年の間は、「自宅」が、小学生では 3.3日となっています。

「放課後児童クラブ」を希望される方の、利用希望時間帯は、小学生低学年の間は、「18時」までが、小学生では 49.6%と最も多くなっています。小学生高学年の間も、「18時」までが、小学生では 47.2%と最も多くなっています。

〔2〕 土日・祝日の放課後児童クラブの利用希望

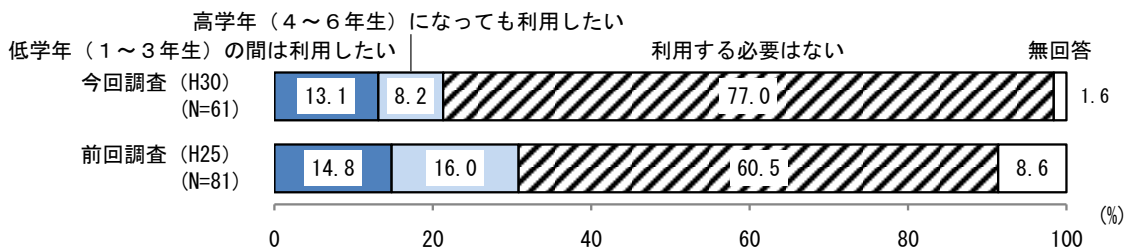
問30/問7または問31/問8で「5. 放課後児童クラブ〔学童保育〕」を選んだ方のみ

【 就学前：問32／小学生：問9 】

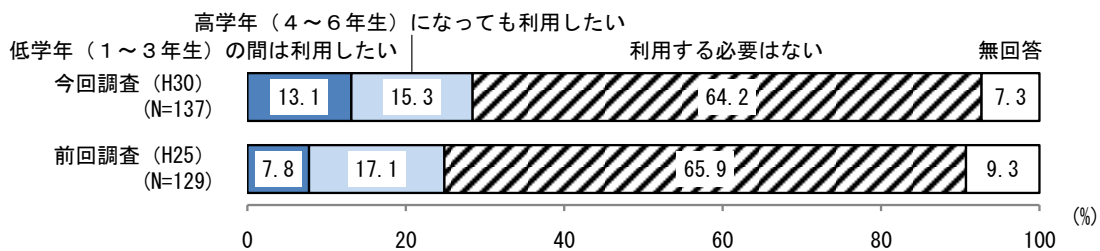
お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に放課後児童クラブの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。(1)(2)それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯を、() 内に(例)9時～18時のように24時間制でご記入ください。

【土曜日】

就学前

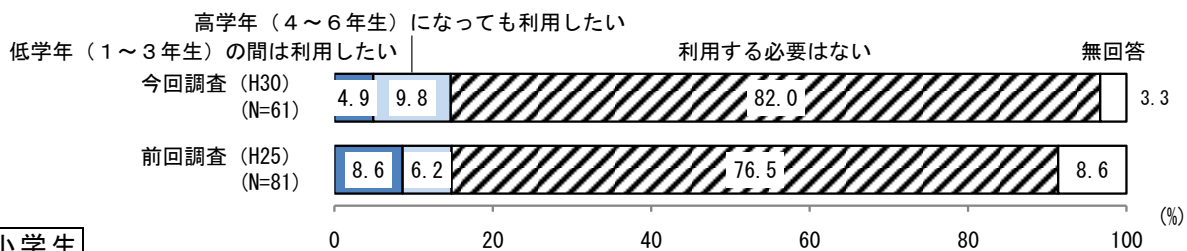


小学生

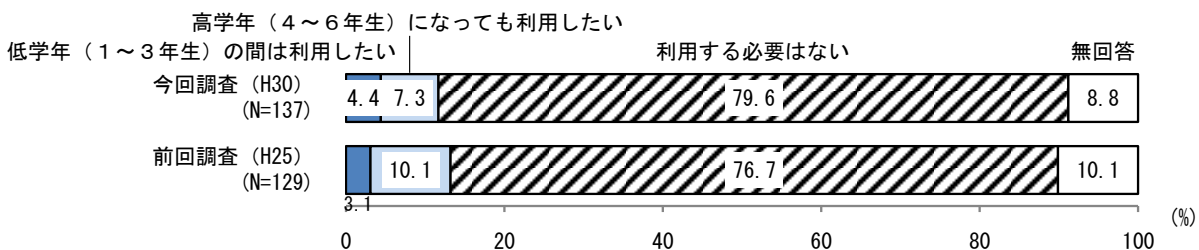


【日曜日・祝日】

就学前



小学生



【就労形態別】

小学生

		N	用 年 低 し た い の 間 は 利	も 年 学 生 に な つ て	高 年 学 生 に な つ て	な い 利 用 す る 必 要 は	無 回 答
土曜日	全体	137	13.1	15.3	64.2	7.3	
	ひとり親	25	16.0	32.0	44.0	8.0	
	共働き（両親ともフルタイム）	67	14.9	7.5	73.1	4.5	
	共働き（フルタイム×パート）	37	8.1	16.2	67.6	8.1	
	専業主婦（夫）	5	20.0	20.0	20.0	40.0	
	共働き（パート×パート）	1	0.0	0.0	100.0	0.0	
	無業×無業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
日曜日・祝日	全体	137	4.4	7.3	79.6	8.8	
	ひとり親	25	4.0	12.0	72.0	12.0	
	共働き（両親ともフルタイム）	67	4.5	4.5	83.6	7.5	
	共働き（フルタイム×パート）	37	2.7	8.1	81.1	8.1	
	専業主婦（夫）	5	20.0	20.0	40.0	20.0	
	共働き（パート×パート）	1	0.0	0.0	100.0	0.0	
	無業×無業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	

■ 利用希望開始時間

		N	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時以降	無回答
土曜日	就学前	13	0.0	15.4	38.5	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4
	小学生	39	0.0	12.8	59.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	5.1
日曜日・祝日	就学前	9	0.0	22.2	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	小学生	16	0.0	12.5	68.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3

■ 利用希望終了時間

		N	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時以降	無回答
土曜日	就学前	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4	46.2	7.7	0.0	15.4
	小学生	39	0.0	0.0	2.6	5.1	0.0	2.6	23.1	43.6	15.4	2.6	5.1
日曜日・祝日	就学前	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	33.3	33.3	0.0	11.1
	小学生	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	25.0	6.3	6.3

「放課後児童クラブ〔学童保育〕」の利用を希望している方に、土曜日と日曜日・祝日の利用希望をたずねたところ、土曜日については、「利用する必要はない」が就学前では77.0%、小学生では64.2%と最も多くなっています。日曜日・祝日についても、「利用する必要はない」が就学前では82.0%、小学生では79.6%と最も多くなっています。

利用希望開始時間は、土曜日については、「8時」が就学前では38.5%、小学生では59.0%と最も多くなっています。日曜日・祝日についても、「8時」が就学前では55.6%、小学生では68.8%と最も多くなっています。

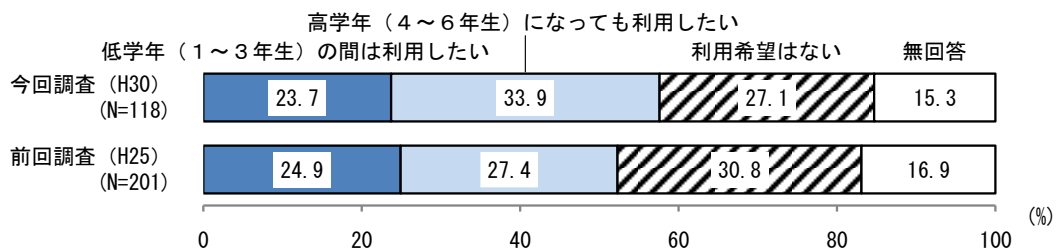
利用希望終了時間は、土曜日については、「18時」が就学前では46.2%、小学生では43.6%と最も多くなっています。日曜日・祝日については、就学前では「18時」、「19時」がそれぞれ33.3%と最も多く、小学生では「18時」が50.0%と最も多くなっています。

〔3〕夏休み・冬休み等の長期の休暇期間の放課後児童クラブの利用希望

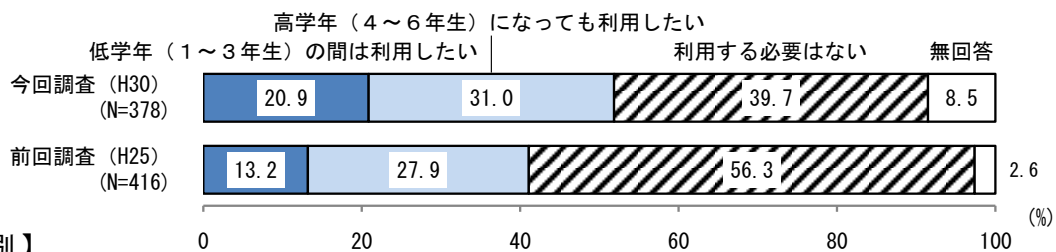
【 就学前：問33／小学生：問10 】

お子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、利用したい時間帯を、() 内に(例) 9時～18時のように24時間制でご記入ください。

就学前



小学生



【就労形態別】

小学生

		N	用年 し生 たの は 利	低学 学年 の間 は 利	も年 も高 学年 にな ても 利	な利 いす る必 要は	無 回 答
長期 休 暇 期 間 中	全体	378	20.9	31.0	39.7	8.5	
	ひとり親	44	20.5	40.9	31.8	6.8	
	共働き(両親ともフルタイム)	98	28.6	42.9	20.4	8.2	
	共働き(フルタイム×パート)	161	21.1	28.0	42.2	8.7	
	専業主婦(夫)	58	6.9	13.8	69.0	10.3	
	共働き(パート×パート)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	
	無業×無業	2	50.0	0.0	50.0	0.0	

■ 利用希望開始時間

		N	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	以降	無回答
長期休暇期間中	就学前	68	1.5	11.8	63.2	17.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	1.5
	小学生	196	0.0	8.2	60.7	27.6	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0

■ 利用希望終了時間

		N	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	以降	無回答
長期休暇期間中	就学前	68	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	20.6	20.6	36.8	11.8	0.0	1.5
	小学生	196	0.0	1.0	0.0	0.0	5.6	10.7	28.6	41.8	10.7	0.0	1.5

夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望は、就学前では「高学年(4~6年生)になっても利用したい」が33.9%と最も多く、小学生では「利用する必要はない」が39.7%と最も多くなっています。

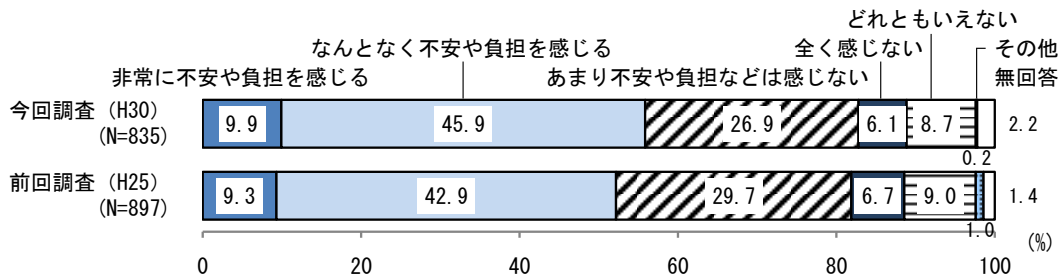
11 子育て観やサービスの満足度などについて

〔1〕子育てに関する不安や負担の有無

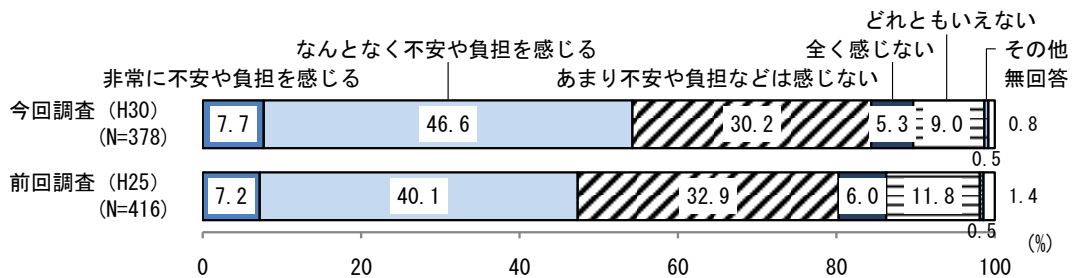
【 就学前：問34／小学生：問25 】

あなたは、子育てに関して不安や負担などを感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



【就労形態別】

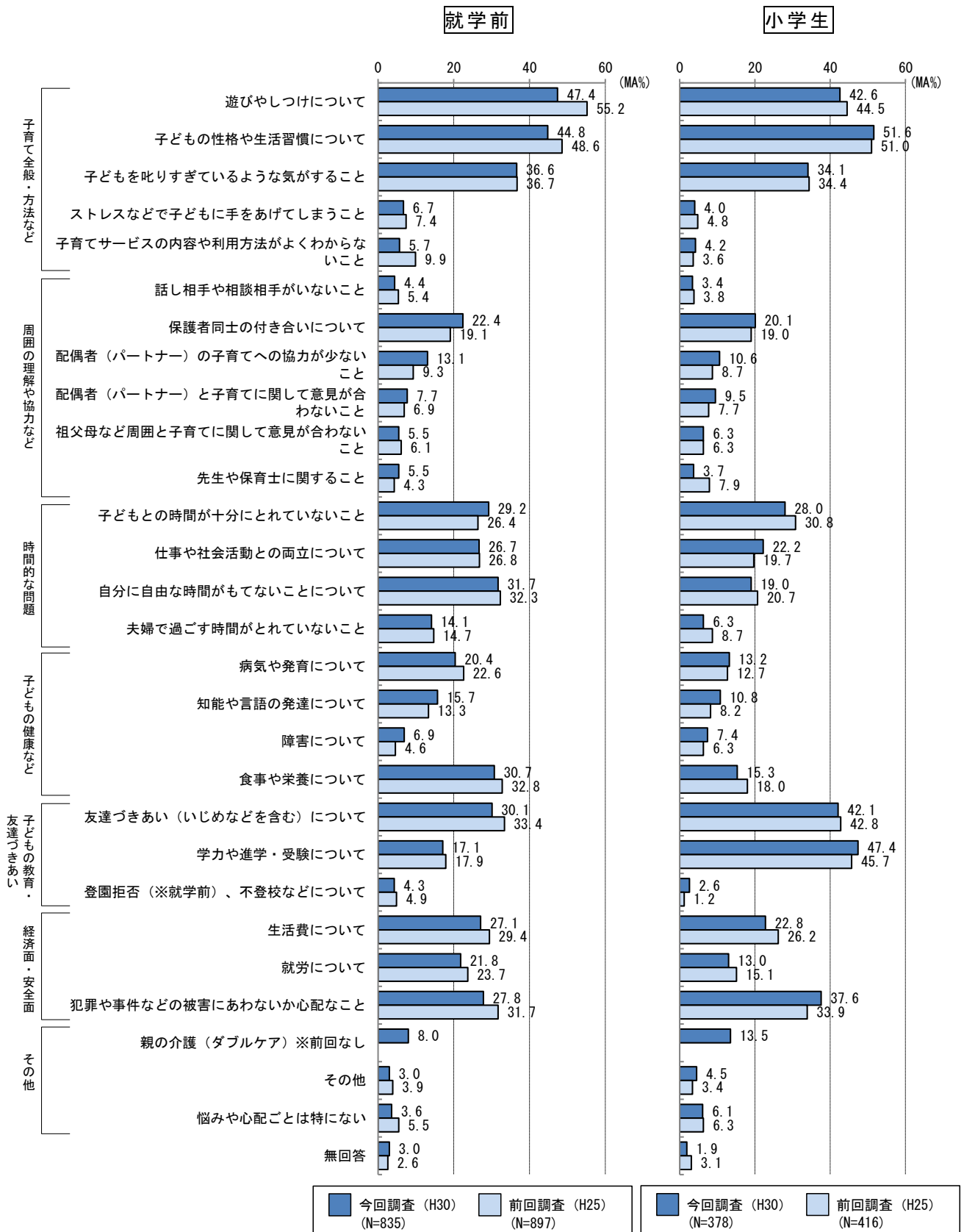
	N	（％）						無回答	（％）	
		を非常に不安や負担を感じる	なんとなく不安や負担を感じる	あまり不安や負担などは感じない	全く感じない	どれともいえない	その他			
就学前	全体	835	9.9	45.9	26.9	6.1	8.7	0.2	2.2	55.8
	ひとり親	44	11.4	38.6	27.3	6.8	15.9	0.0	0.0	50.0
	共働き（両親ともフルタイム）	270	10.0	48.9	26.3	5.6	6.3	0.0	3.0	58.9
	共働き（フルタイム×パート）	221	10.4	43.0	31.7	5.4	7.7	0.0	1.8	53.4
	専業主婦（夫）	244	9.4	46.7	25.4	6.6	9.8	0.4	1.6	56.1
	共働き（パート×パート）	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無業×無業	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生	全体	378	7.7	46.6	30.2	5.3	9.0	0.5	0.8	54.3
	ひとり親	44	9.1	50.0	27.3	4.5	9.1	0.0	0.0	59.1
	共働き（両親ともフルタイム）	98	13.3	49.0	21.4	7.1	8.2	1.0	0.0	62.3
	共働き（フルタイム×パート）	161	5.6	44.7	37.9	3.1	7.5	0.0	1.2	50.3
	専業主婦（夫）	58	5.2	46.6	29.3	6.9	12.1	0.0	0.0	51.8
	共働き（パート×パート）	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

子育てに関する不安や負担については、「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が就学前では55.8%、小学生では54.3%と多くなっています。

〔2〕 悩みや心配の内容

【 就学前：問35／小学生：問26 】

子育てに関する悩みや心配ごとにはありますか。また、その内容はどのようなことですか。1～28までのうち、当てはまる番号すべてに○をつけてください。



【子育てに関する不安や負担の有無別】

	N	遊びやしつけについて	子どもの性格や生活習慣について	子どもを叱りすぎているような気がする	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	子どもを叱りすぎているような気がすること	
就学前	全体	835	47.4	44.8	36.6	6.7	5.7	4.4	22.4	13.1	7.7	5.5	5.5	29.2	26.7	31.7			
	不安や負担を感じる	466	57.7	56.2	44.4	10.7	8.2	7.5	28.1	18.7	9.9	7.9	6.7	35.6	33.3	44.2			
	不安や負担を感じない	276	34.1	28.6	25.4	0.7	2.5	0.7	14.5	4.7	4.0	2.2	3.6	21.7	17.4	16.7			
小学生	全体	378	42.6	51.6	34.1	4.0	4.2	3.4	20.1	10.6	9.5	6.3	3.7	28.0	22.2	19.0			
	不安や負担を感じる	205	55.6	66.3	41.5	6.8	5.9	6.3	28.8	15.1	11.2	8.8	5.4	34.6	27.3	24.9			
	不安や負担を感じない	134	27.6	31.3	21.6	0.7	2.2	0.0	11.2	3.7	6.7	3.0	0.7	20.9	12.7	11.9			

(MA%)

		夫婦で過ごす時間がとれていない	病気や発育について	知能や言語の発達について	障害について	食事や栄養について	友達づきあい(いじめなどを含む)について	学力や進学・受験について	登園拒否(※就学前)、不登校などについて	生活費について	就労について	犯罪や事件などの被害にあわな	親の介護(ダブルケア)	その他	悩みや心配ごとは特にない	無回答
就学前	全体	14.1	20.4	15.7	6.9	30.7	30.1	17.1	4.3	27.1	21.8	27.8	8.0	3.0	3.6	3.0
	不安や負担を感じる	18.9	26.0	20.4	9.7	38.0	37.6	21.9	6.4	34.5	30.0	30.5	11.4	4.5	0.0	0.2
	不安や負担を感じない	8.0	13.4	10.1	3.3	20.3	19.2	11.2	1.1	16.7	10.1	24.3	4.0	0.7	8.7	3.6
小学生	全体	6.3	13.2	10.8	7.4	15.3	42.1	47.4	2.6	22.8	13.0	37.6	13.5	4.5	6.1	1.9
	不安や負担を感じる	10.7	19.5	18.0	13.2	20.0	56.1	59.0	3.9	30.2	17.6	42.9	17.6	5.4	0.5	0.5
	不安や負担を感じない	1.5	6.7	1.5	0.0	9.0	23.1	30.6	0.7	12.7	6.0	28.4	9.0	3.0	14.9	3.0

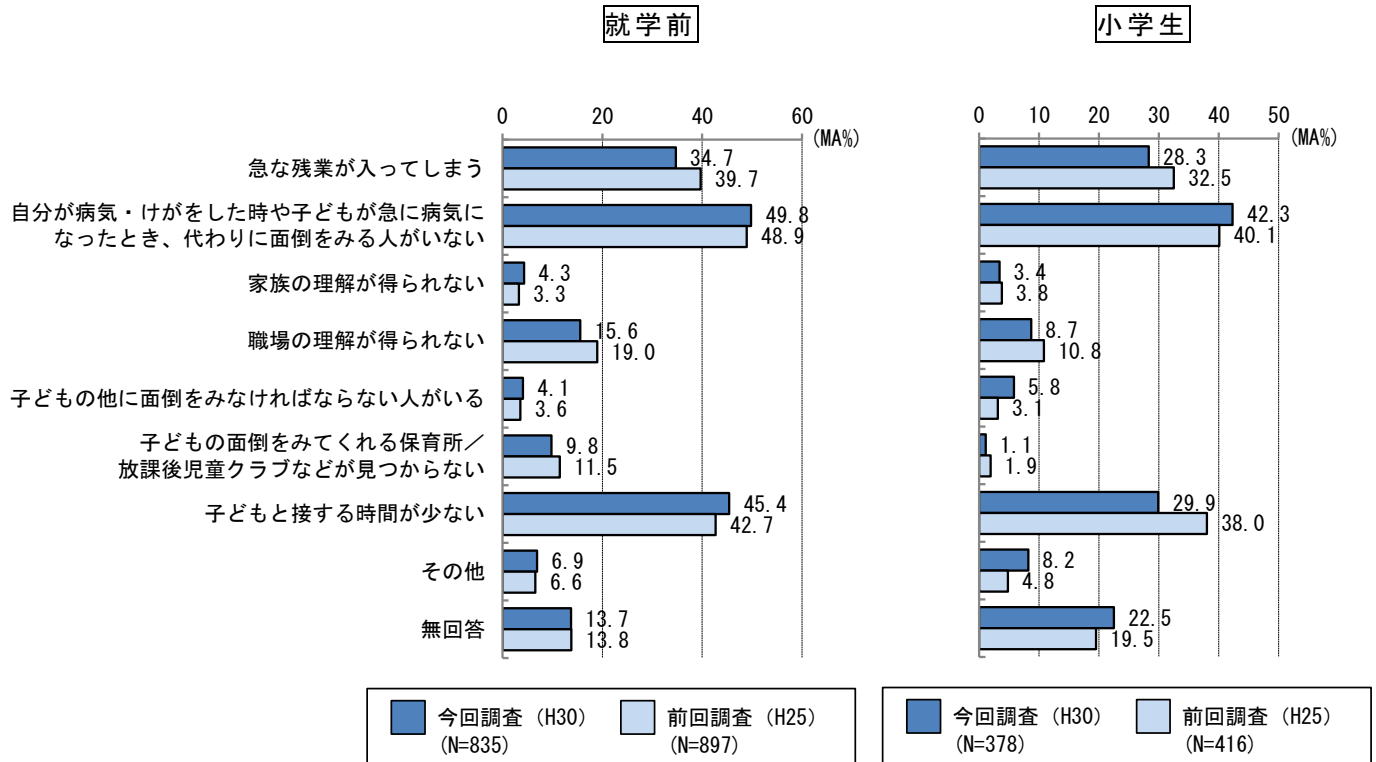
子育てに関する悩みや心配ごとについては、就学前では「遊びやしつけについて」が47.4%と最も多く、次いで、「子どもの性格や生活習慣について」が44.8%、「子どもを叱りすぎているような気がする」が36.6%となっています。

小学生では「子どもの性格や生活習慣について」が51.6%と最も多く、次いで、「学力や進学・受験について」が47.4%、「遊びやしつけについて」が42.6%、「友達づきあい(いじめなどを含む)」について」が42.1%となっています。

〔3〕仕事と子育てを両立させる上で大変なこと

【 就学前：問36／小学生：問27 】

仕事と子育てを両立させる上で大変だと思われることは何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



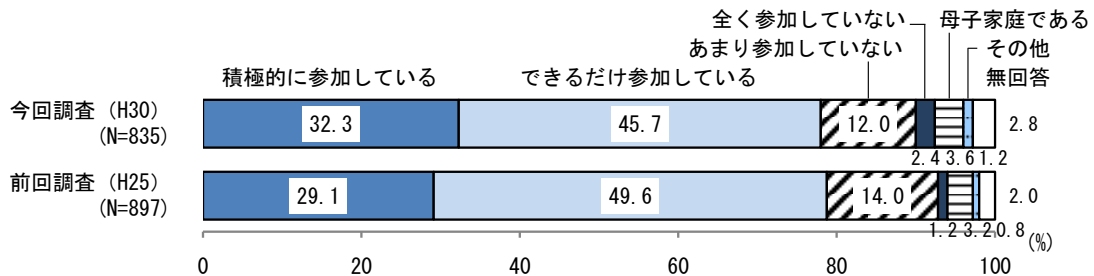
仕事と子育てを両立させる上で大変なことについては、「自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になったとき、代わりに面倒をみる人がいない」が就学前では49.8%、小学生では42.3%と最も多くなっています。

〔4〕 父親の子育て参加の有無

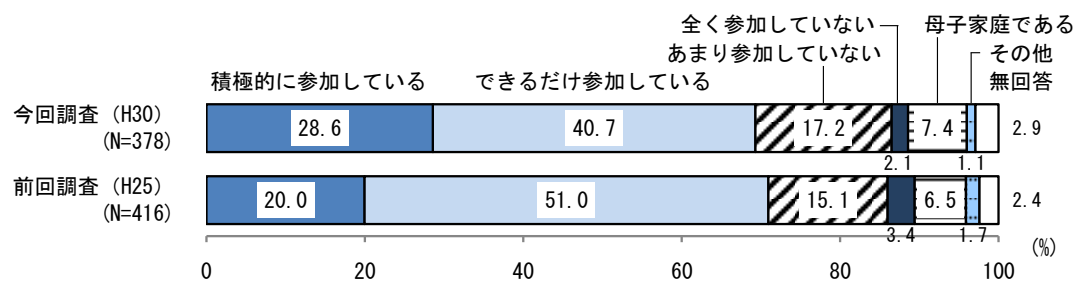
【 就学前：問37／小学生：問28 】

お父さんは、子育てに積極的に参加されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

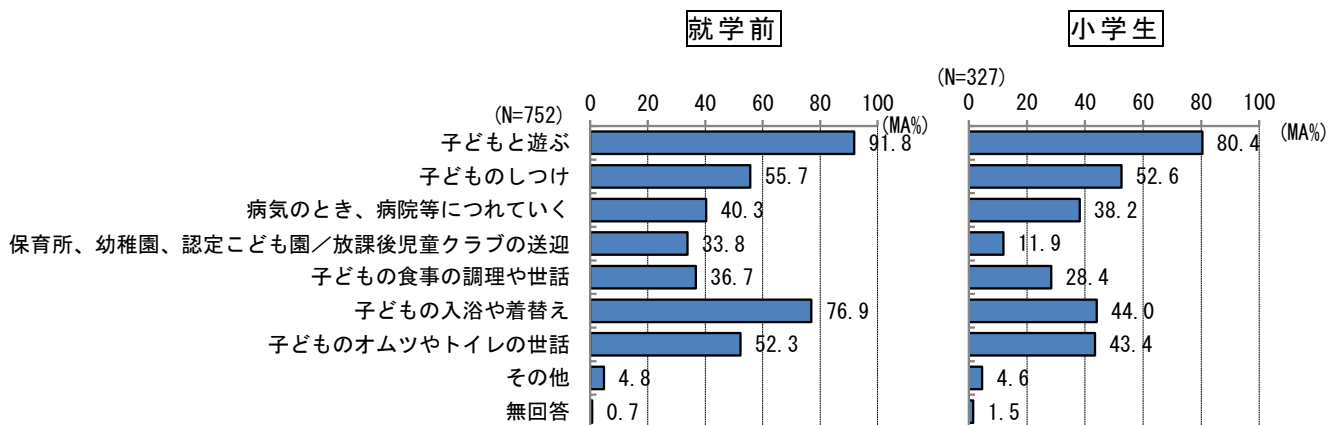
就学前



小学生



■ 父親が参加している子育ての内容



父親の子育て参加の有無については、「できるだけ参加している」が就学前では45.7%、小学生では40.7%と最も多くなっています。

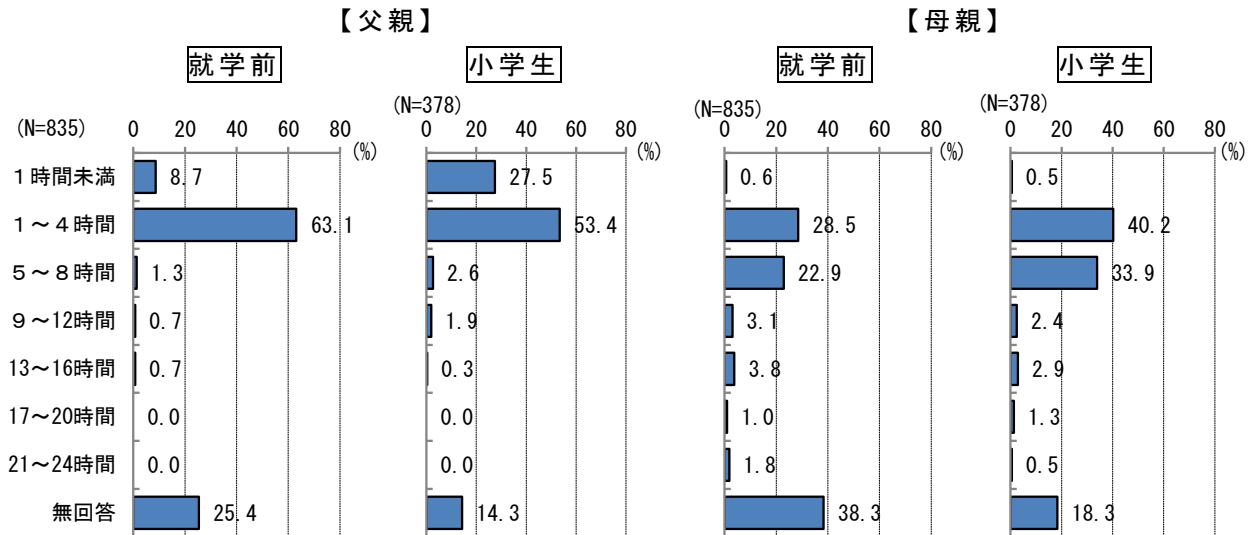
父親が参加している子育ての内容については、「子どもと遊ぶ」が就学前では91.8%、小学生では80.4%と最も多くなっています。

〔5〕子どもと過ごす時間

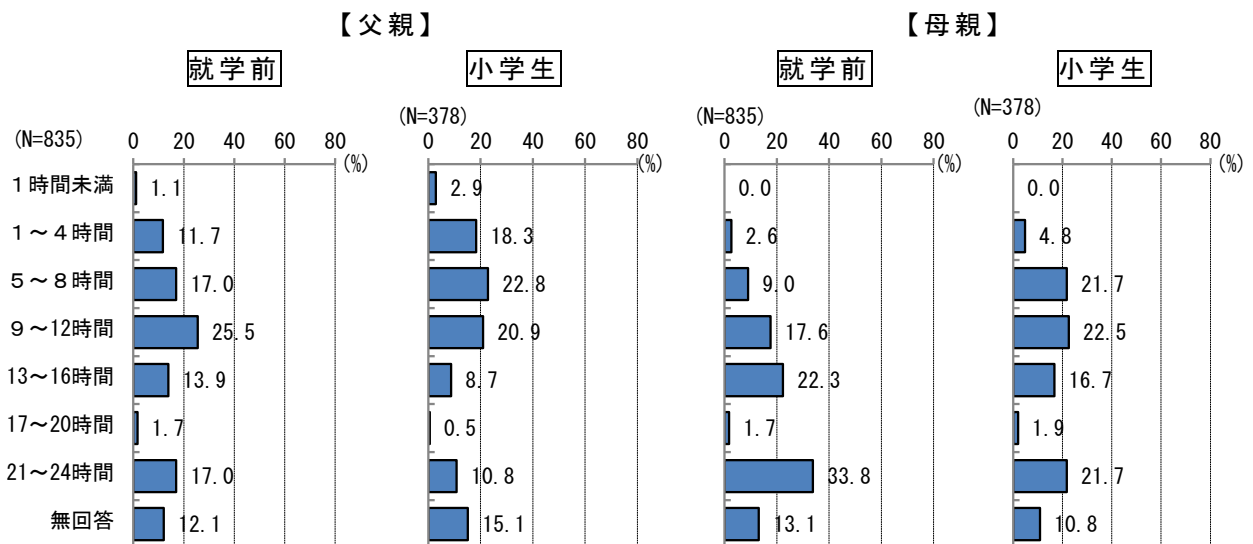
【 就学前：問39／小学生：問30 】

子どもと過ごす時間はどのくらいありますか。仕事のある日、仕事の無い日それぞれについて、1日当たりの「子どもと過ごす時間」をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。また、時間は（ ）内に数字でご記入ください。

■ 仕事のある日



■ 仕事の無い日



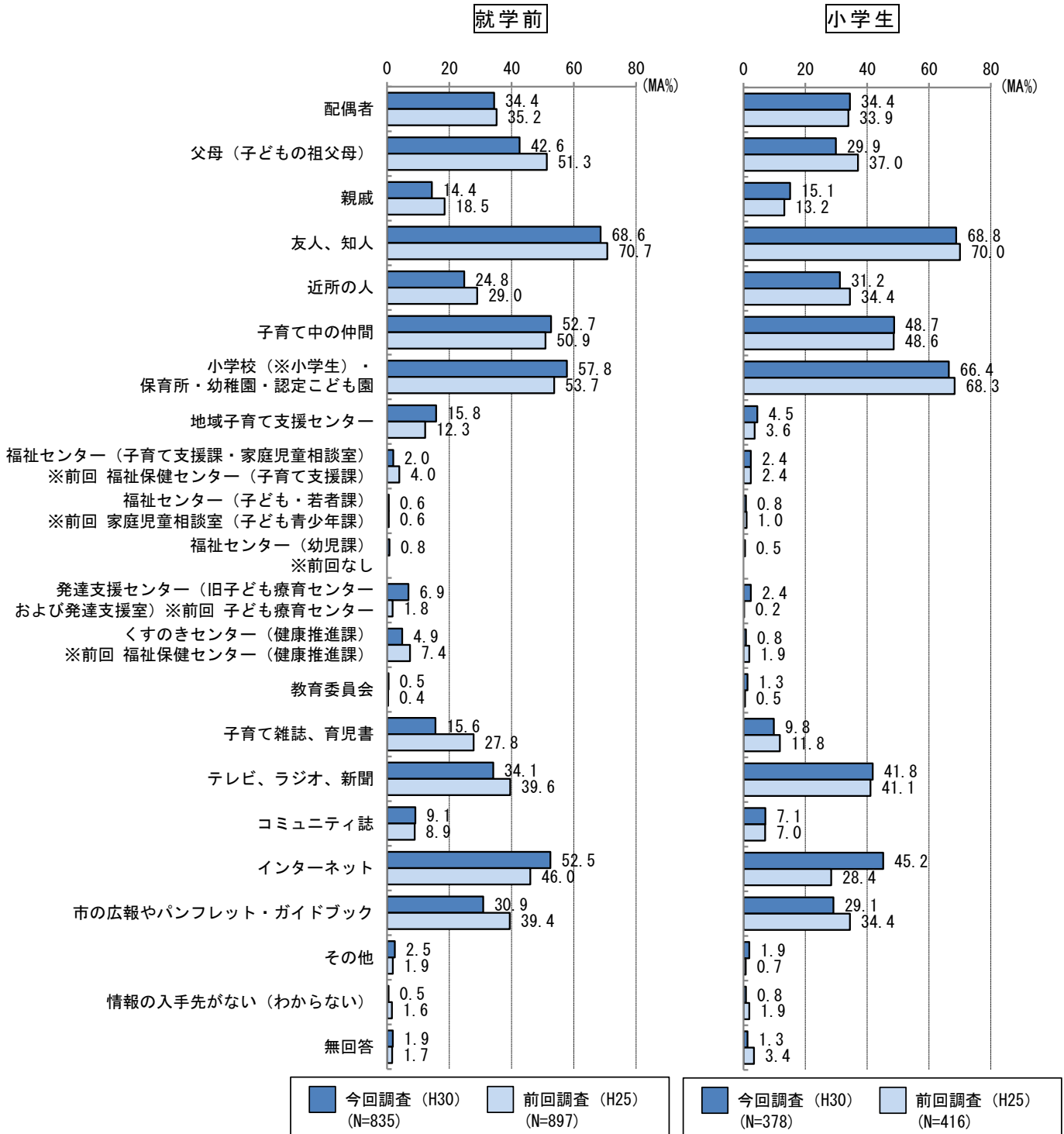
平日（仕事のある日）に子どもと過ごす時間は、父親については、「1～4時間」が就学前では63.1%、小学生では53.4%と最も多くなっています。母親についても、「1～4時間」が就学前では28.5%、小学生では40.2%と最も多くなっています。

休日（仕事の無い日）については、父親については、就学前では「9～12時間」が25.5%と最も多く、小学生では「5～8時間」が22.8%と最も多くなっています。母親については、就学前では「21～24時間」が33.8%と最も多く、小学生では「9～12時間」が22.5%と最も多くなっています。

〔6〕子育てに関する情報の入手方法

【 就学前：問40／小学生：問31 】

子育てに関する情報をどのように入手されていますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

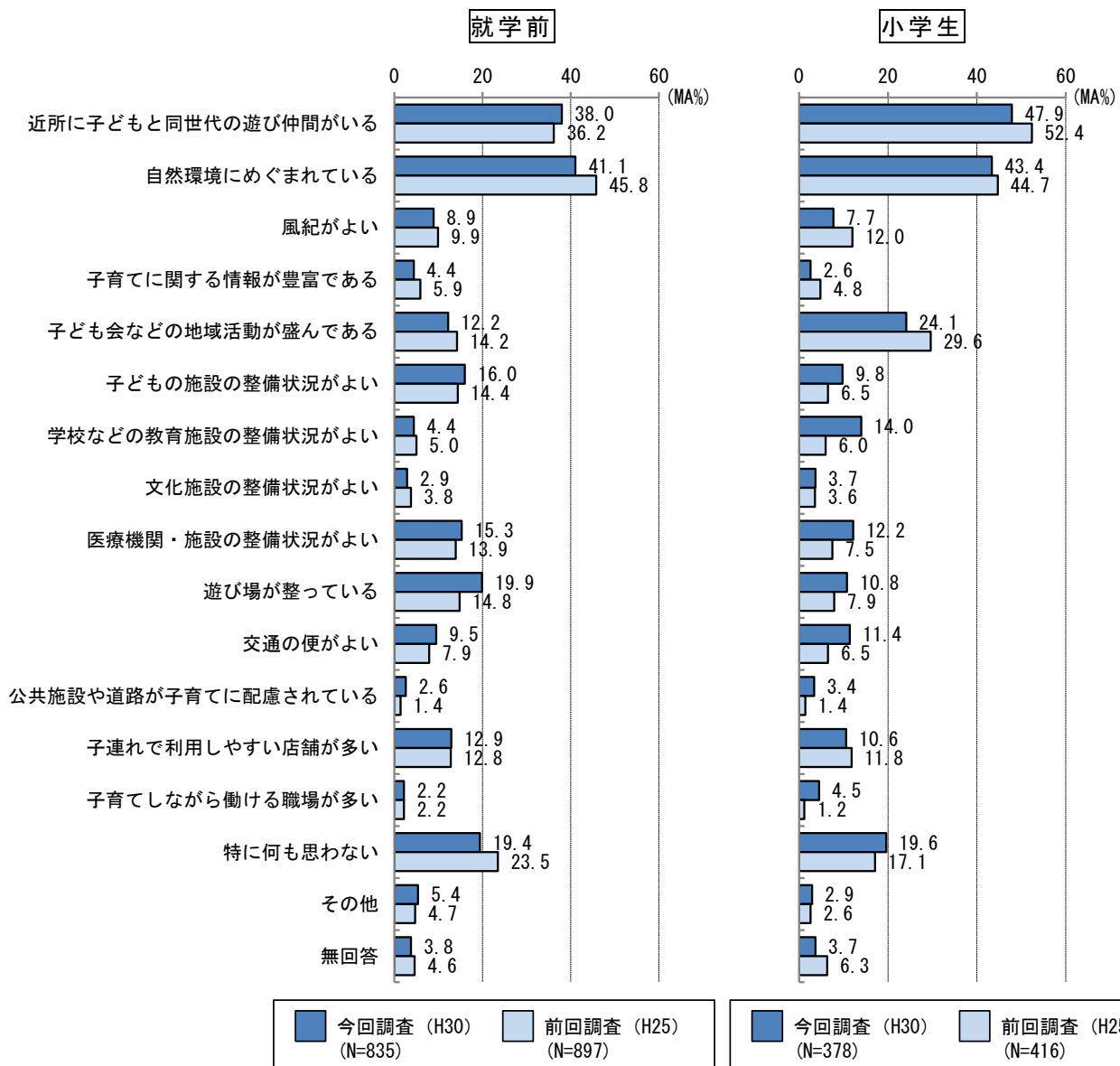


子育てに関する情報の入手方法は、「友人、知人」が就学前では 68.6%、小学生では 68.8%と最も多くなっています。

〔7〕彦根市の子育て環境について

【 就学前：問41／小学生：問32 】

彦根市の子育て環境についてどう思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



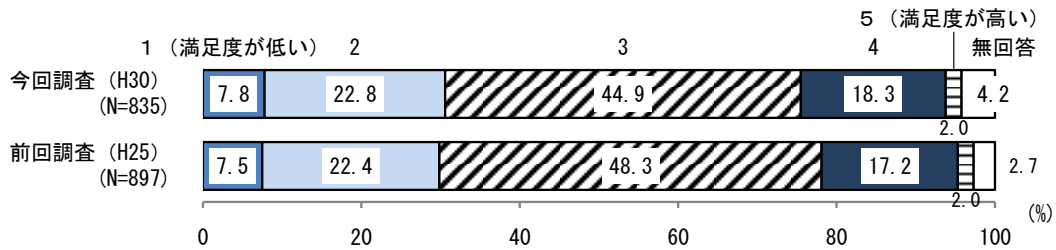
彦根市の子育て環境は、就学前では「自然環境にめぐまれている」が41.1%と最も多く、小学生では「近所に子どもと同世代の遊び仲間がいる」が47.9%と最も多くなっています。

〔8〕 地域における子育て環境や支援についての満足度

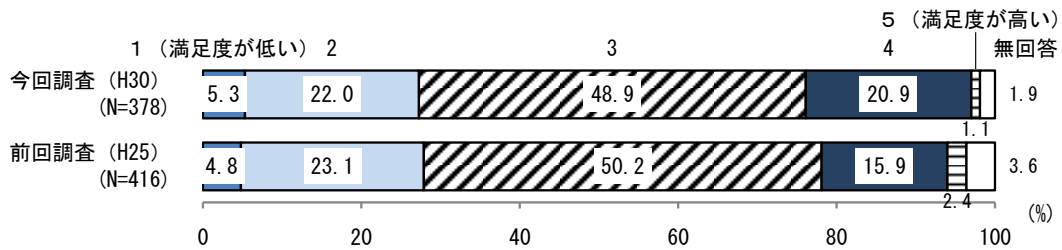
【 就学前：問42／小学生：問33 】

お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生

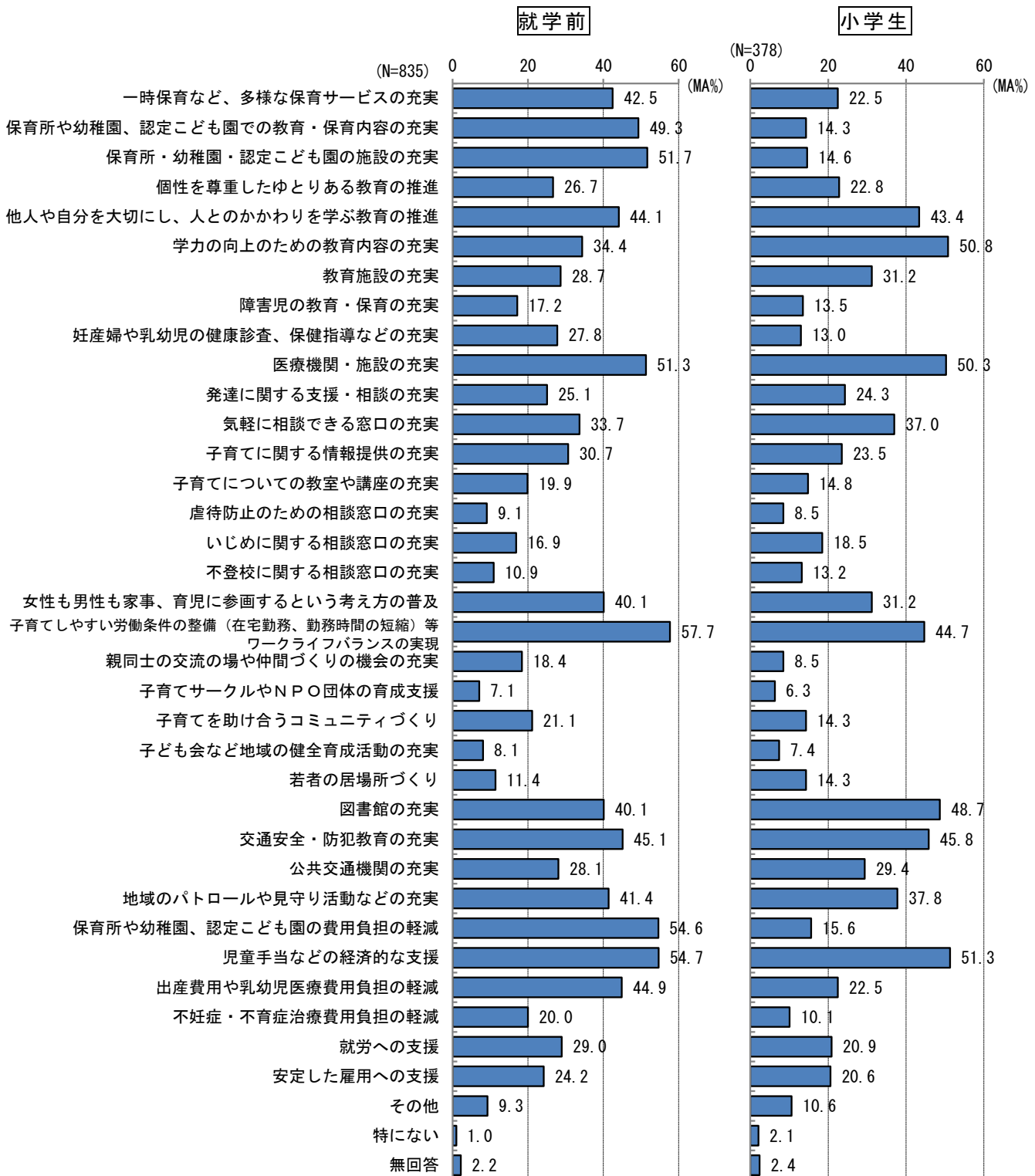


地域における子育ての環境や支援への満足度については、「3」（中程度）が就学前では44.9%、小学生では48.9%と最も多くなっています。

〔9〕彦根市のこれからの子育て支援施策で期待すること

【 就学前：問43／小学生：問34 】

彦根市のこれからの子育て支援施策について、どのようなことを期待しますか。1～36までのうち、当てはまる番号すべてに○をつけてください。



【子育てに関する不安や負担感別】

	N	一時保育などの充実	保育所や幼稚園、認定こども園での教育・保育内容の充実	保育所・幼稚園・認定こども園の施設の充実	個性を尊重したゆとりある教育の推進	他人や自分を大切に、人とのかわりを学ぶ教育の推進	学力の向上のための教育内容の充実	教育施設の充実	障害児の教育・保育の充実	妊産婦や乳幼児の健康診査、保健指導などの充実	医療機関・施設の充実	発達に関する支援・相談の充実	気軽に相談できる窓口の充実	子育てに関する情報提供の充実	子育てについての教室や講座の充実	虐待防止のための相談窓口の充実	いじめに関する相談窓口の充実	不登校に関する相談窓口の充実	女性も男性も家事・育児に参画するという考え方の普及	
就学前	全体	835	42.5	49.3	51.7	26.7	44.1	34.4	28.7	17.2	27.8	51.3	25.1	33.7	30.7	19.9	9.1	16.9	10.9	40.1
	不安や負担を感じる	466	49.8	52.8	53.4	27.9	44.2	35.4	31.8	21.2	30.3	55.6	30.7	39.7	33.0	22.7	10.5	18.2	12.4	45.1
	不安や負担を感じない	276	34.1	44.6	49.3	26.1	44.6	33.7	24.6	12.7	25.4	47.1	17.4	25.4	28.3	15.6	5.8	13.4	7.2	34.4
小学生	全体	378	22.5	14.3	14.6	22.8	43.4	50.8	31.2	13.5	13.0	50.3	24.3	37.0	23.5	14.8	8.5	18.5	13.2	31.2
	不安や負担を感じる	205	27.3	17.1	18.0	27.8	46.8	53.7	32.2	20.0	15.6	51.2	35.1	45.4	28.8	18.0	10.7	23.9	17.6	38.5
	不安や負担を感じない	134	14.2	10.4	9.0	15.7	37.3	45.5	29.1	6.7	8.2	49.3	9.0	20.9	17.9	6.7	13.4	9.0	18.7	

		等ワーケーションしやすい労働条件の実現	親同士の交流の場や仲間づくりの機会	子育てサークルやNPO団体の育成支援	子育てを助け合うコミュニティづくり	子ども会など地域の健全育成活動の充実	若者の居場所づくり	図書館の充実	交通安全・防犯教育の充実	公共交通機関の充実	地域のパトロールや見守り活動などの充実	保育所や幼稚園、認定こども園の費用負担の軽減	児童手当などの経済的な支援	出産費用や乳幼児医療費用負担の軽減	不妊症・不育症治療費用負担の軽減	就労への支援	安定した雇用への支援	その他	特になし	無回答
就学前	全体	57.7	18.4	7.1	21.1	8.1	11.4	40.1	45.1	28.1	41.4	54.6	54.7	44.9	20.0	29.0	24.2	9.3	1.0	2.2
	不安や負担を感じる	63.3	20.0	8.2	24.7	9.7	13.3	41.8	46.1	31.1	42.7	57.7	57.7	45.9	23.4	33.7	28.5	12.2	0.6	0.2
	不安や負担を感じない	52.9	17.4	6.2	13.4	5.8	8.0	39.9	43.1	23.2	40.2	51.4	52.2	43.1	16.7	21.7	15.9	6.5	1.8	1.8
小学生	全体	44.7	8.5	6.3	14.3	7.4	14.3	48.7	45.8	29.4	37.8	15.6	51.3	22.5	10.1	20.9	20.6	10.6	2.1	2.4
	不安や負担を感じる	48.8	11.7	8.8	18.5	7.8	17.6	54.6	46.8	31.2	39.0	19.5	51.7	27.8	11.7	25.4	29.8	13.2	1.5	2.0
	不安や負担を感じない	40.3	3.0	3.7	8.2	6.7	10.4	44.0	44.8	28.4	35.1	11.9	47.8	16.4	7.5	14.2	9.0	8.2	2.2	3.7

彦根市のこれからの子育て支援施策で期待することは、就学前では「子育てしやすい労働条件の整備等ワークライフバランスの実現」が57.7%と最も多く、次いで、「児童手当などの経済的な支援」が54.7%、「保育所や幼稚園、認定こども園の費用負担の軽減」が54.6%となっています。

小学生では「児童手当などの経済的な支援」が51.3%と最も多く、次いで、「学力の向上のための教育内容の充実」が50.8%、「医療機関・施設の充実」が50.3%となっています。

12 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

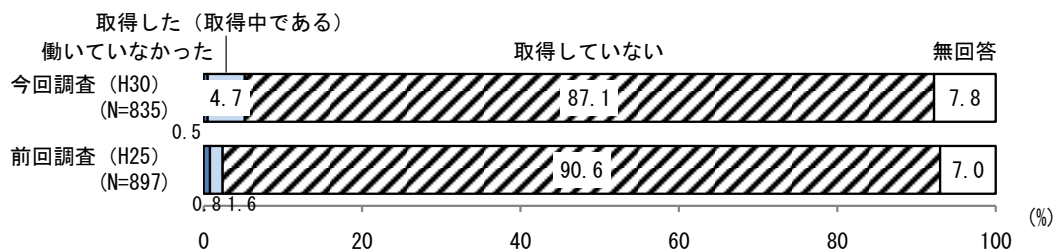
〔1〕 育児休業の取得状況

【 就学前：問44／小学生：問35 】

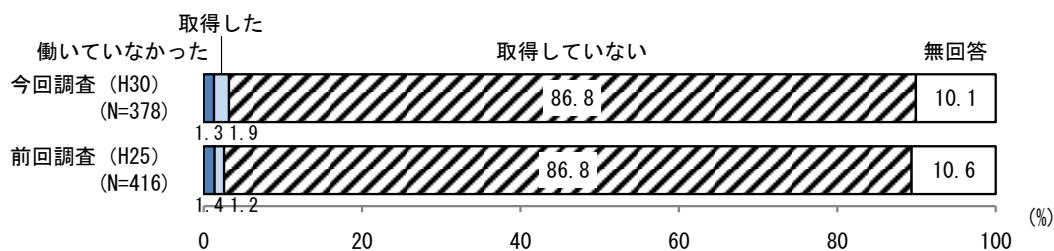
お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。父親、母親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また、取得していない方はその理由をご記入ください。（自営業の方等は「3. 取得していない」に○をつけてください。）

【父親】

就学前

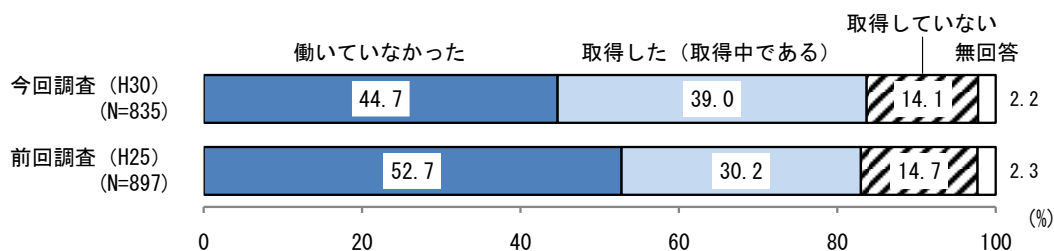


小学生

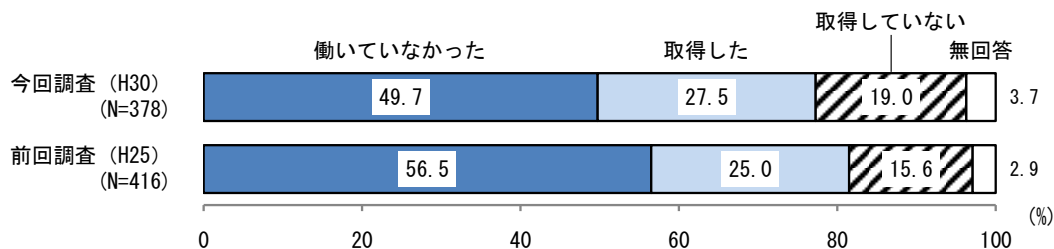


【母親】

就学前

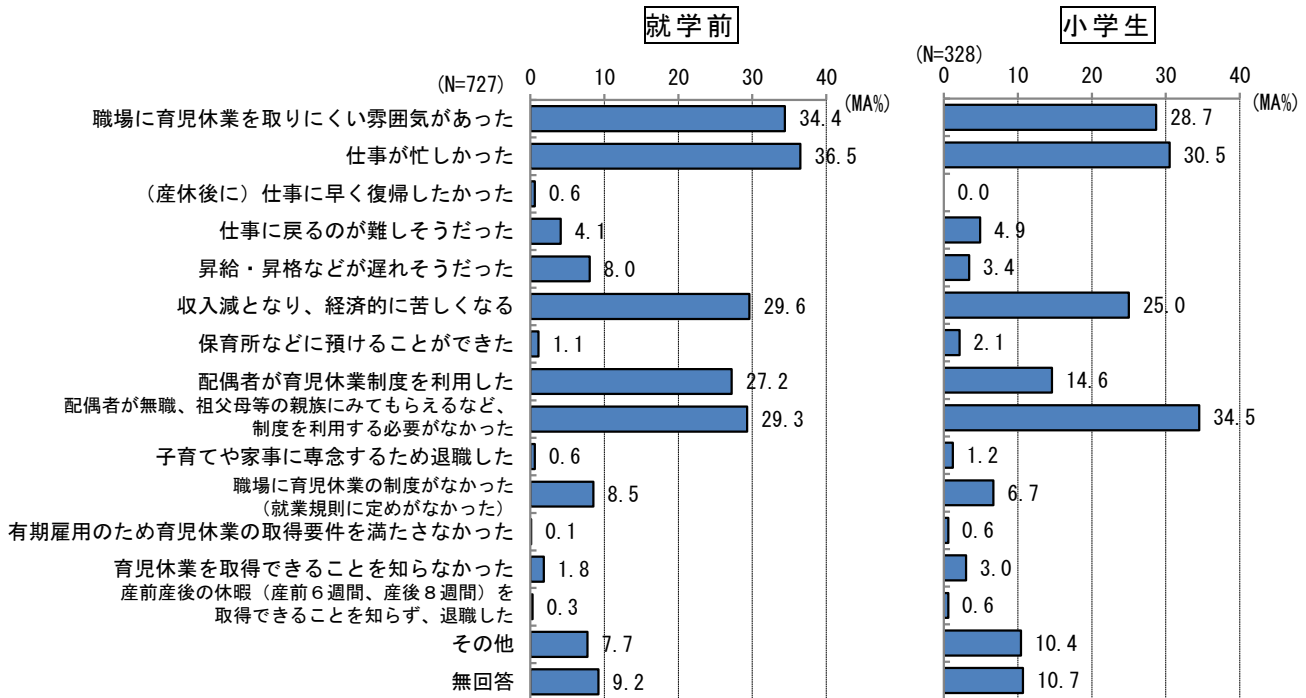


小学生

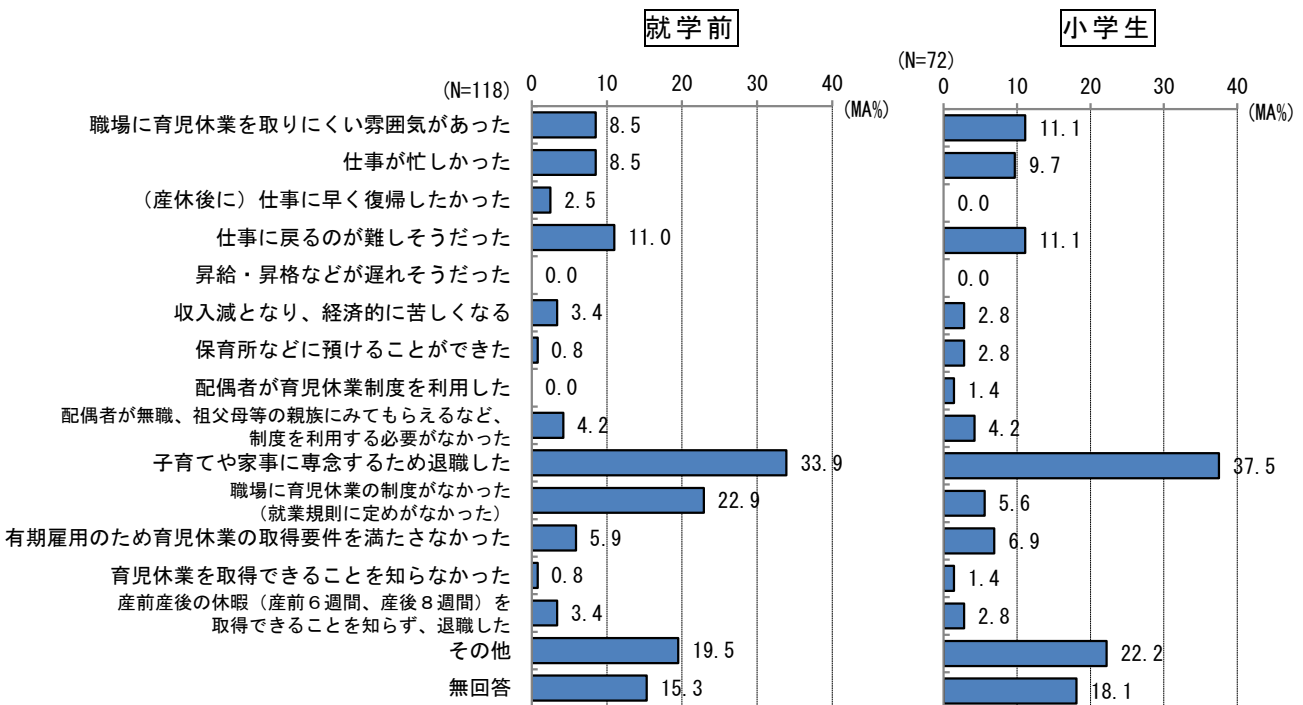


■ 育児休業を取得していない理由

【父親】



【母親】



育児休業の取得の有無については、父親については、「取得していない」が就学前では87.1%、小学生では86.8%と最も多くなっています。母親については、「働いていなかった」が就学前では44.7%、小学生では49.7%と最も多くなっています。

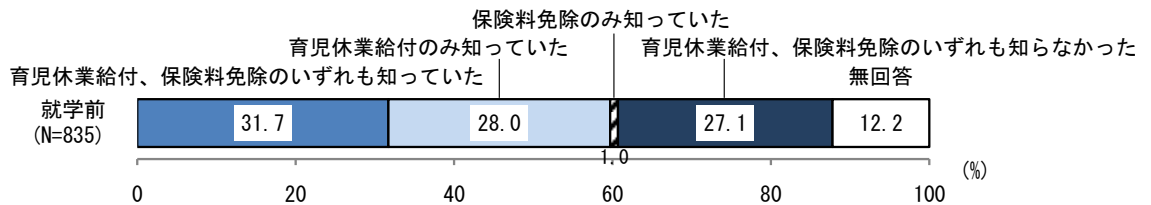
育児休業を取得していない理由については、父親については、就学前では「仕事が忙しかった」が36.5%と最も多く、小学生では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が34.5%と最も多くなっています。母親については、「子育てや家事に専念するため退職した」が就学前では33.9%、小学生では37.5%と最も多くなっています。

〔2〕健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みの認知度

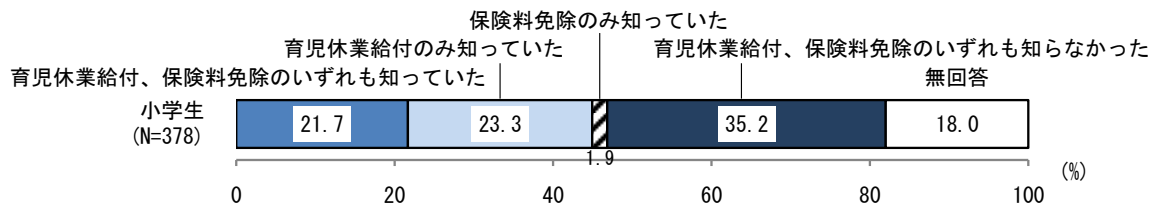
【 就学前：問44-1／小学生：問35-1 】

子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について一部の健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



育児休業等期間について一部の健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みの認知度は、就学前では「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が31.7%と最も多く、小学生では「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が35.2%と最も多くなっています。

〔3〕 育児休業取得後の職場復帰の有無

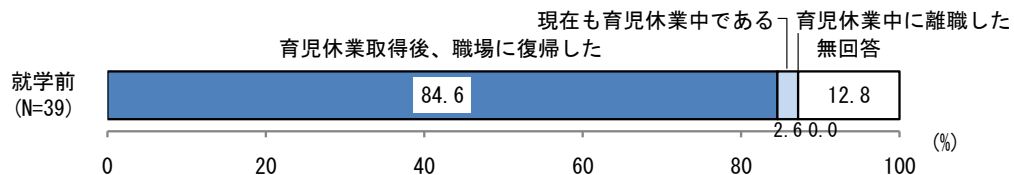
問44／問35で「取得した」を選んだ方のみ

【 就学前：問44-2／小学生：問35-2 】

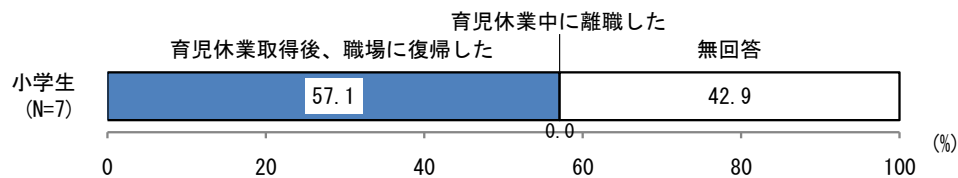
育児休業取得後、職場に復帰しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

【父親】

就学前

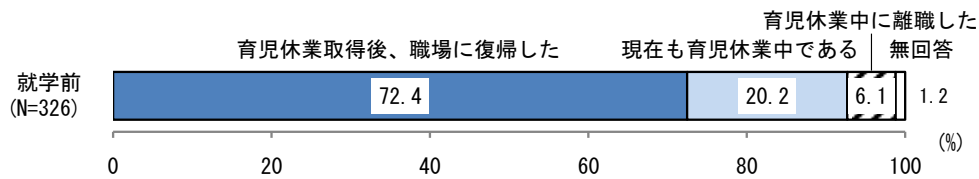


小学生

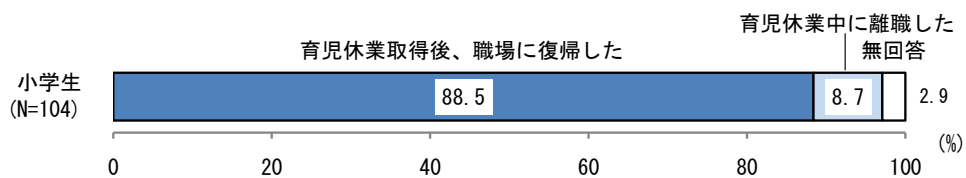


【母親】

就学前



小学生



育児休業を「取得した」とお答えの方に、職場復帰の有無についてたずねたところ、父親については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が就学前では 84.6%、小学生では 57.1%と最も多くなっています。母親についても、「育児休業取得後、職場に復帰した」が就学前では 72.4%、小学生では 88.5%と最も多くなっています。

〔4〕 年度初めの保育所入所に合わせた職場復帰の状況

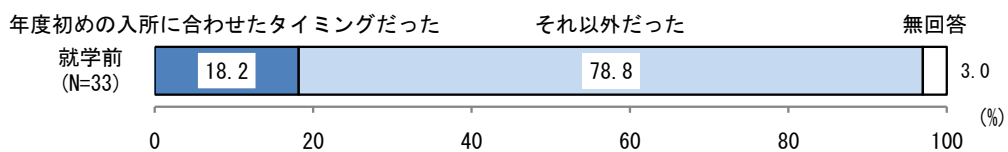
問44-2/問35-2で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方のみ

【 就学前：問44-3/小学生：問35-3 】

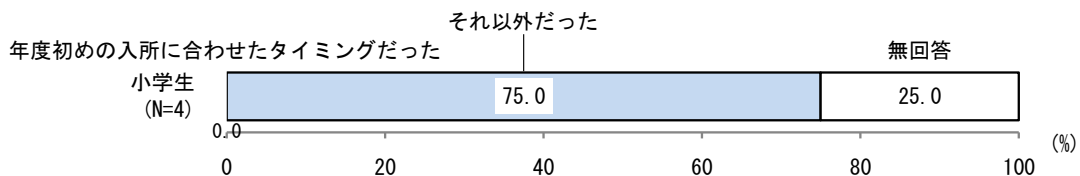
育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。どちらか1つに○をつけてください。
 ※年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合なども「1」に当てはまります。また、年度初めでの入所を希望して復帰したが、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1」を選択してください。

【父親】

就学前

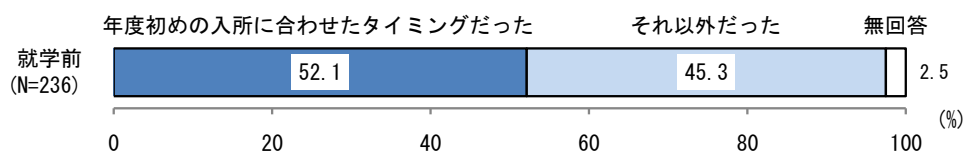


小学生

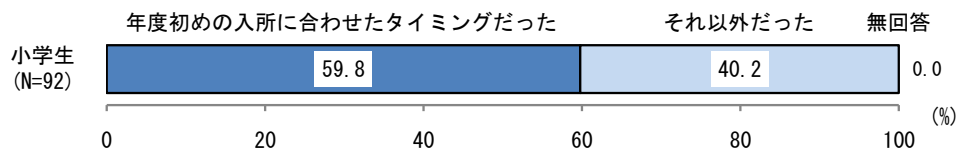


【母親】

就学前



小学生



「育児休業取得後、職場に復帰した」とお答えの方に、育児休業から職場に復帰したタイミングをたずねたところ、父親については、「それ以外だった」が就学前では78.8%、小学生では75.0%と多くなっています。母親については、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が就学前では52.1%、小学生では59.8%と多くなっています。

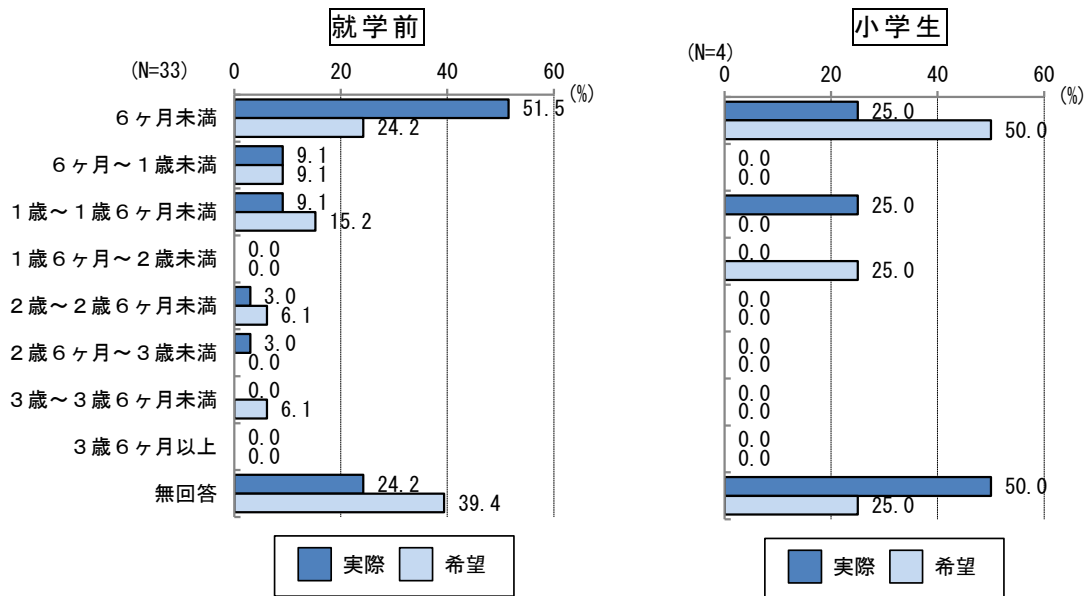
〔5〕育児休業の取得期間（実際と希望）

問44-2／問35-2で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方のみ

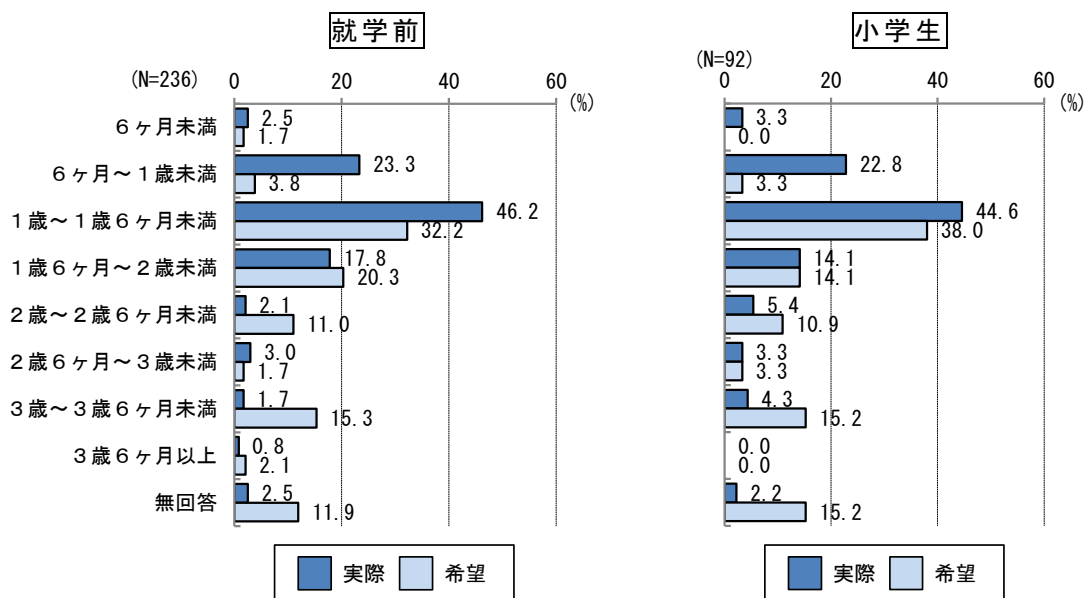
【 就学前：問44-4／小学生：問35-4 】

育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。（ ）内に数字でご記入ください。

【父親】



【母親】



「育児休業取得後、職場に復帰した」とお答えの方の、実際の取得期間は、父親については、就学前では「6ヶ月未満」が51.5%と最も多くなっています。母親については、「1歳～1歳6ヶ月未満」が就学前では46.2%、小学生では44.6%と最も多くなっています。

希望の取得期間は、母親については、「1歳～1歳6ヶ月未満」が就学前では32.2%、小学生では38.0%と最も多くなっています。

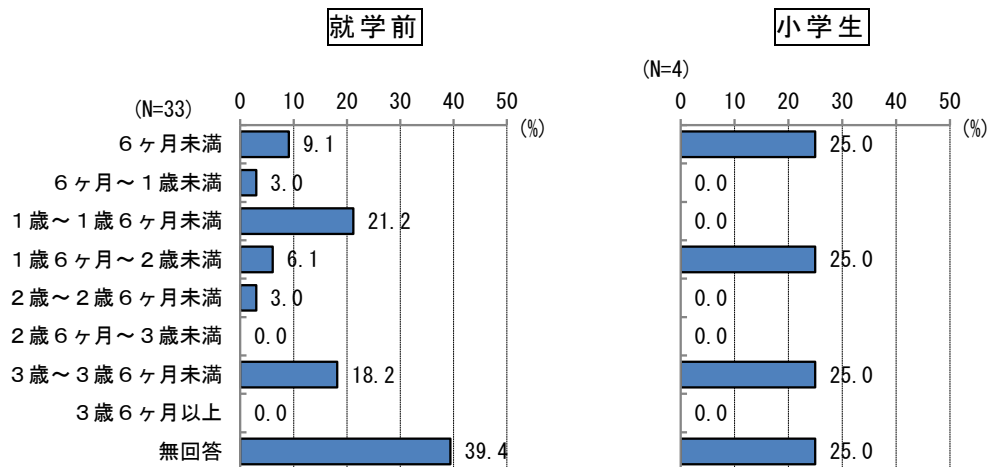
〔6〕 3歳まで育児休暇を取得できる制度がある場合に希望する期間

問44-2／問35-2で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方のみ

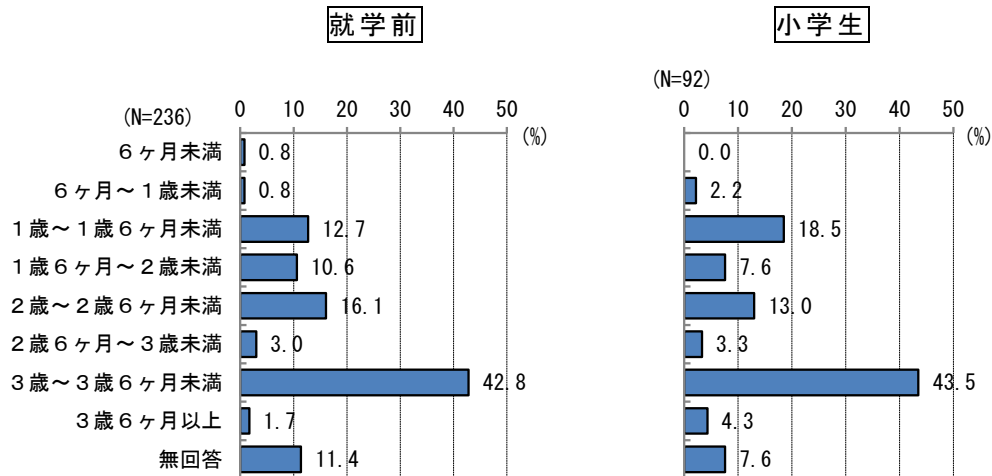
【 就学前：問44-5／小学生：問35-5 】

お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。()内に数字でご記入ください。

【父親】



【母親】



「育児休業取得後、職場に復帰した」とお答えの方に、3歳まで休暇を取得できる制度があれば希望として育児休暇を取りたかった期間は、父親については、就学前では「1歳～1歳6ヶ月未満」が21.2%と最も多くなっています。

母親については、「3歳～3歳6ヶ月未満」が就学前では42.8%、小学生では43.5%と最も多くなっています。

〔7〕希望の時期に職場復帰しなかった理由

問44-4 / 問35-4で実際の復帰と希望が異なる方のみ

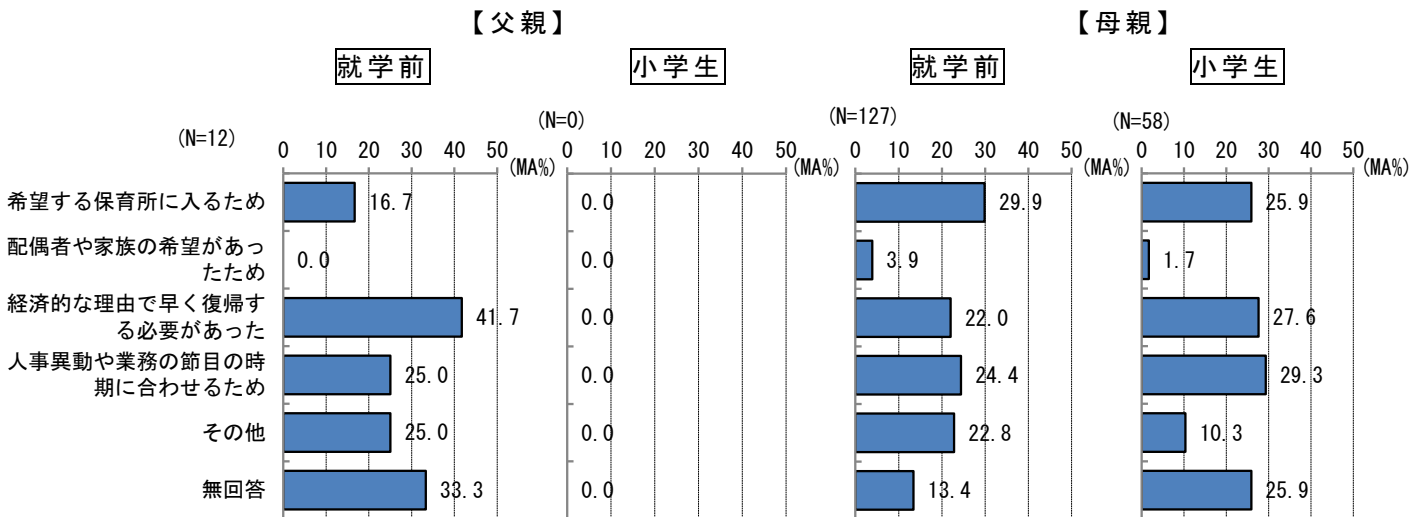
【 就学前：問44-6 / 小学生：問35-6 】

希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

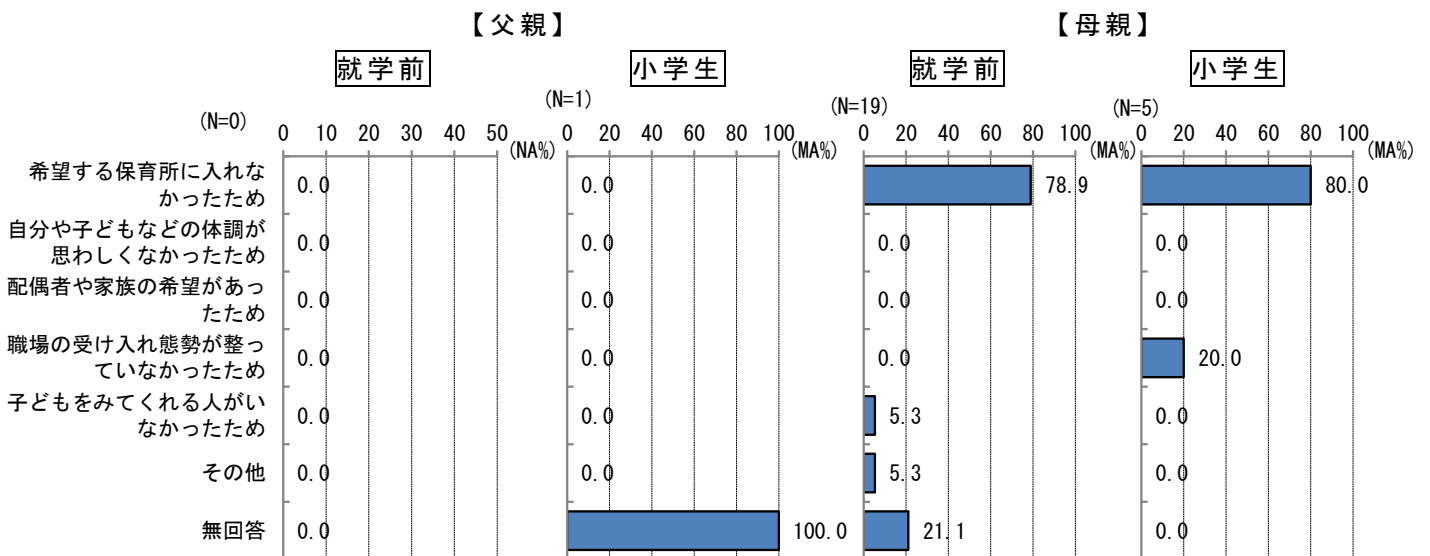
(1)「希望」より早く復帰した方※当てはまる番号すべてに○をつけてください。

(2)「希望」より遅く復帰した方※当てはまる番号すべてに○をつけてください。

(1)「希望」より早く復帰した方



(2)「希望」より遅く復帰した方



育児休暇の取得期間が実際と希望で異なる方に、その理由をたずねたところ、「希望」より早く復帰した理由は、父親については、就学前では「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が41.7%と最も多くなっています。母親については、就学前では「希望する保育所に入るため」が29.9%と最も多く、小学生では「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が29.3%と最も多くなっています。

「希望」より遅く復帰した理由は、母親については、就学前では「希望する保育所に入れなかったため」が78.9%と最も多くなっています。

〔8〕 育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況

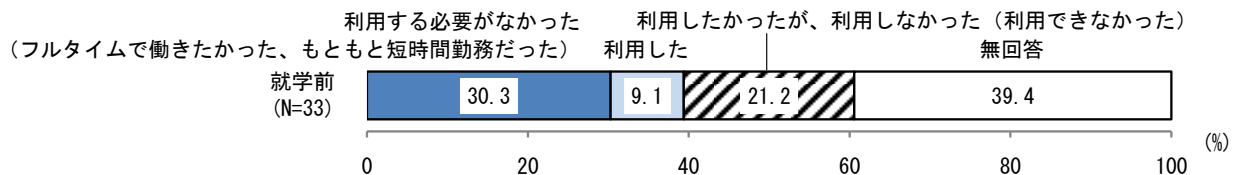
問44-2/問35-2で育児休業取得後に職場復帰された方のみ

【 就学前：問44-7/小学生：35-7 】

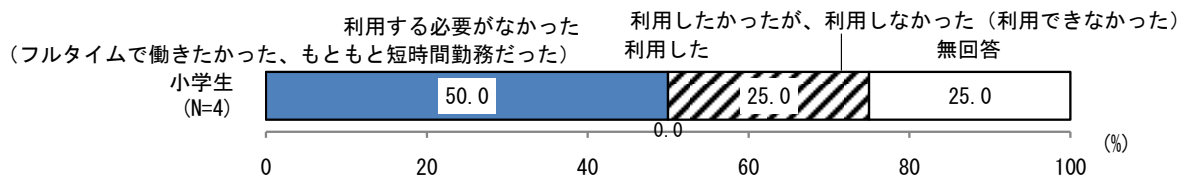
育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

【父親】

就学前

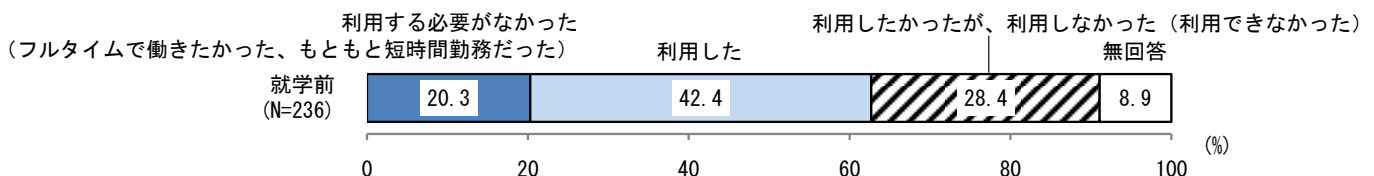


小学生

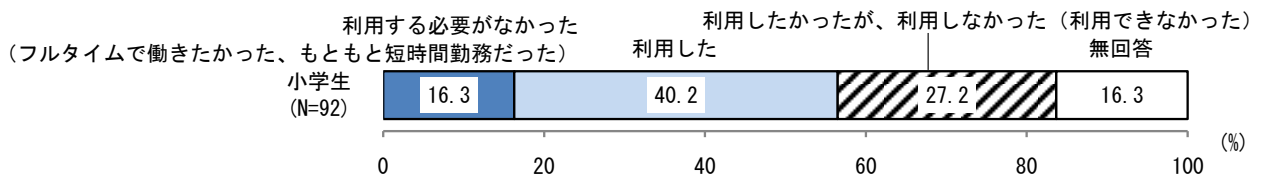


【母親】

就学前



小学生



育児休業からの職場復帰時の、短時間勤務制度の利用についてたずねたところ、父親については、就学前では「利用する必要がなかった (フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」が 30.3%と最も多くなっています。

母親については、「利用した」が就学前では 42.4%、小学生では 40.2%と最も多くなっています。

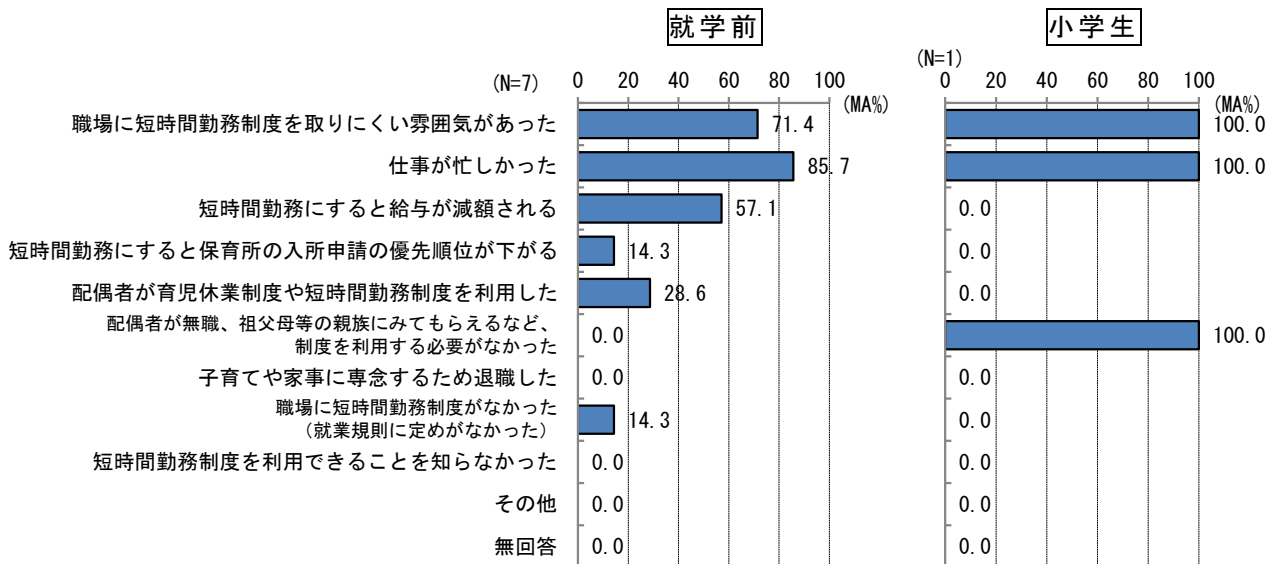
〔9〕短時間勤務制度を利用しなかった理由

問44-7/35-7で「3. 利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」を選んだ方のみ

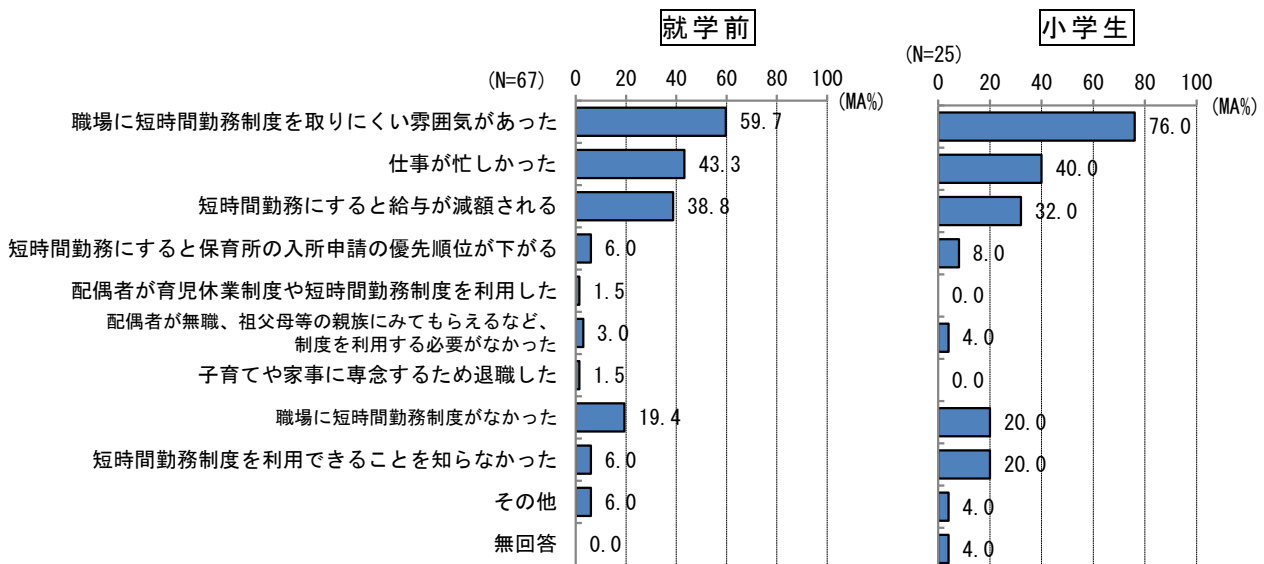
【 就学前：問44-8/小学生：35-8 】

短時間勤務制度を利用しなかった理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

【父親】



【母親】



短時間勤務制度を「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、父親については、就学前では「仕事が忙しかった」が85.7%と最も多くなっています。

母親については、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が就学前では59.7%、小学生では76.0%と最も多くなっています。

〔10〕 1歳になったときに利用できる事業がある場合の取得希望（就学前のみ）

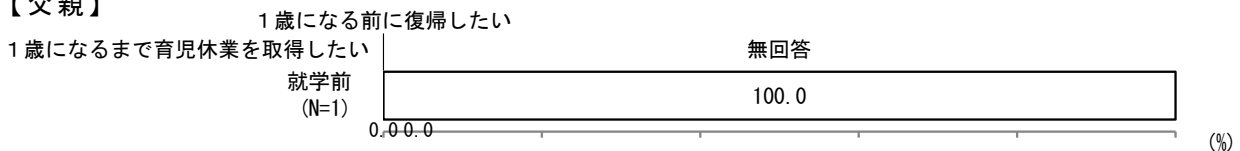
問44-2で「現在も育児休業中である」を選んだ方のみ

【 就学前：問44-9／小学生： - 】

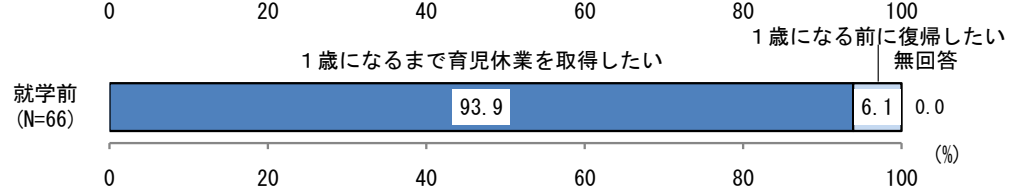
お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、利用できる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前

【父親】



【母親】



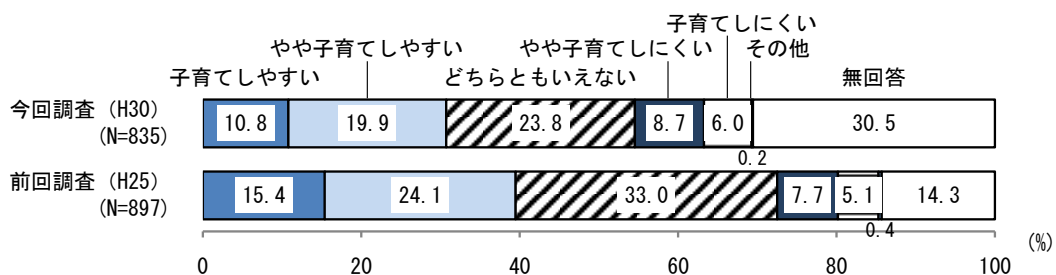
「現在も育児休業中である」とお答えの方に、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば1歳になるまで育児休業を取得するかたずねたところ、母親については、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が93.9%と多くなっています。

〔11〕 彦根市は子育てしやすいところだと思いますか

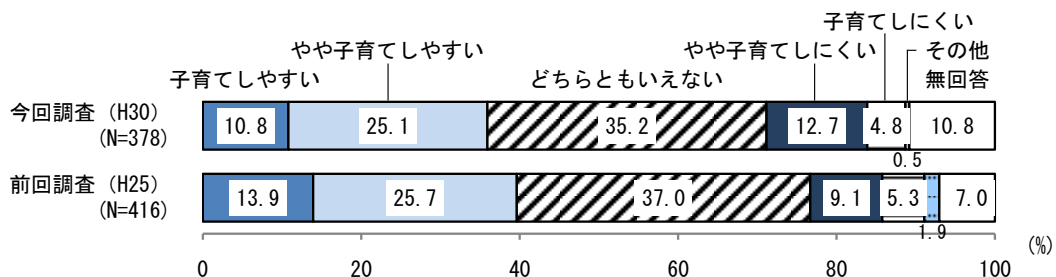
【 就学前：問45／小学生：問36 】

総合的にみて、彦根市は子育てしやすいところだと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



彦根市は子育てしやすいところだと思うかについては、「どちらともいえない」が就学前では23.8%、小学生では35.2%と最も多くなっています。

〔12〕自由意見

【 就学前：問46／小学生：問37 】

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

医療費の軽減について

〔就学前〕61件

- ・医療費助成制度について、中学3年まで無料にしてほしい。
- ・小学生の医療費を無料にしてほしい。
- ・医療費無料の年齢を上げてほしい。

〔小学生〕60件

- ・医療費助成の年齢を上げてほしい。
- ・中学生までの医療費の無料にしてほしいです。
- ・医療費助成、せめて6年生まで引き延ばして欲しい。

保育料の軽減について

〔就学前〕21件

- ・保育料の無償化の対象に0～2歳児も入れてほしい。
- ・ベビーシッター等、一時保育関連の料金を安くして欲しい。
- ・収入が低いので保育所に無償化は本当に助かります。

〔小学生〕3件

- ・保育園の利用料金設定をもう少し低くしてほしいです。預けると経済的に厳しいが、仕事をやめるわけにはいかない。

経済的な負担の軽減について

〔就学前〕13件

- ・子育てにかかる面での金銭的負担はできるだけ軽減してもらえる制度を拡大していただくと嬉しい。現物給付（オムツやミルク）なども拡充してほしい。
- ・金銭的サポートが少な過ぎる。
- ・子どもや妊婦にかかるすべての負担を軽減してほしい。

〔小学生〕10件

- ・教育にお金がかかる。
- ・児童手当などの経済支援を増やしてほしい。
- ・高校への進学、授業料の支援をもっとしてほしいです。

保育所、幼稚園、認定こども園の不足について

〔就学前〕79件、〔小学生〕4件

- ・保育園、幼児園が少なく、立地の良いところは定員オーバーしているため今後利用時が心配。
- ・幼稚園に入園を希望していますが、公立（特にこども園）は希望者も多く、入れなかった人がたくさんいると聞きました。給食も決め手になっている方が多いようです。
- ・保育園を早くこども園にしてほしい。幼稚園が近くにないため、まだ就労したくなくても、保育園に行くために仕事を探して無理している現状がある。

利用時間の延長や、土日等の利用について

〔就学前〕29件

- ・保育施設の利用日数や利用時間をふやしてほしい。

II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、子ども園の延長保育の時間を長くして欲しい。現状の 16 時を 17～18 時まで可能になれば、パートでも選択肢が広がる。 ・土、日、祝日の保育、学童等を充実させていただきたいです。
<p>〔小学生〕 5 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の登園時間をもう少し早めにしてほしい。学童の閉所時間をせめて 19 時までにしてほしい。急な残業などで時間に間に合わないため。 ・幼稚園の延長保育が 15 時まででは、ほとんど延長の意味はないと思います。 ・出産でお母さんが家にいる場合、保育園を退園しなければいけないのは子どもがかわいそう。
<p>子どもを預かってもらえるサービスの充実</p>
<p>〔就学前〕 13 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に子どもを預けることができる場所を増やしてほしい。 ・保育園・幼稚園の一時預かりをお願いしたことがありますが、ほぼ全ての園から対応できないと断られました。制度として存在していても、実状は利用できない。 ・子どもが0歳児の時、自分が体調を崩し、近所の保育園に一時保育の利用ができないか問い合わせたが定員いっぱいを受け入れてもらえなかった。このような時、市内のどの保育園なら利用させてもらえそうか、市役所などに問い合わせると回答してもらえるような仕組みがあると助かる（現状では1件ずつあたらないといけない）。
<p>〔小学生〕 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の一時預かりが出来る場所があれば教えてほしい。なければ、あると助かります。
<p>病児保育について</p>
<p>〔就学前〕 5 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育所をもっと作ってください。近くに祖父母いない家庭には、働きたいけど難しい。 ・病気の時や、土・日・祝は保育園に預けられず、勤務を配慮してもらうのに困る。病児保育の受け皿をもっと増やしてほしい。
<p>〔小学生〕 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育が冬になると、すぐに定員いっぱいになって利用できない。定員を増やしてほしい。
<p>子育て関連施設の充実について</p>
<p>〔就学前〕 12 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもセンターや児童館の施設を充実させてほしい（老朽化が目立ちます）。 ・市役所、図書館等の公共施設にキッズスペースがあれば嬉しいです。
<p>〔小学生〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物が古く、利用しにくい場所が多く感じられる。
<p>子育て支援の充実について</p>
<p>〔就学前〕 7 件、〔小学生〕 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地元よりも子育てしにくいと感じざるをえない。 ・他の市は、こども園、給食、1歳になるまではオムツを支給などのサービスがあるが、彦根市はそういうものがなく、子育てしにくく思う。 ・小さければ小さいほど、彦根は子育てしにくいと感じた。保育園に通っている今はあまり感じないが、どこにも属さない孤立した母子に、もっと手厚い支援をお願いしたい。
<p>給食について</p>
<p>〔就学前〕 15 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園も給食にしてほしい。 ・全ての幼稚園、高校を給食にしてほしいです（希望者は弁当持参、実際はきつと難しいので全て給食に）。共働きだと母親がお弁当を作る負担が大きい。

<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の質をあげてほしい。牛乳やパンでなく、ごはん中心の和食、自然海塩、地元野菜、雑穀ごはんなど、成長に安心な食材メニューであってほしい。保育園では砂糖や添加物なしのおやつを希望します。甘酒スイーツやおにぎりがいいです。
<p>〔小学生〕 3 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食無料化になってほしい。 幼稚園、保育園の無償化はらない。子ども手当もらない。中学や小学校の給食費に使ってほしいです。
<p>遊び場や公園の充実について</p>
<p>〔就学前〕 36 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 天候が良くない日でも、子どもを遊ばせることができるような施設を増やしてほしい。 子どもの遊び場の確保をお願いします。住宅地内に小さな公園はありますが、見通しが悪いこともあり、不審者の心配があります。 今はどこの公園もボール遊び禁止のところが多く、遊べる場所がない。近所に広めの広場などがあれば、もっと外で伸び伸びと遊べるのと思う。
<p>〔小学生〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ボール遊びができるような広い公園が少ないように思う。 放課後子どもたちが思いきり遊べる場所（子どもセンターのような）が歩いて行ける所があればよいのになあとと思います。学校の校庭等は開放して頂いていて先生も見て頂けてありがたいです。
<p>教室、イベント、交流の機会を増やしてほしい</p>
<p>〔就学前〕 15 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒に体験できる料理教室や工作など勉強会など沢山していただけるとうれしいです。 休日に子どもと遊びに行けて遊べて、モノづくりができたり、ちょっとした屋台で食べたりできるイベントなどを積極的に企画してほしい。 地域で同じくらいの子どもの育てる親同士が交流できる場をもっと作ってほしい
<p>〔小学生〕 3 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参加できるイベントをもっとたくさんしてほしい。 市が主催の子ども科学教室や荒神山自然の家でのディキャンプ体験など、年に数回ではなく毎月の開催で、抽選ではなく希望した会には参加できるようにするなど充実してほしいです。 地元にふれあいの館があり、子どもたちの交流の場として安心して利用させて頂いています。色々なイベントの企画や手厚い子どもたちのフォローして頂き助かっています。
<p>図書館の充実</p>
<p>〔就学前〕 29 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さい子どもを連れていける図書館の充実を希望します。遊びながら本に親しめるような工夫をもっとしてほしい。 図書館の充実。自習スペースなど、中・高生になっても行きたくなる図書館になってほしいです。図書館に人が集まり、人と人がつながる場所になればと思います。 車が利用できないため、図書館に行きにくく利用したくてもできません。移動図書館など来てもらえたら嬉しいのです。
<p>〔小学生〕 11 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の充実を希望します。座席を増やし蔵書数も増やしてほしい。 図書館など、もっと増やして本に触れ合う場所を多くしてほしい。 図書館をきれいにしてもらいたい。休日等は周囲の道が混雑しやすく、利用しにくい。

II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

医療施設の充実
〔就学前〕 5件 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが病気になってもかかれる大きな病院が必要。 ・市内の産婦人科をもっと多くするか、市民病院での出産を拡充すべき。 ・小児医療が弱い、特に夜間。一時的に預ってもらえる所があるらしいが、詳しい事が分からない。
〔小学生〕 5件 <ul style="list-style-type: none"> ・病院の数はあるが、総合病院が不便。
学校の施設や設備の改善
〔就学前〕 7件 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の設備・施設を新しくして下さい。 ・小学校の老朽化が目立つので、せめてトイレや教室をきもちよく過ごせるよう改修してほしい。
〔小学生〕 5件 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと学校の環境を整え、美しくして居心地の良い教室づくり、学校づくりを望みます。トイレも暗く、居心地が悪いです。 ・小学校は体育館など、建物の老朽化が進んでおり安全面に不安がある。 ・幼稚園、学校等の環境を整えて欲しい。幼稚園にはエアコンがなく、手洗い場は屋外です。
学力の向上、教育の受実など
〔就学前〕 9件 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにかかる時間があまりないので、平日保育園にいる間に、ひらがなの正しい書き方や音読、鉄棒、保健体育のような学習をしてほしい。 ・幼稚園から認定こども園に変わり、幼稚園の時の方が、教育も保護者の関わりもよかったと感じている。教育、学力向上への取り組みをお願いしたいです。 ・学校設備（エアコンなど）、教師の質、小学校間の格差、学力テストの全校でのレベル、早急に改善してほしい。
〔小学生〕 7件 <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のための対策をして欲しいです。 ・滋賀県の学力が全国で最下位なのに、小学校で全く危機感がない。カリキュラムを見直して学力をあげる方策をとるべきである。基礎学力をつけさせて欲しい。 ・週末や夏休みを利用して補習とか実施してほしい。
保育士や教員の人数不足、待遇改善について
〔就学前〕 15件 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園を利用中です。年々教員の数が減っていることが気になっています。明らかに教員不足ではないかと感じます。 ・保育料無料化はありがたいが、教育の質の低下が懸念される。保育士の賃金UPに回して質の向上を図ってもらいたい。 ・保育士の離職率減少への対策（処遇改善、人員基準変更、事業所補助など）
〔小学生〕 7件 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校の先生は多忙で、もう少し人員が必要ではないかと思います。 ・今、小学生ですが、先生が足りていないように（他の地域と比べると）思います。もっと補助の先生がたくさんいてくれば、先生の負担も減り個性が大切にされるのと思います。 ・学校、保育園などの支援者、先生の人員を増やし、サービスの質を上げてほしい。

保育士や教員の質の向上について
<p>〔就学前〕 10 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生によっては言い方がきつく感じる時があり、保護者に対しての伝え方などもう少し配慮して頂きたいです。 保育士の方は、話し方も汚く、目を見てあいさつもされません。保育士の方の質の向上をお願いしたい。 保育園と保護者との距離があり、保育園に対して意見が言えない。保育園の対応に不満があるが、どこに意見を言えば良いかわからない。
<p>〔小学生〕 5 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校の教員に差がありすぎるため。教育に関わる人たちの向上心を高められるよう指導していただきたい。 相談員さんや担当者さんのスキルに差がありすぎる。
学習支援について
<p>〔小学生〕 6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後などに宿題や分からない勉強を教えてくれる場所があると助かります。勉強が難しく親でもわからない場合があり、塾に行かせたくても経済的や時間的に無理なため。 春、夏、冬休みの間に、小学校で子どもが自由に参加できる補習授業を増やしてほしいです。 家庭の経済状況による教育格差が生じないように支援や制度を作ってほしい。
学区について
<p>〔就学前〕 8 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校区別で生徒数に偏りがみられたり、また幼稚園などが1ヶ所に集中し、どちらもバランスが悪いと思ってしまう。 地域の子どもの数が非常に少なく、この先不安。2クラスくらいになるような対策を希望します。 子どもの個々の特性に応じ選択できるように、地域外通学をどの子も選べるようにしてほしい。
歩道の整備について
<p>〔就学前〕 12 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道が狭い。段差の大きな道が多く、ベビーカーでの移動がむずかしい。自転車でも段差が大きいと小さい子どもを乗せての移動はむずかしい。整備を希望します。 道路も悪いし運転してる人のマナーも悪い。信号無視して走るのが、当たり前になっている。子どもと横断歩道を渡ろうとして渡れないまま信号が変わることが多い。
<p>〔小学生〕 9 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路が狭く、子どもが自転車で出かけるのでとても心配。 歩道が少なく車道を通らないといけない場所が多いため、子どもに危険が多い。
交通の便の悪さ、駐車場の整備について
<p>〔就学前〕 11 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもセンターを利用したいが、車を運転しないため、バスもなく、タクシーだと行きたくても頻繁には行けない。 子どもの遊ぶ広場や施設は多くていいと思うが、その大半が車でしか行けない（バスがあまり通っていない）。自転車に乗るにも子どもを乗せて車道を走るには怖い。 幼稚園の駐車場を広くしてほしい。
<p>〔小学生〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> 彦根は住みやすく好きですが、車がないと、仕事や買い物、バスが不便であるため、いろいろとお金がかかります。財政的に大変だとは思いますが、考えていただけると嬉しいです。

II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

<ul style="list-style-type: none"> ・検診やセミナー、講座どこへ行くにも車が必要。もっと駅近などで利用しやすい環境にまとまってあると利用しやすい。
子どもの安全について
<p>〔就学前〕 8 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学時や下校時の見回りや見守りを強化して欲しい ・変質者がいたという話をよく聞く。今は保育園で親が送り迎えできるからいいが、小学生になったら、登下校の対策をしてほしい。 ・子どもをまきこむ犯罪がある世の中なので、犯罪、交通事故のない環境を充実してほしい。変質者も多いと聞くので、外に出すのも不安です。
<p>〔小学生〕 6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報が多いので、市からもパトロール（下校）などしてもらえるとありがたいです。 ・夕方になると、外灯がなく真っ暗になる。交番まで遠い。不審者の情報が少ない。 ・中学校になり自転車通学する時、外灯などが少なく非常に心配します。
障害児、医療ケア児への支援について
<p>〔就学前〕 12 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが車椅子であるため、利用しやすい相談施設、病院、リハビリ預り施設など、地域で充実させてほしい。 ・障害児と健常児と一緒に安全に過ごせる施設がほしいです。図書館にベビーカーや車イスで入りやすくなるともっと良いです。 ・医療的ケアの必要な子どもや障害を持っている子どもが増えている現状なのに、預け先がなかったり、保育園に看護師がいても人員不足という理由で断られる。
<p>〔小学生〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児に対する支援が不十分であるように思う。気軽に相談できたり利用できるサービス（療育等）を増やす。個に合わせた情報を提供する等、もっとがんばってほしい。 ・小学校で普通学級に障害児が混じって学習することに困難が生じ、学級崩壊が起きています。支援につながるようにしてほしいです。 ・発達障害の子が、小中は通級のクラスがあり授業を受ける事ができているが、高校には通級クラスがなく、高校は行けないかもと悩んでいる。公立で通級のクラスを設けてほしい。
放課後児童クラブについて
<p>〔就学前〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育も早朝や延長時間を長くしてほしい。 ・小学校で一時的な預かり制度があると、家の用事や介護で外出せざるをえない時に助かる。学童保育で一時預かりがあると、本当に助かる。 ・学童保育は私立で良いので預り時間帯や内容を充実したものと望ましい（夏休みなどの休暇に早朝から預ってもらえたり、昼食提供があるなど）。
<p>〔小学生〕 16 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブも長期休み期間など朝 7 時～19 時くらいまで、もっと時間の幅を持たせてもらわないと働けない。 ・小学校の学童保育、祝日もみてもらえるようにしてほしい。 ・長期休暇中の学童の開始時間を 7 時 30 分に早めてほしい。学童の昼食はお弁当や給食、自分達でクッキングするなど、家庭での負担を減らすような対策をお願いします。また、遊びだけでなく、教育（塾など）や様々な体験ができるようにしてほしい。

職場の理解について
<p>〔就学前〕 14 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事との両立が出来るよう、子どもがいる人は仕事量を減らすなどの配慮が当たり前の環境になって欲しいです。 ・短時間労働や、長期休み、学校行事のための休暇が気持ちよくとれる職場作り（特に中小企業）を望む。 ・気軽に子どもの病気で休める、休ませてもらえる環境作りを彦根から発信して頂きたいです。
子どもの行事や役員の負担について
<p>〔就学前〕 6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フルタイムで働くとしても仕事が休みづらい。子どもの行事、役員など休めるようにしてくれないと、子育て時はそれに悩まされる。 ・保育園では平日に行事を行うため、わざわざ休みを取り保育園は何のためにあるのかももう少し考えてほしいです。 ・市立の多くの幼稚園は、PTA 活動等による母親への負担が大きく、仕事に就きたくても就けない母親がたくさんいます。
<p>〔小学生〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校は人数が少ないため、PTA 役員の負担が大きく、行事を減らしてほしいです。 ・子ども会やPTA 活動などは、仕事をしている人には負担になっている所もあるので負担にならない様にしてほしい。 ・母子家庭でも、今の時代、小学校の役員、子ども会の役員をしなければいけない。しかし、夜中から働いている人間にとってかなり仕事に影響が出て負担が大きい。
小学校入学後の両立支援について
<p>〔就学前〕 8 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の間は遅くまでみてもらえるので安心でしたが、心配なのは小学校から。放課後児童クラブを利用しても、今よりみてもらえる時間が短くなってしまう。 ・周りのママ達と話していると、保育園に預けている時よりも、小学校に入った後の方が、フルタイムで働いていると大変とききます。登下校の旗当番・PTA・長期の休みと時の預け先など。
母子家庭等への支援について
<p>〔就学前〕 3 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭の支援をもっと充実させてほしい。所得制限をもっと上げてほしい。働けば働くほど総額が減っていく。 ・シングルマザー（未婚）でもがんばっているのに、1 度結婚したシングルマザーと差別されるのは腹立たしい。同じように控除を受けられるようにしてほしい。
<p>〔小学生〕 5 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭だからと言って子どもが嫌な思いをしないように、習い事や教育をしているつもりですが、時間的な問題や経済的に厳しいのが現状です。 ・未婚で出産した子どもへの配慮がない。
相談支援体制について
<p>〔就学前〕 8 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児個別相談以外にも、栄養士に相談できる場をふやしてほしい。 ・乳幼児検診の保健師の方々がすごく親身に対応してくださり、相談などがしやすい。 ・働くお母さんたちに向けて、「配偶者控除」や「103 万の壁、130 万の壁」など、働き方やバランスの相談ができるところがほしいです

II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

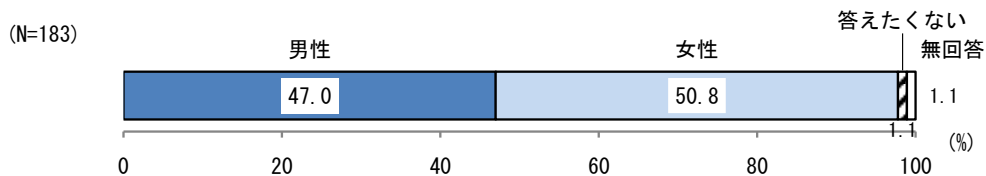
〔小学生〕 1 件 ・教育相談窓口がほしいです。教育委員会とかではなく、相談できるところです。
地域の力の活用について
〔就学前〕 2 件 ・彦根市だけで解決できない。企業、地域が理解してもらえないといけないと思う。
〔小学生〕 5 件 ・地域の役員などを団塊の世代の方をうまく活用して、子育て世代が仕事や子育てに専念できるようにしてもらえるといいと思う。 ・子どもたちと地域で見守ってくださる雰囲気があるので大変うれしく思っています。地域のコミュニティの力が最大限に発揮できるような支援があれば良いのではないかと思います。
情報提供について
〔就学前〕 13 件 ・子育てに関する事業をもっとPRし周知してほしい。 ・保育園、幼稚園のことなど、早いうちから、情報を得られるようにして欲しい。 ・地域で行っている子ども対象のイベントをもう少しわかりやすいチラシで発信してほしい。広報に小さく載っていてもわかりづらい。どんなことをするのか。写真等があるといい。
〔小学生〕 4 件 ・子育て中に知りたい情報を冊子にして配ってもらいたい。どんなサービスがあるのか知らない事が多いと思うので、知りたい。 ・市政全般に言えるが、ITによる情報発信が弱い。特に教育、子育て中心となる20~30代の層に、十分にリーチできていない。HPの改善、SNSの活用等、能動的な発信を求めたい。
現状に満足している
〔就学前〕 5 件 ・一人一人の個性を大切にしておさる幼児教育は素晴らしいと思います。小さい時の関わり方で、その子の一生が左右されるので、彦根に引っ越してきて良かったなと思います。 ・1人目の時より環境や支援制度がだんだん増えてきて働きやすくなったなあと感じています。
〔小学生〕 3 件 ・私の住んでいる地域では、他の地域に比べ、安心して子育てをできる環境だなあと感じています。
アンケートについて
〔就学前〕 10 件、〔小学生〕 7 件 ・アンケートを取って皆さんの意見を収集するだけでなく実行して頂きたい。
その他
〔就学前〕 66 件 ・共働きでも、母親のみの育児が常態化している家庭が多いと思う。男性が育児に十分に参画するように促す取り組みをしてほしい。 ・子ども手当などの申請手続きをもっとわかりやすく、簡単にしてほしい。 ・産褥期が終わってからの母親のケアをもっと充実させてほしい。心も体もまだまだ不安定な時期なのに産褥期以降になると急に周りからサービスや支援がなくなる印象を受けた。地域の助産師さんのアドバイスや話ができる場をもっとほしい。
〔小学生〕 22 件 ・事件や事故、いじめを起こさないために、幼少期からの道徳教育のあり方を見直して頂きたい。 ・自営業者は9時~17時ではないので、現状の支援等が受けにくい。 ・外国人の子育て環境作りに関して、特にシングルマザーであって一人で子育てしている方は、色々不安なことがあります。

Ⅱ-2. 若者の意識調査（18歳～39歳の市民用調査）

1 回答者について

〔1〕性別

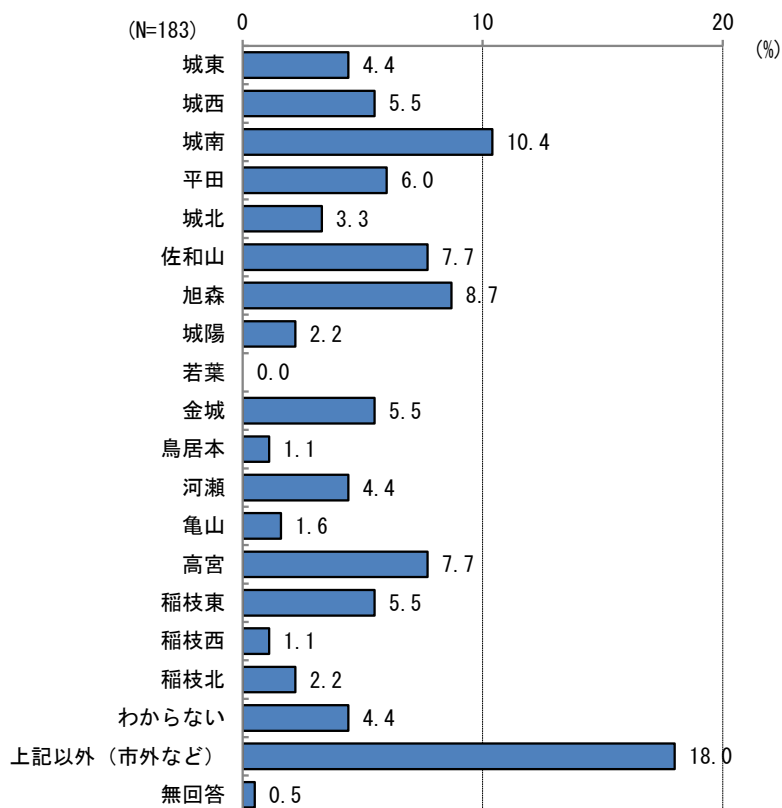
問1 性別はどちらですか。



回答者の性別は、「男性」が47.0%、「女性」が50.8%となっています。

〔2〕小学校区

問2 お住まいの小学校区はどちらですか。（〇は1つ）

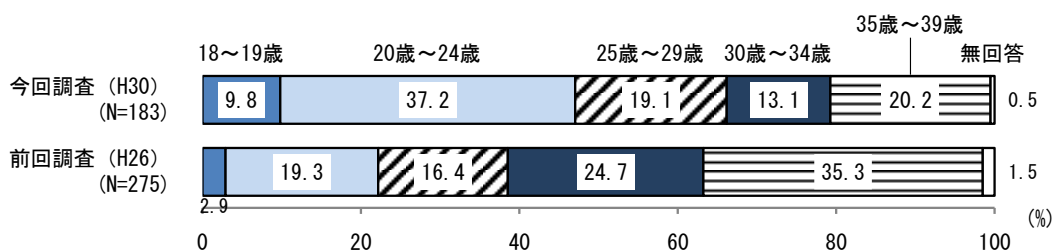


居住している小学校区は、「城南」が10.4%と最も多く、次いで、「旭森」が8.7%となっています。

II-2. 若者の意識調査

〔3〕 年齢

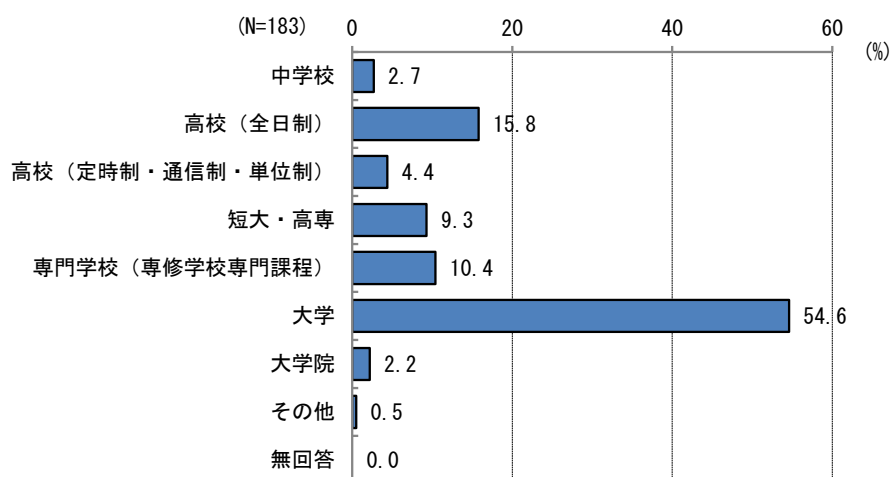
問3 年齢についてうかがいます。(〇は1つ)



年齢は、「20歳～24歳」が37.2%と最も多く、次いで、「35歳～39歳」が20.2%となっています。

〔4〕 学歴

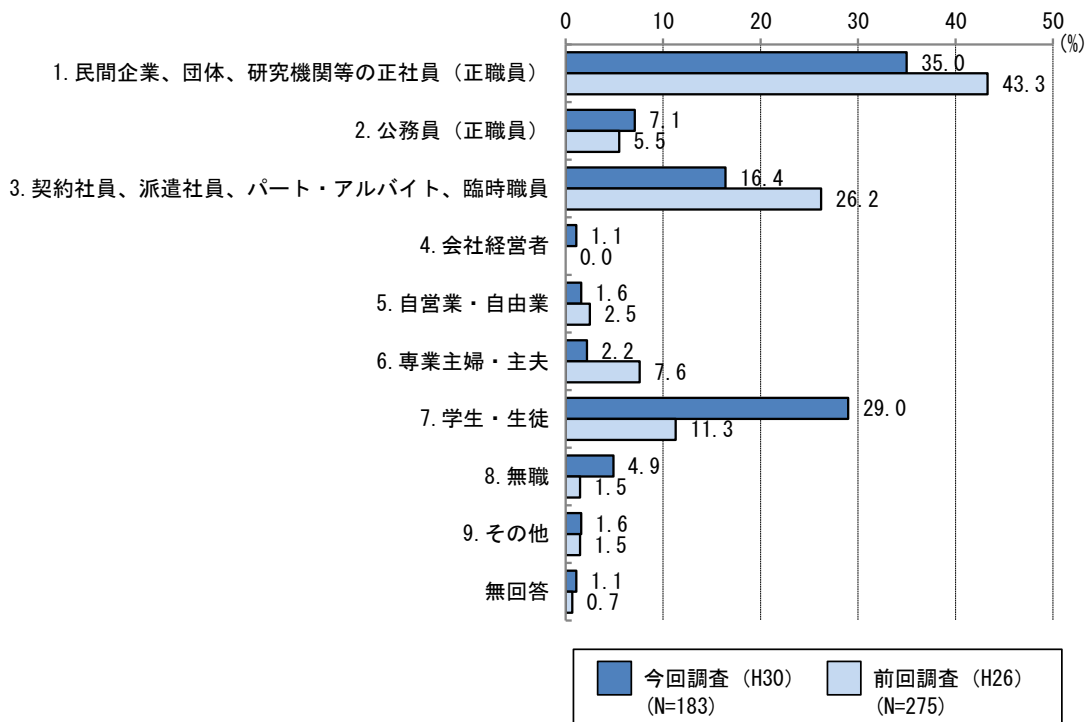
問4 学歴（最終または現在の状況）についてうかがいます。(〇は1つ)



学歴は、「大学」が54.6%と最も多く、次いで、「高校（全日制）」が15.8%となっています。

〔5〕 職業

問5 職業についてうかがいます。(〇は1つ)



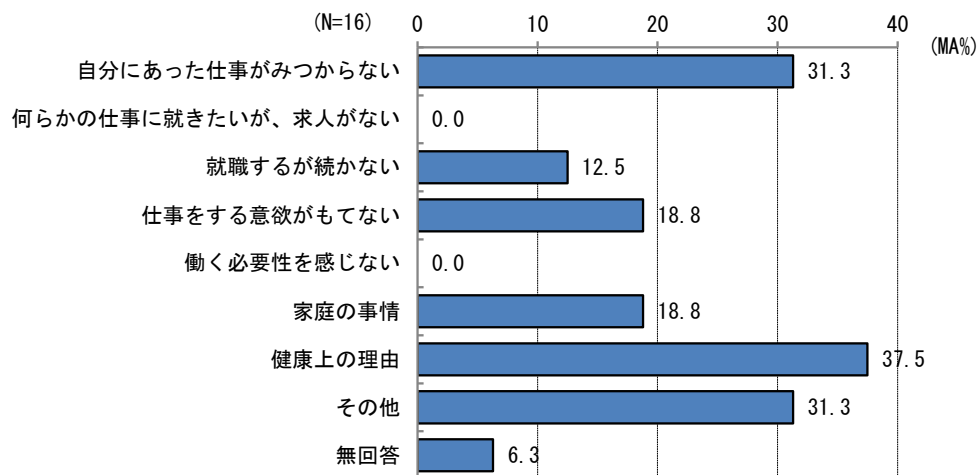
【性・年齢別】

		N	民間企業、団体、研究機関等の正社員（正職員）	公務員（正職員）	契約社員、パート・アルバイト、派遣社員	会社経営者	自営業・自由業	専業主婦・主夫	学生・生徒	無職	その他	無回答	
性・年齢別	全体	183	35.0	7.1	16.4	1.1	1.6	2.2	29.0	4.9	1.6	1.1	
	男性	全体	86	47.7	5.8	8.1	2.3	3.5	0.0	23.3	4.7	3.5	1.2
		男18歳～24歳	39	28.2	2.6	5.1	0.0	2.6	0.0	51.3	7.7	0.0	2.6
		男25歳～29歳	19	52.6	15.8	15.8	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0
		男30歳～34歳	12	83.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		男35歳～39歳	16	62.5	0.0	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	女性	全体	93	22.6	8.6	24.7	0.0	0.0	4.3	34.4	4.3	0.0	1.1
		女18歳～24歳	46	6.5	6.5	13.0	0.0	0.0	0.0	67.4	4.3	0.0	2.2
		女25歳～29歳	16	43.8	18.8	31.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
		女30歳～34歳	12	41.7	0.0	41.7	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0
女35歳～39歳		18	33.3	11.1	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	5.6	0.0	0.0	

職業は、「民間企業、団体、研究機関等の正社員（正職員）」が 35.0%と最も多く、次いで、「学生・生徒」が 29.0%となっています。

〔6〕 就職していない理由

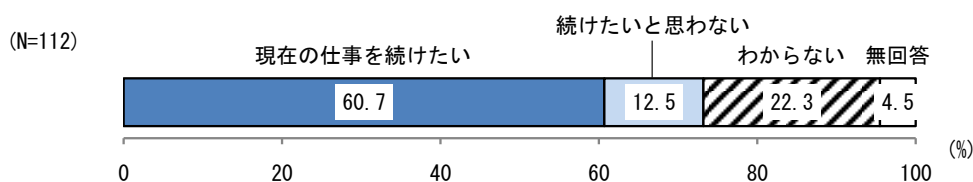
問5で「6」「8」「9」（働いていない）を選んだ方のみ
 問5-1 あなたが就職していないのはなぜですか。（〇はいくつでも）



働いていない方に、その理由についてたずねたところ、「健康上の理由」が 37.5% と最も多く、次いで、「自分にあつた仕事が見つからない」が 31.3% となっています。

〔7〕 現在の仕事を続けたいか

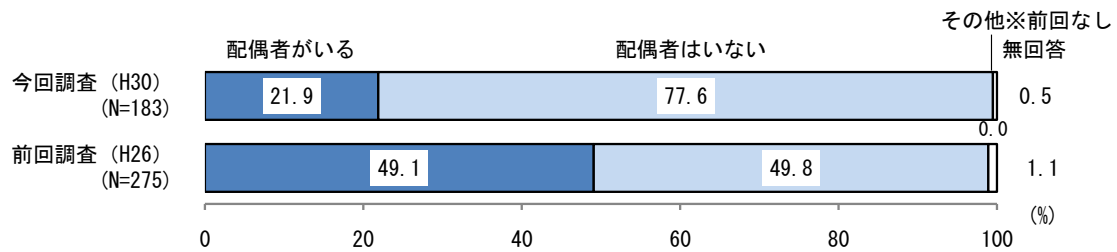
問5で「1」～「5」（働いている）を選んだ方のみ
 問5-2 あなたは現在の仕事を続けたいと思いますか。（〇は1つ）



働いている方に、現在の仕事を続けたいと思うかについてたずねたところ、「現在の仕事を続けたい」が 60.7%、「続けたいと思わない」が 12.5% となっています。

〔8〕 配偶者の有無

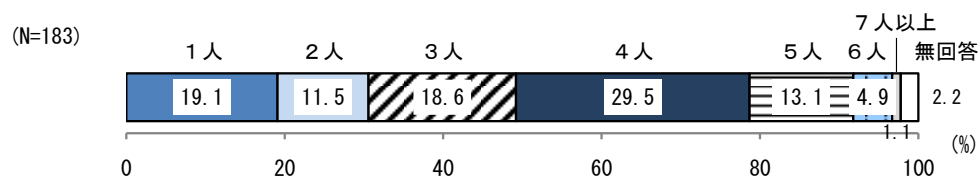
問6 あなたは配偶者がおられますか。



配偶者の有無は、「配偶者がいる」が 21.9%、「配偶者はいない」が 77.6%となっています。

〔9〕 同居している家族の人数

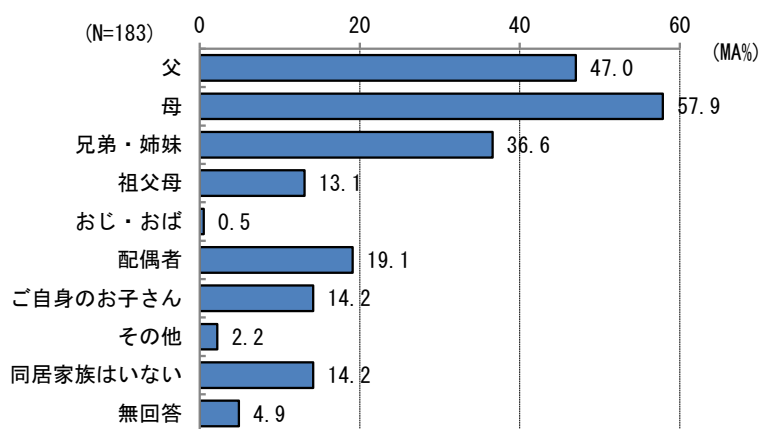
問7 同居している家族はあなたを含めて何人ですか。



同居している家族の人数については、「4人」が 29.5%と最も多く、次いで、「1人」が 19.1%となっています。

〔10〕 同居している家族

問7-1 同居している家族についてうかがいます。(〇はいくつでも)

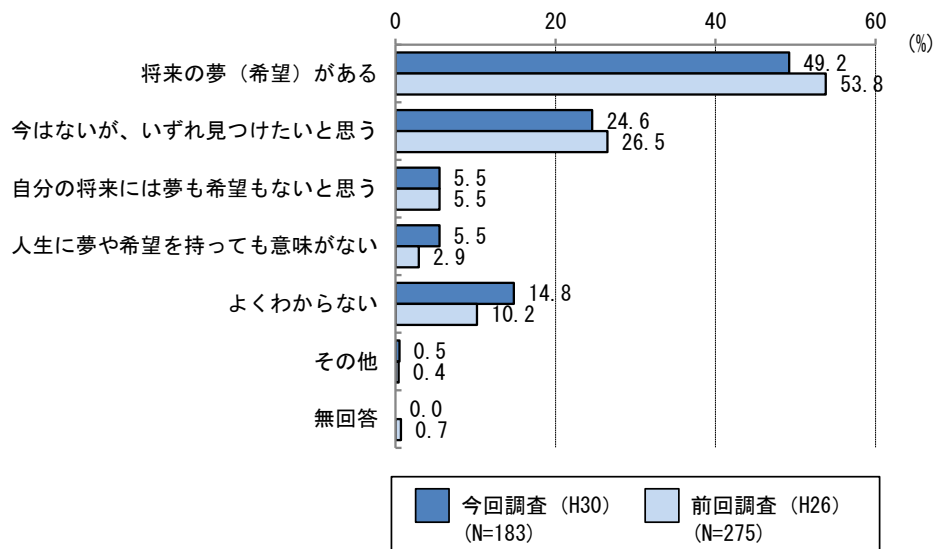


同居している家族については、「母」が 57.9%と最も多く、次いで、「父」が 47.0%となっています。

2 将来について

〔1〕 将来の夢や希望

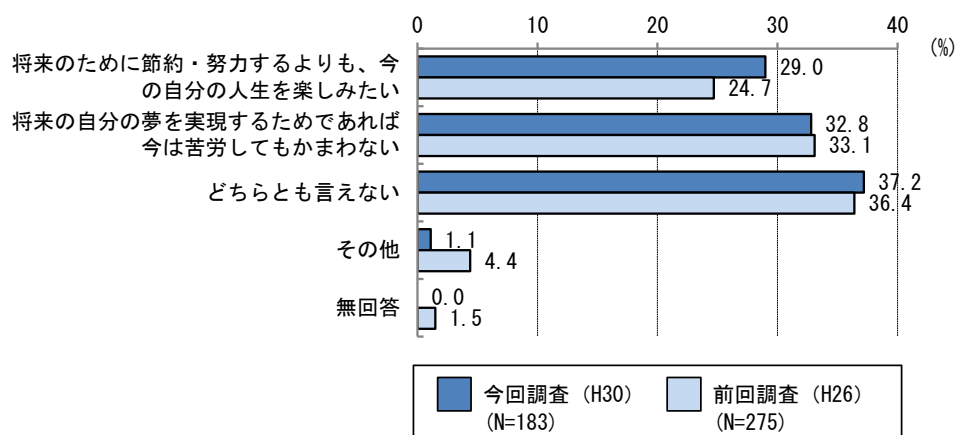
問8 将来の夢や希望がありますか。(○は1つ)



将来の夢や希望については、「将来の夢(希望)がある」が49.2%と最も多く、次いで、「今はないが、いずれ見つけたいと思う」が24.6%となっています。

〔2〕 現在と将来についての考え

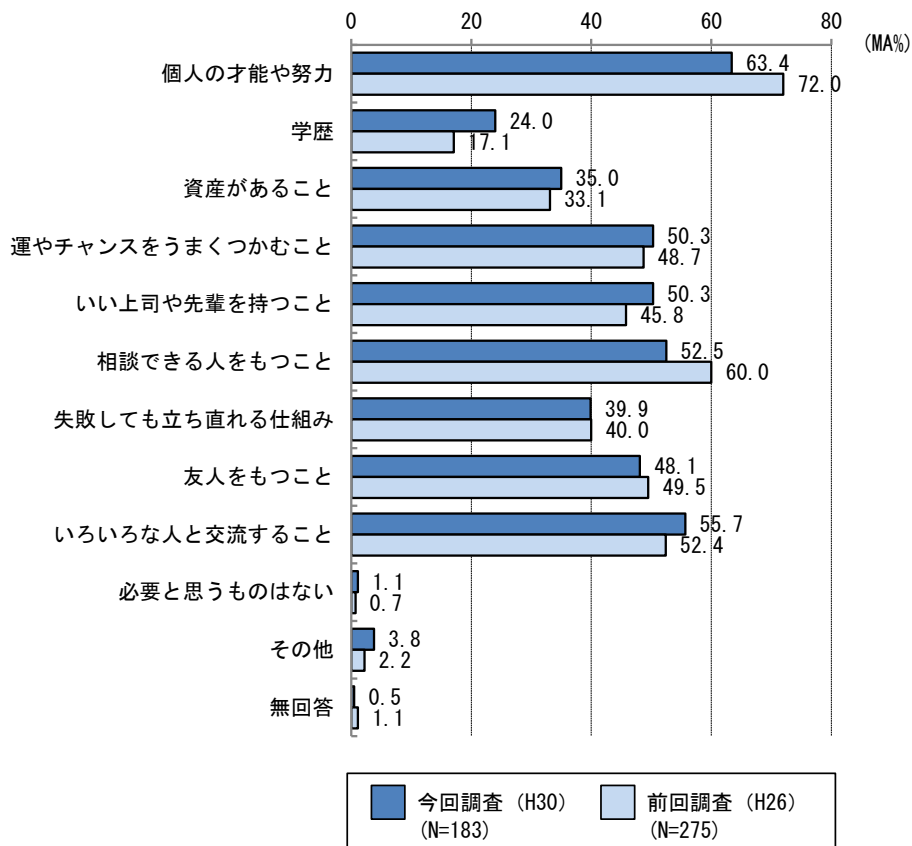
問9 現在と将来の考えについてどのようにお考えですか。(○は1つ)



現在と将来の考えについては、「どちらとも言えない」が37.2%と最も多く、次いで、「将来の自分の夢を実現するためであれば今は苦勞してもかまわない」が32.8%となっています。

〔3〕 社会で生きていくために必要なこと

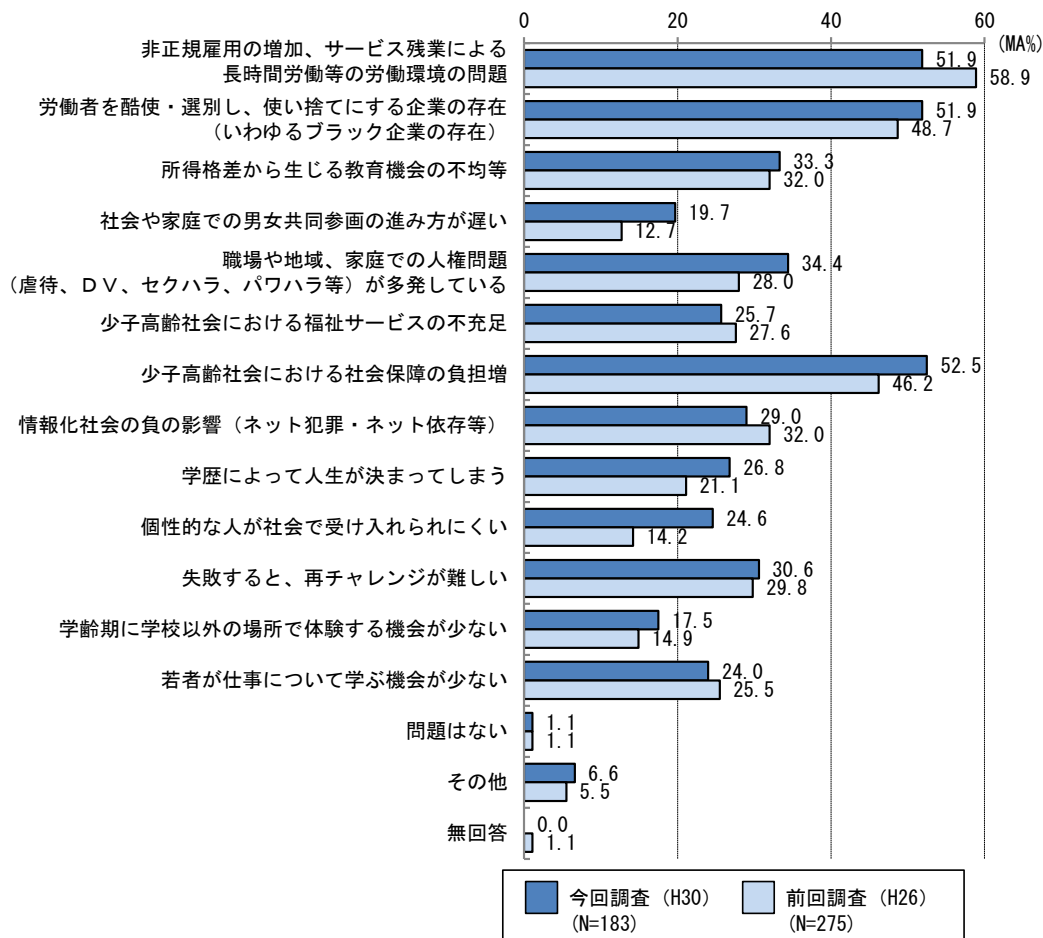
問10 社会で生きていくために必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)



社会で生きていくために必要だと思うことは、「個人の才能や努力」が 63.4%と最も多く、次いで、「いろいろな人と交流すること」が 55.7%となっています。

〔4〕日本の社会における問題点

問11 あなたが考える日本の社会における問題点は何ですか。(〇はいくつでも)

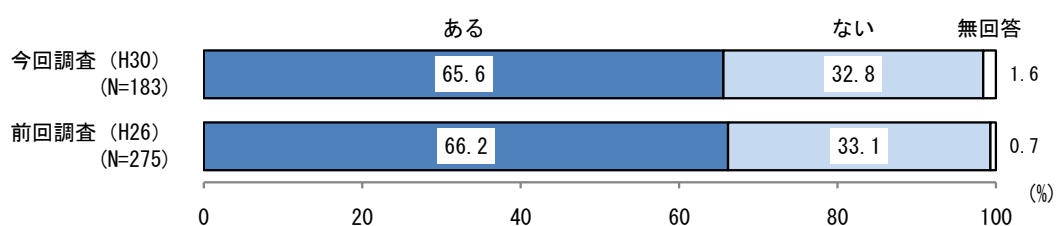


日本の社会における問題点については、「少子高齢社会における社会保障の負担増」が52.5%と最も多くなっています。

3 ご自身の状況について

〔1〕困りごとについて

問12 現在悩みや心配ごと、困っていることはありますか。(〇は1つ)

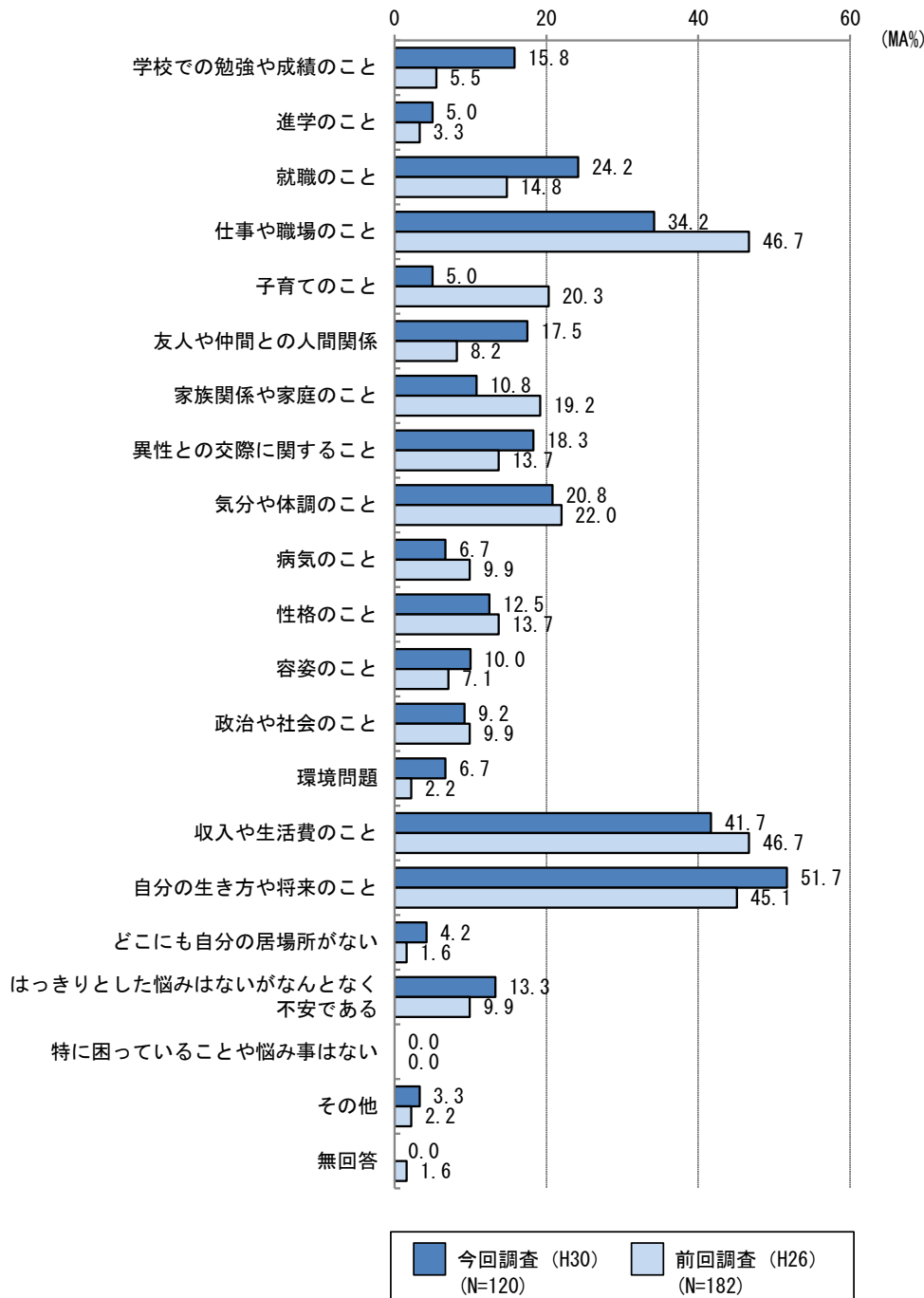


悩みや心配ごと、困っていることについては、「ある」が65.6%、「ない」が32.8%となっています。

〔2〕 困りごとの内容

問12で「ある」を選んだ方のみ

問12-1 現在悩みや心配ごと、困っていることはどのような内容ですか。(〇は
いくつでも)

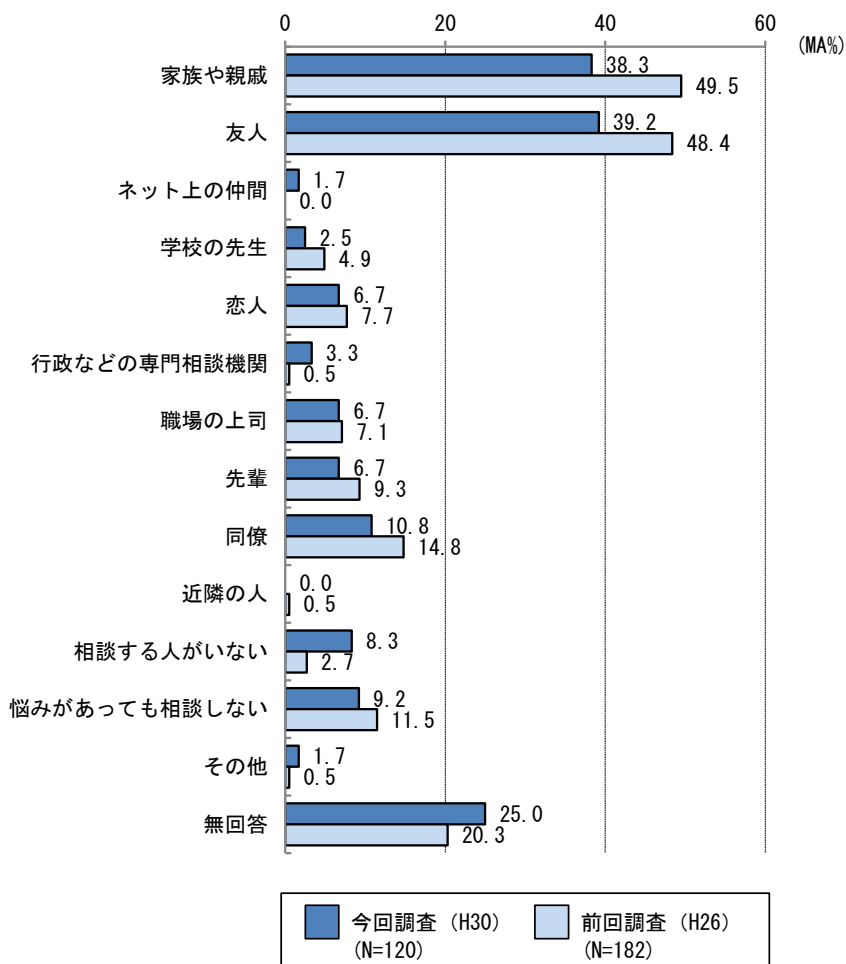


悩みや心配ごと、困っていることが「ある」とお答えの方に、困っている内容についてたずねたところ、「自分の生き方や将来のこと」が51.7%と最も多く、次いで、「収入や生活費のこと」が41.7%となっています。

〔3〕 困りごとの相談相手

問12で「ある」を選んだ方のみ

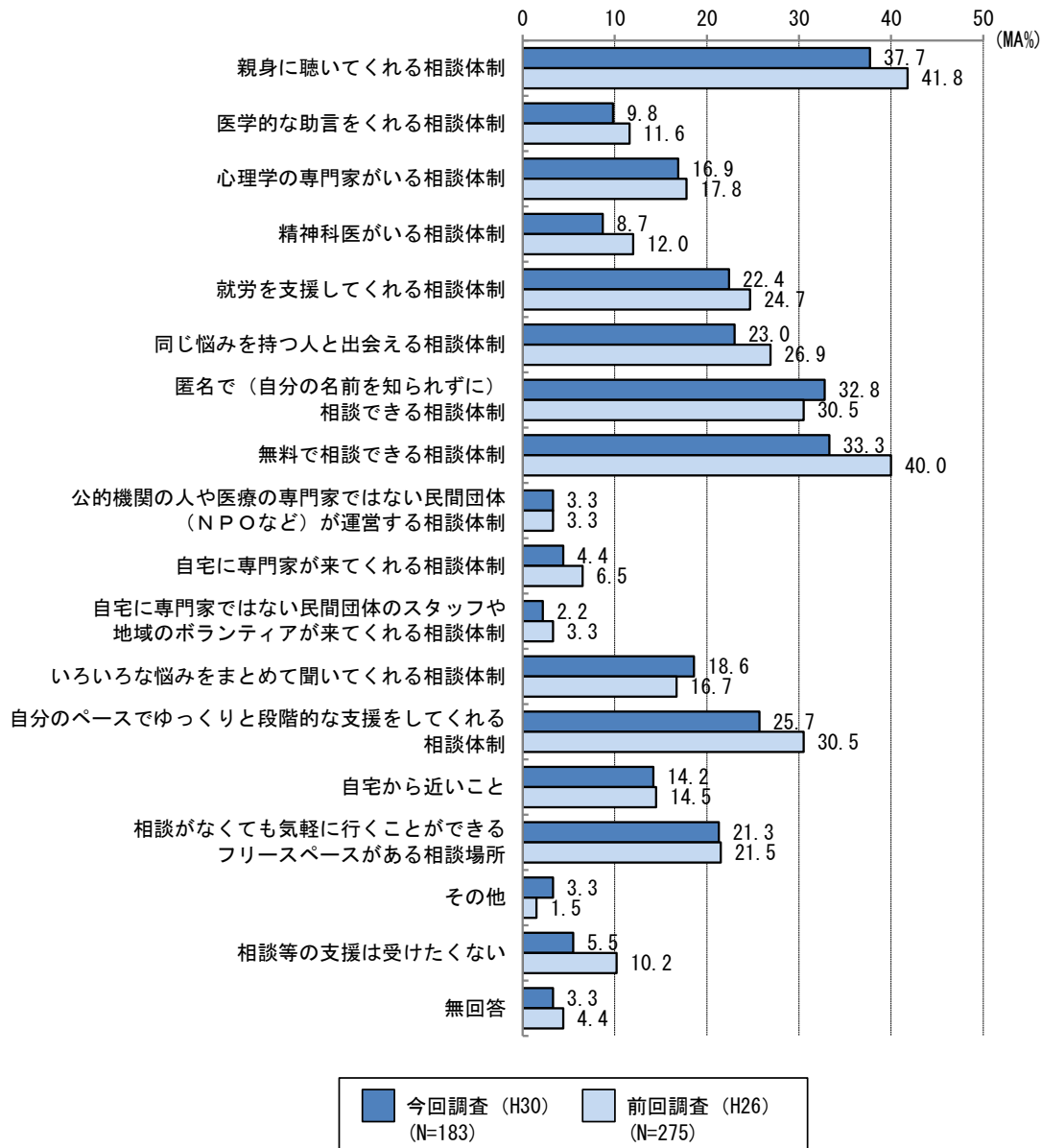
問12-2 悩みや心配ごと、困っていることについて、相談する相手は誰ですか。
(〇はいくつでも)



悩みや心配ごと、困っていることが「ある」とお答えの方に、困っている内容について相談する相手についてたずねたところ、「友人」が39.2%と最も多く、次いで、「家族や親戚」が38.3%となっています。

〔4〕若者を支援していくために必要だと思う相談体制

問13 悩みや心配ごと、困っていることに対応し、若者を支援していくために、あなたはどのような相談体制が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

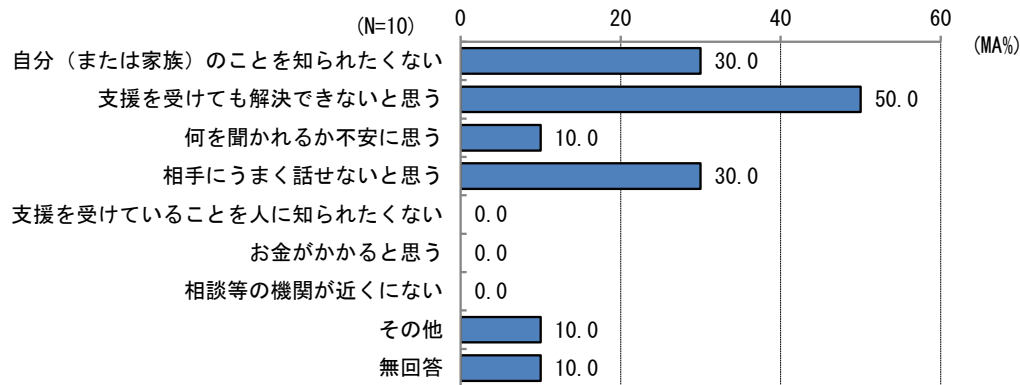


若者を支援していくために必要だと思う相談体制については、「親身に聴いてくれる相談体制」が37.7%と最も多く、次いで、「無料で相談できる相談体制」が33.3%となっています。

〔5〕 支援を受けたくない理由

問13で「相談等の支援は受けたくない」を選んだ方のみ

問13-1 あなたが相談等の支援は受けたくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

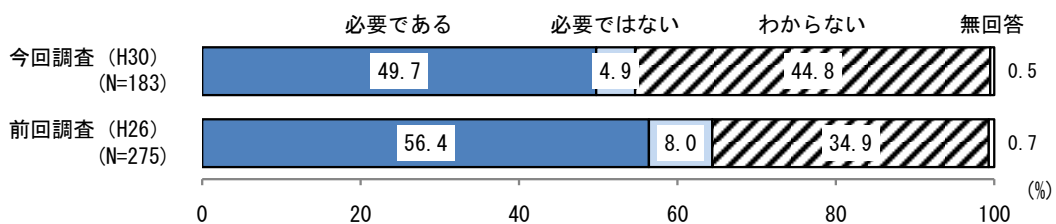


「相談等の支援は受けたくない」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「支援を受けても解決できないと思う」が50.0%と最も多くなっています。

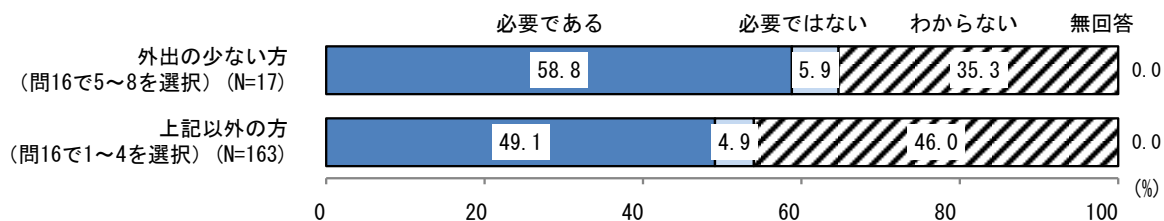
〔6〕 彦根市子ども・若者総合相談センターについて

問14 若者が抱える課題を解決するために、※「彦根市子ども・若者総合相談センター」は必要だと思いますか。(〇は1つ)

※若者の相談に対応し関係機関へのつなぎや社会参加への足がかりの機会を提供します。



【外出の頻度別】

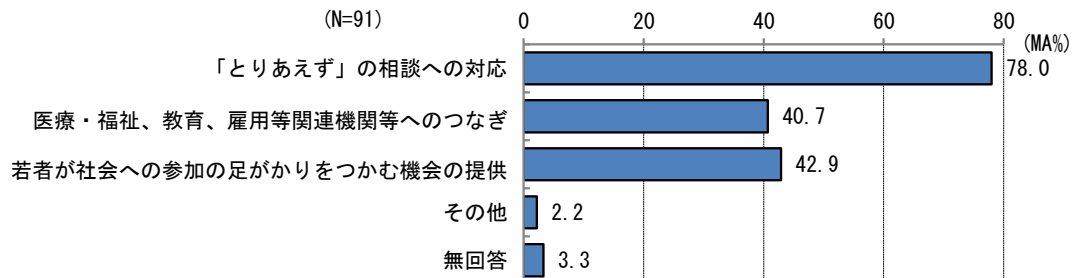


「彦根市子ども・若者総合相談センター」は必要だと思うかについては、「必要である」が49.7%、「必要ではない」が4.9%となっています。

〔7〕「彦根市子ども・若者総合相談センター」に必要な機能

問14で「必要である」を選んだ方のみ

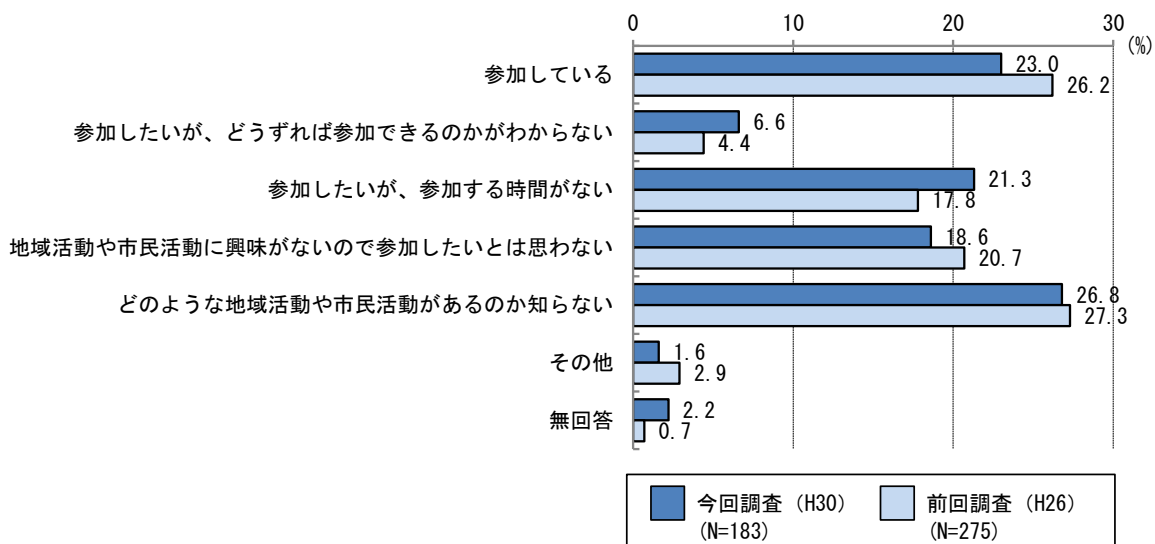
問14-1 「彦根市子ども・若者総合相談センター」のどのような機能が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



彦根市子ども・若者総合相談センターが必要とお答えの方に、必要と思う機能についてたずねたところ、「「とりあえず」の相談への対応」が78.0%と最も多くなっています。

〔8〕地域活動や市民活動への参加の有無

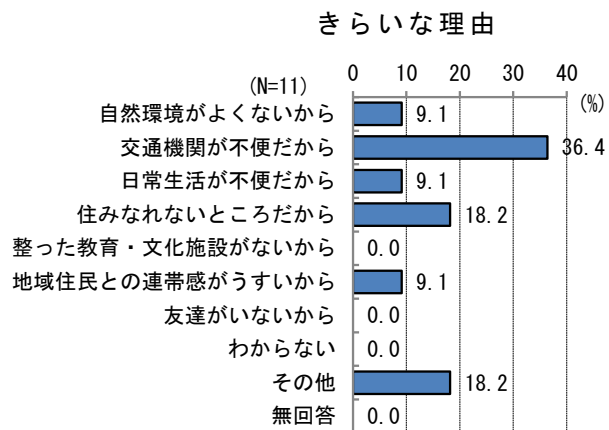
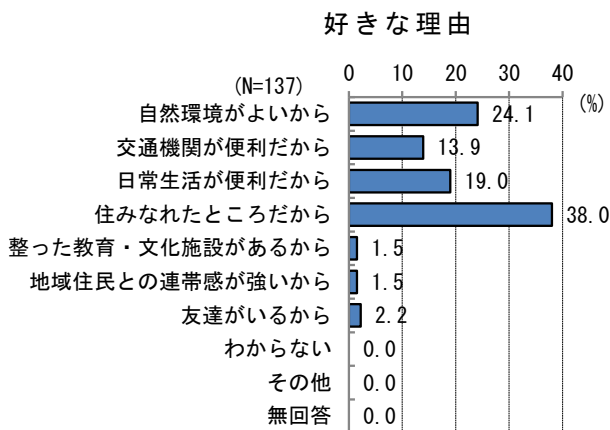
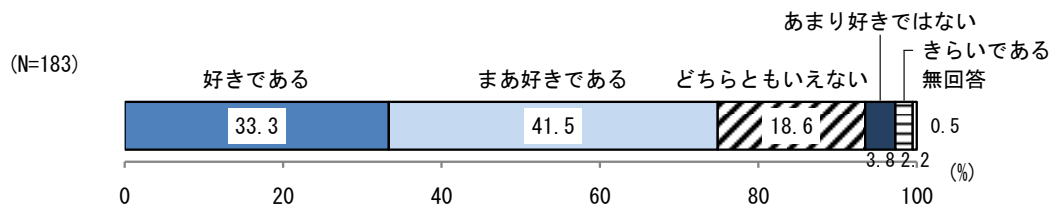
問15 地域や市民活動との関わりについてうかがいます。あなたは、地域活動や市民活動に参加していますか。(〇は1つ)



地域活動や市民活動に参加しているかについては、「どのような地域活動や市民活動があるのか知らない」が26.8%と最も多く、次いで、「参加している」が23.0%となっています。

〔9〕 現在住んでいるところが好きか

問15-1 あなたは、現在住んでいるところが好きですか。(○は1つ)



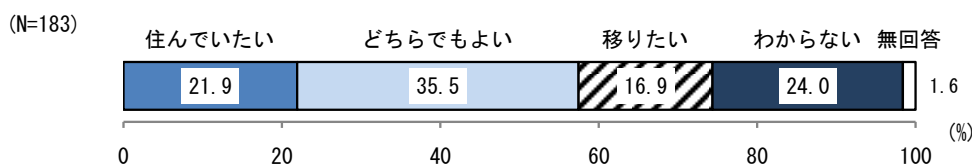
現在住んでいるところが好きかについては、「好きである」と「まあ好きである」を合わせた『好き』が74.8%となっています。

好きとお答えの方に、その理由をたずねたところ、「住みなれたところだから」が38.0%と最も多く、次いで、「自然環境がよいから」が24.1%となっています。

きらいとお答えの方に、その理由をたずねたところ、「交通機関が不便だから」が36.4%と最も多く、次いで、「住みなれないところだから」が18.2%となっています。

〔10〕 現在住んでいるところに住み続けたいか

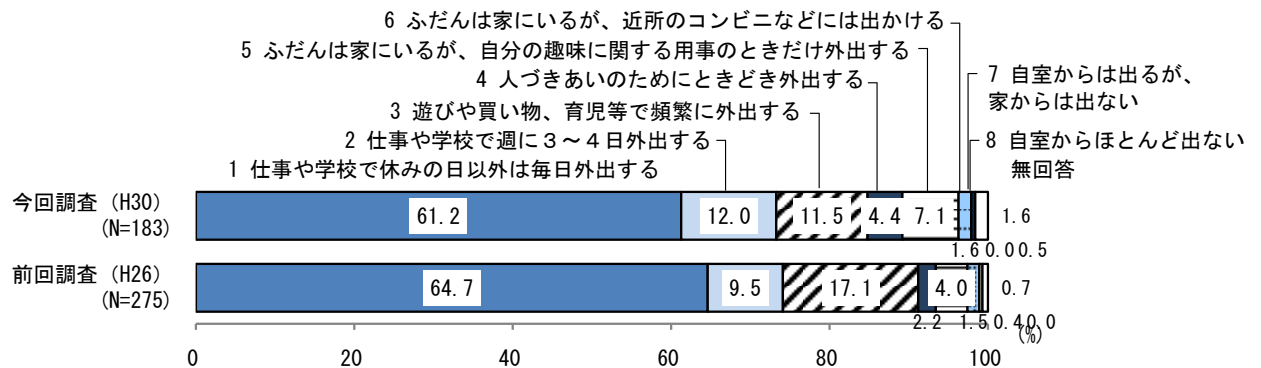
問15-4 あなたは、将来もずっと、現在住んでいるところに住んでいたいと思いますか。(○は1つ)



今後の居留意向については、「住んでいたい」が21.9%、「どちらでもよい」が35.5%、「移りたい」が16.9%となっています。

〔11〕 外出について

問16 あなたはふだんどのくらい外出しますか。(〇は1つ)

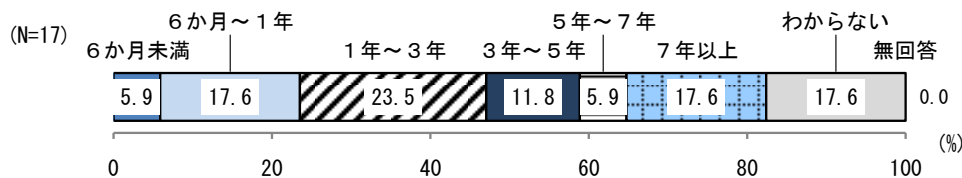


ふだんどのくらい外出するかについては、「仕事や学校で休みの日以外は毎日外出する」が61.2%と最も多くなっています。必要最低限しか出かけない方（「5」「6」「7」「8」を選択）は、合計で9.2%となっています。

〔12〕 現在の状態になってからどのくらい経つか

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-1 あなたが現在の状態になってどのくらい経ちますか。(〇は1つ)

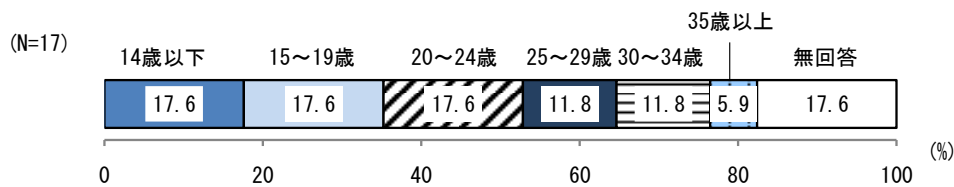


必要最低限しか出かけない方に、現在の状態になってからどのくらい経つかについてたずねたところ、「1年~3年」が23.5%と最も多くなっています。

〔13〕現在の外出頻度になった年齢

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-2 現在の外出頻度になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

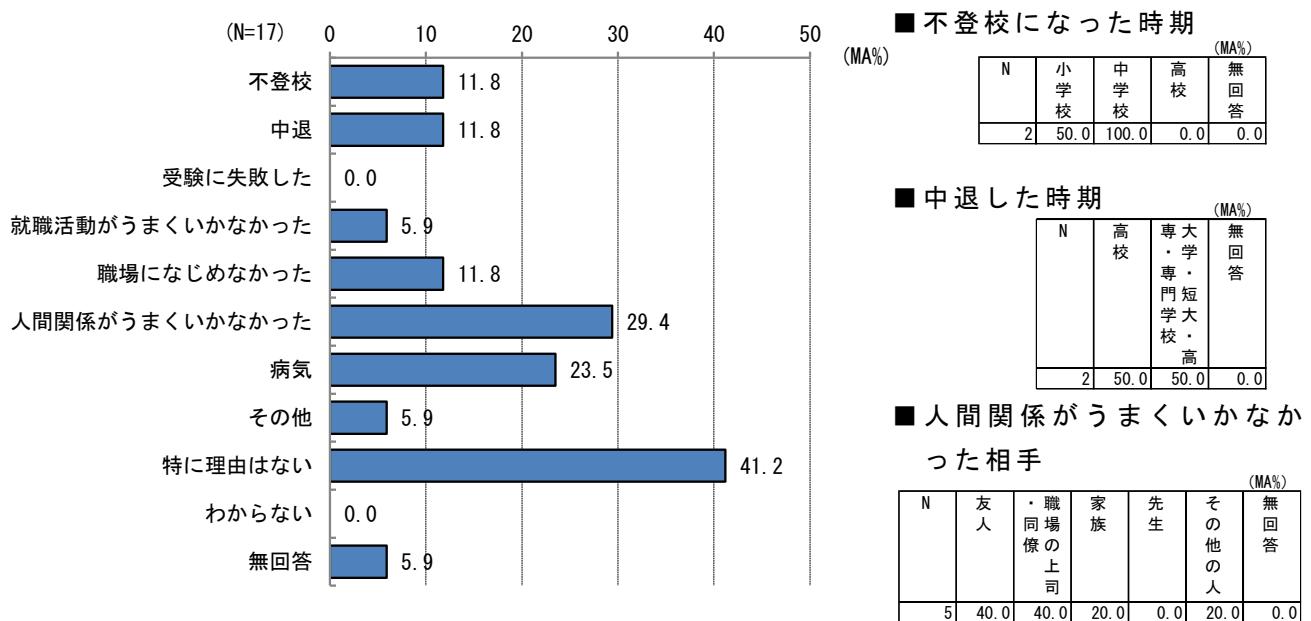


必要最低限しか出かけない方に、現在の外出頻度になった年齢についてたずねたところ、「14歳以下」、「15~19歳」、「20~24歳」がそれぞれ17.6%と最も多くなっています。

〔14〕現在の状態になったきっかけ

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-3 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。記号がついている設問を答えた方は該当する記号もお答えください。(〇はいくつでも)

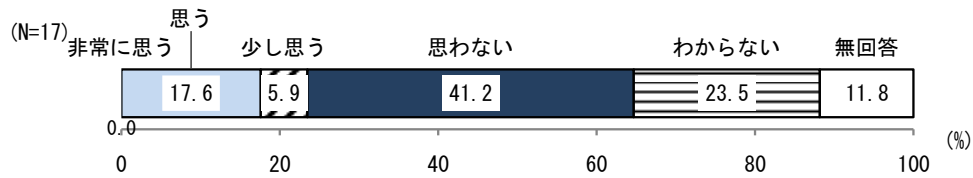


必要最低限しか出かけないとお答えの方に、現在の状態になったきっかけについてたずねたところ、「人間関係がうまくいかなかった」が29.4%と最も多く、次いで、「病気」が23.5%となっています。

〔15〕現在の状態について関係機関に相談したいか

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-4 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(〇は1つ)

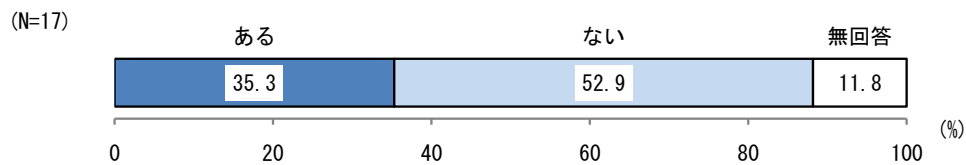


要最低限しか出せない方に、現在の状態について関係機関に相談したいかについてたずねたところ、「思わない」が41.2%と最も多くなっています。

〔16〕関係機関に相談したことがあるかについて

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-5 現在の状態について、関係機関に相談したことがありますか。または現在相談していますか。(〇は1つ)

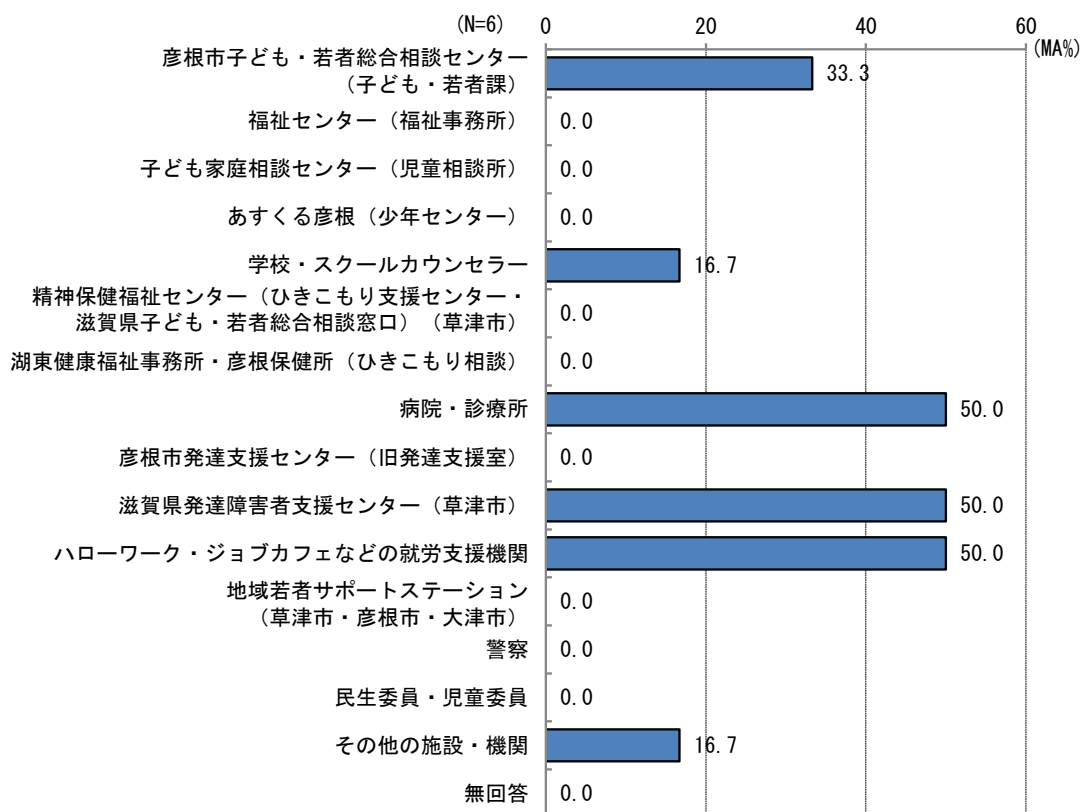


必要最低限しか出せない方に、関係機関に相談したことがあるかをたずねたところ、「ある」が35.3%、「ない」が52.9%となっています。

〔17〕 相談したことがある機関

問16-5で「相談したことがある」を選んだ方のみ

問16-6 どのような機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

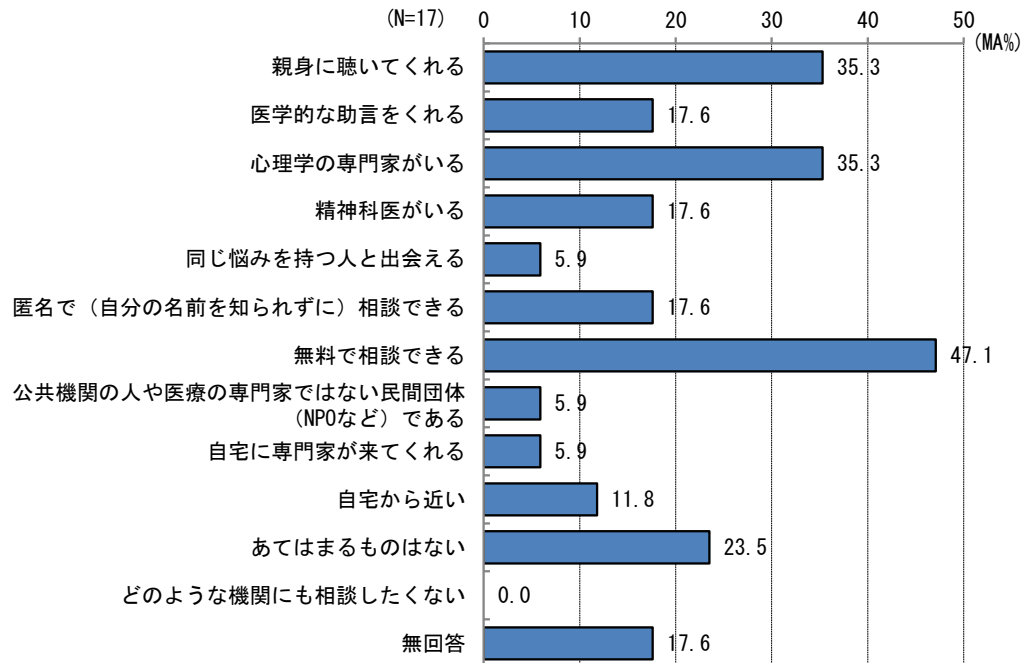


関係機関に相談したことが「ある」とお答えの方に、相談したことがある機関についてたずねたところ、「病院・診療所」、「滋賀県発達障害者支援センター (草津市)」、「ハローワーク・ジョブカフェなどの就労支援機関」がそれぞれ 50.0%と最も多くなっています。

〔18〕 相談したいと思う機関

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-7 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような相談機関であれば相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)



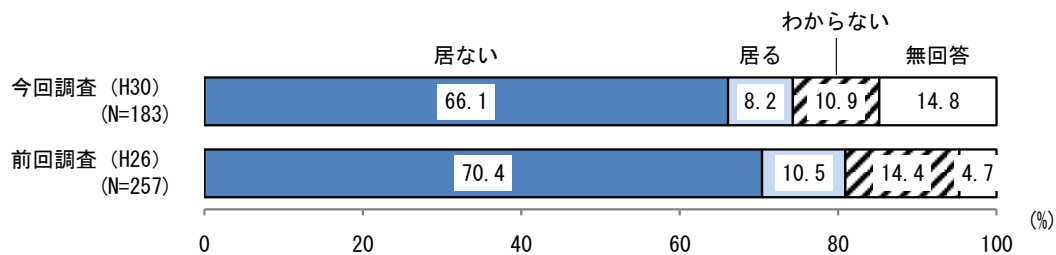
必要最低限しか出かせない方に、相談したいと思う相談機関についてたずねたところ、「無料で相談できる」が47.1%と最も多く、次いで、「親身に聴いてくれる」、「心理学の専門家がいる」がそれぞれ35.3%となっています。

〔19〕 家族や友人等の外出の状況

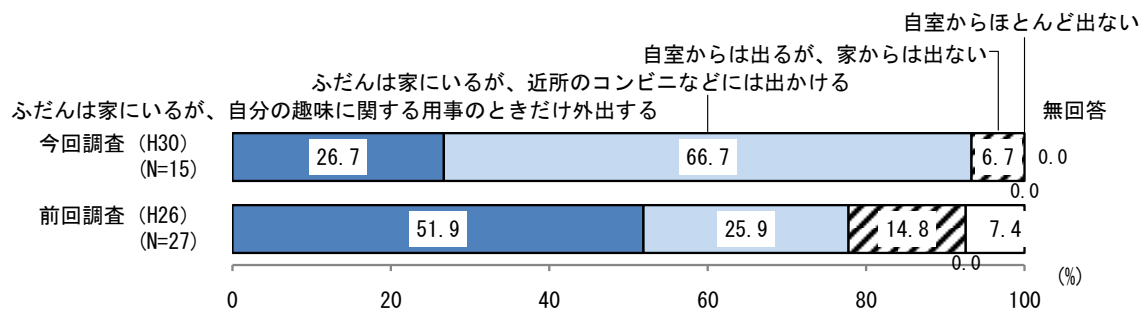
問16-8 あなたの家族や親しい友人等で、次のような状況の方はおられますか。
おられる場合は該当する番号もお答えください。(〇は1つ)

【状況】

- ①ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する
- ②ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- ③自室からは出るが、家からは出ない
- ④自室からほとんど出ない



■ 「居る」と回答した方の現在の状況



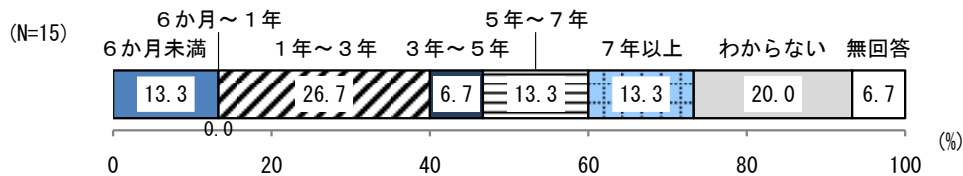
家族や親しい友人等で、必要最低限しか出かけない方の状況は、「居ない」が66.1%、「居る」が8.2%となっています。

家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「居る」とお答えの方に、外出の状況をたずねたところ、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が66.7%と最も多くなっています。

〔20〕 家族や友人等が現在の状態になってどのくらい経つか

問16-8で「居る」を選んだ方のみ

問16-9 家族や友人等が現在の状態になってどのくらい経ちますか。(〇は1つ)

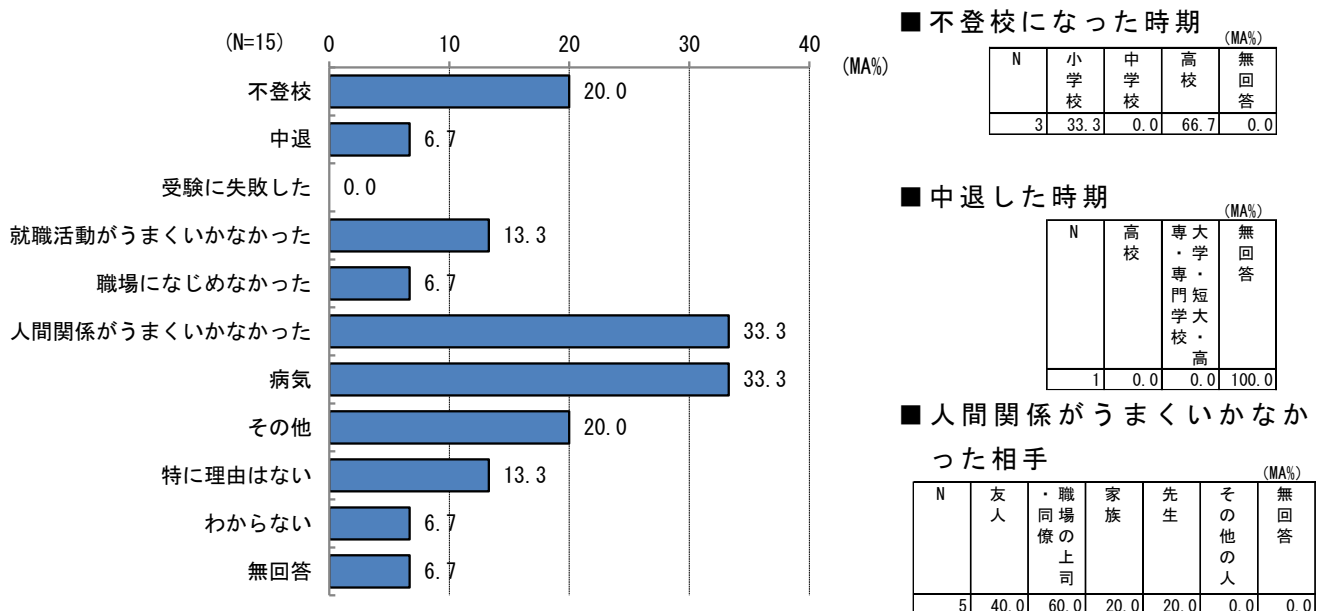


家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「居る」とお答えの方に、現在の状態になってどのくらい経つかについてたずねたところ、「1年～3年」が26.7%と最も多くなっています。

〔21〕 家族や友人等が現在の状態になったきっかけ

問16-8で「居る」を選んだ方のみ

問16-10 家族や友人等が現在の状態になったきっかけは何だと思えますか。記号がついている設問を答えた方は該当する記号もお答えください。(〇はいくつでも)

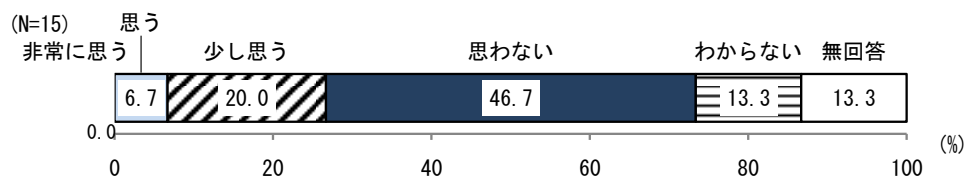


家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「居る」とお答えの方に、現在の状態になったきっかけについてたずねたところ、「人間関係がうまくいかなかった」、「病気」がそれぞれ33.3%と最も多くなっています。

〔22〕 家族や友人等の現在の状態について関係機関に相談したいか

問16-8で「居る」を選んだ方のみ

問16-11 家族や友人等の現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(〇は1つ)

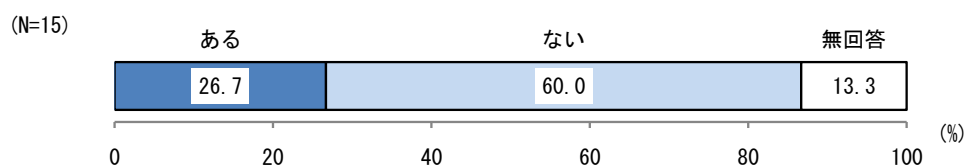


家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「居る」とお答えの方に、現在の状態について関係機関に相談したいかについてたずねたところ、「思わない」が46.7%と最も多くなっています。

〔23〕 家族や友人等の現在の状態について関係機関に相談したことがあるか

問16-8で「居る」を選んだ方のみ

問16-12 家族や友人等の現在の状態について、関係機関に相談したことがありますか。または現在相談していますか。(〇は1つ)

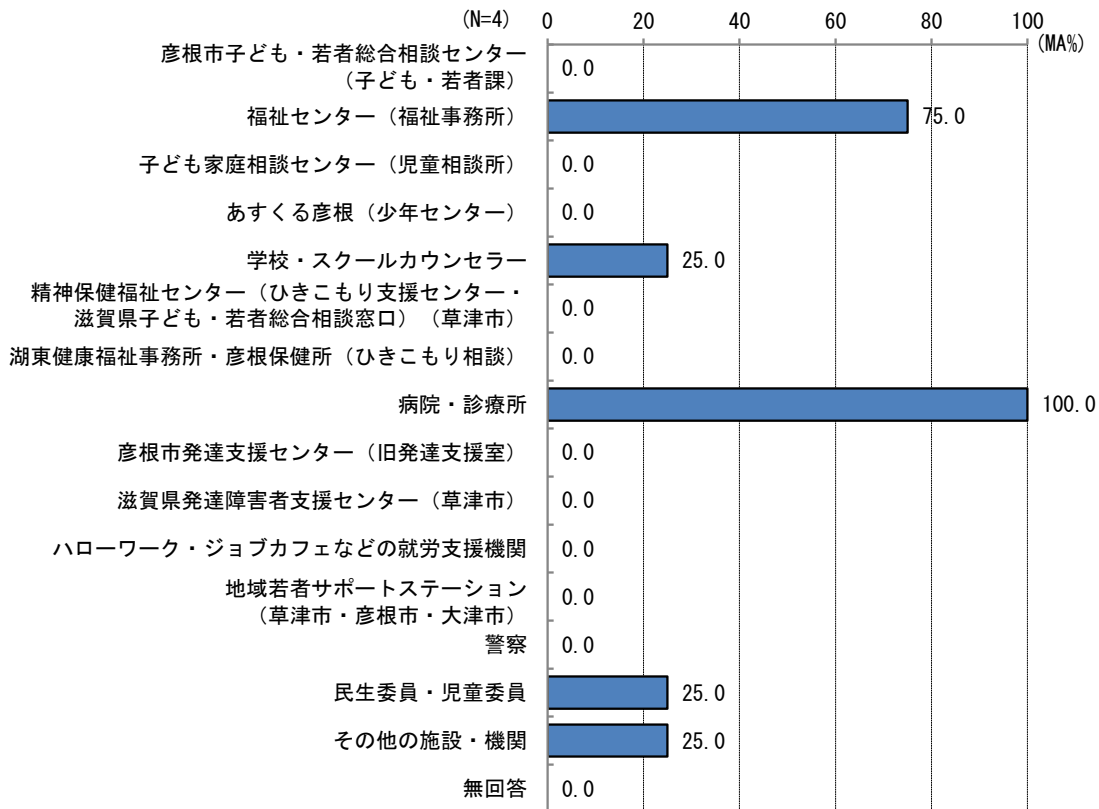


家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「居る」とお答えの方に、現在の状態について関係機関に相談したことがあるかについてたずねたところ、「ある」が26.7%、「ない」が60.0%となっています。

〔24〕 相談したことがある機関

問16-12で「相談したことがある」を選んだ方のみ

問16-13 どのような機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

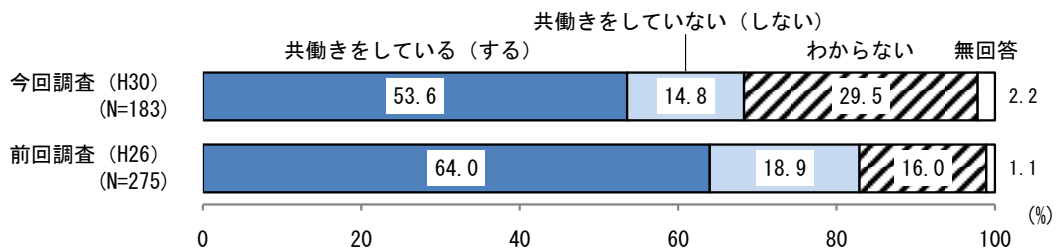


相談したことが「ある」とお答えの方に、相談したことがある機関をたずねたところ、「病院・診療所」が100.0%と最も多く、次いで、「福祉センター（福祉事務所）」が75.0%となっています。

4 仕事と家庭、子育てについて

〔1〕共働きの状況

問17 あなたは現在共働きをしていますか。結婚していない方は、結婚したら共働きをしますか。(〇は1つ)

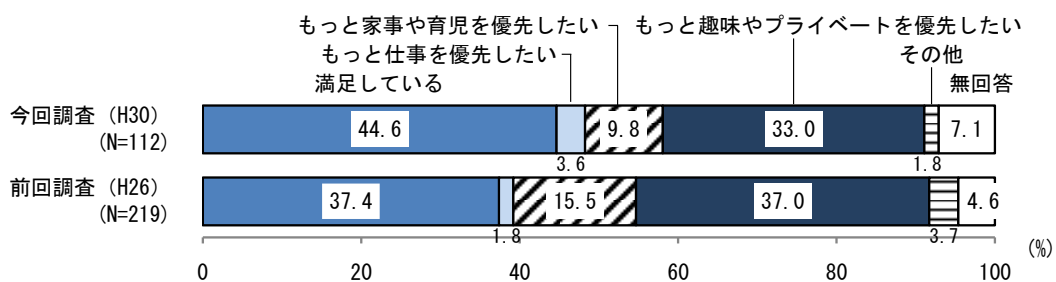


共働きの状況については、「共働きをしている (する)」が 53.6%、「共働きをしていない (しない)」が 14.8%となっています。

〔2〕仕事と家庭のバランス

現在働いている方のみ

問17-1 現在の仕事と家庭のバランス (優先度) には満足していますか。(〇は1つ)

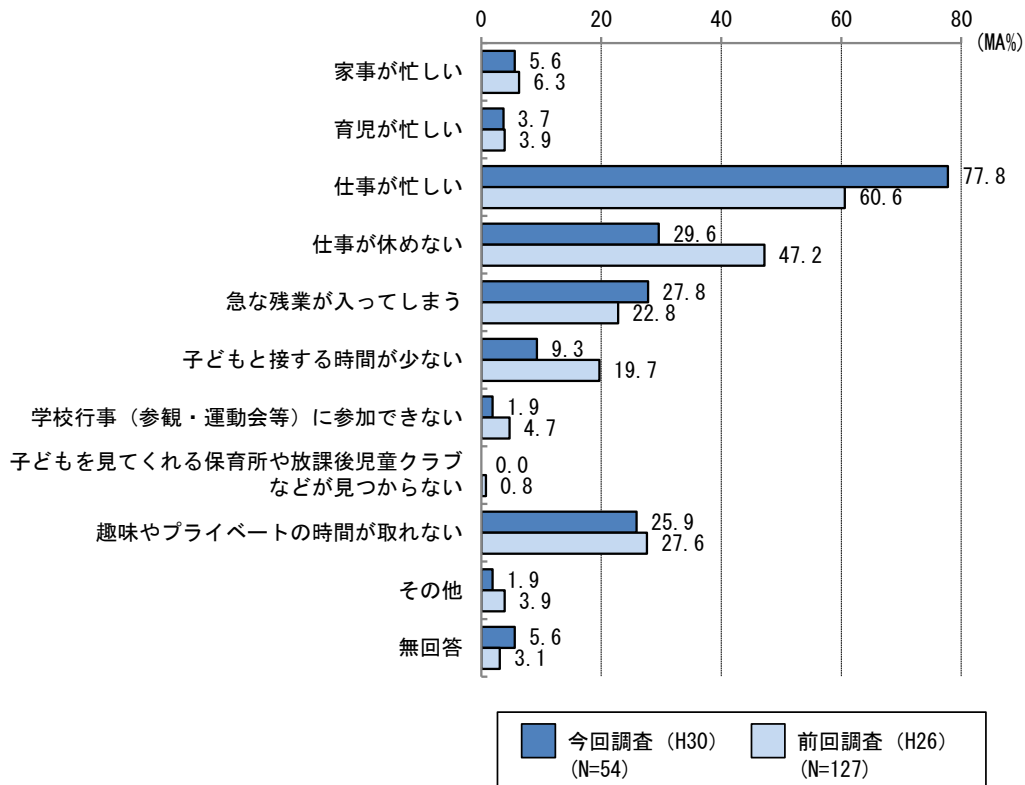


現在働いている方に、現在の仕事と家庭のバランス (優先度) に満足しているかをたずねたところ、「満足している」が 44.6%と最も多く、次いで、「もっと趣味やプライベートを優先したい」が 33.0%となっています。

〔3〕仕事と家庭のバランスを崩す原因

問17-1で「満足している」以外を選んだ方のみ

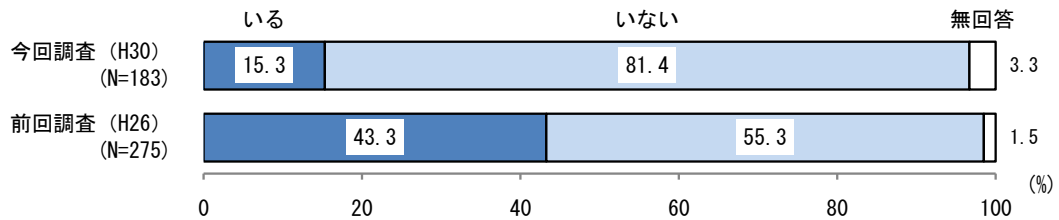
問17-2 現在の仕事と家庭のバランス（優先度）を崩す原因は何ですか。（〇はいくつでも）



現在の仕事と家庭のバランスについて満足していないとお答えの方に、仕事と家庭のバランスを崩す原因についてたずねたところ、「仕事が忙しい」が 77.8%と最も多く、次いで、「仕事が休めない」が 29.6%となっています。

〔4〕子どもの有無

問18 あなたは子どもがいますか。(〇は1つ)

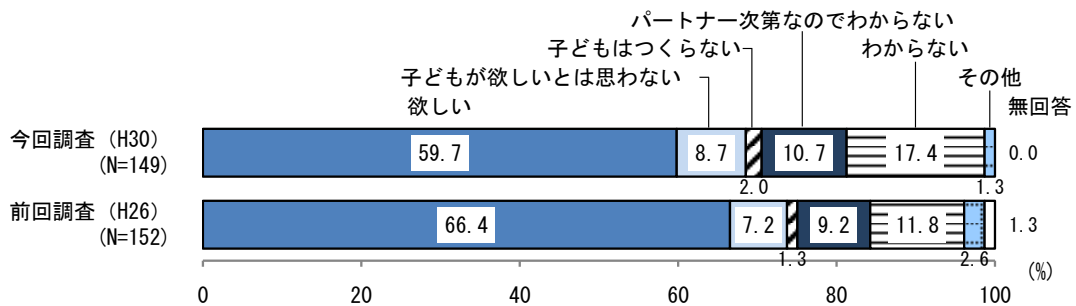


子どもの有無については、「いる」が 15.3%、「いない」が 81.4%となっています。

〔5〕子どもが欲しいか

問18で「いない」を選んだ方のみ

問18-1 将来、子どもは欲しいですか (〇は1つ)

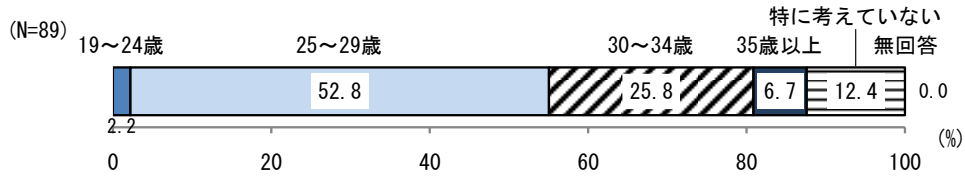


子どもが「いない」とお答えの方に、将来子どもは欲しいかたずねたところ、「欲しい」が 59.7%と最も多く、次いで、「パートナー次第なのでわからない」が 10.7%となっています。

〔6〕子どもが欲しいと思う年齢

問18-1で「欲しい」を選んだ方のみ

問18-2 あなたは何歳くらいのときに子どもが欲しいと思いますか（〇は1つ）

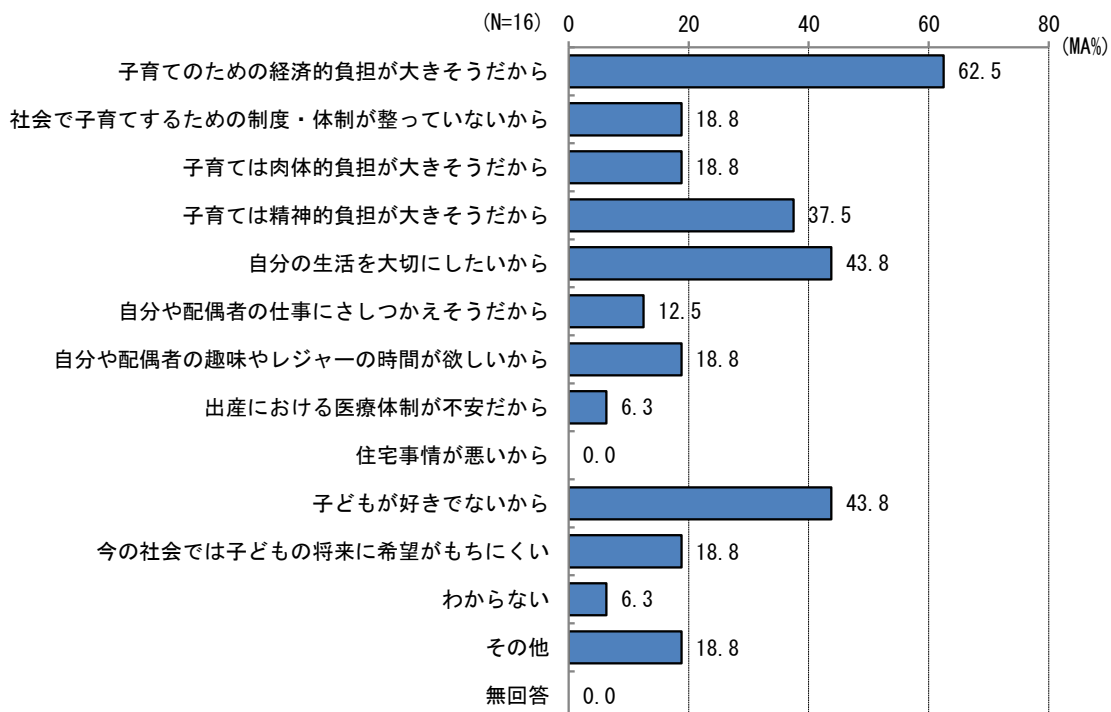


将来子どもが「欲しい」とお答えの方に、子どもが欲しいと思う年齢についてたずねたところ、「25~29歳」が52.8%と最も多く、次いで、「30~34歳」が25.8%となっています。

〔7〕子どもが欲しいと思わない理由

問18-1で「子どもが欲しいとは思わない」「子どもは作らない」を選んだ方のみ

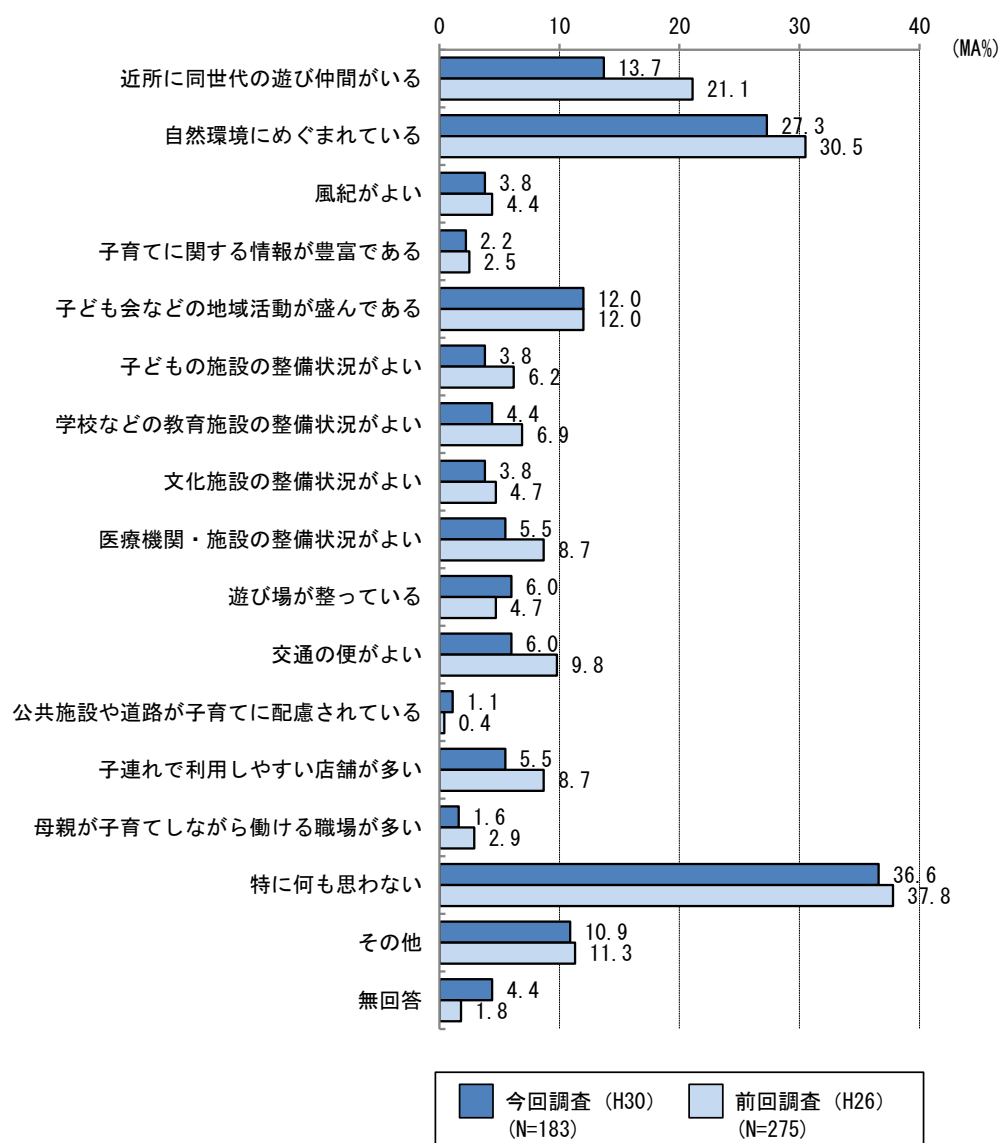
問18-3 子どもが欲しいと思わない理由は何ですか。（〇はいくつでも）



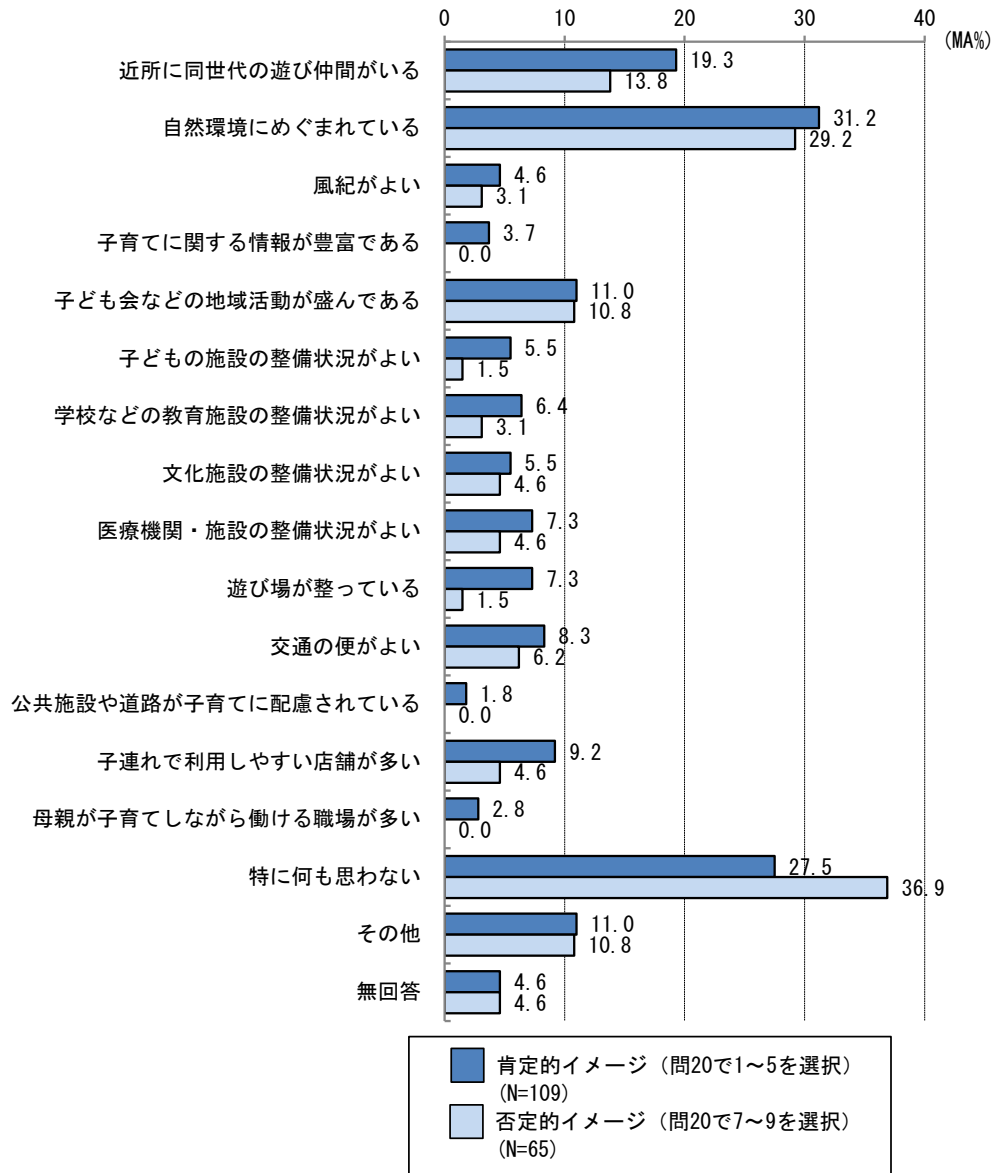
「子どもが欲しいと思わない」「子どもは作らない」とお答えの方に、その理由についてたずねたところ、「子育てのための経済的負担が大きそうだから」が62.5%と最も多く、次いで、「自分の生活を大切にしたいから」、「子どもが好きでないから」がそれぞれ43.8%となっています。

〔8〕彦根市の子育て環境

問19 彦根市の子育て環境についてどう思いますか。(〇はいくつでも)



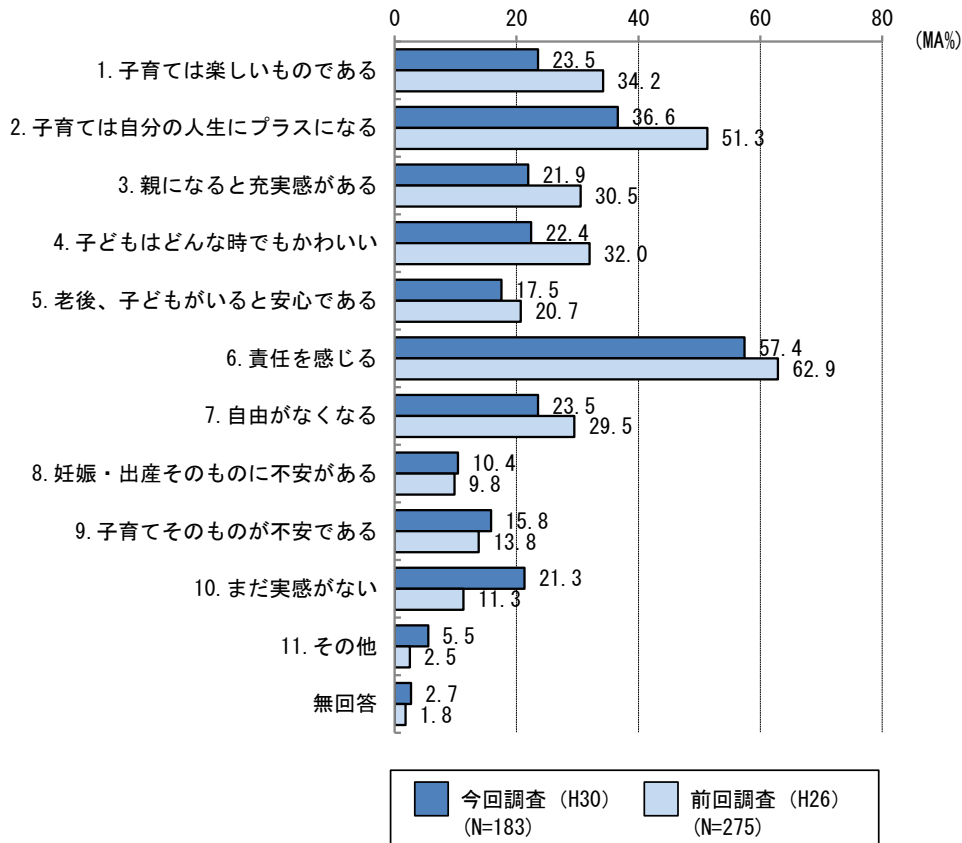
【子どもや子育てについてのイメージ別】



彦根市の子育て環境については、「自然環境にめぐまれている」が 27.3%と最も多く、次いで、「近所に同世代の遊び仲間がいる」が 13.7%、「子ども会などの地域活動が盛んである」が 12.0%となっています。

〔9〕 子どもや子育てについてイメージ

問20 子どもや子育てについて、あなたのイメージに近いものは何ですか。(〇はいくつでも)



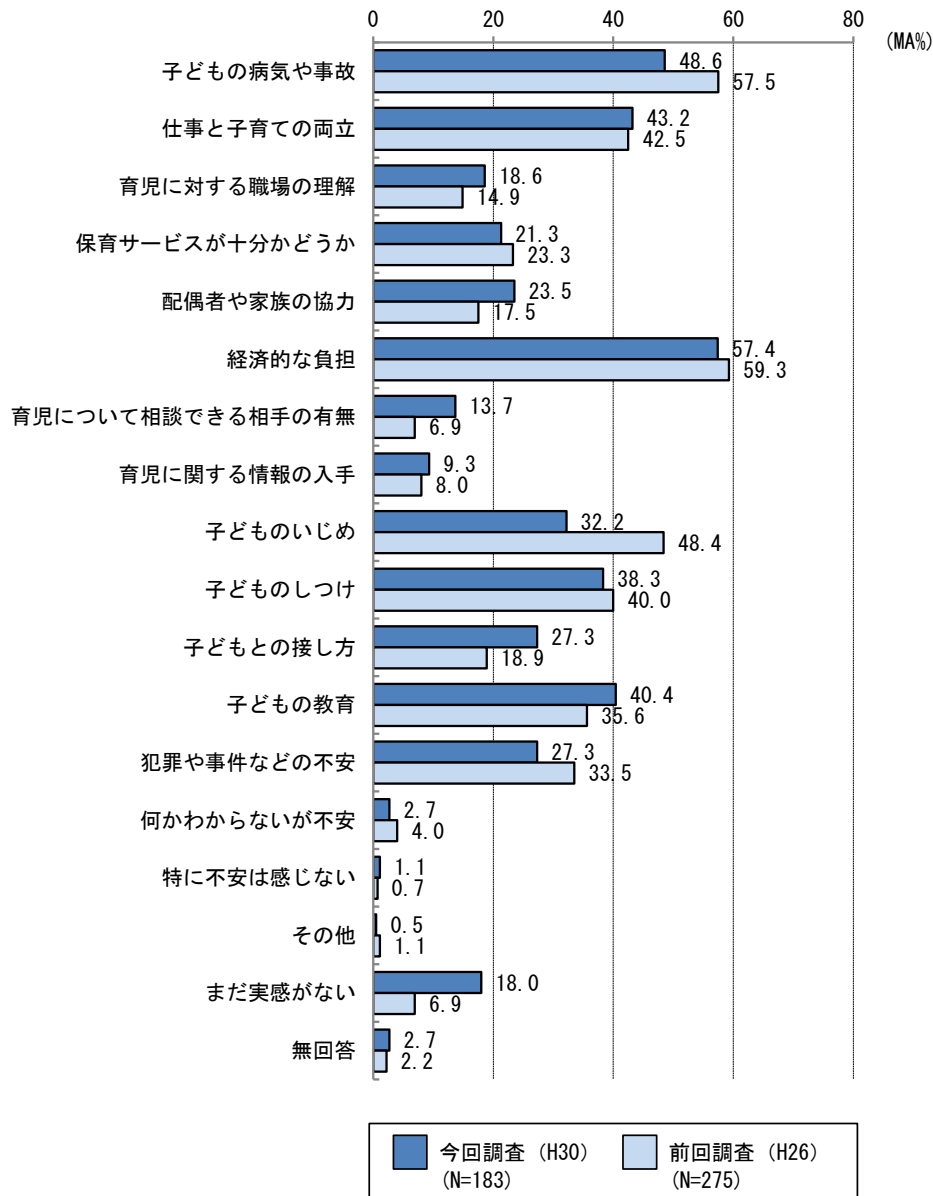
【性・年齢別】

		N	の子育ては楽しい	子育ては自分の人生にプラスになる	親になると充実感がある	子どもはどんな時でもかわいい	老後、子どもがいると安心である	責任を感じる	自由がなくなる	妊娠・出産そのものに不安がある	子育てそのものが不安である	まだ実感がない	その他	無回答	
性・年齢別	全体	183	23.5	36.6	21.9	22.4	17.5	57.4	23.5	10.4	15.8	21.3	5.5	2.7	
	男性	全体	86	22.1	33.7	22.1	17.4	16.3	48.8	15.1	0.0	12.8	26.7	3.5	3.5
		男18歳～24歳	39	23.1	28.2	15.4	17.9	17.9	38.5	12.8	0.0	17.9	28.2	2.6	5.1
		男25歳～29歳	19	31.6	31.6	26.3	5.3	10.5	57.9	21.1	0.0	10.5	31.6	0.0	0.0
		男30歳～34歳	12	25.0	50.0	25.0	16.7	8.3	50.0	8.3	0.0	0.0	25.0	8.3	8.3
		男35歳～39歳	16	6.3	37.5	31.3	31.3	25.0	62.5	18.8	0.0	12.5	18.8	6.3	0.0
	女性	全体	93	23.7	38.7	22.6	25.8	18.3	67.7	32.3	19.4	19.4	16.1	7.5	2.2
		女18歳～24歳	46	26.1	28.3	17.4	26.1	17.4	65.2	23.9	19.6	17.4	19.6	4.3	4.3
		女25歳～29歳	16	31.3	56.3	31.3	25.0	25.0	68.8	37.5	18.8	12.5	18.8	18.8	0.0
		女30歳～34歳	12	8.3	58.3	16.7	33.3	33.3	91.7	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
女35歳～39歳		18	22.2	38.9	33.3	22.2	5.6	61.1	27.8	11.1	22.2	16.7	5.6	0.0	

子どもや子育てについてイメージについては、「責任を感じる」が 57.4%と最も多く、次いで、「子育ては自分の人生にプラスになる」が 36.6%となっています。

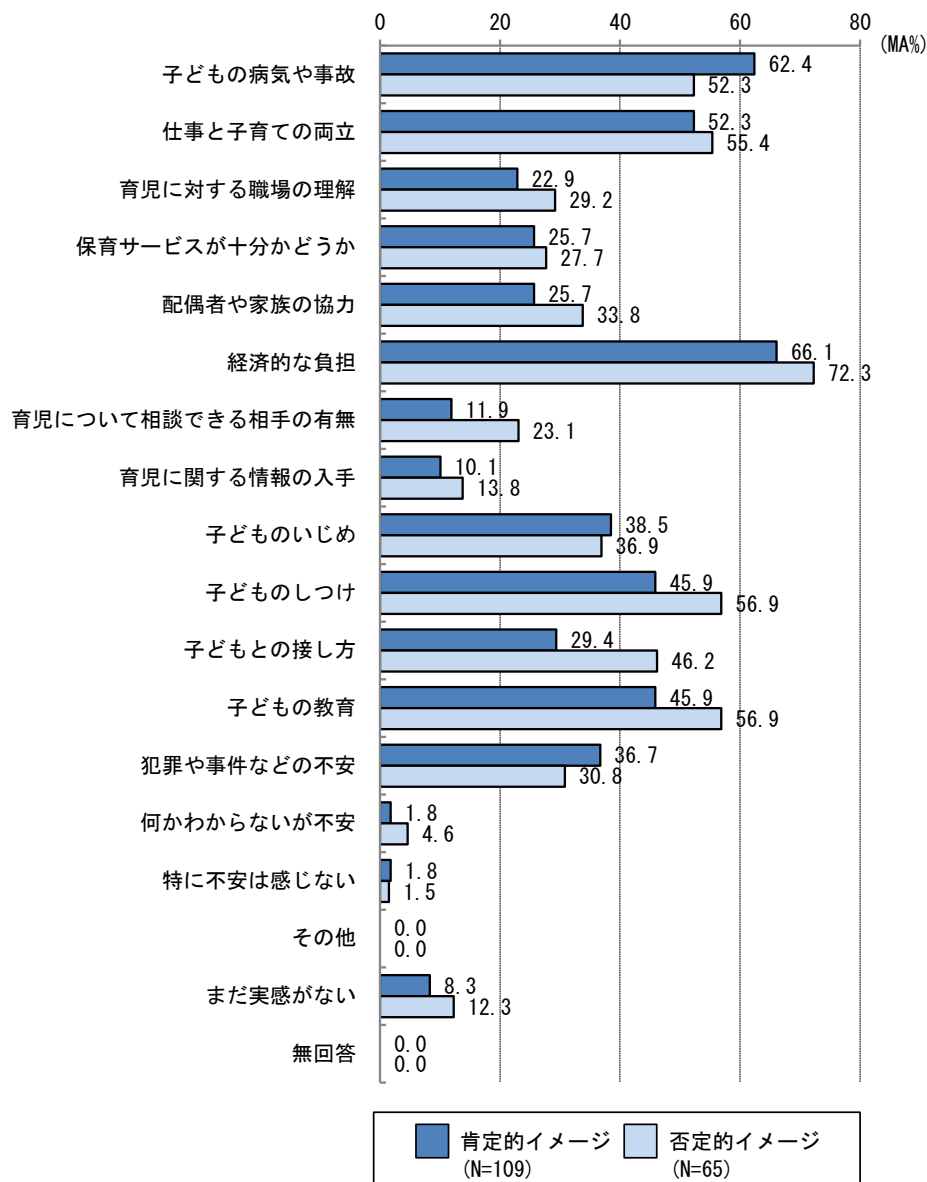
〔10〕 子どもや子育てについての不安

問21 子どもや子育てについて、どのようなことに不安を感じますか。(〇はいくつでも)



II-2. 若者の意識調査

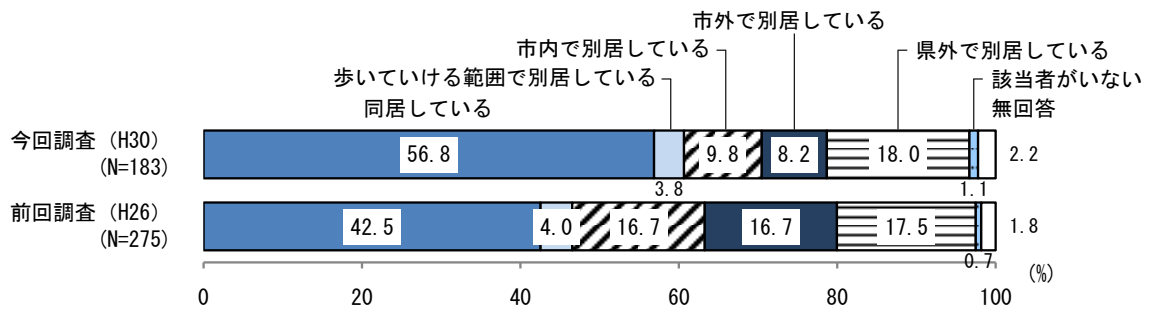
【子どもや子育てについてのイメージ別】



子どもや子育てに関する不安については、「経済的な負担」が 57.4%と最も多く、次いで、「子どもの病気や事故」が 48.6%、「仕事と子育ての両立」が 43.2%となっています。

〔11〕 親との同居の状況

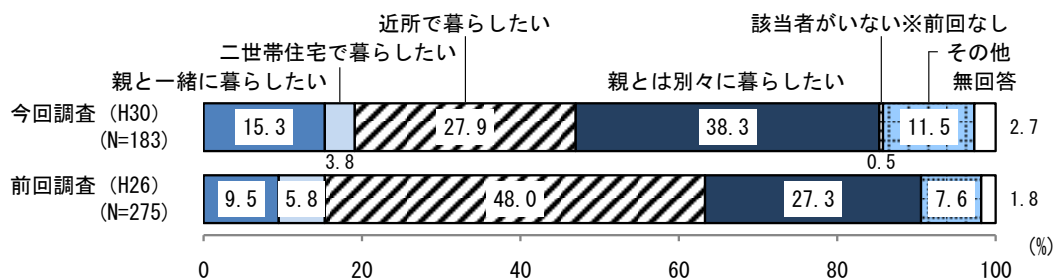
問22 あなたは自分の親と同居していますか。(〇は1つ)



自分の親と同居の有無については、「同居している」が 56.8%と最も多くなっています。

〔12〕 将来、親とどのように暮らしたいか

問23 将来、親とはどのように暮らしたいですか。(〇は1つ)

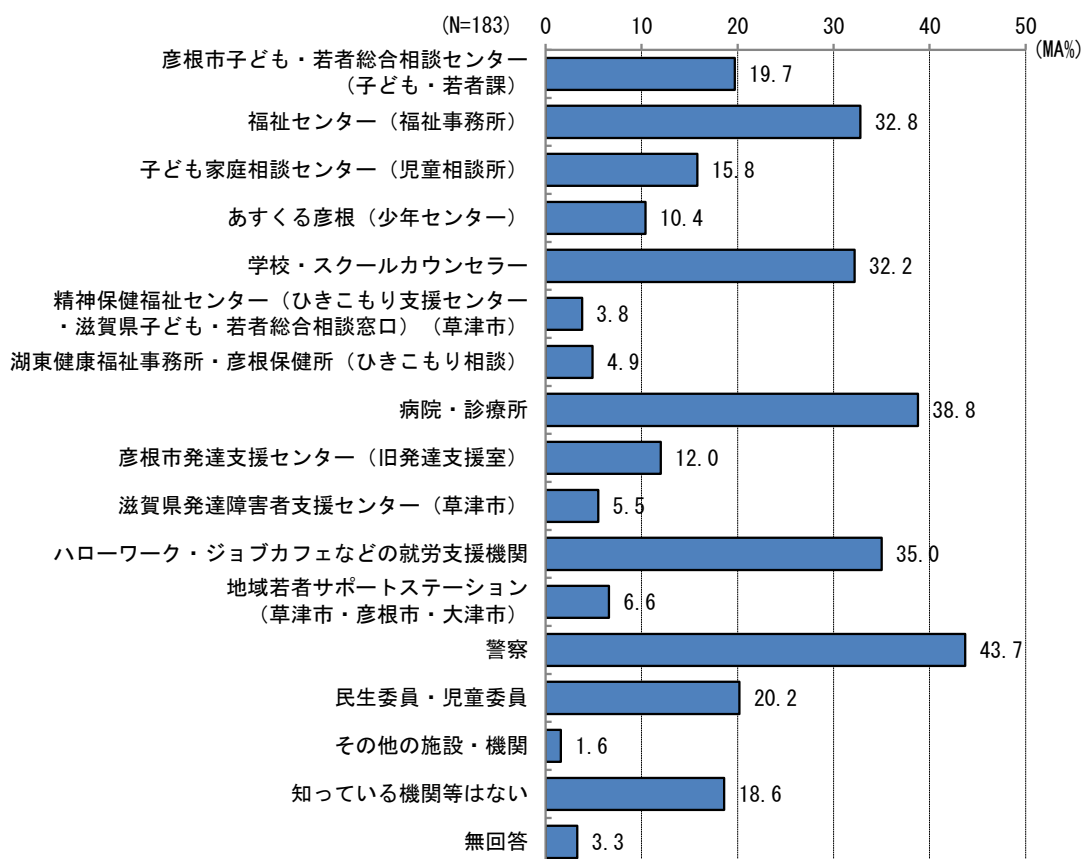


将来、親とはどのように暮らしたいかについては、「親とは別々に暮らしたい」が 38.3%と最も多くなっています。

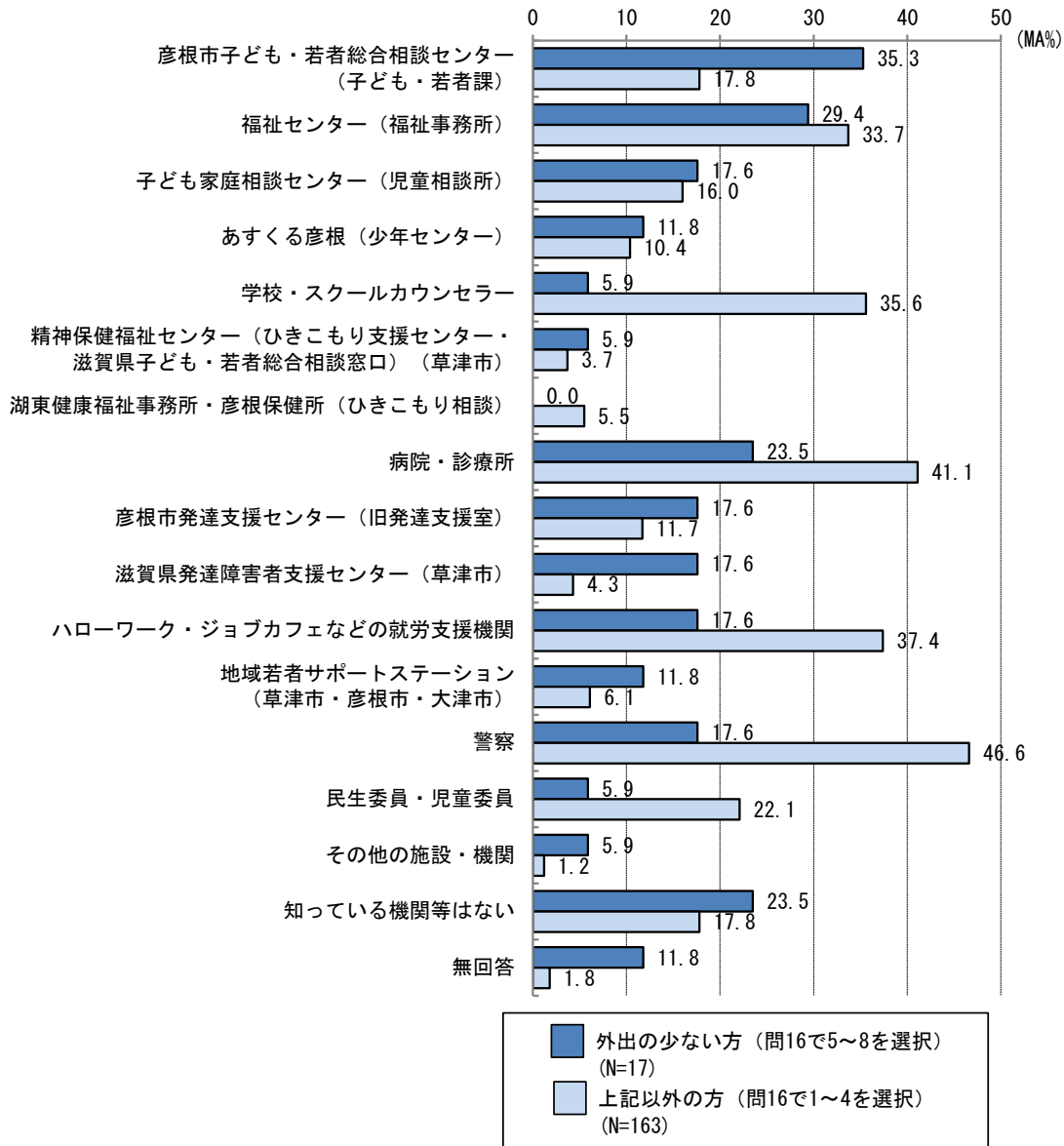
5 全体を通して

〔1〕子ども・若者を対象とした相談・支援機関の認知度

問24 あなたは、子ども・若者を対象とした相談・支援機関等を知っていますか。
知っている機関等を選んでください。(〇はいくつでも)



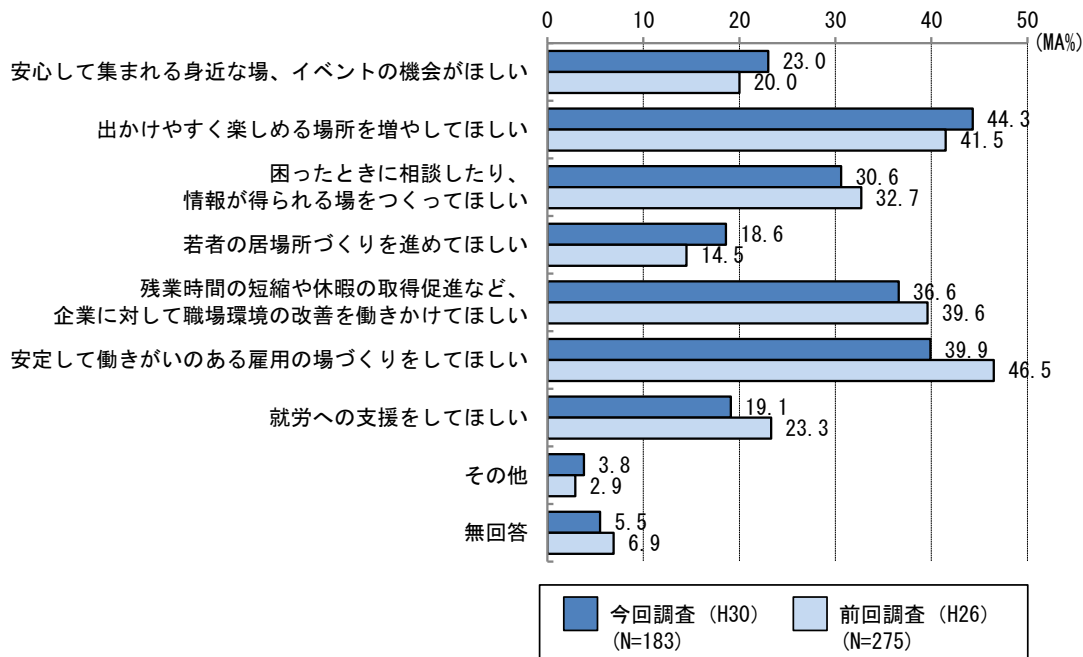
【外出の頻度別】



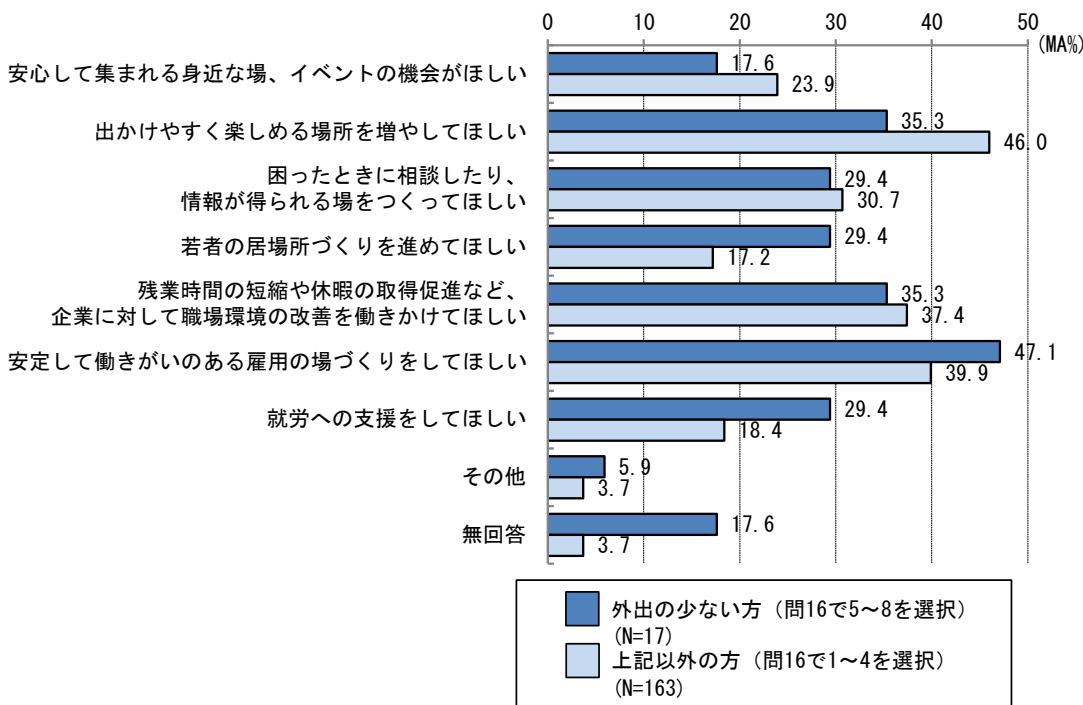
子ども・若者を対象とした相談・支援機関等を知っているかについては、「警察」が43.7%と最も多く、次いで、「病院・診療所」が38.8%、「ハローワーク・ジョブカフェなどの就労支援機関」が35.0%となっています。

〔2〕彦根市のこれからの若者支援について期待すること

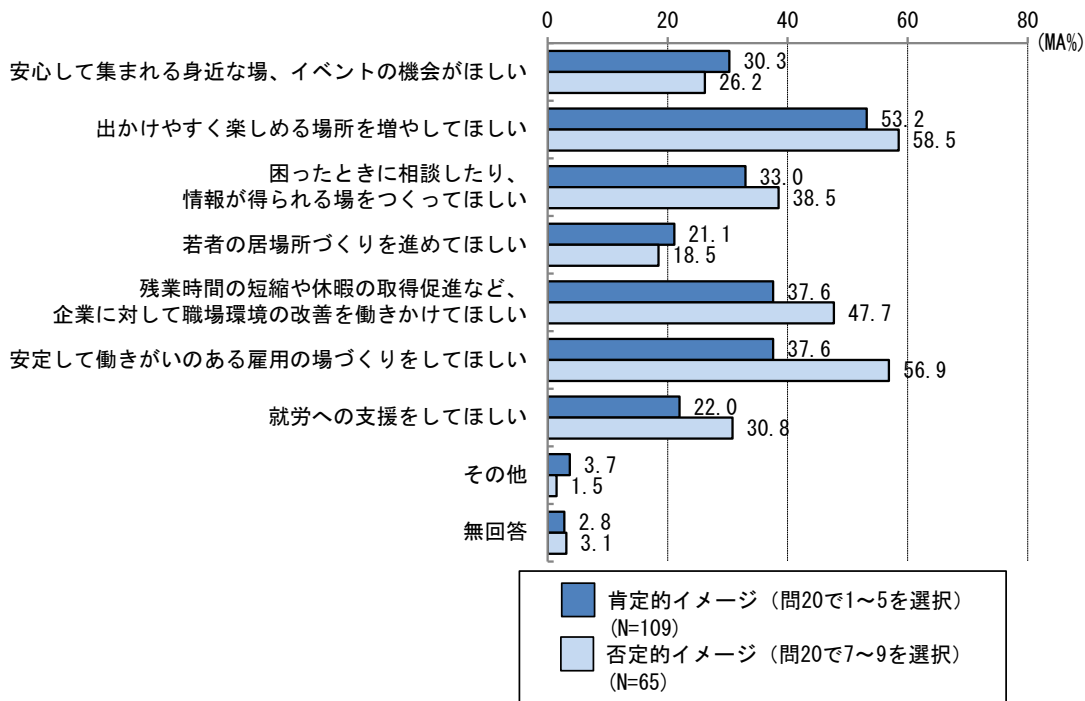
問25 彦根市のこれからの若者支援について、どのようなことを期待しますか。
(〇はいくつでも)



【外出の頻度別】



【子どもや子育てについてのイメージ別】



彦根市のこれからの若者支援について期待することは、「出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が 44.3%と最も多く、次いで、「安定して働きがいのある雇用の場づくりをしてほしい」が 39.9%、「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい」が 36.6%となっています。

〔3〕自由意見

問26 その他、自由なご意見を聞かせてください。
 ～彦根市の若者にとってもっと住みよいまちになるために、何が必要だと思いますか～

若者支援について（9件）

- ・ 経済的に苦しい家庭の子どもが、中学の部活動費の補助や、高校、専門学校、大学への進学への金銭的な援助を受けながら、周りの子どもと同じようにたくさんの選択ができる環境が必要。
- ・ 若者が働きやすい、職場の相談できる場所を作っていくといいと思います。社員で採用する場合学歴のハードルを上げすぎずに、高卒などから積極的に採用の募集をかけた方が良く思う。
- ・ 私がひきこもりを経験した時に思っていたことは、何とかして外に出たいとは思っただけけれど、体が動かない。この気持ちや状況を、家族だけでなく、第三者が知っていてくれれば、もう少し楽だったのかなと今になって思う。彦根市がもっとこちらに働きかけをして下さることができれば、少しでも誰かの気持ちを救うことはできるのかなと思う。

子育て支援について（3件）

- ・ 子どもたちが安心して遊べる場所、室内で遊べる施設があったらなと思います。
- ・ 彦根市は田舎すぎず、発展しすぎず、子どもが育つには、とても良い環境。家族サービスの充実、子育て支援サービスの充実により、子どもを育てやすい環境をさらに高めるとよい。

II-2. 若者の意識調査

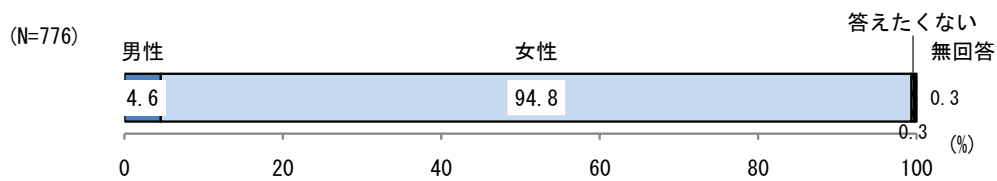
施設の充実や街の活性化について（10件）
<ul style="list-style-type: none">・学校卒業後、勉強する場所が減ります。その他の市町村では図書館での勉強が可能な場所があります。彦根市でも勉強可能なスペースを作っていただきたく思います。・安いスーパーは増えても、そうでない商業施設は少なく、特に書店などが少ないのは不便。イオンなどのように多くの店が入る商業施設を誘致してほしい。・市内公共交通の充実、市民が気軽に立ち寄れる商業施設、公共施設。
最低限しか外出しない方の意見（7件）
<ul style="list-style-type: none">・どうやってひきこもりから脱出したらいいのかわからない。どうやってきっかけをつくれればいいのかわからない。・支援センターにお世話になっていたが、体調がよくなかったり、行けなくなった。仕事は失敗ばかりで自信がなくなり、上手くスタートできたと思ったら体調悪くなったりで失敗。今はどこにも相談していない。・引きこもってるのは学校関連以外でお金を使いたくないから。奨学金や通学費サポートなどがよいと思います。
アンケートについて（5件）
<ul style="list-style-type: none">・アンケートの目的が不明確な気がする。
その他（16件）
<ul style="list-style-type: none">・彦根市内においても、高齢者の多い地域と、若い世代が多い地域の二極化が加速している感がある。いろいろな問題はあると思うが、バランスのよい地域づくりを進めていただきたい。・保守的な考えの人が多く感じます。新しいアイデア、取組を受け入れて、実行できる人が活躍できるようになってほしい。・若者たちが彦根市を「よりよい」まちにしたいと思うぶれない気持ちと責任感が必要。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

A 回答者について

〔1〕性別

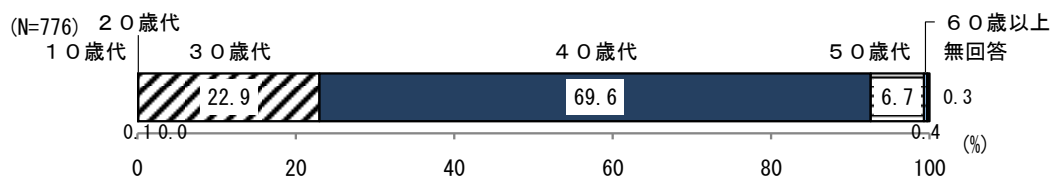
問A1 あなた（アンケートに回答される方）の性別を教えてください。（1つに○）



回答者の性別は、「男性」が4.6%、「女性」が94.8%、「答えたくない」が0.3%となっています。

〔2〕年齢

問A2 現在のあなたの年齢をお答えください。（1つに○）

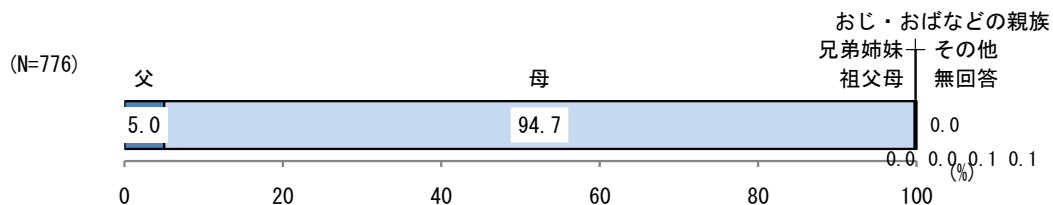


回答者の年齢は、「40歳代」が69.6%と最も多く、次いで、「30歳代」が22.9%となっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔3〕 回答者の続柄

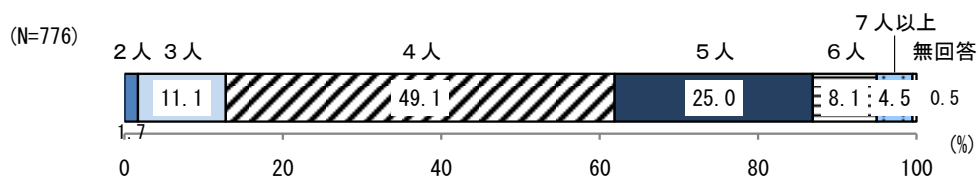
問A3 お子さんからみたあなたの続柄を教えてください。(1つに○)



子どもからみた回答者の続柄は、「母」が94.7%と最も多くなっています。

〔4〕 同居者数

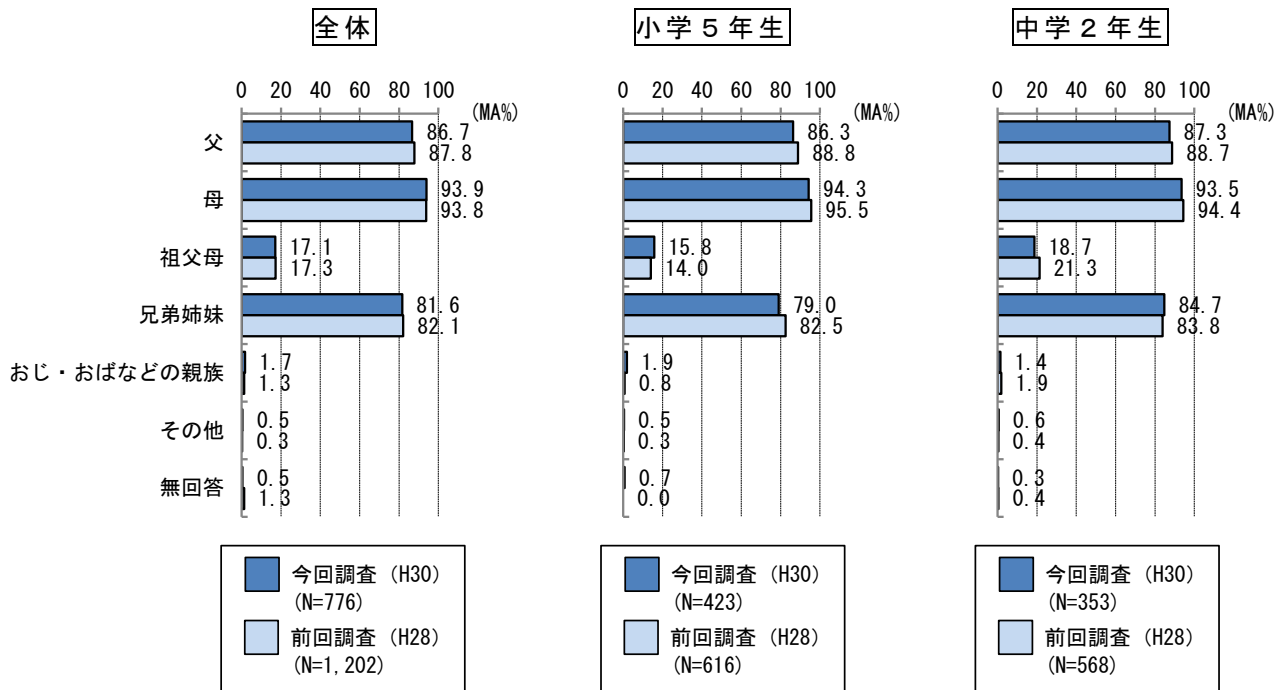
問A4 あなたの家庭で、生活を一緒にしている人は、あなたを含めて何人ですか。(数字を記入)



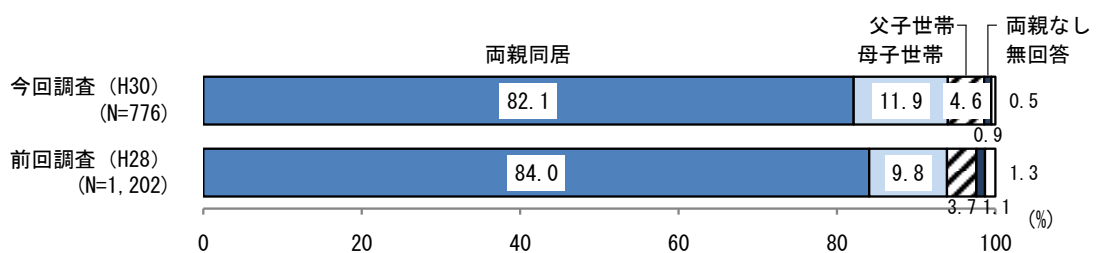
回答者の世帯人数は、「4人」が49.1%と最も多く、次いで、「5人」が25.0%となっています。

〔5〕同居者の続柄

問A5 生活を一緒にしている方全員について、お子さんからみた続柄を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)



■両親が同居しているか（再集計）



子どもからみた同居者の続柄は、「母」が93.9%と最も多く、次いで、「父」が86.7%、「兄弟姉妹」が81.6%となっています。

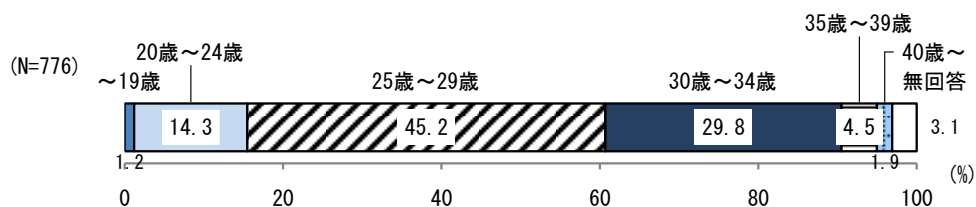
両親が同居しているかについては、「両親同居」が82.1%、「母子世帯」11.9%、「父子世帯」が4.6%となっています。

この報告書では、問A5において「父」もしくは「母」を回答していない方を「ひとり親家庭」と定義しています。また、「父」を回答していない方を「母子世帯」、「母」を回答していない方を「父子世帯」として表記しています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

〔6〕初めて子どもをもった年齢

問A6 初めて子どもをもった保護者の方の年齢は何歳ですか。

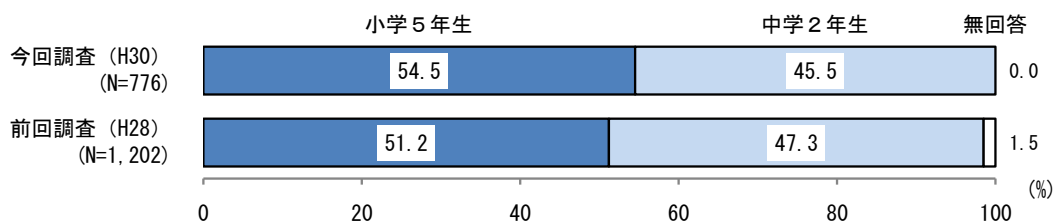


初めて子どもをもった年齢は、「25歳～29歳」が45.2%と最も多く、次いで、「30歳～34歳」が29.8%となっています。

B お子さんについて

〔1〕子どもの学年

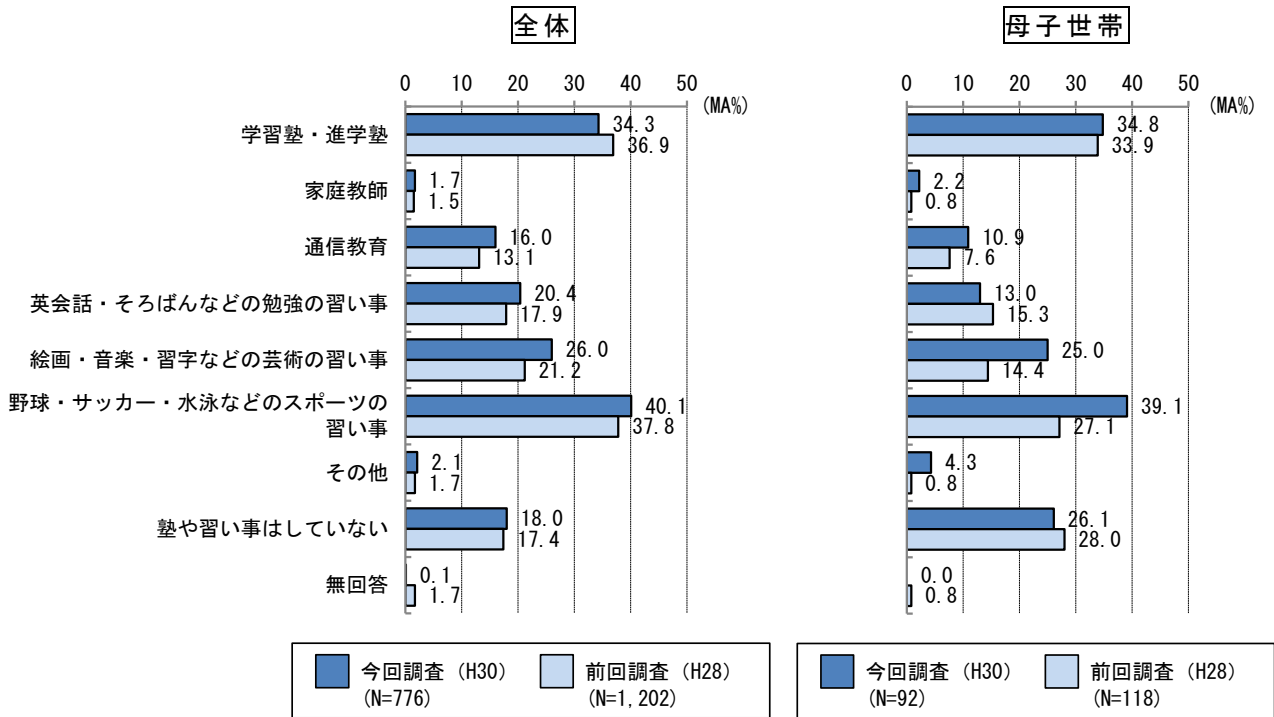
問B1 お子さんの現在の学年を教えてください。(1つに○)



子どもの学年は、「小学5年生」が54.5%、「中学2年生」が45.5%となっています。

〔2〕 塾や習い事の状況

問B2 お子さんは、現在、塾に行ったり、習い事をしていますか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・剥奪指標別】

		N	学習塾・進学塾	家庭教師	通信教育	勉強の習い事・そろばんなどの	英会話の習い事・そろばんなどの	芸術の習い事・音楽・習字などの	野球・サッカー・水泳などの	その他	塾や習い事はしていない	無回答
剥奪学年指標別	全体	776	34.3	1.7	16.0	20.4	26.0	40.1	2.1	18.0	0.1	
	全体	生活困難世帯	58	17.2	0.0	13.8	20.7	20.7	43.1	0.0	27.6	0.0
		非生活困難世帯	713	35.3	1.7	16.3	20.2	26.5	40.1	2.2	17.4	0.1
	小学5年生	生活困難世帯	37	10.8	0.0	13.5	29.7	29.7	59.5	0.0	16.2	0.0
		非生活困難世帯	385	27.3	1.3	19.7	27.3	34.8	60.3	1.8	11.4	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	21	28.6	0.0	14.3	4.8	4.8	14.3	0.0	47.6	0.0
非生活困難世帯		328	44.8	2.1	12.2	11.9	16.8	16.5	2.7	24.4	0.3	

子どもの習い事の状況は、「野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事」が40.1%と最も多く、次いで、「学習塾・進学塾」が34.3%となっています。

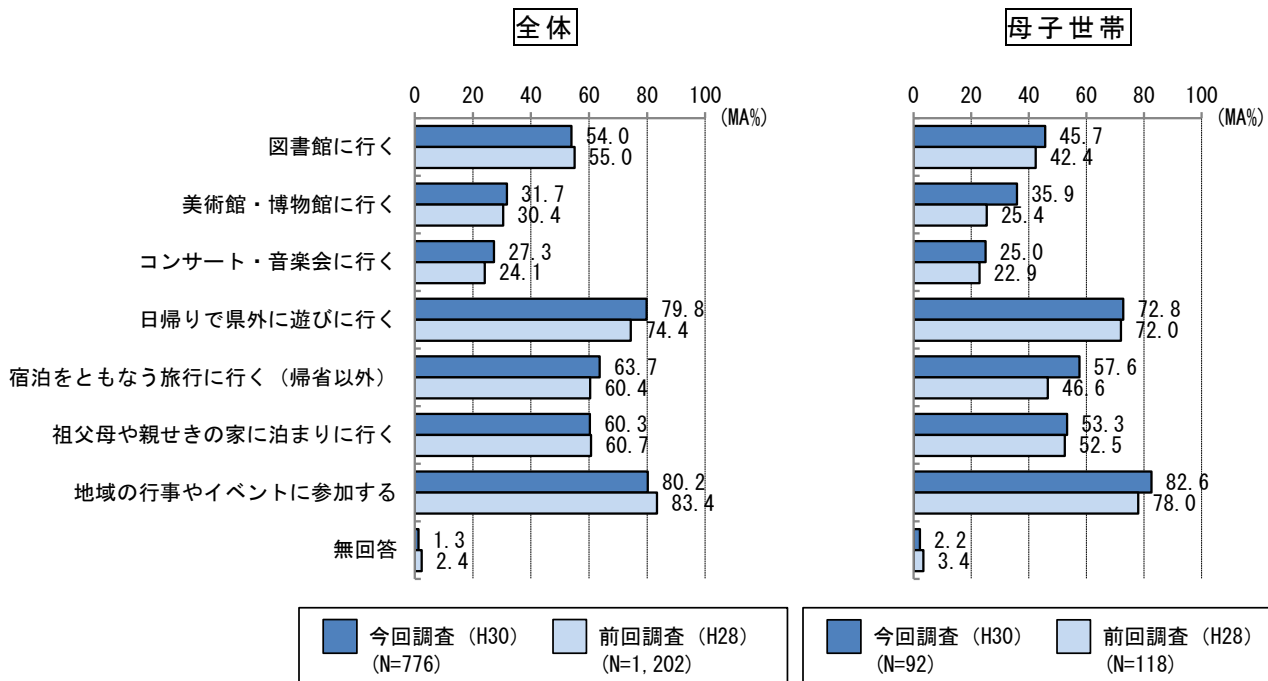
母子世帯でも、「野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事」が39.1%と最も多く、次いで、「学習塾・進学塾」が34.8%となっています。

この報告書では、問D3において「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」と回答している方を「生活困難世帯」と定義しています。また、「なかった」と回答している方を「非生活困難世帯」と定義しています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

〔3〕子どもが過去1年間体験したこと

問B3 お子さんは、過去1年間に次のような体験をしましたか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・剥奪指標別】

剥奪学年別	N	(MA%)								
		図書館に行く	美術館・博物館に行く	コンサート・音楽会	日帰りで県外に遊び	宿泊をともなう旅行 (帰省以外)	祖父母や親せきの家に泊まり	地域の行事やイベントに参加	無回答	
全体	776	54.0	31.7	27.3	79.8	63.7	60.3	80.2	1.3	
全体	生活困難世帯	58	51.7	29.3	27.6	67.2	43.1	60.3	81.0	3.4
	非生活困難世帯	713	54.3	32.1	27.3	80.8	65.5	60.3	80.1	1.1
小学5年生	生活困難世帯	37	51.4	37.8	27.0	67.6	48.6	70.3	89.2	0.0
	非生活困難世帯	385	67.0	43.9	27.5	86.8	71.4	67.0	88.3	0.3
中学2年生	生活困難世帯	21	52.4	14.3	28.6	66.7	33.3	42.9	66.7	9.5
	非生活困難世帯	328	39.3	18.3	27.1	73.8	58.5	52.4	70.4	2.1

子どもが過去1年間に体験したことは、「地域の行事やイベントに参加する」が80.2%と最も多く、次いで、「日帰りで県外に遊びに行く」が79.8%となっています。

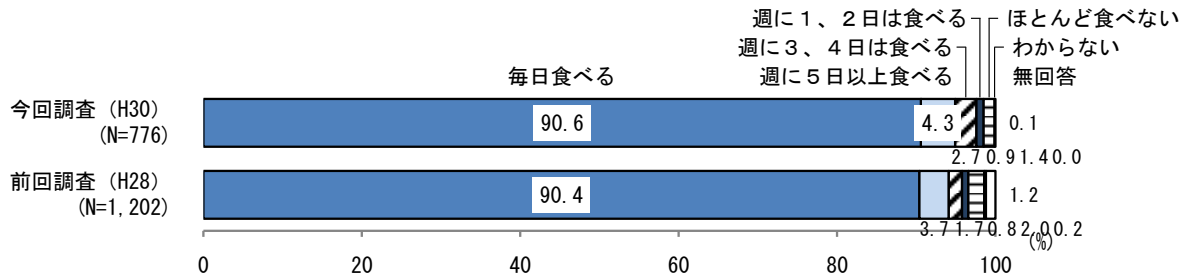
母子世帯でも、「地域の行事やイベントに参加する」が82.6%と最も多く、次いで、「日帰りで県外に遊びに行く」が72.8%となっています。

また、生活困難世帯では、そうでない非生活困難世帯に比して、費用負担のある「宿泊をともなう旅行に行く (帰省以外)」の回答割合が低い傾向がみられます。

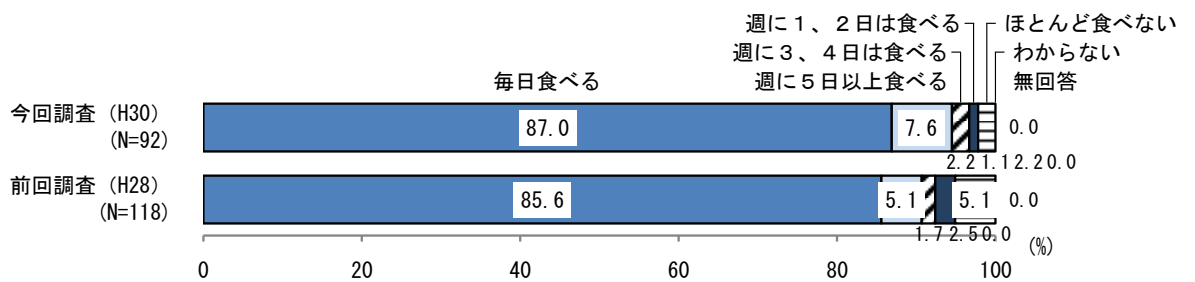
〔4〕朝食を食べる頻度

問B4 お子さんは、1週間に朝食をどれくらい食べていますか。最近1か月間の状況で、一番近いと思うものを選んでください。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・剥奪指標別】

		N	毎日食べる	週に5日以上食べる	週に3, 4日は食べる	週に1, 2日は食べる	ほとんど食べない	わからない	無回答	
剥奪学年別	全体	776	90.6	4.3	2.7	0.9	1.4	0.0	0.1	
	全体	生活困難世帯	58	89.7	0.0	3.4	0.0	5.2	0.0	1.7
		非生活困難世帯	713	90.6	4.6	2.7	1.0	1.1	0.0	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	37	97.3	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	93.0	2.9	2.3	1.0	0.8	0.0	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	21	76.2	0.0	9.5	0.0	9.5	0.0	4.8
非生活困難世帯		328	87.8	6.7	3.0	0.9	1.5	0.0	0.0	

子どもが1週間に朝食をどのくらい食べるかについては、「毎日食べる」が90.6%と最も多くなっています。

母子世帯でも、「毎日食べる」が87.0%と最も多くなっています。

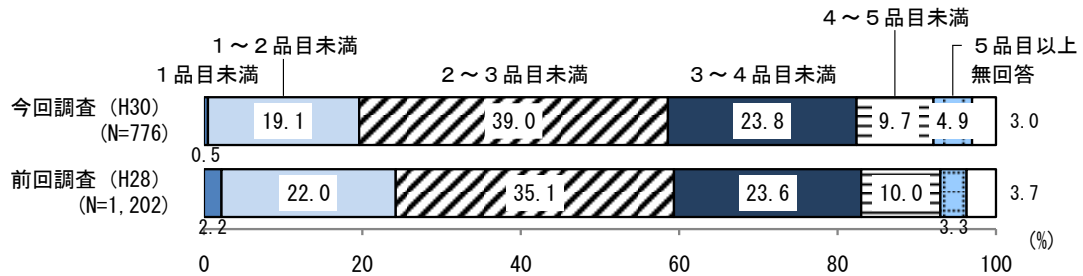
また、中学2年生のいる生活困難世帯で、「毎日食べる」は76.2%と低くなっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

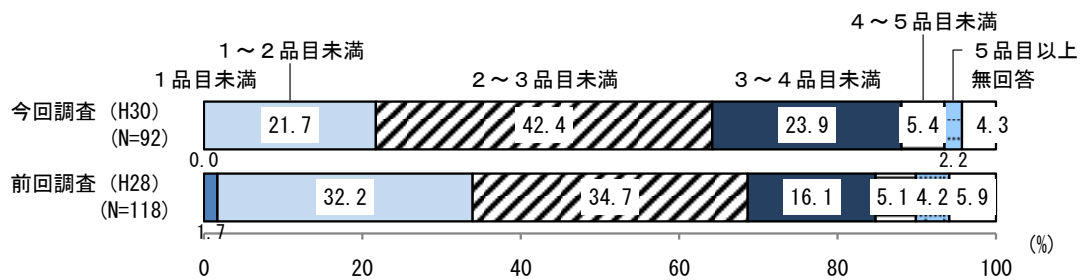
〔5〕 最近3日間の朝食のメニュー

問B4-1 最近3日間の朝食のメニュー（献立）を教えてください。
例：「パン・卵焼き・牛乳」、「ごはん・味噌汁」 など

全体



母子世帯



【学年・剥奪指標別】

		N	1品目未満	1~2品目未満	2~3品目未満	3~4品目未満	4~5品目未満	5品目以上	無回答	
剥奪学 指年 標・ 別	全体	776	0.5	19.1	39.0	23.8	9.7	4.9	3.0	
	全体	生活困難世帯	58	0.0	25.9	37.9	22.4	3.4	5.2	5.2
		非生活困難世帯	713	0.6	18.4	39.4	23.7	10.2	4.9	2.8
	小学5年生	生活困難世帯	37	0.0	21.6	43.2	18.9	5.4	8.1	2.7
		非生活困難世帯	385	0.5	16.9	44.2	22.3	8.8	4.9	2.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	0.0	33.3	28.6	28.6	0.0	0.0	9.5
非生活困難世帯		328	0.6	20.1	33.8	25.3	11.9	4.9	3.4	

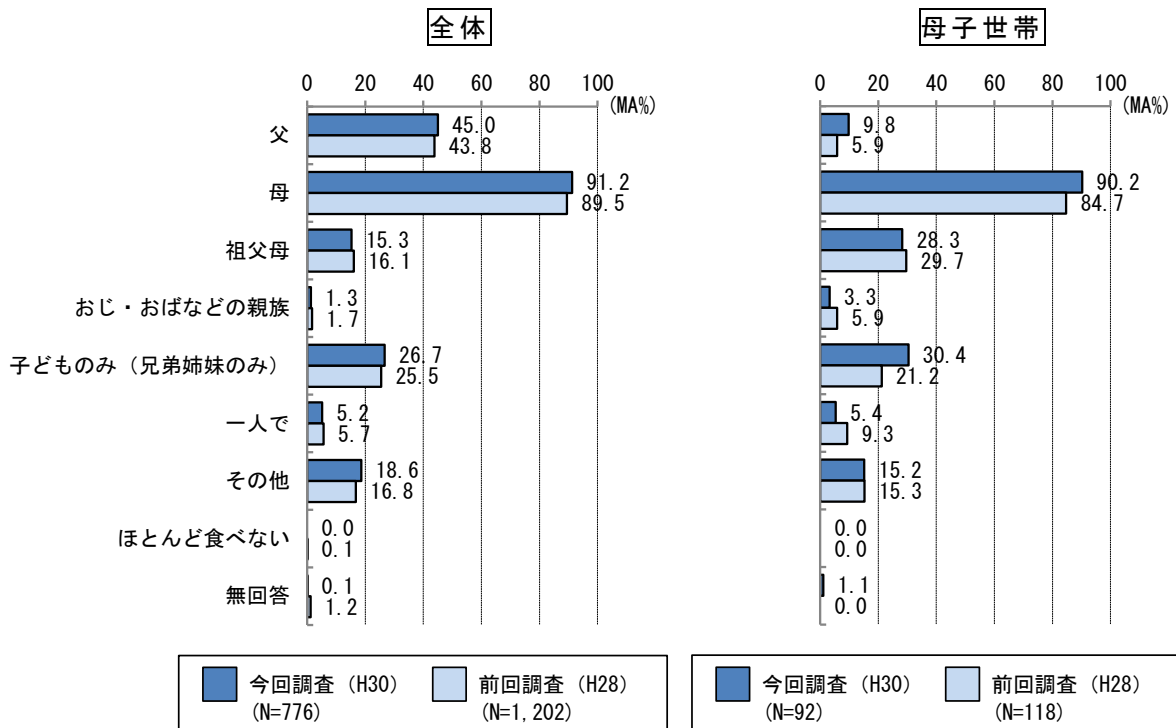
最近3日間の朝食メニューについては、「2~3品目未満」が39.0%と最も多く、次いで、「3~4品目未満」が23.8%となっています。

母子世帯でも、「2~3品目未満」が42.4%と最も多く、次いで、「3~4品目未満」が23.9%となっています。

また、中学2年生のいる生活困難世帯では、「1~2品目未満」が33.3%と他に比べて高く、4品目以上は0%となっています。

〔6〕夕飯を誰と食べることが多いか

問B5 お子さんは、夕飯を誰と食べる人が多いですか。最近1か月間の状況で、一緒に食べている方を選んでください。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・母子父子世帯別】

		N	父	母	祖父母	親族 おじ・おばなどの	姉妹の 子どものみ (兄弟)	一人で	その他	ほとんど 食べない	無 回答	
学年・ 母子父子 世帯別	全体	全体	776	45.0	91.2	15.3	1.3	26.7	5.2	18.6	0.0	0.1
		ひとり親家庭	128	21.9	88.3	21.9	2.3	28.1	7.0	15.6	0.0	0.8
		うち、母子世帯	92	9.8	90.2	28.3	3.3	30.4	5.4	15.2	0.0	1.1
		うち、父子世帯	36	52.8	83.3	5.6	0.0	22.2	11.1	16.7	0.0	0.0
	小学5年生	全体	423	45.4	93.4	15.8	1.4	25.5	2.1	19.6	0.0	0.0
		ひとり親家庭	70	25.7	95.7	21.4	4.3	28.6	2.9	15.7	0.0	0.0
		うち、母子世帯	52	15.4	100.0	25.0	5.8	30.8	0.0	17.3	0.0	0.0
		うち、父子世帯	18	55.6	83.3	11.1	0.0	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0
	中学2年生	全体	353	44.5	88.7	14.7	1.1	28.0	8.8	17.3	0.0	0.3
		ひとり親家庭	58	17.2	79.3	22.4	0.0	27.6	12.1	15.5	0.0	1.7
		うち、母子世帯	40	2.5	77.5	32.5	0.0	30.0	12.5	12.5	0.0	2.5
		うち、父子世帯	18	50.0	83.3	0.0	0.0	22.2	11.1	22.2	0.0	0.0

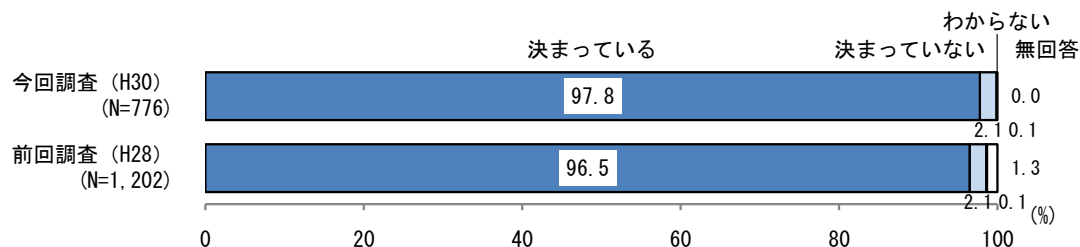
子どもが夕飯を誰と食べる人が多いかについては、「母」が 91.2%と最も多く、次いで、「父」が 45.0%となっています。

母子世帯では、「母」が 90.2%と最も多く、次いで、「子どものみ (兄弟姉妹のみ)」が 30.4%となっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

〔7〕 平日の起床時間が決まっているか

問B6 お子さんが平日（月～金曜日）に起きる時間は、大体決まっていますか。
（1つに○）



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

		N	決ま つて い る	決 ま つ て い な い	わ か ら な い	無 回 答		
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	97.8	2.1	0.1	0.0	
		ひとり親家庭	128	94.5	4.7	0.8	0.0	
		うち、母子世帯	92	94.6	4.3	1.1	0.0	
		うち、父子世帯	36	94.4	5.6	0.0	0.0	
	小学5年生	全体	423	98.6	1.4	0.0	0.0	
		ひとり親家庭	70	97.1	2.9	0.0	0.0	
		うち、母子世帯	52	98.1	1.9	0.0	0.0	
		うち、父子世帯	18	94.4	5.6	0.0	0.0	
	中学2年生	全体	353	96.9	2.8	0.3	0.0	
		ひとり親家庭	58	91.4	6.9	1.7	0.0	
		うち、母子世帯	40	90.0	7.5	2.5	0.0	
		うち、父子世帯	18	94.4	5.6	0.0	0.0	
剥奪学 指年・ 標別	全体	全体	776	97.8	2.1	0.1	0.0	
		生活困難世帯	58	96.6	3.4	0.0	0.0	
	小学5年生	非生活困難世帯	713	97.9	2.0	0.1	0.0	
		生活困難世帯	37	100.0	0.0	0.0	0.0	
	中学2年生	非生活困難世帯	385	98.4	1.6	0.0	0.0	
		生活困難世帯	21	90.5	9.5	0.0	0.0	
			非生活困難世帯	328	97.3	2.4	0.3	0.0

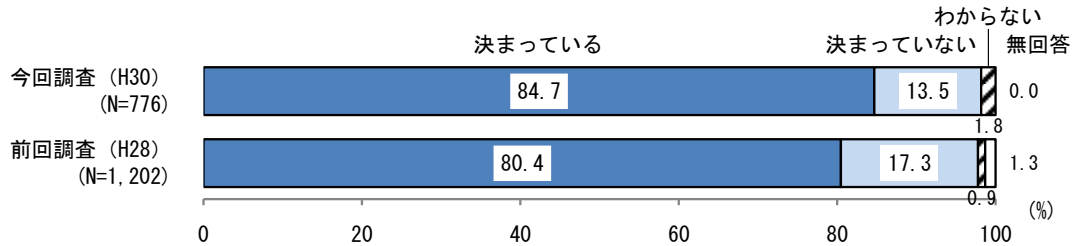
子どもの平日の起床時間については、「決まっている」が 97.8%と多くなっています。

母子世帯でも、「決まっている」が 94.6%と多くなっています。

また、中学2年生のいる生活困難世帯で、「決まっている」が 90.5%、「決まっていない」が 9.5%となっており、他の属性に比べて不規則な状況がうかがえます。

〔8〕 平日の就寝時間が決まっているか

問B7 お子さんが平日（月～金曜日）に寝る時間は、大体決まっていますか。（1つに○）



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

			N	決ま って い る	決ま って い な い	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	84.7	13.5	1.8	0.0
		ひとり親家庭	128	83.6	13.3	3.1	0.0
		うち、母子世帯	92	80.4	16.3	3.3	0.0
		うち、父子世帯	36	91.7	5.6	2.8	0.0
	小学5年生	全体	423	90.1	9.9	0.0	0.0
		ひとり親家庭	70	88.6	11.4	0.0	0.0
		うち、母子世帯	52	86.5	13.5	0.0	0.0
	中学2年生	うち、父子世帯	18	94.4	5.6	0.0	0.0
		全体	353	78.2	17.8	4.0	0.0
		ひとり親家庭	58	77.6	15.5	6.9	0.0
		うち、母子世帯	40	72.5	20.0	7.5	0.0
	剥奪学 指標・ 別	全体	うち、父子世帯	18	88.9	5.6	5.6
全体			776	84.7	13.5	1.8	0.0
生活困難世帯		生活困難世帯	58	82.8	15.5	1.7	0.0
		非生活困難世帯	713	84.7	13.5	1.8	0.0
小学5年生		生活困難世帯	37	94.6	5.4	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	89.6	10.4	0.0	0.0
中学2年生		生活困難世帯	21	61.9	33.3	4.8	0.0
		非生活困難世帯	328	79.0	17.1	4.0	0.0

子どもの平日の就寝時間については、「決まっている」が84.7%と多くなっています。

母子世帯でも、「決まっている」が80.4%と多くなっています。

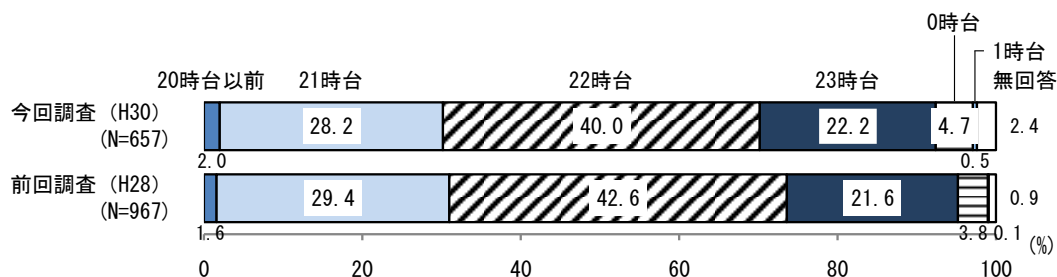
また、中学2年生のいる生活困難世帯では、「決まっている」が61.9%、「決まっていない」が33.3%と、起床時間よりもさらに不規則な生活傾向がうかがえます。

II-3. 子どもの生活に関する調査

〔9〕就寝時間

問B7で、「決まっている」を選んだ方のみ

問B7-1 お子さんは何時ごろに寝ますか。24時間単位でお答えください。(数字を記入) ※例えば、午後9時なら21時、深夜12時なら0時と書いてください。



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

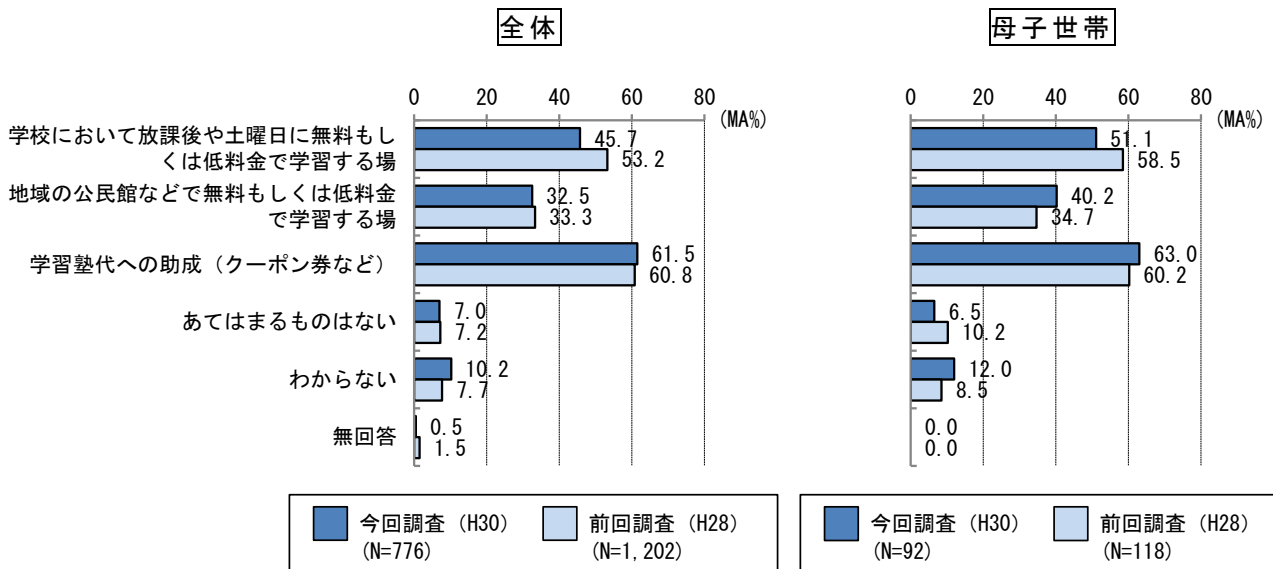
		N	20時台以前	21時台	22時台	23時台	0時台	1時台	無回答	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	657	2.0	28.2	40.0	22.2	4.7	0.5	2.4
		ひとり親家庭	107	1.9	26.2	39.3	20.6	10.3	0.9	0.9
		うち、母子世帯	74	2.7	25.7	39.2	20.3	9.5	1.4	1.4
		うち、父子世帯	33	0.0	27.3	39.4	21.2	12.1	0.0	0.0
	小学5年生	全体	381	2.6	45.1	43.6	5.8	0.3	0.0	2.6
		ひとり親家庭	62	3.2	41.9	43.5	9.7	0.0	0.0	1.6
		うち、母子世帯	45	4.4	40.0	44.4	8.9	0.0	0.0	2.2
		うち、父子世帯	17	0.0	47.1	41.2	11.8	0.0	0.0	0.0
	中学2年生	全体	276	1.1	4.7	35.1	44.9	10.9	1.1	2.2
		ひとり親家庭	45	0.0	4.4	33.3	35.6	24.4	2.2	0.0
		うち、母子世帯	29	0.0	3.4	31.0	37.9	24.1	3.4	0.0
		うち、父子世帯	16	0.0	6.3	37.5	31.3	25.0	0.0	0.0
剥奪学年指標別	全体	全体	657	2.0	28.2	40.0	22.2	4.7	0.5	2.4
		生活困難世帯	48	4.2	39.6	35.4	14.6	6.3	0.0	0.0
		非生活困難世帯	604	1.8	27.5	40.2	22.7	4.6	0.5	2.6
	小学5年生	生活困難世帯	35	5.7	48.6	37.1	8.6	0.0	0.0	0.0
		非生活困難世帯	345	2.3	44.9	44.1	5.5	0.3	0.0	2.9
	中学2年生	生活困難世帯	13	0.0	15.4	30.8	30.8	23.1	0.0	0.0
		非生活困難世帯	259	1.2	4.2	35.1	45.6	10.4	1.2	2.3

子どもの就寝時間が「決まっている」とお答えの方に、何時ごろに寝るかたずねたところ、「22時台」が40.0%と最も多く、次いで、「21時台」が28.2%となっています。

母子世帯でも、「22時台」が39.2%と最も多く、次いで、「21時台」が25.7%となっています。

〔10〕 子どもの学習に関して利用したい事業

問B8 お子さんの学習に関して、次のような事業があれば利用しますか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・剥奪指標別】

		N	低土学校習料地 (MA%)	学 (MA%)	あてはまるものはない	わからない	無回答		
			料曜校すも域 (クーポン代への助成)	習すも域 (クーポン代への助成)	あてはまるものはない	わからない	無回答		
剥奪 学 指 年 標 ・ 別	全体	776	45.7	32.5	61.5	7.0	10.2	0.5	
	全体	生活困難世帯	58	60.3	44.8	62.1	10.3	3.4	0.0
		非生活困難世帯	713	44.6	31.4	61.2	6.7	10.8	0.6
	小学5年生	生活困難世帯	37	67.6	48.6	59.5	5.4	2.7	0.0
		非生活困難世帯	385	49.1	36.9	57.4	6.0	10.4	1.0
	中学2年生	生活困難世帯	21	47.6	38.1	66.7	19.0	4.8	0.0
非生活困難世帯		328	39.3	25.0	65.5	7.6	11.3	0.0	

子どもの学習に関してあれば利用する事業では、「学習塾代への助成 (クーポン券など)」が61.5%と最も多く、次いで、「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金を学習する場」が45.7%となっています。

母子世帯でも、「学習塾代への助成 (クーポン券など)」が63.0%と最も多く、次いで、「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金を学習する場」が51.1%となっています。

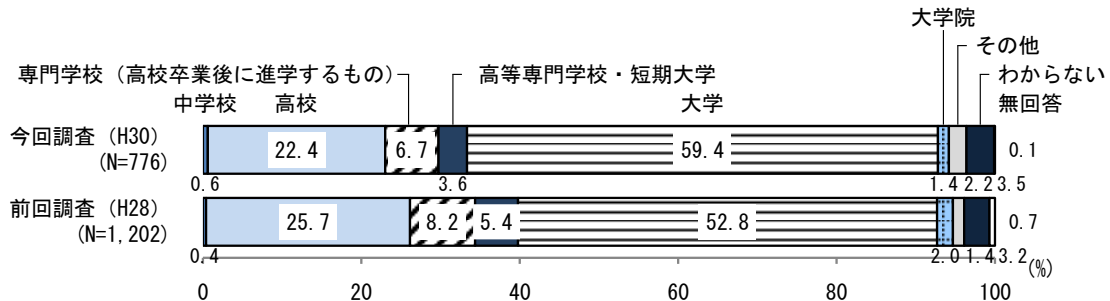
また、小学5年生のいる生活困難世帯で「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金を学習する場」が67.6%と高くなっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

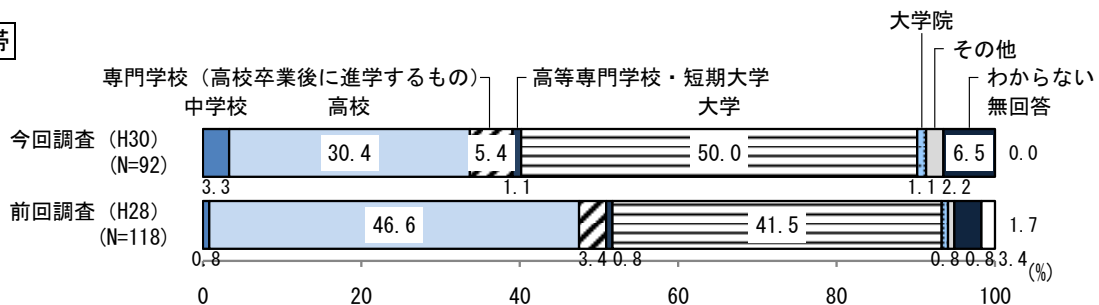
〔11〕子どもについて希望する学歴

問B9 お子さんについて、どの学校まで卒業してほしいと思いますか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・剥奪指標別】

		N	中学校	高校	後専門 に進学 するもの (高校卒業)	高等 専門 学校・ 短期 大学	大学	大学院	その他	わ か ら な い	無 回 答	
剥奪学 指年 標・ 別	全体	776	0.6	22.4	6.7	3.6	59.4	1.4	2.2	3.5	0.1	
	全体	生活困難世帯	58	0.0	31.0	13.8	5.2	39.7	0.0	0.0	10.3	0.0
		非生活困難世帯	713	0.7	21.6	6.0	3.5	61.2	1.5	2.4	2.9	0.1
	小学5年生	生活困難世帯	37	0.0	29.7	16.2	8.1	43.2	0.0	0.0	2.7	0.0
		非生活困難世帯	385	0.8	21.3	6.8	3.6	60.8	1.6	2.6	2.3	0.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	0.0	33.3	9.5	0.0	33.3	0.0	0.0	23.8	0.0
非生活困難世帯		328	0.6	22.0	5.2	3.4	61.6	1.5	2.1	3.7	0.0	

子どもに望む最終学歴は、「大学」が59.4%と最も多く、次いで、「高校」が22.4%となっています。

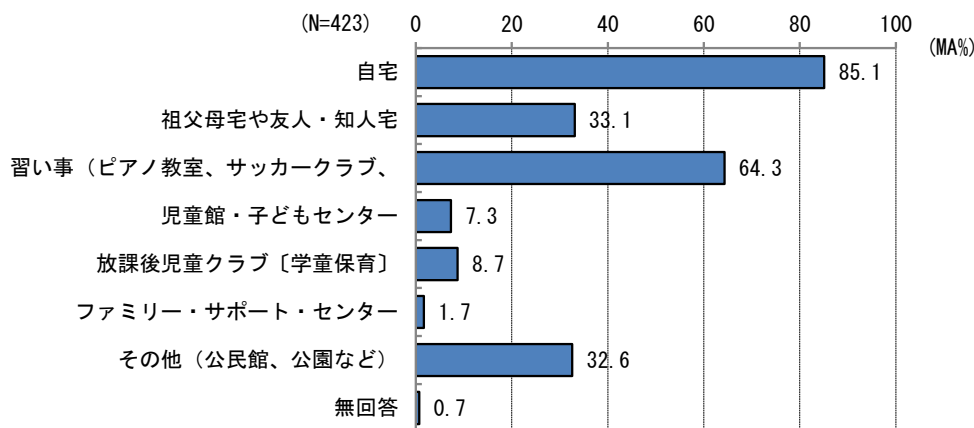
母子世帯でも、「大学」が50.0%と最も多く、次いで、「高校」が30.4%となっています。

また、中学2年生のいる生活困難世帯では「大学」が33.3%と他の属性に比べて低くなっています。

〔12〕 平日の放課後の過ごし方の希望

お子さんが小学5年生の方のみ

問B10 お子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週あたり日数を（ ）内に数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も（ ）内に数字でご記入ください。時間は必ず（例）18時のように24時間制でご記入ください。これらの事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。「放課後児童クラブ」…地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。「ファミリー・サポート・センター」…子育てなどの援助をしてほしい人（依頼会員）と援助できる人（提供会員）が会員登録をして、援助を行う事業です。

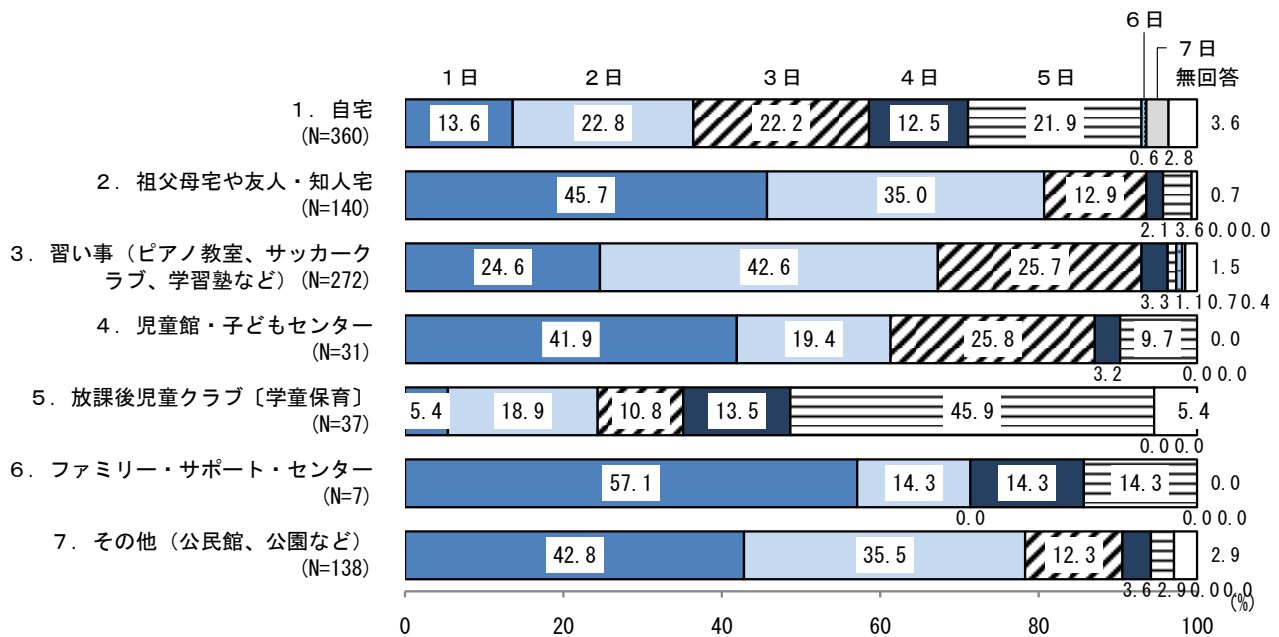


【母子父子世帯別／剥奪指標別】

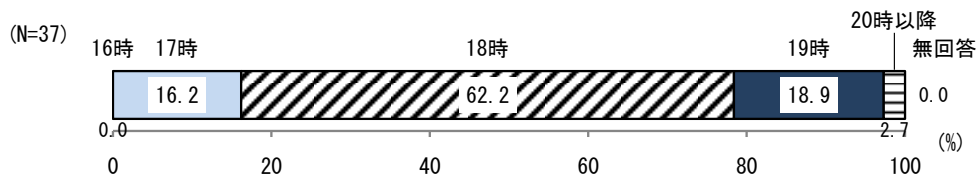
			N	自宅	知祖 人父 宅母 宅や 友人・	ブ室 習い 事(ピ アノ 教 室、 サツ カ ー ク ラ ブ 等)	ン タ ー 児 童 館 ・ 子 ど も セ ン タ ー	〔放 課 後 児 童 ク ラ ブ 〔 学 童 保 育 〕〕	ポ ー ト ・ セ ン タ ー フ ア ミ リ ー ・ セ ン タ ー	公 園 な ど そ の 他 (公 民 館 、 公 園 等)	無 回 答
世 帯 別	母 子 父 子	全体	423	85.1	33.1	64.3	7.3	8.7	1.7	32.6	0.7
		ひとり親家庭	70	81.4	31.4	67.1	5.7	11.4	2.9	34.3	0.0
		うち、母子世帯	52	78.8	32.7	69.2	5.8	15.4	1.9	25.0	0.0
		うち、父子世帯	18	88.9	27.8	61.1	5.6	0.0	5.6	61.1	0.0
標 別	剥 奪 指 標	全体	423	85.1	33.1	64.3	7.3	8.7	1.7	32.6	0.7
		生活困難世帯	37	73.0	29.7	48.6	13.5	24.3	2.7	37.8	0.0
		非生活困難世帯	385	86.2	33.2	65.7	6.5	7.3	1.3	31.9	0.8

II-3. 子どもの生活に関する調査

■ 週当たりの希望日数



■ 放課後児童クラブの利用希望終了時間



【母子父子世帯別】

		N	16時	17時	18時	19時	20時以降	無回答	
母子父子世帯別	小学5年生	全体	37	0.0	16.2	62.2	18.9	2.7	0.0
		ひとり親家庭	8	0.0	12.5	75.0	12.5	0.0	0.0
		うち、母子世帯	8	0.0	12.5	75.0	12.5	0.0	0.0
		うち、父子世帯	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

子どもが小学5年生の方に、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思うかについてたずねたところ、「自宅」が85.1%と最も多く、次いで、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が64.3%となっています。母子世帯でも、「自宅」が78.8%と最も多くなっています。また、生活困難世帯では「自宅」や「習い事」が他の属性より低い一方、「児童館・子どもセンター」や「放課後児童クラブ」が他よりも高くなっています。

それぞれの過ごし方についての希望日数については、「自宅」では、「2日」が22.8%と最も多くなっています。

放課後児童クラブとお答えの方の利用希望終了時間は、「18時」が62.2%と最も多く、次いで、「19時」が18.9%となっています。母子世帯でも、「18時」が75.0%と最も多くなっています。

〔13〕 放課後児童クラブの利用希望

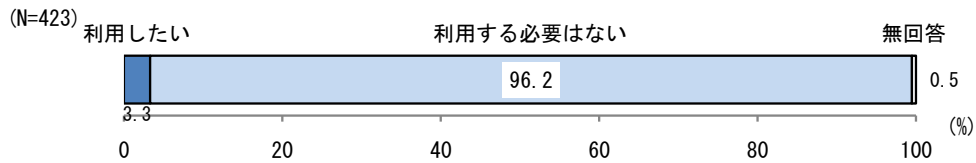
お子さんが小学5年生の方のみ

問B11 お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

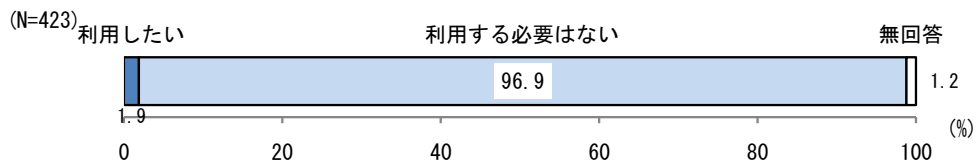
また利用したい時間帯を、() 内に(例) 9時～18時のように24時間制でご記入ください。

■ 利用希望

【土曜日】



【日曜日・祝日】



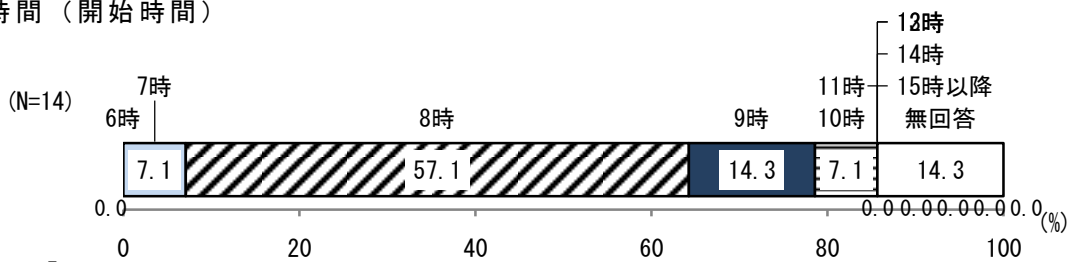
【母子父子世帯別／剥奪指標別】

				N	利用したい	要利は用なすいる必	無回答
土曜日	母子父子世帯別	小学5年生	全体	423	3.3	96.2	0.5
			ひとり親家庭	70	4.3	94.3	1.4
			うち、母子世帯	52	3.8	96.2	0.0
			うち、父子世帯	18	5.6	88.9	5.6
剥奪指標別	小学5年生	全体	423	3.3	96.2	0.5	
		生活困難世帯	37	8.1	91.9	0.0	
		非生活困難世帯	385	2.9	96.6	0.5	
		日曜日・祝日	母子父子世帯別	小学5年生	全体	423	1.9
ひとり親家庭	70	1.4			95.7	2.9	
うち、母子世帯	52	1.9			98.1	0.0	
うち、父子世帯	18	0.0			88.9	11.1	
剥奪指標別	小学5年生	全体	423	1.9	96.9	1.2	
		生活困難世帯	37	8.1	91.9	0.0	
		非生活困難世帯	385	1.3	97.4	1.3	

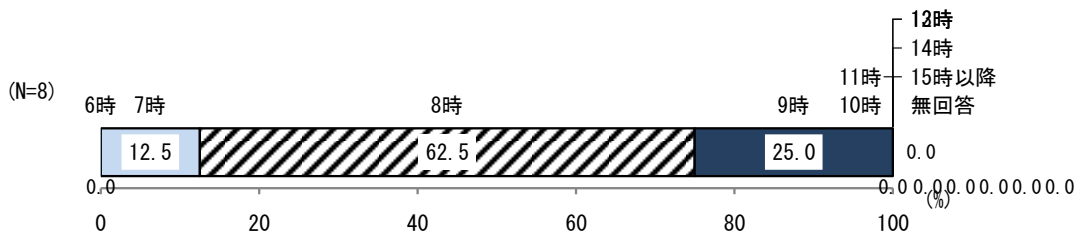
II-3. 子どもの生活に関する調査

■ 利用希望時間（開始時間）

【土曜日】

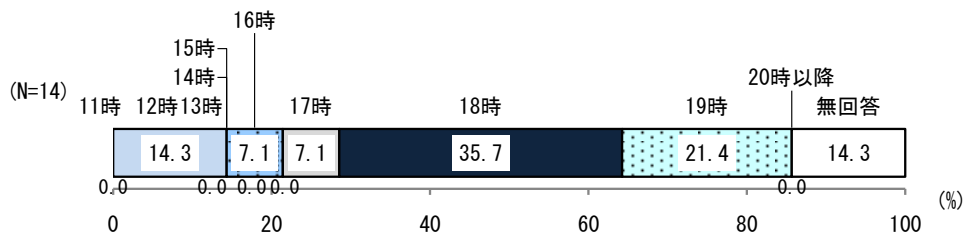


【日曜日・祝日】

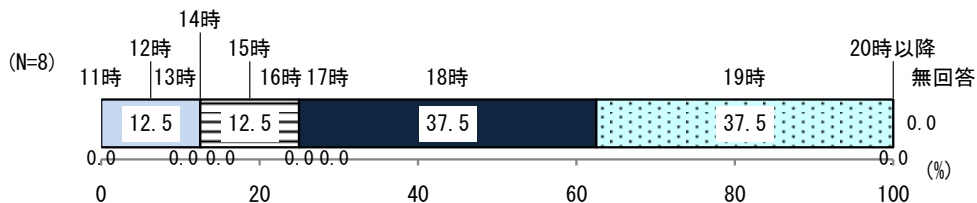


■ 利用希望時間（終了時間）

【土曜日】



【日曜日・祝日】



子どもが小学5年生の方に、土曜日と日曜日・祝日の、放課後児童クラブの利用希望についてたずねたところ、「利用する必要はない」が土曜日では 96.2%、日曜日・祝日では 96.9%と多くなっています。母子世帯でも、「利用する必要はない」が土曜日では 96.2%、日曜日・祝日では 98.1%と多くなっています。

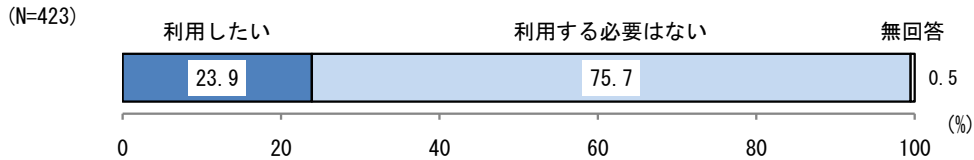
利用を希望される方の、利用希望時間（開始時間）は、「8時」が土曜日では 57.1%、日曜日・祝日では 62.5%と最も多くなっています。利用希望時間（終了時間）は、土曜日では「18時」が 35.7%と最も多く、日曜日・祝日では「18時」、「19時」がそれぞれ 37.5%と最も多くなっています。

〔14〕 長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

お子さんが小学5年生の方のみ

問B12 お子さんについて、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯を、()内に(例)9時～18時のように24時間制でご記入ください。

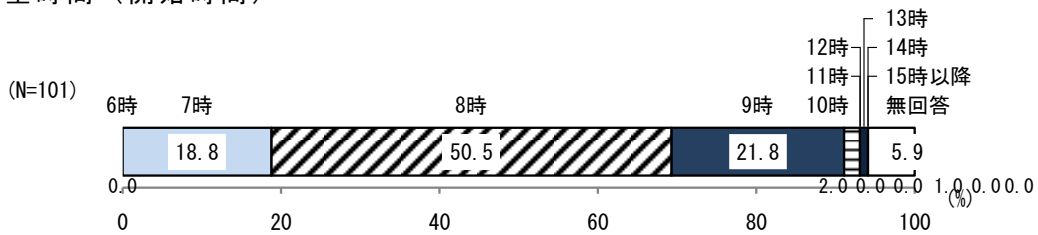
■ 利用希望



【母子父子世帯別／剥奪指標別】

		N	利用 した い	要 利 は 用 な す る 必 ず	無 回 答	
子 母 別 世 帯 父	小学5年生	全体	423	23.9	75.7	0.5
		ひとり親家庭	70	28.6	70.0	1.4
		うち、母子世帯	52	28.8	71.2	0.0
		うち、父子世帯	18	27.8	66.7	5.6
別 指 剥 奪 標 別	小学5年生	全体	423	23.9	75.7	0.5
		生活困難世帯	37	35.1	64.9	0.0
		非生活困難世帯	385	22.9	76.6	0.5

■ 利用希望時間（開始時間）

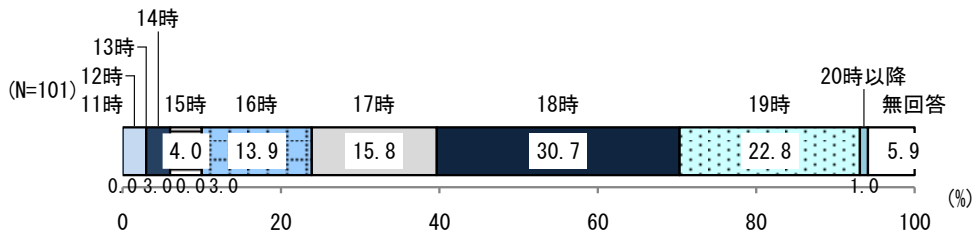


【母子父子世帯別／剥奪指標別】

		N	6 時	7 時	8 時	9 時	1 0 時	1 1 時	1 2 時	1 3 時	1 4 時	1 5 時 以 降	無 回 答	
子 母 別 世 帯 父	小学5年生	全体	101	0.0	18.8	50.5	21.8	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	5.9	
		ひとり親家庭	20	0.0	25.0	35.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0
		うち、母子世帯	15	0.0	33.3	33.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
		うち、父子世帯	5	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
別 指 剥 奪 標 別	小学5年生	全体	101	0.0	18.8	50.5	21.8	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	5.9	
		生活困難世帯	13	0.0	38.5	46.2	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		非生活困難世帯	88	0.0	15.9	51.1	22.7	2.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	6.8

II-3. 子どもの生活に関する調査

■ 利用希望時間（終了時間）



【母子父子世帯別／剥奪指標別】

		N	1 1 時	1 2 時	1 3 時	1 4 時	1 5 時	1 6 時	1 7 時	1 8 時	1 9 時	2 0 時 以 降	(%) 無 回 答	
子 母 別 世 帯 父	小学5年生	全体	101	0.0	3.0	0.0	3.0	4.0	13.9	15.8	30.7	22.8	1.0	5.9
		ひとり親家庭	20	0.0	10.0	0.0	5.0	0.0	10.0	10.0	25.0	25.0	0.0	15.0
		うち、母子世帯	15	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	26.7	33.3	0.0	20.0
		うち、父子世帯	5	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
指 別 標 奪	小学5年生	全体	101	0.0	3.0	0.0	3.0	4.0	13.9	15.8	30.7	22.8	1.0	5.9
		生活困難世帯	13	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	38.5	23.1	7.7	0.0
		非生活困難世帯	88	0.0	2.3	0.0	3.4	4.5	13.6	17.0	29.5	22.7	0.0	6.8

子どもが小学5年生の方に、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の、放課後児童クラブの利用希望についてたずねたところ、「利用する必要はない」が75.7%と多くなっています。母子世帯でも、「利用する必要はない」が71.2%と多くなっています。

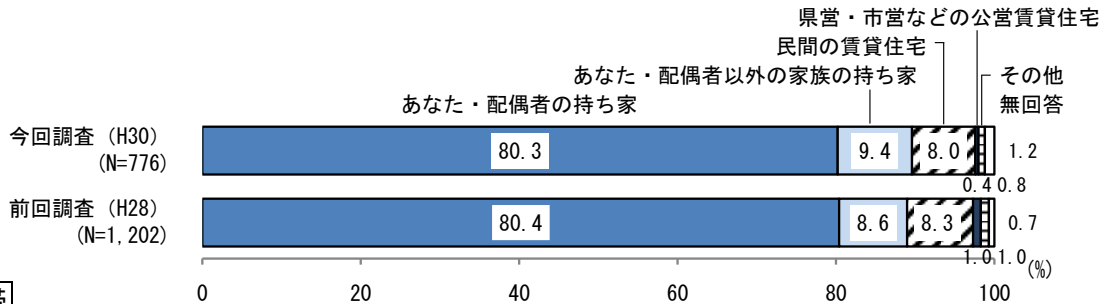
利用を希望される方の、利用希望時間（開始時間）は、「8時」が50.5%、利用希望時間（終了時間）は、「18時」が30.7%と最も多くなっています。母子世帯では、利用希望時間（開始時間）は、「7時」、「8時」がそれぞれ33.3%、利用希望時間（終了時間）は、「19時」が33.3%と最も多くなっています。

C 世帯の状況

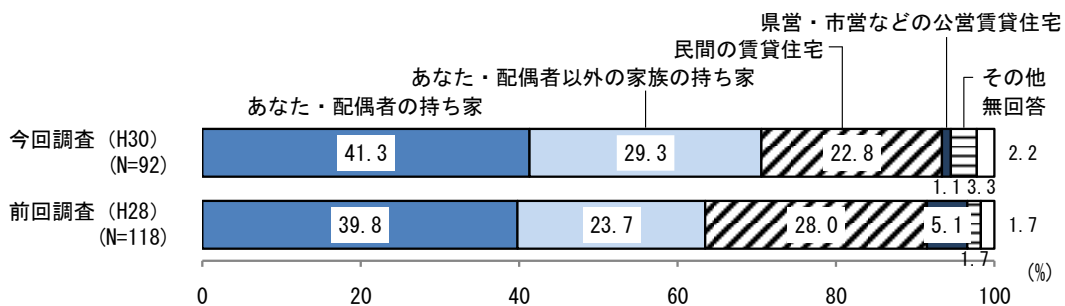
〔1〕世帯の状況

問C1 現在のお住まいの状況について教えてください。(1つに〇)

全体



母子世帯



【学年・剥奪指標別】

		N	自分・配偶者の持ち家	あなた・配偶者以外の家族の持ち家	民間の賃貸住宅	県営・市営などの公営賃貸住宅	その他	無回答	
剥奪学年別	全体	776	80.3	9.4	8.0	0.4	0.8	1.2	
	全体	生活困難世帯	58	65.5	10.3	19.0	3.4	0.0	1.7
		非生活困難世帯	713	81.5	9.3	7.2	0.1	0.8	1.1
	小学5年生	生活困難世帯	37	62.2	16.2	18.9	2.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	82.9	7.0	7.3	0.3	1.0	1.6
	中学2年生	生活困難世帯	21	71.4	0.0	19.0	4.8	0.0	4.8
非生活困難世帯		328	79.9	11.9	7.0	0.0	0.6	0.6	

現在の住まいの状況については、「あなた・配偶者の持ち家」が80.3%と最も多くなっています。

母子世帯でも、「あなた・配偶者の持ち家」が41.3%と最も多くなっています。

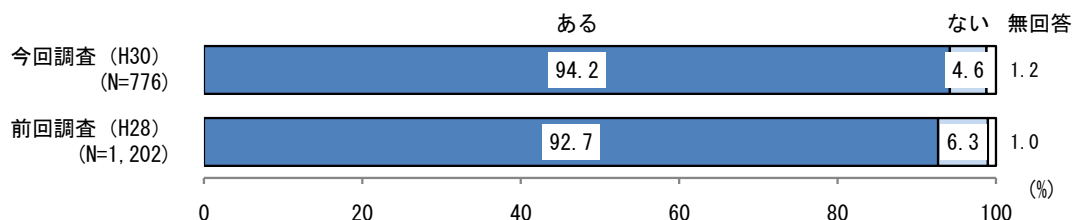
また、生活困難世帯では「あなた・配偶者の持ち家」は65.5%と、非生活困難世帯の81.5%よりも低く、「民間の賃貸住宅」が19.0%となっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

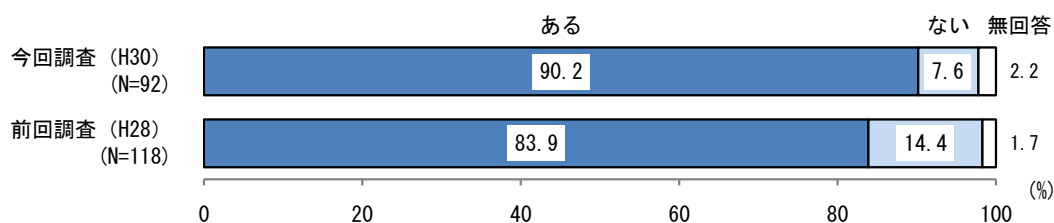
〔2〕 落ち着いて宿題などができる場所の有無

問C1-1 現在の住居には、お子さんが落ち着いて宿題などができる場所がありますか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・剥奪指標別】

		N	(%)			
			ある	ない	無回答	
剥奪学 指標・ 学年 別	全体	776	94.2	4.6	1.2	
	全体	生活困難世帯	58	89.7	8.6	1.7
		非生活困難世帯	713	94.7	4.2	1.1
	小学5年生	生活困難世帯	37	89.2	10.8	0.0
		非生活困難世帯	385	95.3	3.9	0.8
	中学2年生	生活困難世帯	21	90.5	4.8	4.8
非生活困難世帯		328	93.9	4.6	1.5	

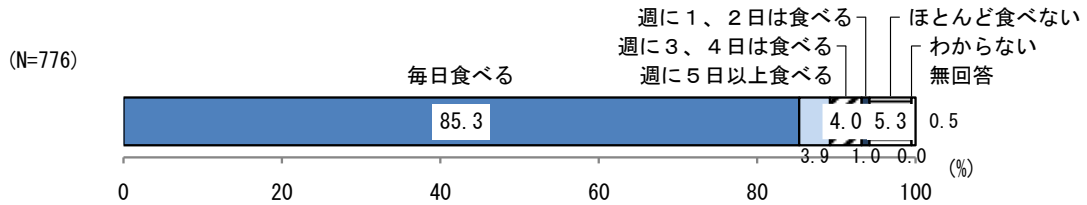
現在の住居に、子どもが落ち着いて勉強できる場所があるかについては、「ある」が94.2%と多くなっています。

母子世帯でも、「ある」が90.2%と多くなっています。

また、生活困難世帯では「ある」との回答割合が非生活困難世帯よりも低く、「ない」が高くなっています。

〔3〕朝食の頻度

問C2 あなたは、1週間に朝食をどれくらい食べていますか。最近1か月間の状況で、一番近いと思うものを選んでください。(1つに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

		N	毎日食べる	週に5日以上食べる	週に3、4日食べる	週に1、2日食べる	ほとんど食べない	わからない	無回答	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	85.3	3.9	4.0	1.0	5.3	0.0	0.5
		ひとり親家庭	128	76.6	3.9	6.3	0.8	10.9	0.0	1.6
		うち、母子世帯	92	77.2	5.4	7.6	1.1	7.6	0.0	1.1
		うち、父子世帯	36	75.0	0.0	2.8	0.0	19.4	0.0	2.8
	小学5年生	全体	423	87.0	3.5	4.5	0.2	4.5	0.0	0.2
		ひとり親家庭	70	81.4	5.7	7.1	0.0	4.3	0.0	1.4
		うち、母子世帯	52	80.8	7.7	9.6	0.0	1.9	0.0	0.0
		うち、父子世帯	18	83.3	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	83.3	4.2	3.4	2.0	6.2	0.0	0.8
		ひとり親家庭	58	70.7	1.7	5.2	1.7	19.0	0.0	1.7
うち、母子世帯		40	72.5	2.5	5.0	2.5	15.0	0.0	2.5	
うち、父子世帯		18	66.7	0.0	5.6	0.0	27.8	0.0	0.0	
剥奪学年指標別	全体	776	85.3	3.9	4.0	1.0	5.3	0.0	0.5	
	全体	生活困難世帯	58	72.4	5.2	6.9	3.4	10.3	0.0	1.7
		非生活困難世帯	713	86.5	3.8	3.6	0.8	4.8	0.0	0.4
	小学5年生	生活困難世帯	37	81.1	2.7	10.8	0.0	5.4	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	87.5	3.6	3.9	0.3	4.4	0.0	0.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	57.1	9.5	0.0	9.5	19.0	0.0	4.8
		非生活困難世帯	328	85.4	4.0	3.4	1.5	5.2	0.0	0.6

1週間に朝食をどれくらい食べるかについては、「毎日食べる」が85.3%と最も多くなっています。

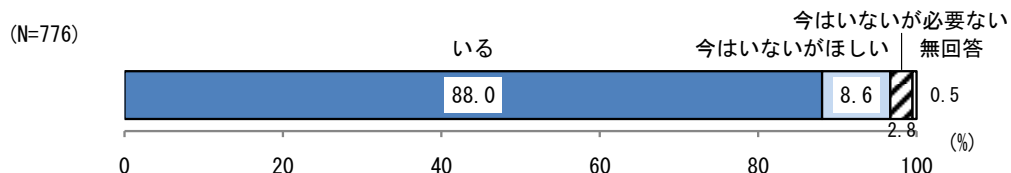
母子世帯でも、「毎日食べる」が77.2%と最も多くなっています。

また、生活困難世帯では「毎日食べる」との回答割合が非生活困難世帯よりも低くなっており、とくに中学2年生のいる生活困難世帯では57.1%となっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

〔4〕心おきなく相談できる相手の有無

問C3 あなたには、現在、心おきなく相談できる相手がありますか。(1つに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

		N	いる	今はないがほしい	今はないが必要ない	無回答	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	88.0	8.6	2.8	0.5
		ひとり親家庭	128	83.6	11.7	3.1	1.6
		うち、母子世帯	92	82.6	13.0	3.3	1.1
		うち、父子世帯	36	86.1	8.3	2.8	2.8
	小学5年生	全体	423	87.9	9.0	2.8	0.2
		ひとり親家庭	70	87.1	7.1	4.3	1.4
		うち、母子世帯	52	90.4	5.8	3.8	0.0
		うち、父子世帯	18	77.8	11.1	5.6	5.6
	中学2年生	全体	353	88.1	8.2	2.8	0.8
		ひとり親家庭	58	79.3	17.2	1.7	1.7
うち、母子世帯		40	72.5	22.5	2.5	2.5	
うち、父子世帯		18	94.4	5.6	0.0	0.0	
剥奪学年別	全体	776	88.0	8.6	2.8	0.5	
	全体	生活困難世帯	58	72.4	20.7	5.2	1.7
		非生活困難世帯	713	89.3	7.6	2.7	0.4
	小学5年生	生活困難世帯	37	75.7	18.9	5.4	0.0
		非生活困難世帯	385	89.4	7.8	2.6	0.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	66.7	23.8	4.8	4.8
非生活困難世帯		328	89.3	7.3	2.7	0.6	

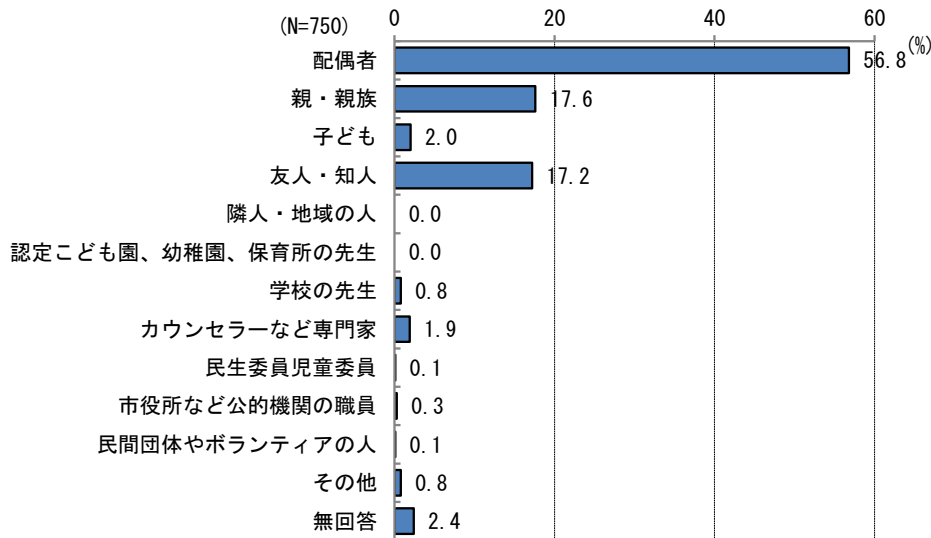
心おきなく相談できる相手がいるかについては、「いる」が88.0%と最も多くなっています。

母子世帯でも、「いる」が82.6%と最も多くなっています。

また、相談相手が「いる」割合は、中学2年生のいる生活困難世帯で66.7%と他の属性に比べて低くなっています。

〔5〕相談相手

問C3で「いる」または「今はないがほしい」を選んだ方のみ
問C4 その相談相手はどなたですか。(1つに〇)



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

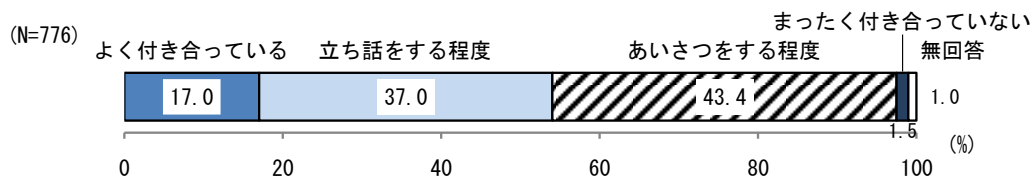
		N	配偶者	親・親族	子ども	友人・知人	隣人・地域の人	園、認定こども園、保育所の先生、幼稚園	学校の先生	門家	カウンセラーなど専	民生委員児童委員	の職員	市役所など公的機関	ボランティアの人	民間団体やボラン	その他	無回答
母子父子世帯別	全体	750	56.8	17.6	2.0	17.2	0.0	0.0	0.8	1.9	0.1	0.3	0.1	0.8	2.4			
	ひとり親家庭	122	30.3	29.5	5.7	23.0	0.0	0.0	1.6	4.1	0.0	0.8	0.0	0.8	4.1			
	うち、母子世帯	88	23.9	36.4	4.5	20.5	0.0	0.0	2.3	5.7	0.0	1.1	0.0	1.1	4.5			
	うち、父子世帯	34	47.1	11.8	8.8	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9			
剥奪指標別	全体	750	56.8	17.6	2.0	17.2	0.0	0.0	0.8	1.9	0.1	0.3	0.1	0.8	2.4			
	生活困難世帯	54	31.5	18.5	5.6	27.8	0.0	0.0	3.7	3.7	1.9	0.0	0.0	3.7	3.7			
	非生活困難世帯	691	58.9	17.5	1.7	16.4	0.0	0.0	0.6	1.7	0.0	0.3	0.1	0.4	2.3			
相談相手の有無別	全体	750	56.8	17.6	2.0	17.2	0.0	0.0	0.8	1.9	0.1	0.3	0.1	0.8	2.4			
	いる	683	60.3	18.2	2.2	15.4	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.3	0.0	0.3	2.2			
	今はないがほしい	67	20.9	11.9	0.0	35.8	0.0	0.0	3.0	14.9	1.5	0.0	1.5	6.0	4.5			

心おきなく相談できる相手が「いる」、「今はないがほしい」とお答えの方の相談相手は、「配偶者」が 56.8%と最も多く、次いで、「親・親族」が 17.6%となっています。

母子世帯では、「親・親族」が 36.4%と最も多く、次いで、「配偶者」が 23.9%となっています。

〔6〕 地域での付き合い

問C5 あなたは、地域での付き合いをどの程度していますか。(1つに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

		N	てよく いく る 付 き 合 っ	程 度 立 ち 話 を す る	る あ い さ つ を す	合 ま っ た く 付 き 合 っ て い な い	無 回 答	
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	17.0	37.0	43.4	1.5	1.0
		ひとり親家庭	128	11.7	32.0	48.4	4.7	3.1
		うち、母子世帯	92	9.8	30.4	51.1	5.4	3.3
		うち、父子世帯	36	16.7	36.1	41.7	2.8	2.8
	小学5年生	全体	423	16.5	39.7	40.9	1.9	0.9
		ひとり親家庭	70	11.4	32.9	45.7	5.7	4.3
		うち、母子世帯	52	11.5	30.8	48.1	5.8	3.8
		うち、父子世帯	18	11.1	38.9	38.9	5.6	5.6
	中学2年生	全体	353	17.6	33.7	46.5	1.1	1.1
		ひとり親家庭	58	12.1	31.0	51.7	3.4	1.7
うち、母子世帯		40	7.5	30.0	55.0	5.0	2.5	
うち、父子世帯		18	22.2	33.3	44.4	0.0	0.0	
剥奪学 指標・ 別	全体	776	17.0	37.0	43.4	1.5	1.0	
	全体	生活困難世帯	58	13.8	39.7	39.7	5.2	1.7
		非生活困難世帯	713	17.3	36.7	43.8	1.3	1.0
	小学5年生	生活困難世帯	37	13.5	40.5	45.9	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	16.9	39.7	40.3	2.1	1.0
	中学2年生	生活困難世帯	21	14.3	38.1	28.6	14.3	4.8
		非生活困難世帯	328	17.7	33.2	47.9	0.3	0.9

地域での付き合いの程度については、「あいさつをする程度」が43.4%と最も多く、次いで、「立ち話をする程度」が37.0%となっています。

母子世帯でも、「あいさつをする程度」が51.1%と最も多く、次いで、「立ち話をする程度」が30.4%となっています。

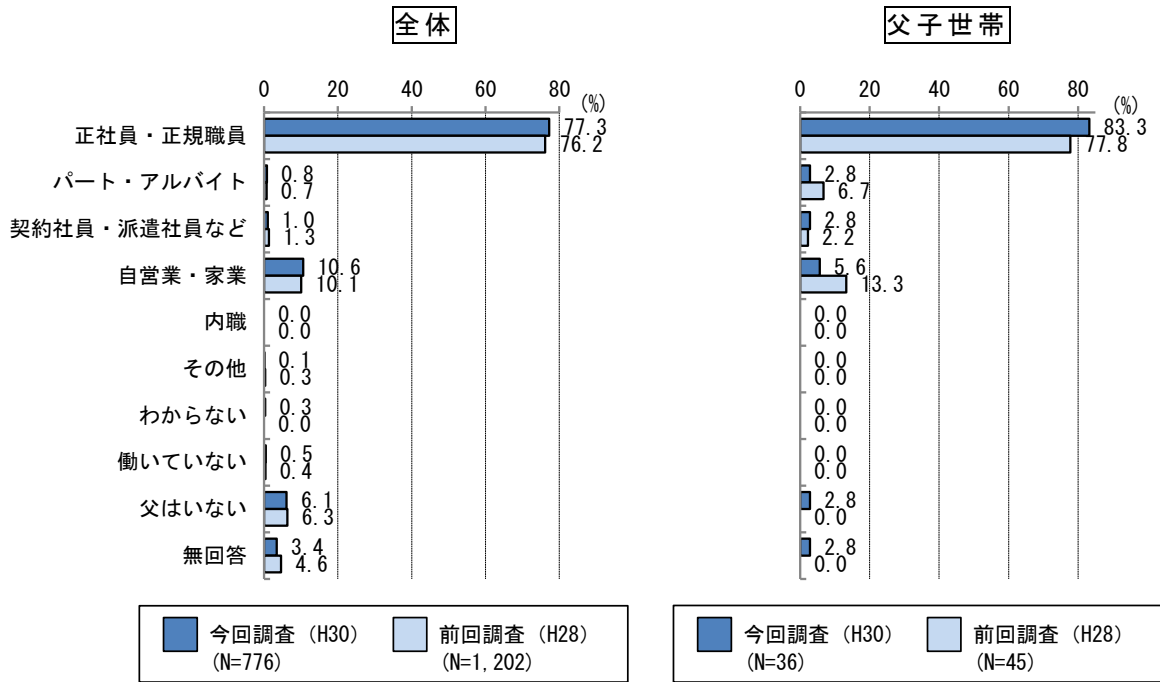
また、母子世帯や生活困難世帯で「まったく付き合っていない」が5%以上と全体を上回っており、とくに中学2年生のいる生活困難世帯で14.3%と孤立傾向がみられます。

〔7〕保護者の就労状況

問C6 お子さんのお父さん・お母さんの働き方を、それぞれお答えください。
 今後復帰予定の方は、予定されている働き方をお答えください。（それぞれについて、1つに○）

お父さん・お母さんがいない場合は、主に子育てをされている方の働き方を③にお答えください。

【父親】

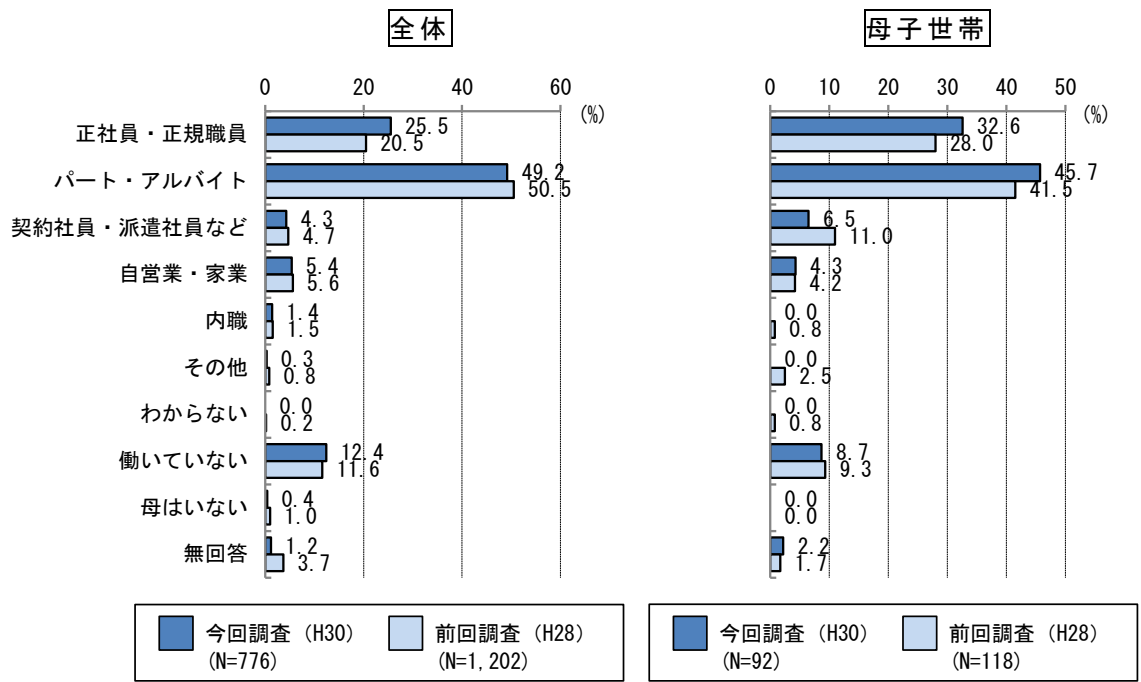


【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

		N	正社員・正規	パート・アルバイト	契約社員・派遣社員など	自営業・家業	内職	その他	わからない	働いていない	父はいない	無回答	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	77.3	0.8	1.0	10.6	0.0	0.1	0.3	0.5	6.1	3.4
		ひとり親家庭	128	39.8	1.6	1.6	7.8	0.0	0.0	0.8	0.0	32.8	15.6
		うち、母子世帯	92	22.8	1.1	1.1	8.7	0.0	0.0	1.1	0.0	44.6	20.7
		うち、父子世帯	36	83.3	2.8	2.8	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8
	小学5年生	全体	423	76.6	0.9	1.4	12.3	0.0	0.2	0.0	0.0	5.7	2.8
		ひとり親家庭	70	42.9	2.9	2.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	15.7
		うち、母子世帯	52	30.8	1.9	1.9	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	19.2
		うち、父子世帯	18	77.8	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	78.2	0.6	0.6	8.5	0.0	0.0	0.6	1.1	6.5	4.0
		ひとり親家庭	58	36.2	0.0	0.0	8.6	0.0	0.0	1.7	0.0	37.9	15.5
うち、母子世帯		40	12.5	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	2.5	0.0	52.5	22.5	
うち、父子世帯		18	88.9	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	
剥奪学年指標別	全体	776	77.3	0.8	1.0	10.6	0.0	0.1	0.3	0.5	6.1	3.4	
	全体	生活困難世帯	58	58.6	1.7	3.4	8.6	0.0	1.7	1.7	1.7	15.5	6.9
		非生活困難世帯	713	79.0	0.7	0.8	10.8	0.0	0.0	0.1	0.4	5.2	2.9
	小学5年生	生活困難世帯	37	56.8	0.0	5.4	13.5	0.0	2.7	0.0	0.0	16.2	5.4
		非生活困難世帯	385	78.4	1.0	1.0	12.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	2.6
	中学2年生	生活困難世帯	21	61.9	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8	14.3	9.5
非生活困難世帯		328	79.6	0.3	0.6	9.1	0.0	0.0	0.3	0.9	5.8	3.4	

II-3. 子どもの生活に関する調査

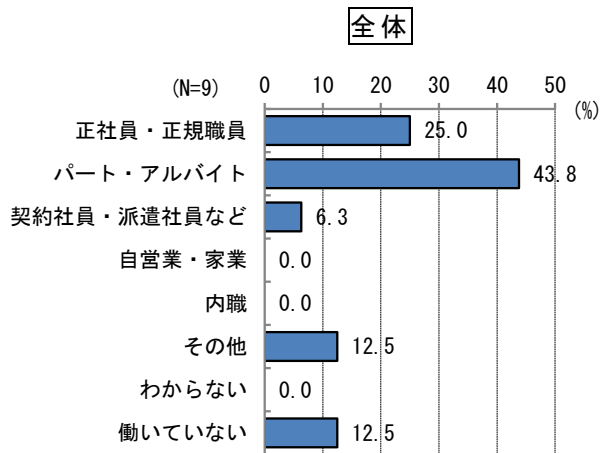
【母親】



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

		N	職 正 員 社 員 ・ 正 規	バ パ イ ト ・ ア ル	遣 契 社 約 員 社 員 な ど ・ 派	自 営 業 ・ 家 業	内 職	そ の 他	わ か ら な い	働 い て い な い	母 は い な い	無 回 答	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	25.5	49.2	4.3	5.4	1.4	0.3	0.0	12.4	0.4	1.2
		ひとり親家庭	128	31.3	43.0	5.5	3.9	0.0	0.0	0.0	10.9	2.3	3.1
		うち、母子世帯	92	32.6	45.7	6.5	4.3	0.0	0.0	0.0	8.7	0.0	2.2
		うち、父子世帯	36	27.8	36.1	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3	5.6
	小学5年生	全体	423	25.1	49.9	2.8	5.9	1.9	0.2	0.0	12.8	0.5	0.9
		ひとり親家庭	70	25.7	47.1	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0	12.9	2.9	4.3
		うち、母子世帯	52	30.8	48.1	5.8	3.8	0.0	0.0	0.0	9.6	0.0	1.9
		うち、父子世帯	18	11.1	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	11.1
	中学2年生	全体	353	26.1	48.4	5.9	4.8	0.8	0.3	0.0	11.9	0.3	1.4
		ひとり親家庭	58	37.9	37.9	6.9	5.2	0.0	0.0	0.0	8.6	1.7	1.7
うち、母子世帯		40	35.0	42.5	7.5	5.0	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	2.5	
うち、父子世帯		18	44.4	27.8	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	11.1	5.6	0.0	
剥奪学 指標・ 別	全体	776	25.5	49.2	4.3	5.4	1.4	0.3	0.0	12.4	0.4	1.2	
	全体	生活困難世帯	58	17.2	60.3	0.0	6.9	1.7	0.0	0.0	10.3	0.0	3.4
		非生活困難世帯	713	26.1	48.5	4.6	5.3	1.3	0.3	0.0	12.6	0.4	0.8
	小学5年生	生活困難世帯	37	24.3	56.8	0.0	8.1	2.7	0.0	0.0	8.1	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	25.2	49.4	3.1	5.7	1.6	0.3	0.0	13.2	0.5	1.0
	中学2年生	生活困難世帯	21	4.8	66.7	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	9.5
非生活困難世帯		328	27.1	47.6	6.4	4.9	0.9	0.3	0.0	11.9	0.3	0.6	

【父母以外】



※無回答を除いて集計

父親の働き方は、「正社員・正規職員」が 77.3%と最も多く、次いで、「自営業・家業」が 10.6%となっています。母子世帯では、「父はいない」が 44.6%と最も多くなっています。

母親の働き方は、「パート・アルバイト」が 49.2%と最も多く、次いで、「正社員・正規職員」が 25.5%となっています。母子世帯でも、「パート・アルバイト」が 45.7%と最も多く、次いで、「正社員・正規職員」が 32.6%となっています。

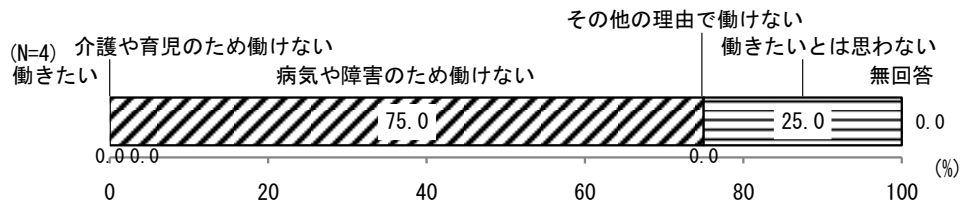
父母以外の働き方は、「パート・アルバイト」が 43.8%と最も多くなっています。

また、生活困難世帯では、「正社員・正規職員」が父親で 58.6%、母親で 17.2%と全体の割合を大きく下回っています。

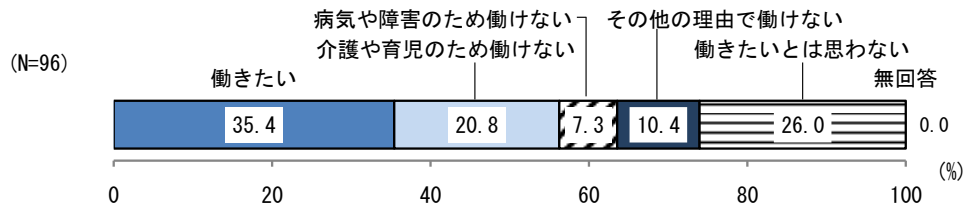
II-3. 子どもの生活に関する調査

「働いていない」を選んだ方のみ
働きたいと思うかについてうかがいます。

【父親】



【母親】



【母子世帯別 (母親)】

			N	働きたい	た介 め護 働や け育 ない の	た病 め気 働や け障 ない の	でそ 働の け他 けな ない 理 由	思働 わき ない とい は	無 回 答
母子 世帯 別	全体	全体	96	35.4	20.8	7.3	10.4	26.0	0.0
		母子世帯	8	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5	0.0
	小学5年生	全体	54	42.6	16.7	5.6	9.3	25.9	0.0
		母子世帯	5	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	中学2年生	全体	42	26.2	26.2	9.5	11.9	26.2	0.0
		母子世帯	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0

働いていない方の就労意向については、父親については、「病気や障害のため働けない」が75.0%と最も多くなっています。

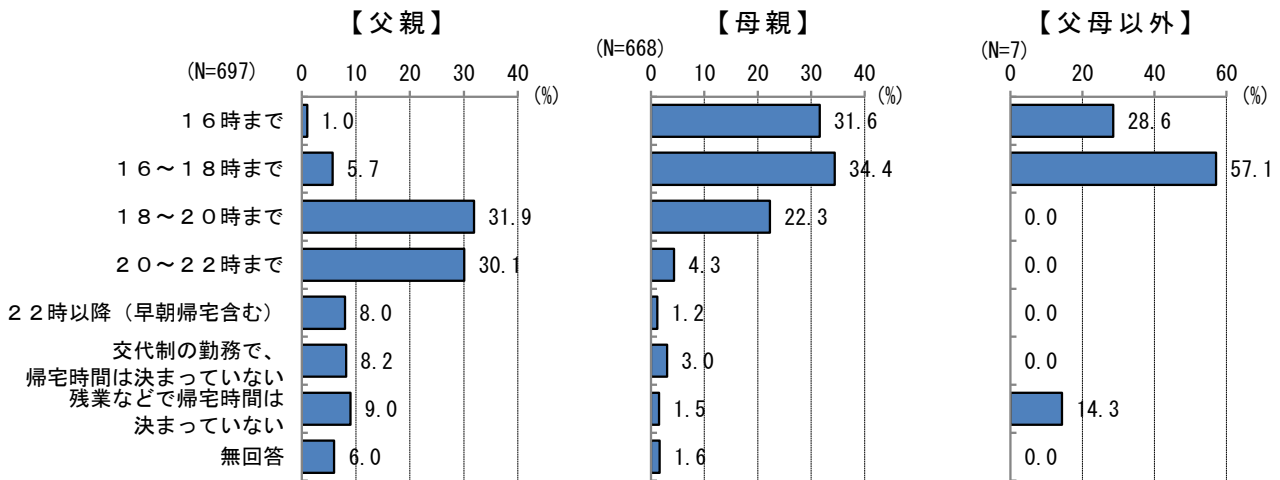
母親については、「働きたい」が35.4%と最も多く、次いで、「働きたいとは思わない」が26.0%となっています。母子世帯では、「働きたい」が37.5%と最も多く、次いで、「介護や育児のため働けない」が25.0%となっています。

〔8〕働いている保護者の帰宅時間

現在働いている方にうかがいます。

問C6-1 お子さんのお父さん・お母さんが、普段仕事から帰宅する時間帯で、最も多い時間帯は何時ごろですか。(それぞれについて、1つに○)

お父さん・お母さんがいない場合は、主に子育てをされている方の帰宅時間をお答えください。



【学年・母子父子世帯別】

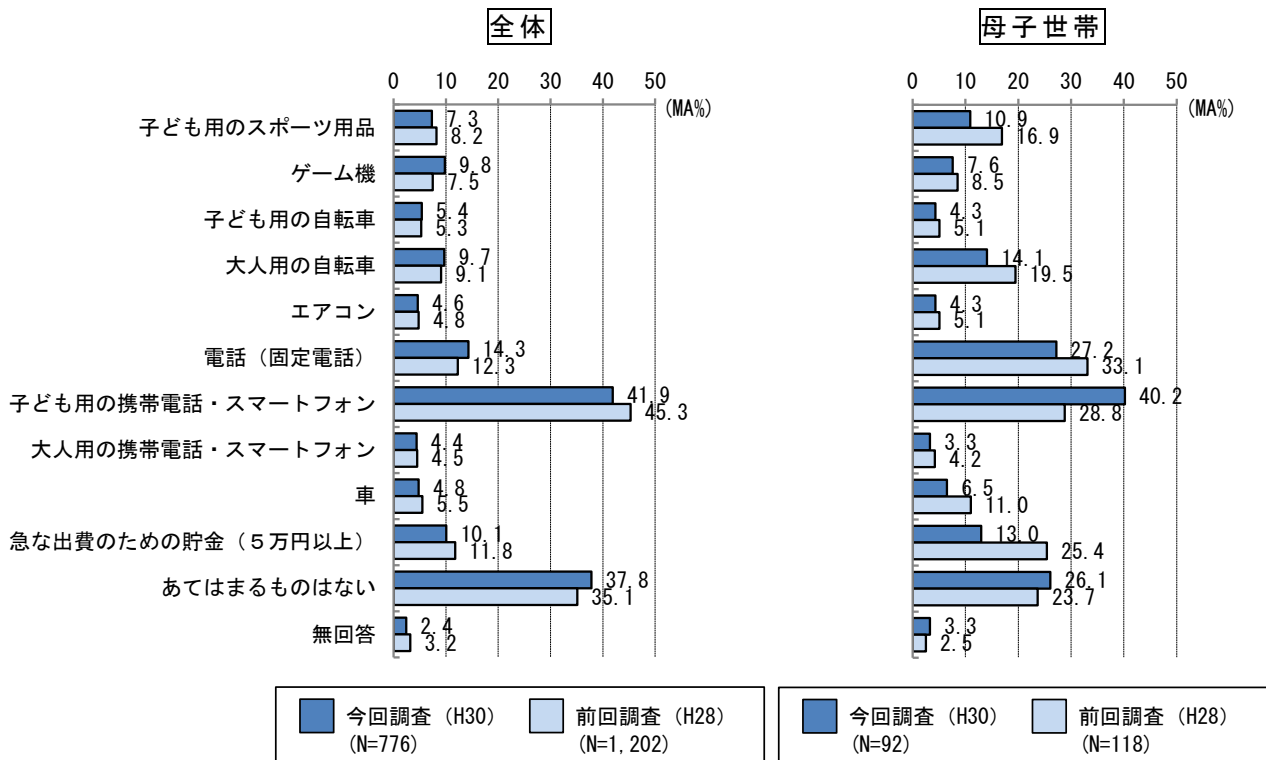
		N	16時まで	16～18時まで	18～20時まで	20～22時まで	22時以降 (早朝帰宅含む)	交代制の勤務で、帰宅時間は決まっていない	残業などで帰宅時間は決まっていない	無回答	
父親	全体	全体	697	1.0	5.7	31.9	30.1	8.0	8.2	9.0	6.0
		ひとり親家庭	65	1.5	0.0	27.7	24.6	7.7	13.8	9.2	15.4
		うち、母子世帯	31	0.0	0.0	35.5	16.1	9.7	9.7	9.7	19.4
		うち、父子世帯	34	2.9	0.0	20.6	32.4	5.9	17.6	8.8	11.8
	小学5年生	全体	387	1.6	5.2	31.3	28.4	8.8	9.3	9.3	6.2
		ひとり親家庭	39	2.6	0.0	33.3	20.5	7.7	12.8	7.7	15.4
		うち、母子世帯	22	0.0	0.0	45.5	13.6	9.1	9.1	9.1	13.6
		うち、父子世帯	17	5.9	0.0	17.6	29.4	5.9	17.6	5.9	17.6
	中学2年生	全体	310	0.3	6.5	32.6	32.3	7.1	6.8	8.7	5.8
		ひとり親家庭	26	0.0	0.0	19.2	30.8	7.7	15.4	11.5	15.4
		うち、母子世帯	9	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	33.3
		うち、父子世帯	17	0.0	0.0	23.5	35.3	5.9	17.6	11.8	5.9
母親	全体	全体	668	31.6	34.4	22.3	4.3	1.2	3.0	1.5	1.6
		ひとり親家庭	107	27.1	34.6	26.2	6.5	0.9	3.7	0.0	0.9
		うち、母子世帯	82	23.2	37.8	26.8	7.3	1.2	2.4	0.0	1.2
		うち、父子世帯	25	40.0	24.0	24.0	4.0	0.0	8.0	0.0	0.0
	小学5年生	全体	363	36.9	32.0	21.2	3.0	0.8	1.9	1.9	2.2
		ひとり親家庭	56	32.1	37.5	26.8	0.0	1.8	0.0	0.0	1.8
		うち、母子世帯	46	28.3	37.0	30.4	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2
		うち、父子世帯	10	50.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中学2年生	全体	305	25.2	37.4	23.6	5.9	1.6	4.3	1.0	1.0
		ひとり親家庭	51	21.6	31.4	25.5	13.7	0.0	7.8	0.0	0.0
		うち、母子世帯	36	16.7	38.9	22.2	16.7	0.0	5.6	0.0	0.0
		うち、父子世帯	15	33.3	13.3	33.3	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0

働いている方の帰宅時間は、父親については、「18～20時まで」が31.9%と最も多く、次いで、「20～22時まで」が30.1%となっています。母親については、「16～18時まで」が34.4%と最も多く、次いで、「16時まで」が31.6%となっています。

D 暮らしの状況

〔1〕家庭にないもの

問D1 次のもののうち、あなたの家庭にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)



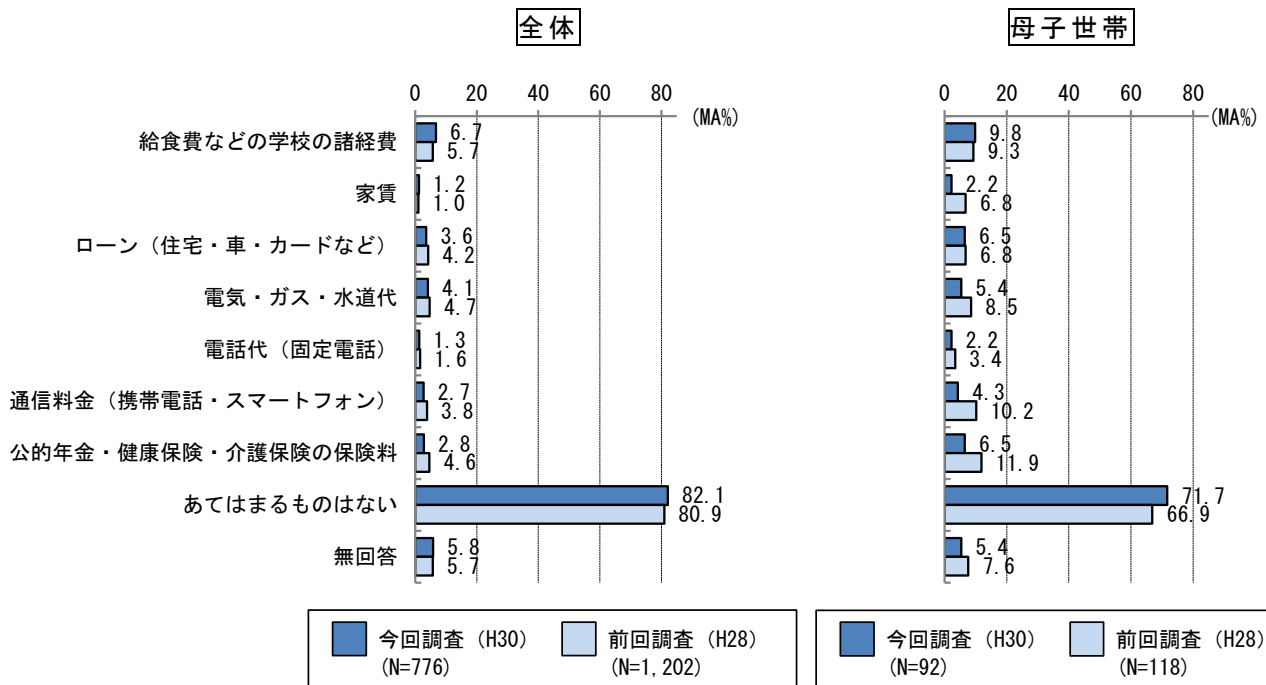
【学年・剥奪指標別／医療費の支払い困難別】

		N	子ども用のスポーツ用品	ゲーム機	子ども用の自転車	大人用の自転車	エアコン	電話 (固定電話)	子ども用の携帯電話・スマートフォン	大人用の携帯電話・スマートフォン	車	急な出費のための貯金 (5万円以上)	あてはまるものはない	無回答	
剥奪学 指年 標・ 別	全体	776	7.3	9.8	5.4	9.7	4.6	14.3	41.9	4.4	4.8	10.1	37.8	2.4	
	全体	生活困難世帯	58	13.8	8.6	6.9	29.3	6.9	22.4	32.8	5.2	5.2	41.4	22.4	1.7
		非生活困難世帯	713	6.9	10.0	5.3	8.1	4.5	13.7	42.9	4.3	4.8	7.6	39.0	2.1
	小学5年生	生活困難世帯	37	16.2	8.1	8.1	32.4	8.1	21.6	32.4	8.1	8.1	37.8	24.3	2.7
		非生活困難世帯	385	6.0	9.9	4.4	7.8	4.2	15.6	51.9	3.9	4.7	6.5	30.9	1.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	9.5	9.5	4.8	23.8	4.8	23.8	33.3	0.0	0.0	47.6	19.0	0.0
非生活困難世帯		328	7.9	10.1	6.4	8.5	4.9	11.6	32.3	4.9	4.9	8.8	48.5	3.0	
支医 難払 療別 費 困の	全体	776	7.3	9.8	5.4	9.7	4.6	14.3	41.9	4.4	4.8	10.1	37.8	2.4	
	医療費の支払い困難世帯 (問D4-1で3を選択)	35	8.6	11.4	8.6	34.3	11.4	25.7	31.4	8.6	8.6	57.1	17.1	2.9	
	上記以外の世帯	736	7.3	9.8	5.3	8.6	4.3	13.9	42.5	4.2	4.6	7.9	38.9	2.0	

家庭にないものについては、「子ども用の携帯電話・スマートフォン」が41.9%と最も多くなっています。母子世帯でも、「子ども用の携帯電話・スマートフォン」が40.2%と最も多くなっています。

〔2〕支払いが遅れたこと

問D2 次の費用のうち、過去1年間に支払いが遅れたことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・剥奪指標別／医療費の支払い困難別】

		N	の給食費などの学校の諸経費	家賃	ローン(住宅・車・カードなど)	電気・ガス・水道代	電話代(固定電話)	通信料金(携帯電話・スマートフォン)	保険料(介護・健康保険)	公的年金・健康保険	あてはまるものはない	無回答
剥奪学年別	全体	776	6.7	1.2	3.6	4.1	1.3	2.7	2.8	82.1	5.8	
	全体	生活困難世帯	58	24.1	10.3	27.6	25.9	10.3	12.1	19.0	44.8	5.2
		非生活困難世帯	713	5.3	0.4	1.7	2.2	0.6	1.8	1.5	85.7	5.5
	小学5年生	生活困難世帯	37	27.0	10.8	29.7	24.3	10.8	8.1	18.9	35.1	8.1
		非生活困難世帯	385	4.7	0.3	2.6	2.3	0.5	1.8	0.8	87.0	4.4
	中学2年生	生活困難世帯	21	19.0	9.5	23.8	28.6	9.5	19.0	19.0	61.9	0.0
非生活困難世帯		328	6.1	0.6	0.6	2.1	0.6	1.8	2.4	84.1	6.7	
支医療費困難	全体	776	6.7	1.2	3.6	4.1	1.3	2.7	2.8	82.1	5.8	
	医療費の支払い困難世帯(問D4-1で3を選択)	35	34.3	11.4	22.9	40.0	17.1	25.7	22.9	42.9	2.9	
	上記以外の世帯	736	5.3	0.7	2.6	2.3	0.5	1.6	1.9	84.5	5.4	

過去1年間に支払いが遅れたことについては、「給食費などの学校の諸経費」が6.7%と最も多く、次いで、「電気・ガス・水道代」が4.1%となっています。

母子世帯では、「給食費などの学校の諸経費」が9.8%と最も多く、次いで、「ローン(住宅・車・カードなど)」、「公的年金・健康保険・介護保険の保険料の支払い」がそれぞれ6.5%となっています。

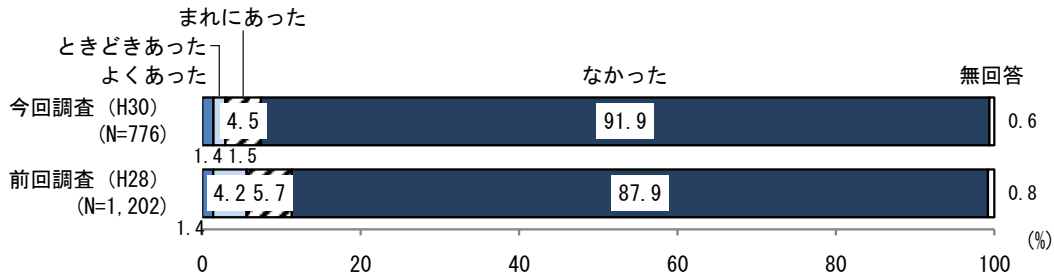
また、生活困難世帯では「あてはまるものはない」が全体の82.1%に比べ44.8%と低くなっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

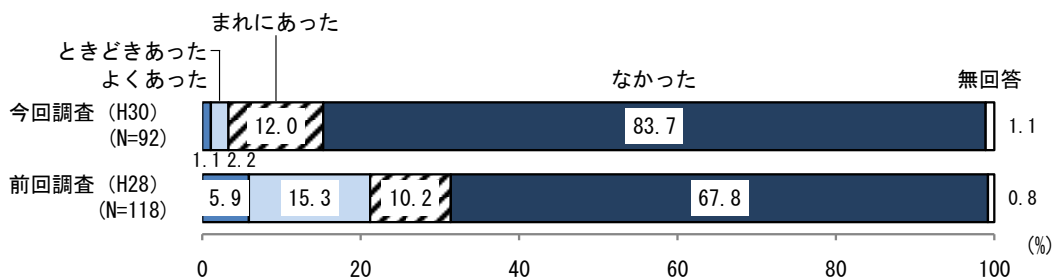
〔3〕 必要なものが買えなかったこと

問D3 あなたは、過去1年間に、お金がなくて家族が必要とする食べ物や衣服が買えないことがありましたか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別／医療費の支払い困難別／初めて子どもをもち保護者の年齢別】

		N	よくあった	ときどきあった	まれにあった	なかった	無回答	の「合計」	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	1.4	1.5	4.5	91.9	0.6	7.4
		ひとり親家庭	128	0.8	1.6	10.2	85.9	1.6	12.6
		うち、母子世帯	92	1.1	2.2	12.0	83.7	1.1	15.3
		うち、父子世帯	36	0.0	0.0	5.6	91.7	2.8	5.6
	小学5年生	全体	423	1.7	1.9	5.2	91.0	0.2	8.8
		ひとり親家庭	70	1.4	2.9	10.0	85.7	0.0	14.3
		うち、母子世帯	52	1.9	3.8	11.5	82.7	0.0	17.2
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	5.6	94.4	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	1.1	1.1	3.7	92.9	1.1	5.9
		ひとり親家庭	58	0.0	0.0	10.3	86.2	3.4	10.3
		うち、母子世帯	40	0.0	0.0	12.5	85.0	2.5	12.5
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	5.6	88.9	5.6	5.6
剥奪学年指標別	全体	776	1.4	1.5	4.5	91.9	0.6	7.4	
	全体	生活困難世帯	58	19.0	20.7	60.3	0.0	0.0	100.0
		非生活困難世帯	713	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	37	18.9	21.6	59.5	0.0	0.0	100.0
		非生活困難世帯	385	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	21	19.0	19.0	61.9	0.0	0.0	99.9
非生活困難世帯	328	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
医療費の支払い困難別	全体	776	1.4	1.5	4.5	91.9	0.6	7.4	
	医療費の支払い困難世帯 (問D4-1で3を選択)	35	22.9	8.6	37.1	31.4	0.0	68.6	
	上記以外の世帯	736	0.4	1.2	3.0	95.1	0.3	4.6	
初めて子どもをもち保護者の年齢別	全体	776	1.4	1.5	4.5	91.9	0.6	7.4	
	～19歳	9	22.2	0.0	11.1	66.7	0.0	33.3	
	20歳～24歳	111	0.0	2.7	7.2	90.1	0.0	9.9	
	25歳～29歳	351	0.9	0.6	4.3	93.2	1.1	5.8	
	30歳～34歳	231	1.7	2.2	3.0	93.1	0.0	6.9	
	35歳～39歳	35	5.7	2.9	5.7	85.7	0.0	14.3	
40歳～	15	0.0	6.7	0.0	93.3	0.0	6.7		

過去1年間で、必要とする食べ物や衣服が買えなかった経験の有無については、「なかった」が91.9%と最も多くなっています。母子世帯でも、「なかった」が83.7%と最も多くなっています。

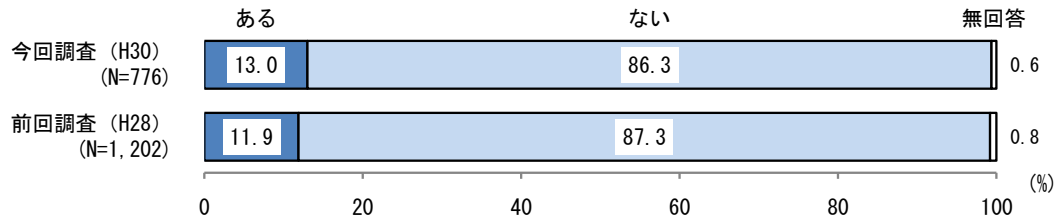
「よくあった」、「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた『あった』（生活困難世帯）は7.4%となっています。母子世帯では、『あった』（生活困難世帯）は15.3%となっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

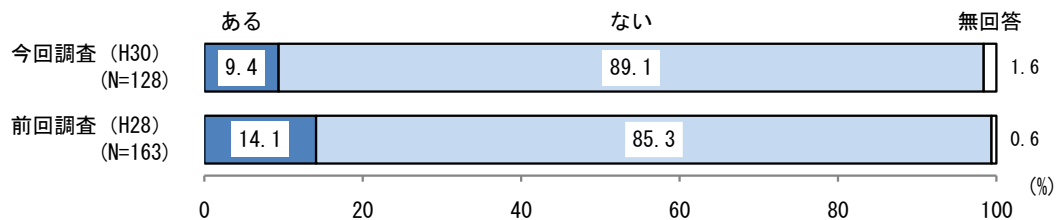
〔4〕 病院や診療所を受診したほうがいいのにしなかったこと

問D4 過去1年間に、子どもの病気やケガの治療のため、病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、受診しなかったことがありますか。(1つに○)

全体



ひとり親家庭



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

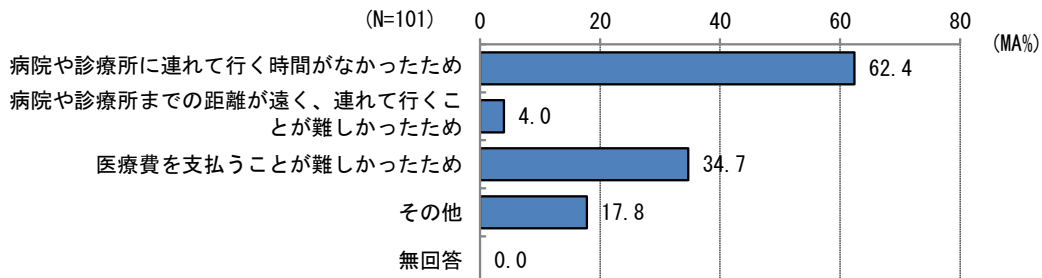
		N	ある (%)	ない (%)	無回答 (%)	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	13.0	86.3	0.6
		ひとり親家庭	128	9.4	89.1	1.6
		うち、母子世帯	92	9.8	89.1	1.1
		うち、父子世帯	36	8.3	88.9	2.8
	小学5年生	全体	423	13.9	85.6	0.5
		ひとり親家庭	70	5.7	94.3	0.0
		うち、母子世帯	52	5.8	94.2	0.0
		うち、父子世帯	18	5.6	94.4	0.0
	中学2年生	全体	353	11.9	87.3	0.8
		ひとり親家庭	58	13.8	82.8	3.4
		うち、母子世帯	40	15.0	82.5	2.5
		うち、父子世帯	18	11.1	83.3	5.6
剥奪学年指標別	全体	全体	776	13.0	86.3	0.6
		生活困難世帯	58	44.8	55.2	0.0
	小学5年生	全体	713	10.4	89.3	0.3
		非生活困難世帯	37	37.8	62.2	0.0
	中学2年生	全体	385	11.7	87.8	0.5
		非生活困難世帯	21	57.1	42.9	0.0
	中学2年生	全体	328	8.8	91.2	0.0
		非生活困難世帯				

過去1年間で、子どもが病院や診療所を受診したほうがよいのに、受診しなかった経験の有無については、「ある」が13.0%、「ない」が86.3%となっています。ひとり親家庭では、「ある」が9.4%、「ない」が89.1%となっています。また、生活困難世帯では「ある」が44.8%と全体を大幅に上回っています。

〔5〕 病院や診療所を受診しなかった理由

問D4で、「ある」を選んだ方のみ

問D4-1 病院や診療所を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別（問D4で、「ない」と答えた方を含めて集計）】

		N	で世医療 3帯療 を費 選問の 択D支 4払 -い 1困 難	左 記 以 外 の 世 帯	無 回 答	
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	4.5	94.8	0.6
		ひとり親家庭	128	3.9	94.5	1.6
		うち、母子世帯	92	5.4	93.5	1.1
		うち、父子世帯	36	0.0	97.2	2.8
	小学5年生	全体	423	4.5	95.0	0.5
		ひとり親家庭	70	2.9	97.1	0.0
		うち、母子世帯	52	3.8	96.2	0.0
		うち、父子世帯	18	0.0	100.0	0.0
	中学2年生	全体	353	4.5	94.6	0.8
		ひとり親家庭	58	5.2	91.4	3.4
		うち、母子世帯	40	7.5	90.0	2.5
		うち、父子世帯	18	0.0	94.4	5.6
剥奪学 指年 標・ 別	全体	776	4.5	94.8	0.6	
	全体	生活困難世帯	58	41.4	58.6	0.0
		非生活困難世帯	713	1.5	98.2	0.3
	小学5年生	生活困難世帯	37	37.8	62.2	0.0
		非生活困難世帯	385	1.3	98.2	0.5
	中学2年生	生活困難世帯	21	47.6	52.4	0.0
		非生活困難世帯	328	1.8	98.2	0.0

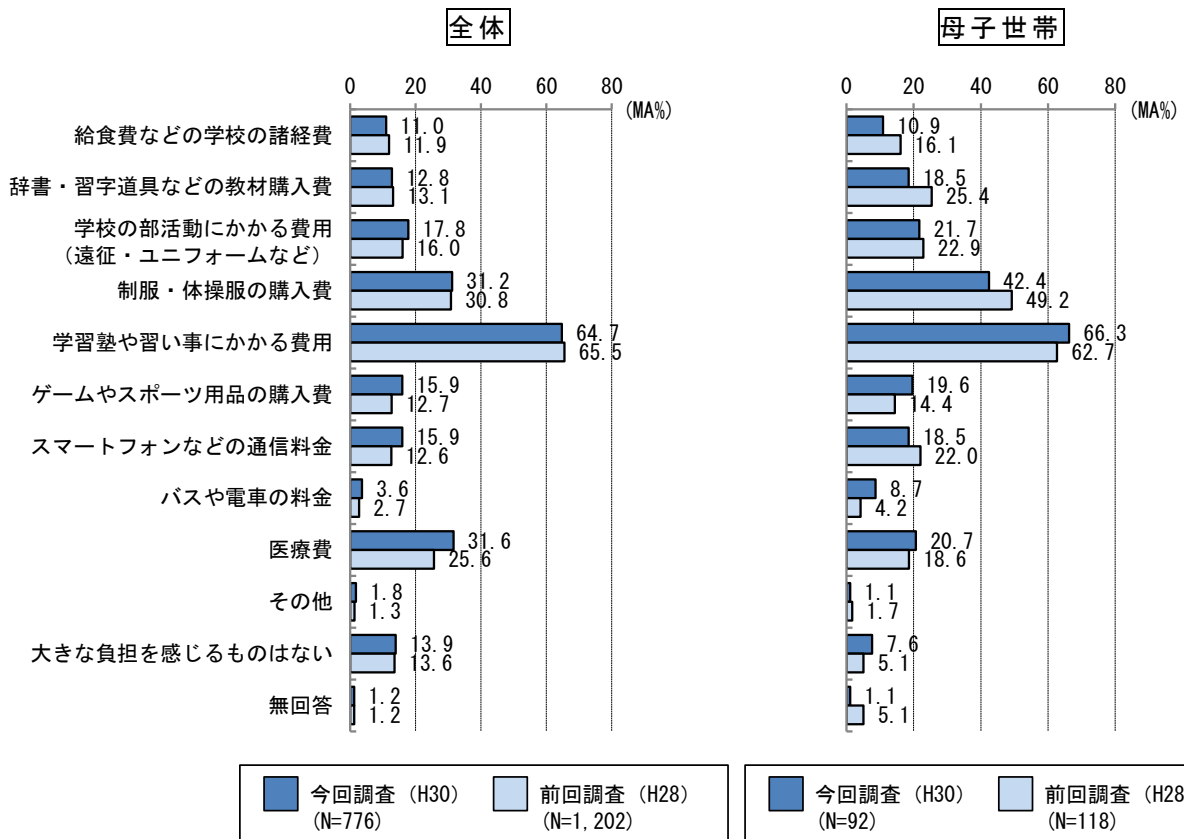
病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、受診しなかったことが「ある」とお答えの方に、その理由についてたずねたところ、「病院や診療所に連れて行く時間がかかったため」が62.4%と最も多く、次いで、「医療費を支払うことが難しかったため」が34.7%となっています。

医療費を支払うことが難しかったために病院や診療所を受診しなかった方は、調査対象者全体の4.5%となっています。母子家庭では、母子家庭全体の5.4%となっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

〔6〕 経済的に負担が大きいと感じるもの

問D5 お子さんにかかる費用のうち、経済的に負担が大きいと感じるものは何ですか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・剥奪指標別／医療費の支払い困難別】

		N	諸給食費	給食費などの学校の	の教材購入費など	辞書・習字道具など	の費用 (遠征・ユニフォームなど)	学校の部活動にかかる費用	制服・体操服の購入費	か学習塾や習い事にかかる費用	品ゲームやスポーツ用品	の通信料金	スマートフォンなどの	バスや電車の料金	医療費	その他	ものはない	大きな負担を感じる	無回答
剥奪学年別	全体	776	11.0	12.8	17.8	31.2	64.7	15.9	15.9	3.6	31.6	1.8	13.9	1.2					
	生活困難世帯	58	36.2	41.4	37.9	56.9	58.6	37.9	29.3	10.3	55.2	8.6	5.2	0.0					
	非生活困難世帯	713	9.0	10.4	16.1	29.2	65.2	14.2	14.9	3.1	29.7	1.3	14.7	1.0					
	小学5年生	37	37.8	43.2	24.3	59.5	64.9	35.1	32.4	8.1	54.1	2.7	5.4	0.0					
	非生活困難世帯	385	9.1	11.7	12.2	27.8	65.5	16.9	8.6	2.1	34.8	1.3	15.6	1.0					
	中学2年生	21	33.3	38.1	61.9	52.4	47.6	42.9	23.8	14.3	57.1	19.0	4.8	0.0					
非生活困難世帯	328	8.8	8.8	20.7	30.8	64.9	11.0	22.3	4.3	23.8	1.2	13.7	0.9						
支医療費の支払い困難	全体	776	11.0	12.8	17.8	31.2	64.7	15.9	15.9	3.6	31.6	1.8	13.9	1.2					
	医療費の支払い困難世帯 (問D4-1で3を選択)	35	31.4	37.1	42.9	54.3	54.3	37.1	40.0	14.3	77.1	11.4	0.0	0.0					
	上記以外の世帯	736	10.1	11.7	16.7	30.2	65.1	14.8	14.8	3.1	29.5	1.4	14.7	1.1					

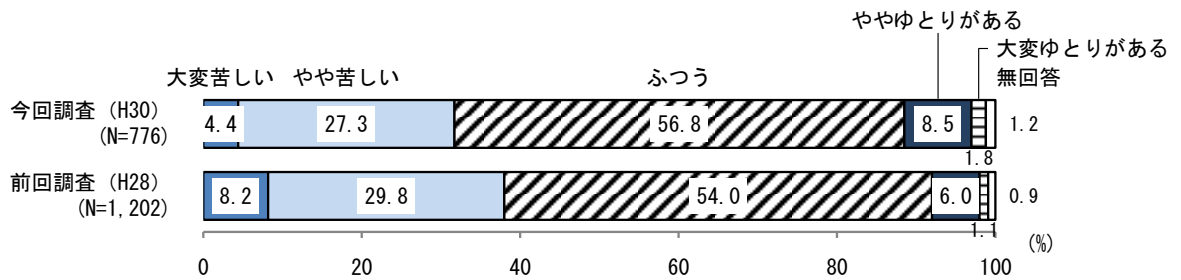
経済的に負担が大きいと感じるものについては、「学習塾や習い事にかかる費用」が64.7%と最も多く、次いで、「医療費」が31.6%となっています。

母子世帯では、「学習塾や習い事にかかる費用」が66.3%と最も多く、次いで、「制服・体操服の購入費」が42.4%となっています。

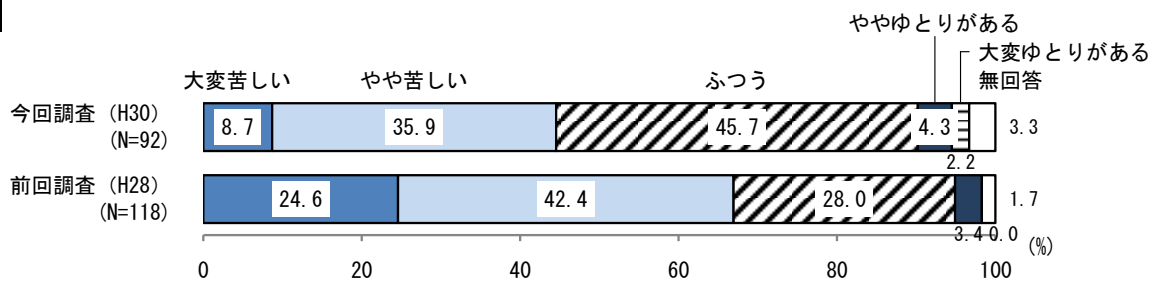
〔7〕暮らしの状況

問D6 現在の暮らしの状況を、どう感じていますか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別／医療費の支払い困難別】

		N	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	が大変ゆとりがある	無回答	の「合計」	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	4.4	27.3	56.8	8.5	1.8	1.2	31.7
		ひとり親家庭	128	6.3	32.8	49.2	7.0	1.6	3.1	39.1
		うち、母子世帯	92	8.7	35.9	45.7	4.3	2.2	3.3	44.6
		うち、父子世帯	36	0.0	25.0	58.3	13.9	0.0	2.8	25.0
	小学5年生	全体	423	4.5	26.0	57.2	9.7	1.9	0.7	30.5
		ひとり親家庭	70	7.1	32.9	47.1	8.6	1.4	2.9	40.0
		うち、母子世帯	52	9.6	34.6	46.2	5.8	1.9	1.9	44.2
		うち、父子世帯	18	0.0	27.8	50.0	16.7	0.0	5.6	27.8
	中学2年生	全体	353	4.2	28.9	56.4	7.1	1.7	1.7	33.1
		ひとり親家庭	58	5.2	32.8	51.7	5.2	1.7	3.4	38.0
		うち、母子世帯	40	7.5	37.5	45.0	2.5	2.5	5.0	45.0
		うち、父子世帯	18	0.0	22.2	66.7	11.1	0.0	0.0	22.2
剥奪学年指標別	全体	全体	776	4.4	27.3	56.8	8.5	1.8	1.2	31.7
		生活困難世帯	58	32.8	56.9	10.3	0.0	0.0	0.0	89.7
	小学5年生	生活困難世帯	713	2.1	24.8	60.9	9.3	2.0	1.0	26.9
		非生活困難世帯	37	32.4	56.8	10.8	0.0	0.0	0.0	89.2
	中学2年生	生活困難世帯	385	1.8	22.9	61.8	10.6	2.1	0.8	24.7
		非生活困難世帯	21	33.3	57.1	9.5	0.0	0.0	0.0	90.4
支医療費別の困難	全体	776	4.4	27.3	56.8	8.5	1.8	1.2	31.7	
	医療費の支払い困難世帯 (問D4-1で3を選択)	35	40.0	42.9	17.1	0.0	0.0	0.0	82.9	
	上記以外の世帯	736	2.7	26.5	58.8	9.0	1.9	1.1	29.2	

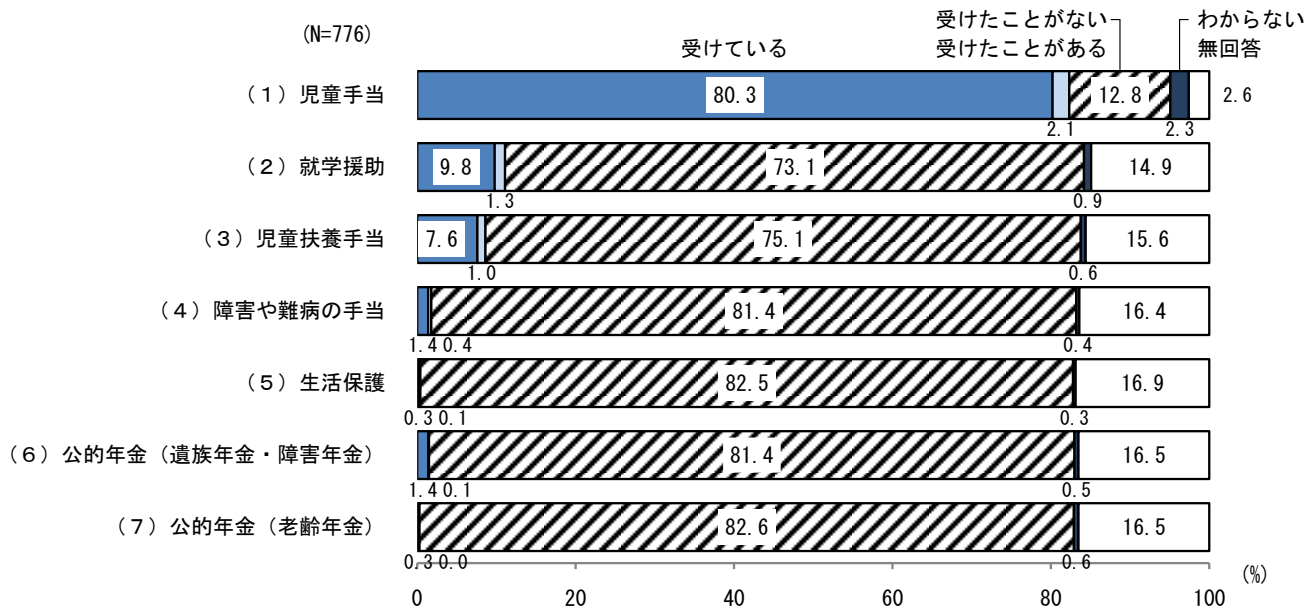
現在の暮らしの状況については、「ふつう」が 56.8%と最も多くなっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が 31.7%となっています。

母子世帯でも、「ふつう」が 45.7%と最も多くなっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が 44.6%となっています。

E 市の取り組み

〔1〕 受けたことのある手当や援助

問 E 1 あなたは、過去1年間に、次の手当や援助などを受けたことがありますか。(1)～(7)それぞれについて、1つに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

(1) 児童手当

		N	受けている (%)	が受けたこと (%)	が受けたこと (%)	わからない (%)	無回答 (%)	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	80.3	2.1	12.8	2.3	2.6
		ひとり親家庭	128	81.3	3.1	11.7	0.8	3.1
		うち、母子世帯	92	87.0	3.3	6.5	0.0	3.3
		うち、父子世帯	36	66.7	2.8	25.0	2.8	2.8
	小学5年生	全体	423	82.3	2.1	10.9	2.6	2.1
		ひとり親家庭	70	81.4	4.3	11.4	0.0	2.9
		うち、母子世帯	52	88.5	5.8	3.8	0.0	1.9
		うち、父子世帯	18	61.1	0.0	33.3	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	77.9	2.0	15.0	2.0	3.1
		ひとり親家庭	58	81.0	1.7	12.1	1.7	3.4
		うち、母子世帯	40	85.0	0.0	10.0	0.0	5.0
		うち、父子世帯	18	72.2	5.6	16.7	5.6	0.0
剥奪学指標別	全体		776	80.3	2.1	12.8	2.3	2.6
	全体	生活困難世帯	58	77.6	3.4	15.5	1.7	1.7
		非生活困難世帯	713	80.6	1.8	12.6	2.4	2.5
	小学5年生	生活困難世帯	37	81.1	5.4	13.5	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	82.3	1.8	10.6	2.9	2.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	71.4	0.0	19.0	4.8	4.8
		非生活困難世帯	328	78.7	1.8	14.9	1.8	2.7

(2) 就学援助

			N	受 け て い る	が あ る 受 け た こ と	が 受 け な い た こ と	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	9.8	1.3	73.1	0.9	14.9
		ひとり親家庭	128	40.6	0.8	49.2	0.0	9.4
		うち、母子世帯	92	54.3	1.1	35.9	0.0	8.7
		うち、父子世帯	36	5.6	0.0	83.3	0.0	11.1
	小学5年生	全体	423	10.4	1.4	72.8	0.9	14.4
		ひとり親家庭	70	44.3	1.4	45.7	0.0	8.6
		うち、母子世帯	52	55.8	1.9	32.7	0.0	9.6
		うち、父子世帯	18	11.1	0.0	83.3	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	9.1	1.1	73.4	0.8	15.6
		ひとり親家庭	58	36.2	0.0	53.4	0.0	10.3
		うち、母子世帯	40	52.5	0.0	40.0	0.0	7.5
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7
剥奪学 指年 標・ 別	全体		776	9.8	1.3	73.1	0.9	14.9
	全体	生活困難世帯	58	27.6	5.2	51.7	0.0	15.5
		非生活困難世帯	713	8.3	1.0	75.0	1.0	14.7
	小学5年生	生活困難世帯	37	27.0	5.4	56.8	0.0	10.8
		非生活困難世帯	385	8.8	1.0	74.3	1.0	14.8
	中学2年生	生活困難世帯	21	28.6	4.8	42.9	0.0	23.8
		非生活困難世帯	328	7.6	0.9	75.9	0.9	14.6

(3) 児童扶養手当

			N	受 け て い る	が あ る 受 け た こ と	が 受 け な い た こ と	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	7.6	1.0	75.1	0.6	15.6
		ひとり親家庭	128	36.7	1.6	52.3	0.0	9.4
		うち、母子世帯	92	46.7	2.2	41.3	0.0	9.8
		うち、父子世帯	36	11.1	0.0	80.6	0.0	8.3
	小学5年生	全体	423	7.6	1.4	75.4	0.7	14.9
		ひとり親家庭	70	37.1	1.4	51.4	0.0	10.0
		うち、母子世帯	52	46.2	1.9	40.4	0.0	11.5
		うち、父子世帯	18	11.1	0.0	83.3	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	7.6	0.6	74.8	0.6	16.4
		ひとり親家庭	58	36.2	1.7	53.4	0.0	8.6
		うち、母子世帯	40	47.5	2.5	42.5	0.0	7.5
		うち、父子世帯	18	11.1	0.0	77.8	0.0	11.1
剥奪学 指年 標・ 別	全体		776	7.6	1.0	75.1	0.6	15.6
	全体	生活困難世帯	58	17.2	0.0	67.2	0.0	15.5
		非生活困難世帯	713	6.7	1.1	76.0	0.7	15.4
	小学5年生	生活困難世帯	37	13.5	0.0	75.7	0.0	10.8
		非生活困難世帯	385	7.0	1.6	75.3	0.8	15.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	23.8	0.0	52.4	0.0	23.8
		非生活困難世帯	328	6.4	0.6	76.8	0.6	15.5

II-3. 子どもの生活に関する調査

(4) 障害や難病の手当

			N	受 け て い る	が あ げ た こ と	が 受 け な い た こ と	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	1.4	0.4	81.4	0.4	16.4
		ひとり親家庭	128	3.1	1.6	78.9	0.0	16.4
		うち、母子世帯	92	2.2	2.2	77.2	0.0	18.5
		うち、父子世帯	36	5.6	0.0	83.3	0.0	11.1
	小学5年生	全体	423	1.7	0.5	81.8	0.2	15.8
		ひとり親家庭	70	4.3	1.4	75.7	0.0	18.6
		うち、母子世帯	52	1.9	1.9	73.1	0.0	23.1
		うち、父子世帯	18	11.1	0.0	83.3	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	1.1	0.3	81.0	0.6	17.0
		ひとり親家庭	58	1.7	1.7	82.8	0.0	13.8
		うち、母子世帯	40	2.5	2.5	82.5	0.0	12.5
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7
剥奪学 指年 標・ 別	全体		776	1.4	0.4	81.4	0.4	16.4
	全体	生活困難世帯	58	6.9	0.0	75.9	0.0	17.2
		非生活困難世帯	713	1.0	0.4	82.2	0.4	16.0
	小学5年生	生活困難世帯	37	8.1	0.0	78.4	0.0	13.5
		非生活困難世帯	385	1.0	0.5	82.1	0.3	16.1
	中学2年生	生活困難世帯	21	4.8	0.0	71.4	0.0	23.8
		非生活困難世帯	328	0.9	0.3	82.3	0.6	15.9

(5) 生活保護

			N	受 け て い る	が あ げ た こ と	が 受 け な い た こ と	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	0.3	0.1	82.5	0.3	16.9
		ひとり親家庭	128	1.6	0.0	80.5	0.0	18.0
		うち、母子世帯	92	2.2	0.0	78.3	0.0	19.6
		うち、父子世帯	36	0.0	0.0	86.1	0.0	13.9
	小学5年生	全体	423	0.2	0.2	82.7	0.2	16.5
		ひとり親家庭	70	1.4	0.0	77.1	0.0	21.4
		うち、母子世帯	52	1.9	0.0	73.1	0.0	25.0
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	88.9	0.0	11.1
	中学2年生	全体	353	0.3	0.0	82.2	0.3	17.3
		ひとり親家庭	58	1.7	0.0	84.5	0.0	13.8
		うち、母子世帯	40	2.5	0.0	85.0	0.0	12.5
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7
剥奪学 指年 標・ 別	全体		776	0.3	0.1	82.5	0.3	16.9
	全体	生活困難世帯	58	0.0	1.7	75.9	0.0	22.4
		非生活困難世帯	713	0.3	0.0	83.3	0.3	16.1
	小学5年生	生活困難世帯	37	0.0	2.7	78.4	0.0	18.9
		非生活困難世帯	385	0.3	0.0	83.1	0.3	16.4
	中学2年生	生活困難世帯	21	0.0	0.0	71.4	0.0	28.6
		非生活困難世帯	328	0.3	0.0	83.5	0.3	15.9

(6) 公的年金（遺族年金・障害年金）

(%)

			N	受 け て い る	が 受 け た こ と	が 受 け な い こ と	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	1.4	0.1	81.4	0.5	16.5
		ひとり親家庭	128	5.5	0.0	77.3	0.8	16.4
		うち、母子世帯	92	6.5	0.0	73.9	1.1	18.5
		うち、父子世帯	36	2.8	0.0	86.1	0.0	11.1
	小学5年生	全体	423	0.9	0.2	82.0	0.5	16.3
		ひとり親家庭	70	4.3	0.0	74.3	1.4	20.0
		うち、母子世帯	52	3.8	0.0	69.2	1.9	25.0
		うち、父子世帯	18	5.6	0.0	88.9	0.0	5.6
	中学2年生	全体	353	2.0	0.0	80.7	0.6	16.7
		ひとり親家庭	58	6.9	0.0	81.0	0.0	12.1
		うち、母子世帯	40	10.0	0.0	80.0	0.0	10.0
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7
剥奪学 指年 標・ 別	全体		776	1.4	0.1	81.4	0.5	16.5
	全体	生活困難世帯	58	3.4	0.0	77.6	0.0	19.0
		非生活困難世帯	713	1.3	0.1	82.0	0.6	16.0
	小学5年生	生活困難世帯	37	2.7	0.0	81.1	0.0	16.2
		非生活困難世帯	385	0.8	0.3	82.1	0.5	16.4
	中学2年生	生活困難世帯	21	4.8	0.0	71.4	0.0	23.8
		非生活困難世帯	328	1.8	0.0	82.0	0.6	15.5

(7) 公的年金（老齢年金）

(%)

			N	受 け て い る	が 受 け た こ と	が 受 け な い こ と	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	776	0.3	0.0	82.6	0.6	16.5
		ひとり親家庭	128	0.0	0.0	81.3	0.8	18.0
		うち、母子世帯	92	0.0	0.0	79.3	1.1	19.6
		うち、父子世帯	36	0.0	0.0	86.1	0.0	13.9
	小学5年生	全体	423	0.0	0.0	82.7	0.7	16.5
		ひとり親家庭	70	0.0	0.0	77.1	1.4	21.4
		うち、母子世帯	52	0.0	0.0	73.1	1.9	25.0
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	88.9	0.0	11.1
	中学2年生	全体	353	0.6	0.0	82.4	0.6	16.4
		ひとり親家庭	58	0.0	0.0	86.2	0.0	13.8
		うち、母子世帯	40	0.0	0.0	87.5	0.0	12.5
		うち、父子世帯	18	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7
剥奪学 指年 標・ 別	全体		776	0.3	0.0	82.6	0.6	16.5
	全体	生活困難世帯	58	1.7	0.0	79.3	0.0	19.0
		非生活困難世帯	713	0.0	0.0	83.2	0.7	16.1
	小学5年生	生活困難世帯	37	0.0	0.0	81.1	0.0	18.9
		非生活困難世帯	385	0.0	0.0	82.9	0.8	16.4
	中学2年生	生活困難世帯	21	4.8	0.0	76.2	0.0	19.0
		非生活困難世帯	328	0.0	0.0	83.5	0.6	15.9

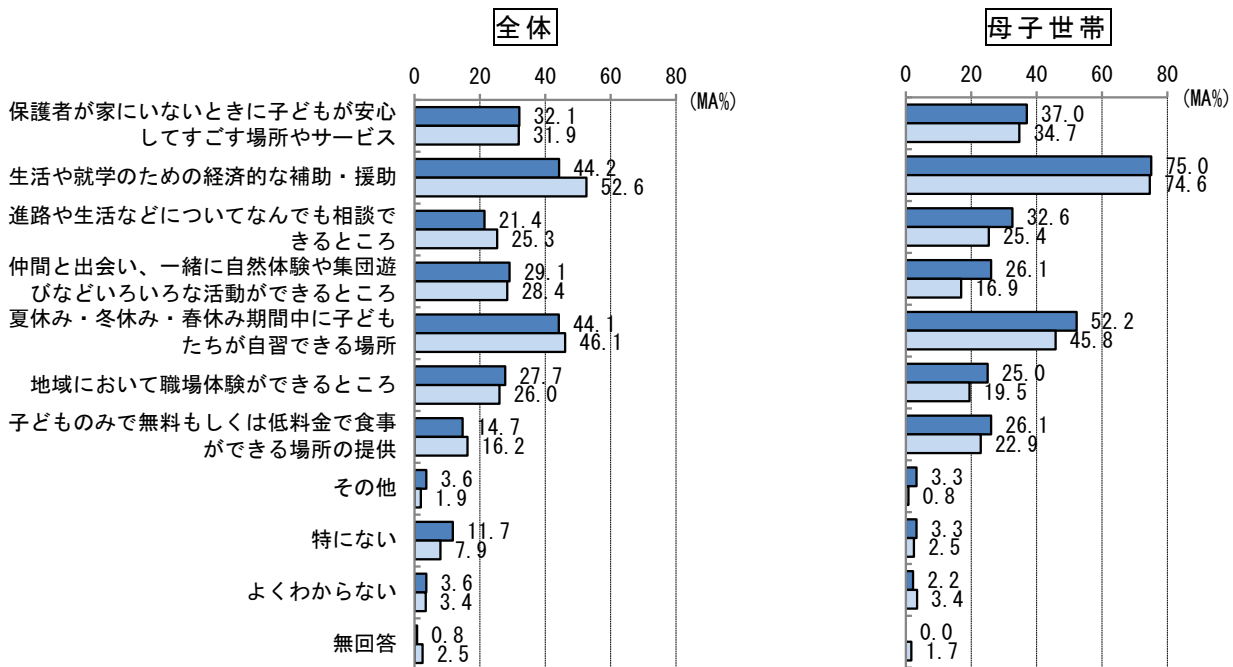
受けたことのある手当や援助については、「受けている」は、児童手当が 80.3%、就学援助が 9.8%、児童扶養手当が 7.6%、障害や難病の手当が 1.4%、生活保護が 0.3%、公的年金（遺族年金・障害年金）が 1.4%、公的年金（老齢年金）が 0.3%となっています。

母子世帯では、「受けている」は、児童手当が 87.0%、就学援助が 54.3%、児童扶養手当が 46.7%、障害や難病の手当が 2.2%、生活保護が 2.2%、公的年金（遺族年金・障害年金）が 6.5%、公的年金（老齢年金）が 0.0%となっています。

II-3. 子どもの生活に関する調査

〔2〕 利用したいと思う支援

問E2 お子さんにとって、現在または将来的に、次のような支援があった場合、利用したいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)



■ 今回調査 (H30) (N=776) □ 前回調査 (H28) (N=1,202)

■ 今回調査 (H30) (N=92) □ 前回調査 (H28) (N=118)

【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別】

		N	保護者が家にいないとき安心して過ごす場所	生活や就学のための経済的な補助・援助	進路や生活などについてなんでも相談できるところ	仲間と出会い、一緒に自然体験や集団遊びなどいろいろな活動ができる場所	夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所	地域において職場体験ができる場所	子どものみで無料もしくは低料金の食事ができる場所の提供	その他	特にな	よくわからない	無回答	
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	32.1	44.2	21.4	29.1	44.1	27.7	14.7	3.6	11.7	3.6	0.8
		ひとり親家庭	128	35.2	57.8	30.5	25.8	49.2	25.0	20.3	3.1	7.0	1.6	0.0
		うち、母子世帯	92	37.0	75.0	32.6	26.1	52.2	25.0	26.1	3.3	3.3	2.2	0.0
		うち、父子世帯	36	30.6	13.9	25.0	25.0	41.7	25.0	5.6	2.8	16.7	0.0	0.0
	小学5年生	全体	423	34.7	44.2	23.4	37.4	52.5	29.6	15.1	3.8	8.3	3.5	0.2
		ひとり親家庭	70	51.4	61.4	37.1	32.9	58.6	30.0	20.0	1.4	4.3	1.4	0.0
		うち、母子世帯	52	53.8	76.9	38.5	30.8	63.5	30.8	25.0	1.9	3.8	1.9	0.0
		うち、父子世帯	18	44.4	16.7	33.3	38.9	44.4	27.8	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0
	中学2年生	全体	353	18.1	44.2	19.0	19.3	34.0	25.5	14.2	3.4	15.9	3.7	1.4
		ひとり親家庭	58	15.5	53.4	22.4	17.2	37.9	19.0	20.7	5.2	10.3	1.7	0.0
		うち、母子世帯	40	15.0	72.5	25.0	20.0	37.5	17.5	27.5	5.0	2.5	2.5	0.0
		うち、父子世帯	18	16.7	11.1	16.7	11.1	38.9	22.2	5.6	5.6	27.8	0.0	0.0
剥奪学年指標別	全体	全体	776	32.1	44.2	21.4	29.1	44.1	27.7	14.7	3.6	11.7	3.6	0.8
		生活困難世帯	58	39.7	74.1	22.4	24.1	48.3	29.3	24.1	15.5	1.7	0.0	0.0
	非生活困難世帯	713	31.4	41.7	21.5	29.7	43.9	27.8	14.0	2.7	12.6	3.8	0.8	
	小学5年生	生活困難世帯	37	51.4	70.3	21.6	32.4	62.2	21.6	29.7	13.5	2.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	385	42.9	41.6	23.6	37.9	51.7	30.4	13.8	2.9	8.8	3.9	0.3
	中学2年生	生活困難世帯	21	19.0	81.0	23.8	9.5	23.8	42.9	14.3	19.0	0.0	0.0	0.0
非生活困難世帯	328	18.0	41.8	18.9	20.1	34.8	24.7	14.3	2.4	17.1	3.7	1.5		

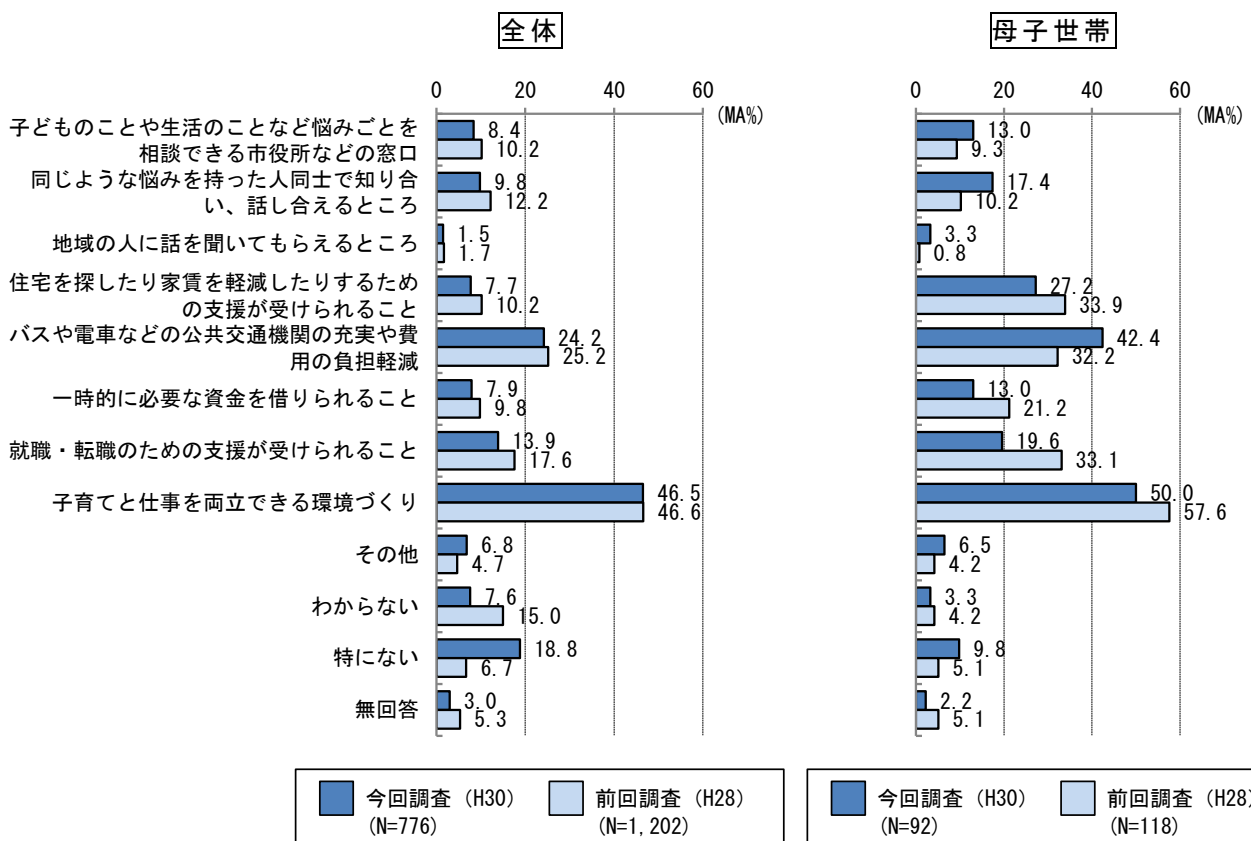
将来的に利用したいと思う支援については、「生活や就学のための経済的な補助・援助」が 44.2%と最も多く、次いで、「夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所」が 44.1%となっています。

母子世帯でも、「生活や就学のための経済的な補助・援助」が 75.0%と最も多く、次いで、「夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所」が 52.2%となっています。

また、生活困難世帯では「生活や就学のための経済的な補助・援助」が 74.1%と高い割合となっており、中学2年生のいる生活困難世帯においてはさらに高く 81.0%となっています。

〔3〕必要としている支援

問E3 あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援などは何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)



II-3. 子どもの生活に関する調査

【学年・母子父子世帯別／学年・剥奪指標別／医療費の支払い困難別】

			N	き る 市 役 所 な ど の 窓 口	子 ど も の こ と や 生 活 の こ ろ	合 え る と こ ろ	人 同 じ よ う な 悩 み を 持 つ た	同 じ よ う な 悩 み を 持 つ た	ら え る と こ ろ	地 域 の 人 に 話 を 聞 い て も	が 受 け ら れ る こ と	減 ら し た り す る た め の 支 援	住 宅 を 探 し た り す る た め の 支 援	担 軽 減	通 機 関 の 充 実 や 費 用 の 公 共 交 通	バ ス や 電 車 な ど の 公 共 交 通	り 一 時 的 に 必 要 な 資 金 を 借 入 る こ と	が 就 職 に 必 要 な 支 援	就 職 に 必 要 な 支 援	子 育 て と 仕 事 を 両 立 で き る 環 境 づ く り	そ の 他	わ か ら な い	特 に な い	無 回 答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	776	8.4	9.8	1.5	7.7	24.2	7.9	13.9	46.5	6.8	7.6	18.8	3.0									
		ひとり親家庭	128	10.2	14.1	3.1	20.3	34.4	10.2	18.0	47.7	7.0	3.1	16.4	1.6									
		うち、母子世帯	92	13.0	17.4	3.3	27.2	42.4	13.0	19.6	50.0	6.5	3.3	9.8	2.2									
		うち、父子世帯	36	2.8	5.6	2.8	2.8	13.9	2.8	13.9	41.7	8.3	2.8	33.3	0.0									
	小学5年生	全体	423	8.7	9.7	1.7	8.5	21.7	6.9	14.2	52.0	7.1	8.5	18.4	2.4									
		ひとり親家庭	70	14.3	12.9	4.3	21.4	34.3	11.4	21.4	51.4	4.3	5.7	15.7	1.4									
		うち、母子世帯	52	17.3	15.4	5.8	28.8	44.2	15.4	23.1	51.9	3.8	5.8	9.6	1.9									
		うち、父子世帯	18	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	16.7	50.0	5.6	5.6	33.3	0.0									
	中学2年生	全体	353	7.9	9.9	1.4	6.8	27.2	9.1	13.6	39.9	6.5	6.5	19.3	3.7									
		ひとり親家庭	58	5.2	15.5	1.7	19.0	34.5	8.6	13.8	43.1	10.3	0.0	17.2	1.7									
		うち、母子世帯	40	7.5	20.0	0.0	25.0	40.0	10.0	15.0	47.5	10.0	0.0	10.0	2.5									
		うち、父子世帯	18	0.0	5.6	5.6	5.6	22.2	5.6	11.1	33.3	11.1	0.0	33.3	0.0									
剥奪学年別	全体	776	8.4	9.8	1.5	7.7	24.2	7.9	13.9	46.5	6.8	7.6	18.8	3.0										
	全体	生活困難世帯	58	8.6	8.6	3.4	25.9	31.0	24.1	25.9	55.2	19.0	6.9	5.2	1.7									
		非生活困難世帯	713	8.4	10.0	1.4	6.2	23.8	6.6	13.0	46.1	5.8	7.3	20.1	3.1									
	小学5年生	生活困難世帯	37	8.1	8.1	2.7	32.4	21.6	21.6	27.0	59.5	16.2	8.1	5.4	2.7									
		非生活困難世帯	385	8.8	9.9	1.6	6.2	21.8	5.5	13.0	51.4	6.2	8.3	19.7	2.3									
	中学2年生	生活困難世帯	21	9.5	9.5	4.8	14.3	47.6	28.6	23.8	47.6	23.8	4.8	4.8	0.0									
非生活困難世帯		328	7.9	10.1	1.2	6.1	26.2	7.9	13.1	39.9	5.2	6.1	20.4	4.0										
支医療費 困難の	全体	776	8.4	9.8	1.5	7.7	24.2	7.9	13.9	46.5	6.8	7.6	18.8	3.0										
	医療費の支払い困難世帯 (問D4-1で3を選択)	35	11.4	11.4	5.7	20.0	25.7	28.6	22.9	42.9	17.1	2.9	11.4	8.6										
	上記以外の世帯	736	8.3	9.8	1.4	6.9	24.2	6.9	13.6	46.9	6.3	7.7	19.3	2.7										

現在必要としていること、重要だと思える支援については、「子育てと仕事を両立できる環境づくり」が46.5%と最も多く、次いで、「バスや電車などの公共交通機関の充実や費用の負担軽減」が24.2%となっています。

母子世帯でも、「子育てと仕事を両立できる環境づくり」が50.0%と最も多く、次いで、「バスや電車などの公共交通機関の充実や費用の負担軽減」が42.4%となっています。

〔4〕自由意見

問E4 日々の生活や子育てのなかで、彦根市に対してのご意見をご自由にお書きください。

医療費の負担軽減について
〔生活困難世帯〕14件 <ul style="list-style-type: none"> ・ここ5年くらい毎年、歯医者に行けない。せめて子どもたちの虫歯を治してあげたい。 ・医療費の負担が大きく、連れて行きたくても行けないことがある（特に歯医者や眼科などは、後回しになってしまう）。
〔非生活困難世帯〕144件 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の医療費が高い。眼科や歯科等の診療がぎりぎりまで考えてしまう。気がつくとも視力や歯のむし歯などが進んでいる。 ・子どもの医療費を中学校卒業までにしてほしい。
経済的な負担について
〔生活困難世帯〕6件 <ul style="list-style-type: none"> ・別れた夫が怖く、養育費を受け取っていない人のために、制度で強制的に徴収してほしい。 ・生活にゆとりができると、子どもたちにもっとやりたいことをさせてあげられるが、今は習い事も1つと決めています。もう少し助成などの充実があると大変たすかります。
〔非生活困難世帯〕9件 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生までは児童手当が有ったら大変家計も助かる。 ・子育てにはとにかくお金がかかる。
教材、制服等の負担について
〔非生活困難世帯〕10件 <ul style="list-style-type: none"> ・教材や制服、体操服、修学旅行などの学校生活における経費を少しでも軽減してほしい。 ・卒業のときに使わない体操服や制服も学校で集めて、バザーなどで低価格で提供してほしい。
高校以降の教育費について
〔生活困難世帯〕1件 <ul style="list-style-type: none"> ・今後進学していく際、経済的不安がある。公教育の負担は少なく、援助が受けられるとよい。
〔非生活困難世帯〕19件 <ul style="list-style-type: none"> ・公立高校の学費の無料化や、学習塾への費用負担、大学進学のための学費の援助など、小さい子を持つ世帯よりも中・高生を持つ世帯への生活支援（小さい時よりもかかる費用が大きい）。 ・高校の学費を見直してほしい。学費が高額で、行きたい高校をあきらめたりする家庭もある。
ひとり親家庭への支援について
〔非生活困難世帯〕7件 <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭で1番大きい出費が家賃。少しでも援助してもらえたらありがたい。 ・母子家庭で、高校以降の進学に不安。どれだけ頑張っても共働きの家庭とはかけ離れた所得だということを理解して政策を考えていただきたい。
多子世帯への支援について
〔生活困難世帯〕4件、〔非生活困難世帯〕1件 <ul style="list-style-type: none"> ・手当に所得制限があり、子ども的人数で手当てを考慮してほしいと思います。 ・収入などの線引きで、受給ができない就学援助ですが、家庭で抱えている子ども的人数も考慮してほしい（400万で子ども1人と3人4人では生活の経済的負担が違う）。

II-3. 子どもの生活に関する調査

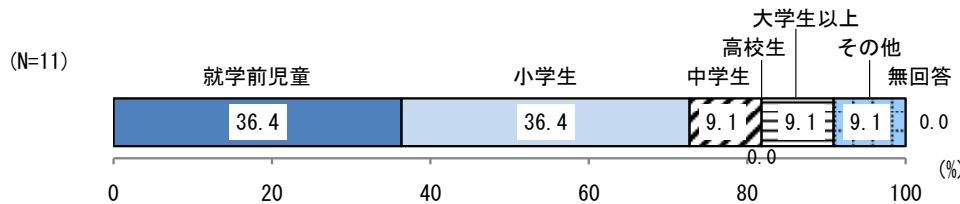
税金について
〔非生活困難世帯〕 8 件 <ul style="list-style-type: none"> 税金が高い。消費税が上がるので、固定資産税や住民税など軽減していただけたら幸いです。 市民税が高く、生活を圧迫している。
学力の向上、学習支援について
〔生活困難世帯〕 2 件 <ul style="list-style-type: none"> 母子家庭の学習塾や習い事にかかる費用を援助してほしい。 学校だけの勉強では理解できていない。中学校によって学力に差がある。なので、塾へ行かせているが負担が大きすぎる。それでも塾へ行かせないと子ども^{子ども}の将来が心配で仕方ない。
〔非生活困難世帯〕 18 件 <ul style="list-style-type: none"> 学習塾へ通わなくても、学校でわからないところや、点数のとれなかった子たちを集めて学習会を開催して、学力向上させてほしい。 学習塾の助成（クーポン）があればとてもありがたい。中学、高校生の塾代（夏期講習など）は高い。少しでも公的な補助があればいいと思います。 塾に行くのにも多額のお金がかかり格差ははっきりしてしまうことが親としてとても心苦しいです（収入格差と勉強ができるできない格差）。
部活動やスポーツの充実について
〔生活困難世帯〕 1 件 <ul style="list-style-type: none"> 中学の部活動について、働き方改革のため、部活動の時間が少なくなり、レベルが下がってきてます。外部コーチを雇うなど改善していただきたいです。
〔非生活困難世帯〕 11 件 <ul style="list-style-type: none"> 部活動の遠征のバス代が、経済的に負担が大きい。 近くの体育館で習い事などしてほしい。学童にもスポーツの先生など、習い事をしてほしい。
学校教育の充実について
〔生活困難世帯〕 2 件 <ul style="list-style-type: none"> 学級がかなりあれています。クラスの中で静かに勉強できない子がいるため、授業にならない。
〔非生活困難世帯〕 22 件 <ul style="list-style-type: none"> 先生一人で対応できないクラスには、すぐに補助の人をつけるなど、早い対応をしてほしい。 授業を静かに受ける権利をうばわれている。学校も努力をしてくれているが、改善が見込めない。 いじめ対策で学校の先生はがんばってされているが、先生も忙しいので、先生の余裕がないように思える。子どもたちを守るためにもサポートしてほしい（業務の外注化など）。
放課後児童クラブ、放課後、休みの日の過ごし方について
〔生活困難世帯〕 5 件 <ul style="list-style-type: none"> 夏休み、冬休み、春休みの学童の受け入れ時間を早めてほしい。現在の 8 時から、30 分、15 分でもよいから早めてほしい。 学童保育を利用して、月 6 千円＋おやつ代 1 千円で毎月 7 千円。もったいないと言われる家庭は 1 年生でも家で待たせていて何かあったら怖い。もう少し安かったらもっと利用できる。 学童保育に行かなくなる 5 年生、6 年生は、放課後の過ごし方や、夏休み、冬休み、春休みをどのように過ごすか、安全に過ごせる場所、環境を整える必要がある。
〔非生活困難世帯〕 39 件 <ul style="list-style-type: none"> 学童保育料をもう少し安くしてほしい。小学 5 年生でも、長期休暇のみ利用する人はまだいる。長期休暇の利用料が高い。 子どもが学習できる居場所が少なく思います。大人の人や老人の方とともに何かを作れる場所があれば人とのコミュニケーションもとれやすいのではないかと思います。

<p>図書館や自習室の充実について</p> <p>〔非生活困難世帯〕 24 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習コーナーが充実した図書館がほしい。家、塾の他に気軽に入出りできる勉強場所がない。 ・図書館までが遠く、子どもだけで気軽に利用できないのが残念です（放課後とかに）。 ・長期休み時の自習室の開放や低料金で勉強出来る場所がほしい。皆が塾に通えるわけではない。
<p>給食について</p> <p>〔生活困難世帯〕 2 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食がおいしくないと子どもがよく言う。親としては中学での給食が始まって助かりますが、おいしくなく食べてないのでは意味がないと思います。 <p>〔非生活困難世帯〕 15 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食費の無料化をお願いしたいです。 ・高校も給食にしてほしいです。 ・中学校が給食になり、子どもに意見をきくと、冷めていておいしくない時があるとききます。調理場が中学校にできて、温かい食事ができればと思います。
<p>相談支援について</p> <p>〔非生活困難世帯〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所や福祉センターで相談したことがありますが、それまでが結構勇気がいるものです。気楽に一步ふみだせるようにしてほしい。 ・子どもが小さく子育てが大変だと感じている人が、気軽に相談できる LINE の窓口があればいい。 ・地域や近所での悩み相談ごとなどで、あまり人に知られたくないこと、相談できる相手がいません。名前も顔も知られずに相談できる場所がほしいです。
<p>歩道、道路の整備について</p> <p>〔生活困難世帯〕 2 件、〔非生活困難世帯〕 19 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路がきちんとした歩道でないので危険。 ・通学路の除雪に毎年困っています。保護者の数が少なく、地域は高齢化しているため、早朝から長距離を除雪し、腰を痛めています。
<p>交通の便の悪さ</p> <p>〔非生活困難世帯〕 6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスがないので移動が難しい。バスで移動を簡単にしていけるようお願いします。
<p>子どもの安全について</p> <p>〔非生活困難世帯〕 7 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールで不審者情報など届くが、対策されているのかわかりません。共働きで夕方など心配です。安心して子どもが住める所が一番いいです。 ・通学路が危険。警察の方がその時間帯だけでも立ってほしい。
<p>情報提供について</p> <p>〔生活困難世帯〕 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をするのもお金が必要。どこに相談するのかわからず、どうしたらいいのかわかりません。 <p>〔非生活困難世帯〕 6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報に載っていないことがあり困る。医療費のことなど、知らないことが多い。
<p>その他</p> <p>〔生活困難世帯〕 14 件、〔非生活困難世帯〕 59 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがダウン症で、放課後等デイサービスを利用しようかと思ったが、手続きが面倒。窓口に利用申請したら、サービス利用できるよう手続きを簡単にしてほしい。 ・高齢者の方など地域の方が子どもを見守る活動をして下さると子育て世代は助かると思う。

II-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

1 機関・団体について

日ごろの業務・活動の主な対象者



業務・活動の主な対象者は、「就学前児童」、「小学生」がそれぞれ 36.4%と最も多くなっています。

2 困難な家庭の状況

困難や課題のある家庭（困難な家庭）における保護者・子どもの状況

① 困難な家庭の特徴や背景、生活の状況

- ・現役で仕事をしている親の中には、職場などのストレスを抱え頑張っており、休日になると体が動かなくなることがある。
- ・家族に重度の要介護者がいるなど、親自身の健康不安に加え、当事者支援以外にも家庭内に支援の必要な人がいる。
- ・母が精神的に病気をかかえており、子への関わり方に課題が生じている。
- ・経済的に困窮している方が多い。
- ・母子家庭がゆえ正規社員になれない方が多く経済的に不安定（病児保育が簡単に利用出来ない）。
- ・保護者はDVによる影響から、心身ともに疲れ精神科を受診している場合もある。複雑な生い立ちの傷を抱えている方も多く、子育てにしんどさを抱える人が多い。何らかの障害やしんどさから部屋を清潔に保てない。金銭管理が難しい、依存対象がないと保てないという人がいる。
- ・親自身が、現在の環境と同じような環境で育てている（児童虐待含む）。
- ・子ども、親共に能力の高さに疑いがあり、キーパーソンとなるものが世帯にいない。環境を改善しようとする意識が低い。
- ・育児、仕事のストレスからくる精神疾患が多い。親自身にも好不調の波があり支援にも影響する。ストレスを抱える背景には、親の孤立がある。
- ・親の金銭管理感覚が乏しく負債が多数ある。
- ・親が精神的に病気となり、仕事が出来ず生活保護を受けている。
- ・近くに親族がいても、関係が悪いため不適切な子育て環境が改善しにくい。
- ・福祉機関に主体的に助けを求めない、又は、その方法や相談する時間がない。経済的困窮（自家用車所有等、様々な理由で生保手前の状況でも生保受給に至らない）。保護者が被虐待歴があり連鎖、それに伴いDVや精神疾患等、不安定な心理状態で子どもが大変影響を受けている。
- ・住居が安定しない。退去を迫られたり、貸してもらえない。

②子どもの生活や学習の様子

- ・放課後は学童保育で過ごす子が多い。塾に通うゆとりはない子が多い。
- ・きっちりと清潔な服を着ている子が多い中、何日も洗っていないような服を着ている子もいる。
- ・目標をもって取り組んでいる子はいるものの、自身で学習計画ができる子は少なく、全体的に学力は低いといえる。
- ・学習面は、家庭での宿題等の見直し等がほとんどなく、積み重ねの分野が遅れがちである。塾は金銭的、時間に余裕がないため、あまりいけてないか、すぐにやめてしまうことが多い。
- ・朝食をきちんと食べる習慣が家庭の中に定着していないケースが非常に多い。夕食は、食事の時間が遅い(親の就労で帰宅が遅い、園の迎え等で)、食品の数が少ない、量がない、栄養価は考えていない、コンビニの弁当で済ませるなど、生活困窮と食は相関する。放課後、親が帰ってくるまで習い事もいけないのでゲームにどっぷりつかり、外で友人と遊ぶなども少なく、土曜や長期休暇の公民館活動ともつながらず家にこもりがち。
- ・深夜・明け方まで起きている子どもがいる。原因はゲームやインターネット。

③保護者の経済状況

- ・借金の返済に追われている。
- ・金銭管理は苦手な保護者が多い。児童扶養手当だけでなく、障害年金や養育費を受けている人もいる。
- ・能力の高さに疑いのある親世帯については、金銭管理が難しく、改善を図ることが難しい。
- ・支援対象者が生活保護受給世帯、生活困窮世帯である。
- ・生活困窮世帯では、収入がある程度あるにもかかわらず、金銭管理能力が乏しく多額の負債をかかえ困窮状態に陥る世帯がある。
- ・収入が少なく、貯蓄が出来ない世帯が多くみられる。このため、子の進学にかかる費用も、貸付を利用する世帯がみられる。
- ・生活保護を受けている家庭が多い。金銭管理の優先度が、学校やクラブの費用に関しては低い。
- ・公的な手当や教育に係る費用があるにもかかわらず、子どもに必要な学用品に至っていない。給食費の滞納は子には見えないが、教材を買ってもらえない、修学旅行の積立をしづられるなどよくみうけられる。収入があっても、自転車操業の様に多重債務をかかえるため、源泉徴収からはかれない困窮家庭が多い。車の所持のことで生保にふみきれない。

④子どもと保護者の関わり

- ・日、祭日も仕事に出られる時には子だけで留守番をしている。
- ・保護者が、子どもの気持ちを汲みながらコミュニケーションを取る事を苦手とする場合が多い。
- ・無関心から過干渉までさまざま。関心はあるがどのようにしたらいいのかわからない場合もある。
- ・仕事や、親の特性などの理由によりコミュニケーション不足の世帯が多い。
- ・保護者は時間に追われているせいか、会話の時間や内容が乏しく、言葉使いも短く直情的である。そのため、ゆったりとした甘えられるコミュニケーションやスキンシップを学校やクラブの指導員に求める。親子関係は“お母さんは疲れているから”“大変だから”と遠慮して求められる子どもを演じている場合が多い。
- ・自分自身が、暴言、暴力でしつけられた影響でそのまま連鎖している。関わる時間がないだけでなく、関わり方が不適切なので子には悪影響が多い。夜間の方が時給がよいので、ひとり親家庭はそちらにシフトしやすく、長子が末子を世話しているネグレクトは多い。

⑤子どもの性格面・意識面の状況

- ・一番身近な大人のモデルが、DV環境にあったことから、人との関わり方が特徴的な子どもが多く、暴言及び暴力が出てくることが多い。感情のコントロールや、気持ちを言葉で表現することが苦手。

II-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

- ・自信を無くしているためか、はっきりと自分の考えを相手に伝えることが苦手である。
- ・自尊心が低い、自己肯定感が低い、自分を大事にできないという子が多い（親からの愛情不足や過干渉等による。勉強についていけないことも原因。）。
- ・家庭自体が地域からも孤立していることも多く、友達関係を築くことが苦手である。同級生と関係を結ぶのが苦手で距離をつかむのが下手（一般常識、習慣、生活水準が違いすぎて話が合わない）。
- ・ほとんどの子どもは自分の家の経済状況は把握しているため、親に負担はかけないようにしようとしている。しかし、学力が定着していない子が多いため、中3になって進路を決めるときに非常に困難である。
- ・子ども自身は素直な子が多い。しかし、生活経験が乏しく、学力も低い子が多いため生活上でも理解力にかける。また、学習習慣も身に付いていないため、学力が積みあがっていかない。
- ・他の子（家庭）との比較により、自身の家庭の貧困が理由で落ち込んだり、人と距離を置き孤立してしまう。
- ・改善策が見つけれず、やけになったり投げ出したり無関心を装うしかないと思われる。子の生活場面の近くに「あの人のようになりたい」と思える人がいることが大事と思われる。
- ・昔と比べて“お父さんがいない”“お母さんがいない”“親が病气”ということのを隠すことは減っている。それが特別に自分だけというものでなく“〇〇くんちも、〇〇さんちも”というように困難な家庭の割合が高くなってきており、ある意味「ふつうの家庭像」がなくなってきている。
- ・感情が高まったときは暴言暴力で表現する姿が学校で多く認められる。そのため対人スキルが攻撃的であったり、反抗的な、対人関係をとれず、しんどい状況が続く。又は他者を求めない場合もある。
- ・お金の問題で高校・大学への進学は考えづらいようだ。中卒で働くという考えがある。高校・専門・大学へ行く方が給料が良いという話をしたり、進学にかかる具体的な奨学金、支援の話をしたりすると、話にのってきてくれる。

⑥ 保護者と各種支援制度・支援者との関係

- ・相談支援機関が増えたが、当事者や家族にとっては、受けられそうな支援は少ない。子の年齢が高くなると、結局最終責任である家族に戻されてしまう。
- ・福祉制度はあまり知らない方が多いと思い、折々に説明していますが無関心の人もあります。
- ・子ども食堂の場が情報提供の場となっている様で、母同志が制度等話している。
- ・支援があるとわかっての入所となるが、保護者の意向と支援がマッチングしない時もある。
- ・保護者が困窮状態に慣れてしまっているため、困窮が子どもに及ぼす影響についても危機感をもって捉えていない。
- ・就労準備支援対象者の保護者に、将来に向けた取組として資格取得の話など助言しても支援に乗ってこない。保護者自身が前向きに課題解決をしようとする気持ちが薄い。
- ・保護者は、人とつながることに抵抗がつよく、困り感の自覚がない場合や困っていても問題解決のための相談に足を運び、制度を活用するというに至らないことも多い。金銭的な制度は、多くは利用されるが、養育改善に向けた支援につながる事が主体的にできない。
- ・子どもはお金で進学をあきらめるようなので、いろいろな制度があることを、子にも保護者にも知らせる、手続きを手伝う必要があると思う。
- ・子どもの進学に際してかかるお金と、それへの支援策の情報が不足しているし、資料配布だけでは手続きがわかりづらいので、中3の早い時期に保護者へ説明できる機会が必要。保護者が外国人の場合、資料だけでは理解してもらえない。

3 現行の支援の取組と課題

① 困難や課題のある家庭（困難な家庭）に対して現在実施している支援等の内容

教育の支援	就学前における支援	<ul style="list-style-type: none"> 措置費による入学支度金 幼稚園、保育所等と連携した支援。 CWとの協働、小と保幼との連携。
	学校における支援	<ul style="list-style-type: none"> 就学援助金の情報提供。 小学校、中学校等と連携した支援。 定期的な学校（小中高等学校）訪問による情報交換、個々の課題に応じて訪問や電話で情報交換。 SSWの立場から、学校から支援しにくいところの家庭支援、特に子育て支援課との協働、社会福祉課、学習支援との協働。
	就学支援 (義務教育～高校)	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で高校進学の意味を説明、大学進学についても将来設計が見透せないで進学と希望する人もあり、基礎知識を中高の時に説明すべきである。 小学生向け学童保育中の学習支援。 学習支援を通じて、困りごとを抱え込んでいないか相談支援をしている。 放課後の家庭学習の場を提供する。毎日の見守りの中でつまづきがあれば保護者、担任につなぐ。 学習支援。進路や学校生活についての相談にしている。
	大学等への進学機会	<ul style="list-style-type: none"> 各種助成金の情報提供。 高校生活の様子など聞き取り、進学や就労などの相談支援を行っている。 現役大学生や教員により、学校情報の提供や相談にしている。エントリーシートの指導、作文や面接練習も行う。
	生活困窮世帯等への学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親家庭の中学生支援(子育て支援課)への協力。 学習支援。生保受給者(困難家庭)への市の学力サポート。 社会福祉課と連携した支援を実施。 福祉事務所での来所学習、家庭訪問や地域の公民館等での学習、通信添削。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公民館活動での社会教育施策へのつなぎ。
生活の支援	保護者の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活支援 家事支援、金銭管理、親子関係調整、病院送迎、保育園送迎、手続き同行、裁判所同行、病院同行、関係機関への同行、書類作成の援助、レスパイト保育 保護者の子育てや生活などの相談やしんどさを共感。必要であれば各専門機関につなぐ。 子育て支援課と養育改善、適切な親子関係に向けた修復、学校とつながりながら保護者の生活の困りごとに寄り添い、直接支援。 食の提供。くつろいで、おしゃべりしたり、遊べる場の提供。

II-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

		<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂による食と交流機会の提供。
	子どもの生活支援	<ul style="list-style-type: none"> 寮内保育、学童保育、個別支援、時間外保育。 学習支援を行う中で、学校や家庭での生活、親子関係の聞き取りを行い、困りごとの相談に乗っている。 基本的な生活習慣の定着を図る。毎日の生活の中で困難さや悩みのはき出し口としてもらう。 子ども食堂・学習支援へのつなぎ（フリースペース等）、地域の民生児童員への働きかけ。 食の提供。くつろいで、おしゃべりしたり、遊べる場の提供。 子ども食堂による食と交流機会の提供。
	子どもの就労支援	<ul style="list-style-type: none"> 高校中退などにより就労支援が必要な子に対しては、生活困窮者自立支援制度や生活保護制度における就労支援を行っている。 中3で進学しないケースは、中学校と連携しながら支援。
就労支援	保護者の就労支援	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援プログラム策定。 職安への同行、就労面接の相談、就労時の寮内保育、学童保育、働き暮らしコトー支援センターへの繋ぎ。 ひとり親を対象に就労支援を実施。 不就労や、就労定着が困難な保護者には、生活困窮者自立支援制度や生活保護制度における就労支援を行っている。 子育て支援課、生活保護など困りごとの相談先を伝える。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ただちに就労が困難な保護者などに対しては、就労準備支援事業により規則正しい生活や、軽微な就労を行うことにより就労に結び付くような支援を行っている。 就職希望の生徒への、作文指導や面接練習。
経済支援	各種金銭支援制度や貸付金等について	<ul style="list-style-type: none"> 県母子福祉のぞみ会による貸付金、福祉資金貸付金。 預り金制度による金銭管理。 ひとり親を対象に貸付相談を実施。 金銭管理に問題がある世帯には、生活困窮者自立支援制度の家計相談支援について促しを行っている。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 障害を抱えた人とは、年金の相談に行き、ドクターと連携の下で申請している。 年金やその他給付金の取得、手帳等の支援制度の利用について、制度活用支援員が支援を行っている。
	その他（心理面や社会性の支援など）	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望により、保護者にはカウンセリング、子どもにはプレイセラピーを実施。施設内保育や学童保育（個別対応）により社会性の支援、就労支援を通して社会参加の支援。 医療機関、障害サービス機関等と連携。 保護者に対して、子の養育面や学習面での心配ごとを聞き取り、ストレスを抱えすぎないように支援を行っている。

②支援等を実施する上での問題点、課題等

<p>教育の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの確保 ・小学生は、学童保育の中で学習の時間を設け、学習支援専任の担当を配置している。中高生は、その都度相談内容に応じて対応し、市の学力サポーターの先生方も来て頂いたりしているが、本人が応じることが難しいケースもある。DVの一時保護中など学習空白を抱えた子が多く、入所後に学習を積み上げることが難しい。 ・支援機関が多くなればなるほど、全機関での情報共有が難しい。 ・不登校、ひきこもり世帯への介入。学校や関係機関との情報共有、支援内容（役割）の整理。 ・家庭環境等の影響で、家庭学習が習慣化されず基礎学力が定着していない。そのため、中学3年の進路を決定する際に困難を極める。 ・困難を抱える家庭の包括的な支援充実に向けた専門職の増員。 ・学校だけ、福祉だけ、地域だけが頑張るのでなく、三者の連携がスムーズに整う様に話し合いや協働する場や時間を作る。 ・子ども食堂は、小学生の利用が多いので、ご飯の前の時間を使って、基礎学力の補充をやった方がよい。 ・勉強や運動を支援する支援者の確保。 ・精神面・発達面での困難を抱える子どもも多く、単なる教科学習では子どものニーズに応えられない。 ・受験のための勉強ではなく、社会にできること、将来に夢をもつことの支援が必要。これには、親の意識も重要。
<p>生活の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活支援の充実、病児保育の充実、住居費の軽減。 ・家事支援が必要と思われる家庭ほど、入室を拒まれる事が有り、本人の了解を得ることが難しい。親子関係調整においては、親子の希望が相反する事が多く、介入する事が難しい。 ・支援が必要と思われる子や保護者の支援拒否に対する介入。 ・学習環境が整っていないこと、親に子どもの学力に対する危機感が無いことなど家庭によって様々だがそこになかなか足を踏み入れられない。 ・指導員としてあくまでも理解者、共感者の位置をもっているため、直接的、即効性の効果はうすい。 ・保護者から SOS するのを待つのでなく、就学前から把握しているケースを小学校につないでいくしくみ、人のつながりづくりが必要。 ・生活に必要な（食、衣類、物品）ものが、即時で対応してもらえるようなシステム。 ・子どもの世話を助けてもらえる、孤立をなくす意味での直接支援（子への関わり）の充実（子どもの居場所、地域でのつながり etc）。 ・民間の子ども食堂としては、個別家庭の状況を把握しての支援はできないので、現在の様にケアワーカーさんからの個別声かけが、とてもありがたい。 ・運営経費の不足。
<p>就労支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当所の場合、障害の重い人が多く作業向上は望めない。 ・本人の希望する職種や、時間帯などが合わないと就労意欲が起らない事がある。ハローワークへ行く等の行動に移すことが難しい。 ・18歳未満の子どもへの就労先開拓（ハローワークで紹介が無い）。 ・手帳などの取得が出来ず、福祉の支援が受けられない方への就労の場の提供。 ・親の仕事が安定して続くための相談対応の充実。

II-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

	<ul style="list-style-type: none"> ・親の仕事が辞めたときの生活の保障の確立。 ・精神的な不安定さやひきこもり等、自立支援の充実。 ・中学生については、家庭からは、早く働いて欲しいという、圧力がかかるようだ。だが、制度を利用してでも、高校、専門学校へ進む方が長い目でみて、生活の安定につながることをしっかり説明する必要がある。 ・仕事のイメージづくりと、そのためにどんな進路が必要かのサポートが十分にできていない。
<p>経済支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当作業所では、重度の人を入れていて、利用者工賃が年々上がらない実態がある。 ・大学及び専門学校への給付型奨学金の増加 ・金銭管理が必要と思われる世帯であっても、本人の理解が取れず支援できない事もある。 ・親の特性により、金銭の浪費が激しい世帯などについて、地域権利擁護など物理的に金銭の管理ができる支援。 ・養育費の取得支援。 ・ライフラインの支払いよりも先に借金の返済をしてしまうなど、家計の中での優先順位が理解できない（しようとしな）い保護者に対する支援。 ・子どもの生活に直結するような急な困窮に対する緊急的な措置施策が充実してほしい。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害受容について、大人になってから、障害があることが分かり、精神的にもショックを受け就労にも結び付かない。母が精神的疾患や知的な障害や依存症があると生活面のしわ寄せがストレートに子どもにいく。介入がむずかしい。 ・社会的規範意識の乏しい保護者に対する支援が困難。 ・精神的な浮き沈みが激しい保護者に対する支援。 ・子どもの情緒の安定には、ある程度安定した人数と人の対応で随分子どもは心が安定できる。そういうところに地域ボランティアさんを。そしてそういうボランティアさんのコーディネートに専門職を。学区内の担当をしっかりと決めて、地区の特色に応じた、子どもの居場所づくりが充実してほしい。 ・発達の遅れを気にされる保護者も多いので、子どもへの対応だけでなく、保護者も気の休められる場にする必要を感じる。

4 今後必要な支援制度と連携による支援体制、具体的な支援方法

① 今後必要と思われる支援等の内容

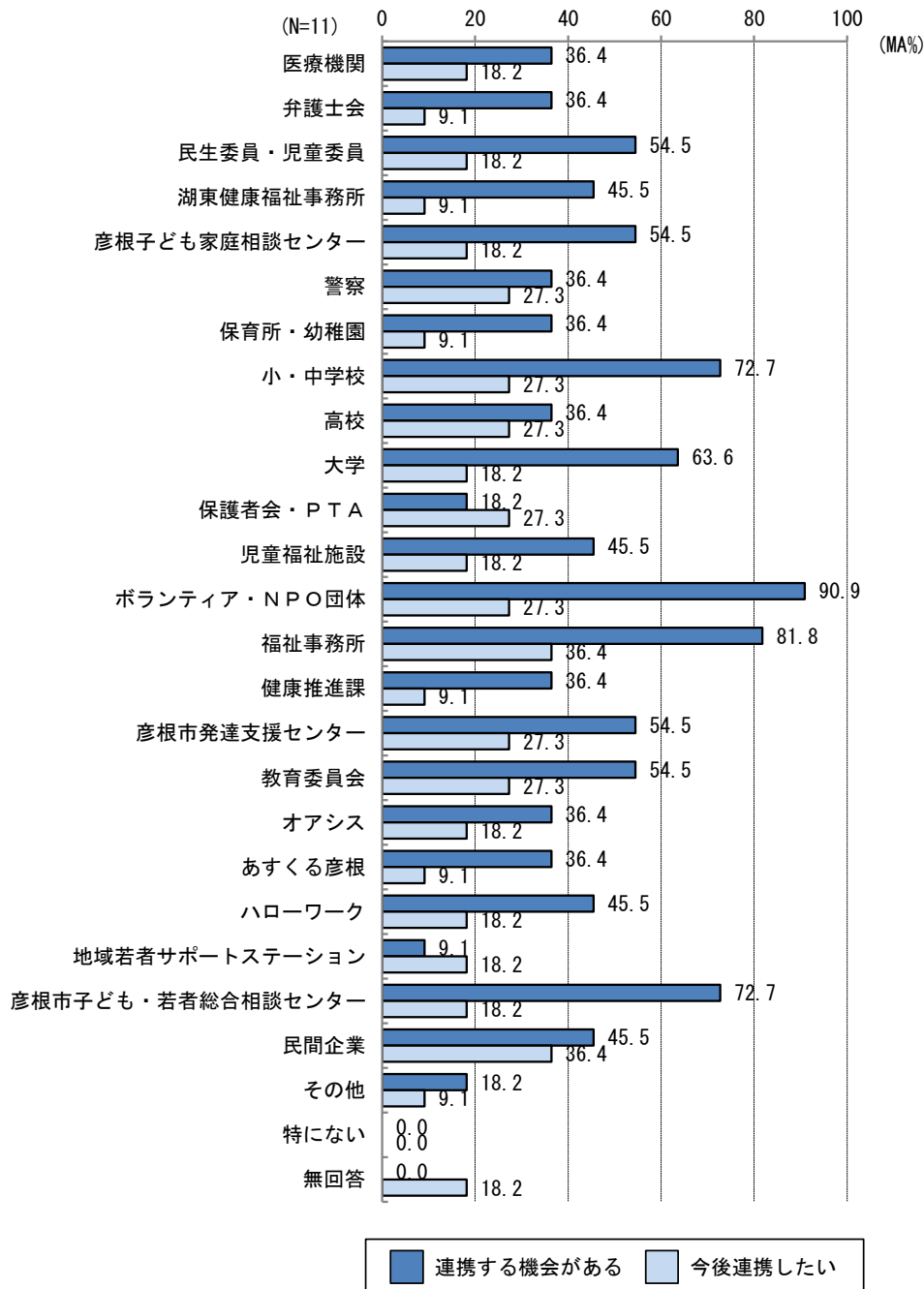
<p>教育の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援 ・ 不登校の子どもが、別室登校でも支援学級でも安心して過ごす事のできる居場所づくり。緊急一時保護で、保護期間が延びる就学中の子への支援。 ・ 現行の教育制度では支えきれない児童に対する教員の配置等、新たな支援策の構築。 ・ 不登校、ひきこもり世帯への介入。 ・ 家庭の中に入り込めない支援拒否の世帯への介入。 ・ 中学生からの学習支援では遅い。小1・2の時から基礎学力を助けて下さい。音読、漢字、九九を助けてあげて下さい。宿題を見てもらえない子が多いです。中学に入っても小4の課題がクリアできないのが困窮家庭の子の学力に認められること多々あります。 ・ 学校の支援員の雇用を充実すること、これが必須（寄りそってもらおうと頑張れます）。 ・ 勉強以外にも、自分の夢を見つけられるような仕掛け。 ・ 子ども食堂開催時における勉強機会への提供。 ・ 将来を前向きに考え、語ることでできる機会の提供。 ・ 学習機会の増加、将来の姿を考えることができる機会（一人一人寄り添いが必要）。キャリアカウンセラーによる相談が良いかもしれない。
<p>生活の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談員が訪問し事情を聞き取り、支援の方法を共に考えることが必要である。一般の人が個人を訪問して話すことは出来ない。 ・ 日常生活支援。 ・ 法律相談。 ・ 現行の法令や制度、サービスで支えられない部分を支える地域力。 ・ 家の中がごみ屋敷状態の家庭の支援。環境改善が必要な世帯への介入。 ・ 子ども一言から家庭の実情や困り感がわかることは多い。関わる各団体が情報を交換しやすくなればと思う。 ・ 朝食を食べずに登校してます。親が支度していないのもあり、習慣もなければ用意できる金銭面のゆとりもないです。朝ごはん版子ども食堂でおにぎりかバナナか、食べてない子だけ、こっそり食べに行けるしくみ（学校のどこかの部屋）。 ・ 長期休みのとき、地域の方とよりよくつながり助けを呼べるように。 ・ 長期休みのとき、食事の保障、あそびの充実、夏場、お茶を学校でもらえるしくみ。 ・ より多くの困難がある子や保護者へ食の機会の情報がリーチできる仕掛け、行政からの声かけ、福祉センターに来ている子（生保の学習支援）が来れるような連携ができると良い。
<p>就労支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「働きたい」のか「働かなければならないようだ」という、心の揺れに、向き合ってくれる所は少ない。カリキュラムはベースに必要。だが制度で進める事業所に対し、それに合わせられないでいる若者は多い。 ・ ひきこもりの人が意外と多いことが判ったが、家庭に入ることが出来ないで家族を通じてイベントに誘い出し、少しずつ人と話が出来るようになり、就労へつなげる方法もある。 ・ 企業の協力 ・ 配慮を要する人が安心して働ける就労環境（企業の理解）。 ・ 手帳などの取得が出来ず、福祉の支援が受けられない方への就労の場の提供。 ・ ひきこもりの若者への就労支援、就労準備支援の介入。

II-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制、通信制に中3から進路を決めた生徒を市内で全件把握して、できるだけ早期支援につながるように（県立の全日制に進学しても危ういケースも把握）。 ・ よりよい就労に結びつくための進学やスキルアップのための情報提供。 ・ 子と保護者の企業、産業の見学。 ・ 学びなおし（義務教育よりあとの）機会の実施 夜間中学的なもの。働くにあたり必要な知識（漢字、英語、算数・数学、コンピューター等）が学べる機会。
経済支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活保護と連携した金銭管理。 ・ 養育費の取得支援。 ・ 就学援助等受けていても、買いそろえてもらえないこともあるので、各学校に学用品として使える様に現金給付（れんらく帳、ノート、えんぴつ、けしごむ）（学期毎等に申請など）。 ・ 体操服を学校に支給。ネグレクト家庭は洗濯（体操服忘れて練習できない）（臭いでいじめに合いやすい）してもらえなくて登校をしづれることもある。 ・ くつ下、おはし、フキンなど学校に支給（保健室、職員室に）。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困難な育ちをした子は、かまってもらえず淋しい想いをしています。1対1で安心して遊んだり、話を聴いたりしてくれる大人を待っています。子どもに直接関わるボランティア（子ども食堂、子との遊び、学習支援、話しの聴き方、社会教育など様々な分野と対応について）の養成から充実して頂きたい。

②連携による支援体制等のあり方

■ 連携する機会のある機関・団体 / 今後連携したい機関・団体



連携する機会のある機関・団体は、「ボランティア・NPO団体」が90.9%と最も多く、次いで、「福祉事務所」が81.8%、「小・中学校」、「彦根市子ども・若者総合相談センター」がそれぞれ72.7%となっています。

今後連携したい機関・団体は、「福祉事務所」、「民間企業」がそれぞれ36.4%と最も多く、次いで、「警察」、「小・中学校」、「高校」、「保護者会・PTA」、「ボランティア・NPO団体」、「彦根市発達支援センター」、「教育委員会」がそれぞれ27.3%となっています。

他の機関や団体と連携する際の課題

連携する際の課題

- ・ 情報共有を密にして、地域の関係機関、関係団体との連携を深める事は大切。一方では、入居者の方への危機管理のため、地域、機関にオープンに出来ない部分もある。
- ・ 職員不足や業務量の多さによる繁忙により、相手担当者の時間的余裕がなく情報共有に十分な時間が取れない。
- ・ 情報共有しても「窓口に来所されないと受付ない」と回答される。対象者が重度のひきこもりであることが課題なのに、来所できないと支援に介入できないといわれる。
- ・ 1人の児童に関して複数の団体が情報提供で話を聞きに来られる。ケース会議とまではいわずとも、団体毎に情報を集めて保管するのではなく、個人情報を守りつつも、共有できたらと思う（問い合わせを受ける立場としては同じ事をそれぞれの団体に伝えなくてはいけないので）。
- ・ 土曜にも行われる学習向上支援の個別支援の生徒を対象に、子ども食堂の案内を行ないたいが、受け入れてもらえるか、不安がある。
- ・ つながる機会がない。

今後、困難な家庭の子どもや保護者に対する支援全般のため、彦根市としてどのような対策が必要だとお考えですか。

彦根市として必要な対策

- ・ 彦根市には福祉推進員制度があり、この人達に協力して貰って、困難な家庭への支援を推進することも重要である。何もかも民生委員に頼ることなく、市民が立ち上がらなければ良い市民は育たない。
- ・ 各家庭状況の把握をし、それぞれに応じた支援を行うことが大切だと思います。
- ・ カフェなどで、地域の人が集える居場所づくりをしてその中で、地域の声をつなげる地縁の輪づくり。スキルアップ支援、学習支援、資格習得等の無料講習会、生活スキルアップ支援。
- ・ 若者の就労（準備）支援にあたっては、障害者手帳取得などが大きな役割を果たしてくれることがあります。手帳や、自立支援医療の申請にあたり、診断書の取得にかかる医療費の負担が出来ない人に支援の必要性を感じます。
- ・ 集団での体験活動の場、放課後の居場所、学習教室。
- ・ 地域による地域の対象者の把握と支援（自治会と行政のより密なる関係の構築による）。
- ・ 福祉教育の中で、お金に対する価値観を育む金銭教育は必要だと感じる。
- ・ 縦割りではなく、誕生から死まで切れ目なく関わり続けられる機関（支援）が必要と感じる。
- ・ ひきこもり世帯へのアウトリーチ、訪問支援。医療分野との連携。
- ・ 「困ってから支援が入る」という流れになっていると思う。大抵の保護者の方は、がんばるだけがんばるので、支援の手が入りにくいし、入るころには、すぐに立ち直れない所までいっていることが多い。
- ・ 彦根市役所の、24時間体制は考えられないか。
- ・ 教育と福祉と地域で、実務者レベルで話し合う意見交流の機会を設ける。
- ・ 困難な家庭の子は学力も低く、対人関係づくりも困りごとを抱えていることが多いです。貧困計画の予算で、学校の中に、学習支援や仲間づくりサポートで支援員を今よりも増やして下さい。
- ・ 子どもの教育や育成に関する予算を削減しないこと。

- 行政のプロ意識はもちろん大事にしてもらいつつ、地域や民間と連携していかないと、小さくまとまった活動になり、市全体での根本的な解決に向けて進まないと思う。まずは連携して何ができそうかの検討から始めて欲しい。各課の代表が出てきての形式的なものでなく、円卓的な検討会議を。
- 子どもの学習にせよ、食の支援にせよ、イベント的に終わるものでなく、予算の有無に左右されない継続的支援が必要。
- 勉強→進学→就職という従来の流れではなく、勉強が苦手でも、生きる業を持つことができるよう、沢山の仕事や生き方見学、話し合える機会が必要。
- 義務教育後の学び直し機会の提供。義務教育で学ばなかったため、その後に就職困難になるケースがある。自主的な夜間中学のような「学び直し」の機会が必要。
- 高校中退者の把握と追跡支援、彦根市として、子どもや若者をはじめ、「誰も取り残さない」というメッセージを強く発信すること。福祉面だけでなく、彦根市や彦根市民の持続的な発展を、わかりやすく発信してほしい。滋賀県が力を入れるSDGsへの取り組みを、彦根市にも、その視点を持ってほしい。

最後に、子どもの貧困やその対策について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

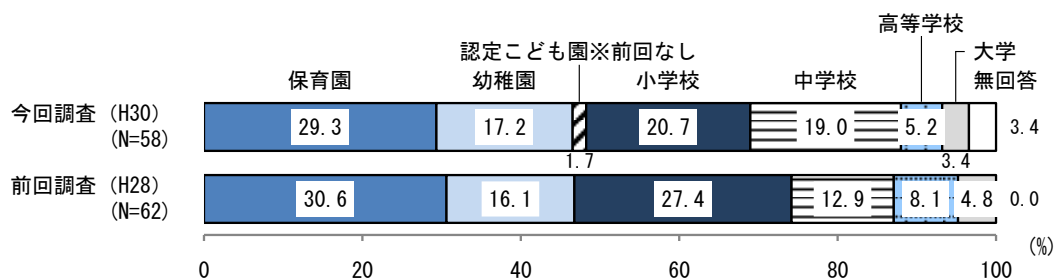
自由意見

- 国の施策の中で「生（産）んで育てよ」でなく生（産）んで働けと、人間味のない発言が多い。
- 現在、大学専門学校へ通う方々は、卒業と同時に多額の借金をかかえているのが現状です。この事への対策が早急になされてほしい。
- 子どもの貧困の連鎖を防げる様な支援を、期待します。貧困から、どうせ頑張ったって・・・という気持ちを持たないように、その子の自己実現が出来るようにして欲しい。
- 他の自治体では、貧困家庭に食料を配達しながら見回りを行っているという取組をききます。食料を渡すことにより一時的に食料課題は解決されるかもしれませんが、根の問題（ネグレクト）の解決には至りません。困窮の部門だけでなく、他の機関と一緒に支援に関わる必要があり、そのような支援体制がとれるしくみが必要と感じます。
- 現場のワーカー、支援員らが、互いに失敗例、成功例、困り感を知り、対策を考え、改善行動に移すことができるような場があれば良いと思う。
- 子どもたちの笑顔あふれる彦根を作っていきたいと思う。
- 地域には、「子どもたちのために何とかしてあげたい」と志高い方がたくさんいらっしゃいます。そういう方々が、困ってる子どもたちの何に、どうご活躍いただけるか、どのようなしくみをつくとよいかということをしっかり議論して、地域の特色（中学7校区）に合わせたまちづくりの施策と連動すべきと思います。
- 子ども支援には専門性も必要です（児童虐待、発達課題等）。専門職の雇用も充実していただきたい。
- 外国ルーツで義務教育を終えてないため、就労できない、社会参画できないといった、事態をなんとかしないといけないと考えます。「学び直し」のための機会が必要と思います。
- 中学生を中心とした活動のなかで、小学生からの学ぶ姿勢が大事とは思う。現状は、義務教育を終え、学びの居場所がない子どもや若者、中退や仕事を辞めて社会的に居場所がない人が、ほっておかれている気がしています。彼らが大人になり次の世代を作っていくので、特にこの世代を取り残さない対策が必要と感じています。

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

〔1〕 学校園の種類

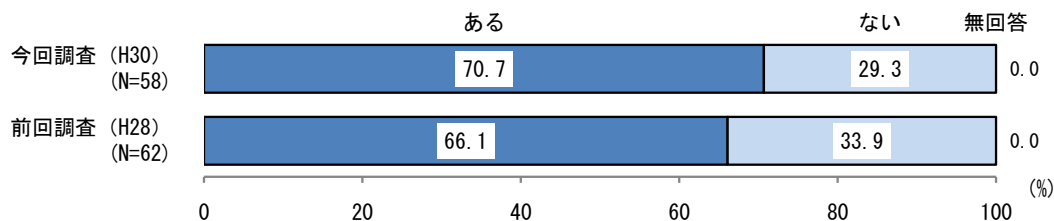
問1 貴校（園）について教えてください。



回答のあった学校園の種類は、「保育所」が29.3%と最も多く、次いで、「小学校」が20.7%となっています。

〔2〕 困難な家庭の子どもや保護者と接することがあるか

問2 貴校（園）における日ごろの業務の中で、経済的に困窮するなど困難や課題のある家庭（困難な家庭）の子どもや保護者に接することがありますか。

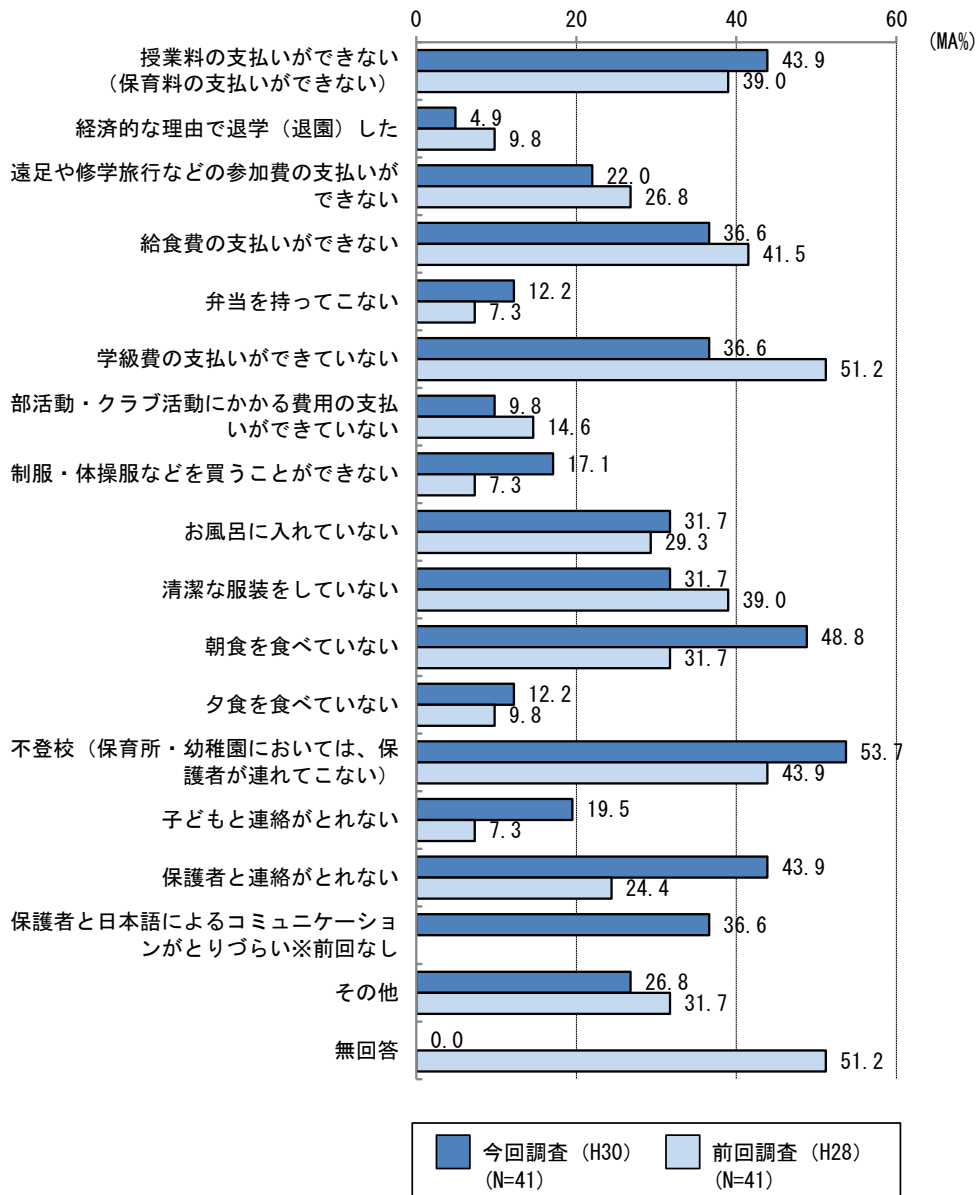


経済的に困窮するなど困難な家庭の子どもや保護者と接することがあるかについては、「ある」が70.7%、「ない」が29.3%となっています。

〔3〕 困難な家庭の状況

問2で「ある」を選んだ方のみ

問2-1 困難な家庭では、具体的に、どのような状況がありますか。（該当する番号すべてに○）



困難な家庭の子どもや保護者と接することがあると答えの方に、困難な家庭の状況についてたずねたところ、「不登校（保育所・幼稚園においては、保護者が連れてこない）」が53.7%と最も多く、次いで、「朝食を食べていない」が48.8%、「授業料の支払いができない（保育料の支払いができない）」、「保護者と連絡がとれない」がそれぞれ43.9%となっています。

〔4〕 困難な家庭の子どもや保護者に対し行っている支援

問3 問2で答えていただいたような困難な家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援を行っていますか。（「定期的な訪問」「相談窓口につないでいる」といったことも、行っている支援としてご記入ください。）

① 子どもへの支援

連携について

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・子育て支援課と情報交換、共有をしている。
- ・ケース会議をもっている。
- ・気になる園児は、幼児課、子育て支援課、地域の民生児童委員の方々と連携を取り園児と保護者、家庭支援を進めている。
- ・発達に関しては、園で保護者と連携し個別の支援計画を作成。担任、支援担当、保護者とで話し合い、園児の育ちについて話し合っている。
- ・発達支援センターと連携を取り、指導を受けたり、センターへ療育の様子を見学し、個別支援を進めている。
- ・相談窓口につないでいる（子育て支援課、健康推進課、発達支援センター、人権政策課、教育研究所等）。（3件）

〔小学校〕

- ・関係機関と連携をとったり、定期的に専門家と面談をしたり、ケース会議を開いたりしている。

〔中学校〕

- ・福祉につなぎ、相談できる窓口をふやす。
- ・SCとの連携(SSW)。
- ・ケース会議。
- ・市の相談窓口（子育て支援課等）につなぐ。
- ・出身中学校との情報共有・連携。
- ・兄弟・姉妹等がいる場合は、在籍する小・中・高との情報共有・連携。
- ・SCや福祉、子家相へつなぐ。
- ・関係機関とつないで助言をもらっている。

〔高等学校〕

- ・学校での相談、面談（担任、学年部長等多くの先生との交流を促進）、教育相談委員会で支援の方法を検討、決定
- ・困難な家庭状況や虐待などが考えられる場合は、子ども家庭相談センターに連絡をすることがある。

子どもや保護者との関係づくり

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・園に来た時はできる限りスキンシップをはかり、信頼関係を築く。
- ・一対一の関わりを大切に、危険な行動に対しては丁寧にわかるようにスキンシップと併せて指導を繰り返している。
- ・特別支援担当教諭等が、日々子どもとかかわり細やかな支援をしている。

〔小学校〕

- ・登校時の顔色や体調、表情などを注意深くみるようにしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を含めた子どもの状況を把握するために、できるだけ個別に声をかけ寄り添うようにしている。 ・不登校児童については、本人の了承を得て、学校の様子を手紙等で伝えたり、担任が保護者連絡で電話した際に本人に代わってもらい直接話したりしている。また、定期的に訪問し本人と会うようにしている。 ・虐待の心配がある子どもの様子を丁寧に見届け、本音で話せる関係を築いている。 ・日頃から子どもの様子を観察し、話しかけ、本人の困りごと、悩み等に寄り添うように心がけている。 ・担任だけでなく、校内の教員で、登校している時には、声をかけて、安心して過ごせる環境づくりにつとめる。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で食事や家での生活の状況を聞きとり相談にのっている。 ・こまめな声かけ。積極的な声かけ。（2件） ・気になる子に対しての面談。
<p>〔高等学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な電話でのやり取り
<p>子どもの生活面への支援</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりのことに関しては保育士ができることは支援を行っている。 ・汚れた服装、身体をきれいに洗ってあげたり、食事が取れていない子どもにはお昼の食事量を増やしたりしてあげる。 ・衣服の洗濯。 ・登園時、体、頭髪、衣服、持ち物など清潔が保たれていないため、園生活に入るまでに着てきた服を園の洋服に着替え、洗濯、時にはシャンプー、シャワーもする。空腹の状態に登園すると顔色も悪く力が出ず座り込んでしまうので、別室で軽く食べて保育室にもどる。園生活に必要な持ち物が揃わないので、園のものを使用している。
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な朝食の用意。 ・食事がとれない。家庭科等の学習を生かして、自分でできるのであればできるように促す。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食を持ってきているかの確認。
<p>物的な支援</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持物や提出物の不備が多く、園で貸したり用意したりしている。 ・忘れ物が多いので、園のものを貸出し安心して過ごせるようにしている。 ・衣服が季節と合っていないため、風邪をひかないように、園用のものを着用させ、保護者の方へ連絡をしたり、貸し出したりしている。
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や諸活動に必要な物がそろわない場合は、担任が準備をするなどして、学習権が保証されるよう配慮をしている。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服や体操服を卒業生から寄付してもらい、準備できない生徒に貸し出している。 ・卒業生のもの（制服・体操服等）を調達した。
<p>学習に関する支援</p>

II-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

〔小学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・学習面での個別指導の機会を多くとる。 ・家庭教育が不十分なところを学校でフォローしている。 ・長期休業中の学習支援。 ・放課後の時間を利用し、学習支援を行っている。 ・訪宅による学習支援。 ・放課後や休み時間、長期休業中の学習支援。
〔中学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部事業との連携による放課後学習会の開設。 ・土曜日に学習支援教室を実施している。
〔高等学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・学習面で課題のある生徒については、放課後や長期休業中に個別指導を行っている。
〔大学〕
<ul style="list-style-type: none"> ・自習室の設置。 ・担任教員等による修学指導・相談。
家庭訪問
〔保育所・幼稚園・認定こども園〕
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて訪宅する。 ・定期的な訪問をしている。
〔小学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・訪宅して学校まで連れてくる。 ・家庭訪問を行い、登校を促す。 ・保護者との連絡が取りにくい場合は、児童の安全確認の観点からも、担任や生徒指導担当職員により、必要に応じて家庭訪問を実施している。 ・保護者が送って来られないで登校が難しいときは、迎えに行くこともある。
〔中学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に家庭訪問している。（3件） ・担任等による家庭訪問、個別面談。 ・定期的に訪宅し、家庭の状況を知る。 ・手紙をいれておく（訪宅してもいないときには）。
〔高等学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問
相談支援
〔高等学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの面談。 ・高校生では、精神的に不安定な状況にいる場合も多く、スクールカウンセラーのカウンセリングを受けさせることも多い。
経済的な支援
〔中学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・進学後、奨学金制度が利用できるよう案内と手続きの指導を行った。 ・生徒全員に奨学金の案内などを行っている。
〔高等学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金など当面の支えになる方策を探っている。
外国語への対応

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは日本語がわかるので、子どもを通して母親に伝えている。
〔小学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導教員による個別指導の実施。 ・ボランティアで、学習中の通訳をしてもらう。
〔高等学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の不自由な外国籍の生徒に対して、始業前に、日本語学習の支援を行っている。
その他
〔保育所・幼稚園・認定こども園〕
<ul style="list-style-type: none"> ・継続して登園することで、友達と遊ぶ楽しさが感じられるようにしている。
〔小学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後登校を本人の状況に合わせて行っている。 ・給食費や集金の未納については、担任により電話連絡を取ったり、学校長名による支払依頼を行ったりしている。 ・いつ登校してきても温かく迎えられる学級風土づくり。
〔高等学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への支援により、生徒全員に教材がいきわたるよう配慮している。

②親への支援

連携について
〔保育所・幼稚園・認定こども園〕
<ul style="list-style-type: none"> ・相談機関につないでいる。（3件） ・子育て支援課等の関係機関へつなぐ。 ・園から子育て支援課に情報を伝え、相談機関と連携して支援を行えるようにしている。保護者からも相談できるように風とおしをよくしておく。 ・相談窓口、相談機関とつないで、親に相談にいらしてもらったり、一緒に相談にのったりする。
〔小学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・相談機関につなぐ（子育て支援課）。 ・担任だけでなく、養護教諭や管理職が保護者対応をしている（電話、面談、相談機関や S.C につなぐ等）。 ・保護者の困り感を感じられた場合は、必要によって相談窓口の紹介を行っている。 ・児童、保護者、学校のつながりが途切れることがないよう、担任による電話連絡や、家庭訪問を実施している。 ・児童の家庭における安全や、学校生活が著しく不安定であると判断した場合には、関係相談機関につなぐことも念頭に、生徒指導を実施している。 ・連絡をとり合う関係づくりに努め、保護者の困り感に寄り添う。 ・相談窓口へのつなぎ。
〔中学校〕
<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議をもち保護者への支援、応援体制の整備を行っている。 ・社会福祉課と連携し、保護者への支援と生徒への学習支援をしていただいている。 ・SC、SSW との連携。 ・市の相談窓口（子育て支援課等）につなぐ。 ・相談機関につなぐ。 ・不登校の生徒に対して、子育て支援課を中心に関係機関と連携して対応に当たっている。

II-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関につないでいる。
<p>〔高等学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課や児相などとの連携を密にし、場合によっては通告などの措置を行う。一方で訪問教育相談員やカウンセラー、SSWとの面談を勧め、子育て全般の支援を行う。 ・経済的な困難が考えられる場合は市町の社会福祉関係と連携する場合がある。また、進学に際しての奨学金制度を紹介して、利用してもらう場合もある。
<p>保護者との関係づくり</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけを頻繁に行い、具体的な問題については話をしている。 ・園への提出物等について、声かけや、やり方を具体的に、時間を取って伝えている。 ・送迎時声かけをこまめに行う。登園、降園時間が遅れている時はつながるまで電話する。 ・「悩んでいること、困っていることがあれば相談してね」と声をかける。 ・提出物の期限等を口頭で伝える。 ・親は就労しているが、子どもの送迎の時間帯に対応できる仕事ではなく、親との連絡はつきにくい。配布の手紙も読まないままであり、園からこまめに連絡をとって伝えている。その時は了解してもらえが、実現につながりにくい。 ・親の養育能力により、子どもの発達、理解力も低い傾向にある。口答で伝えるだけでなく、園で水筒、はし箱の洗いや、持ちもの手直しなど、一緒にやって見せ、教えながらすすめている。 ・天気の良い日は、ふとんを干したり、部屋の空気の入れ替え（換気）をしたり、と具体的にやり方を伝えている。 ・園へ連れて来ないことが続いた時は電話や家庭訪問で様子をきく。 ・保護者の方も理解しにくい時があるため、園の連絡を個別に話し、分かりやすく、情報を整理して伝えるようにしている。また、困った事分からないときは、いつでも聞けるという、安心感と信頼関係の構築を大切にしている。 ・子育てのこと、生活の事、気になることは園から細目に丁寧に声掛けをし、日頃より相談しやすい関係作りに努めている。相談された内容はすぐに園全体で周知徹底し、必要に応じて専門機関につなぐようにしている。 ・定期的な、電話連絡をしている。
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と個別に話す機会を多く取り、つらさやしんどさを受けとめる。校内で共通理解を図るとともに福祉への支援室、児相とも連携していく。 ・未納について定期的に保護者に納入を求めている。 ・定期的な連絡や訪問。 ・学校行事（運動会や校外学習等）で、弁当が必要な際の事前確認。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡、家庭訪問 ・担任や学年団による家庭訪問、個別面談。
<p>物的な支援</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に必要な物は最低限にし、高いものはあまり取り入れないように工夫する。制服、帽子、カバンなど自由で園では強制していません。 ・衣類（制服、体操服を含む）のリユース。 ・生活に必要なもの（園で使用するもの）、服、くつ、ご飯、水筒など

II-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

<ul style="list-style-type: none"> 卒園児の親などに呼びかけて、使用しなくなった通園カバン、制服、帽子などいろいろ（購入できないので）いただいている。
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 社の協力で衣服や必要な学習用具のリユースを行う。 ランリユックのリユース。 小学校のバザーでは、学用品や学校指定の学用品等に融通をつけて調整が可能である。 ランドセル、上靴、体操服等の学用品のリユース（転入生や外国にルーツのある児童等に）。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 制服、体操服は社会福祉協議会を通してリユースしている。 リユース。 貸し出し。 制服、体操服のリユース。
<p>家庭訪問</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて訪宅する。 訪問し、届けものをしたり、要件をポストに入れることもある。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に訪宅し、保護者と面談する中で支援を検討している。
<p>情報提供</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院受診をすすめる。 子どもの負担にならないような、長時間保育や、土曜、休日保育の利用になるよう伝えていく。 保育料に関して面接の中で、生活実態を聴き取り、幼児課へ分納などの相談に行くよう毎回促している。 園だよりなどの配布プリントにひらがなのルビをうつ。個別に必要なことを伝える。 保育料滞納分については分割で支払うよう、定期的に声をかけている。子どもが園生活を楽しくしていることを伝え、継続して登園させてもらえるようにしている。 保育料支払方法の変更（分割）。
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学援助制度の紹介。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学援助をすすめる。 就学援助の制度等を積極的に紹介している。
<p>〔高等学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校以外の相談できる機関の紹介。 経済支援機関の紹介などを行っている。 <p>「滋賀県国立高等学校等奨学のための給付金」の受給案内等を行っている。</p>
<p>〔大学〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 奨学金・教育ローンの案内・説明。
<p>相談支援</p>
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済状況も踏まえ進路相談を行っている。 学校生活で困ったことがあれば、相談にのるよう学級担任や学年の教職員等学校全体で相談体制を整えている。

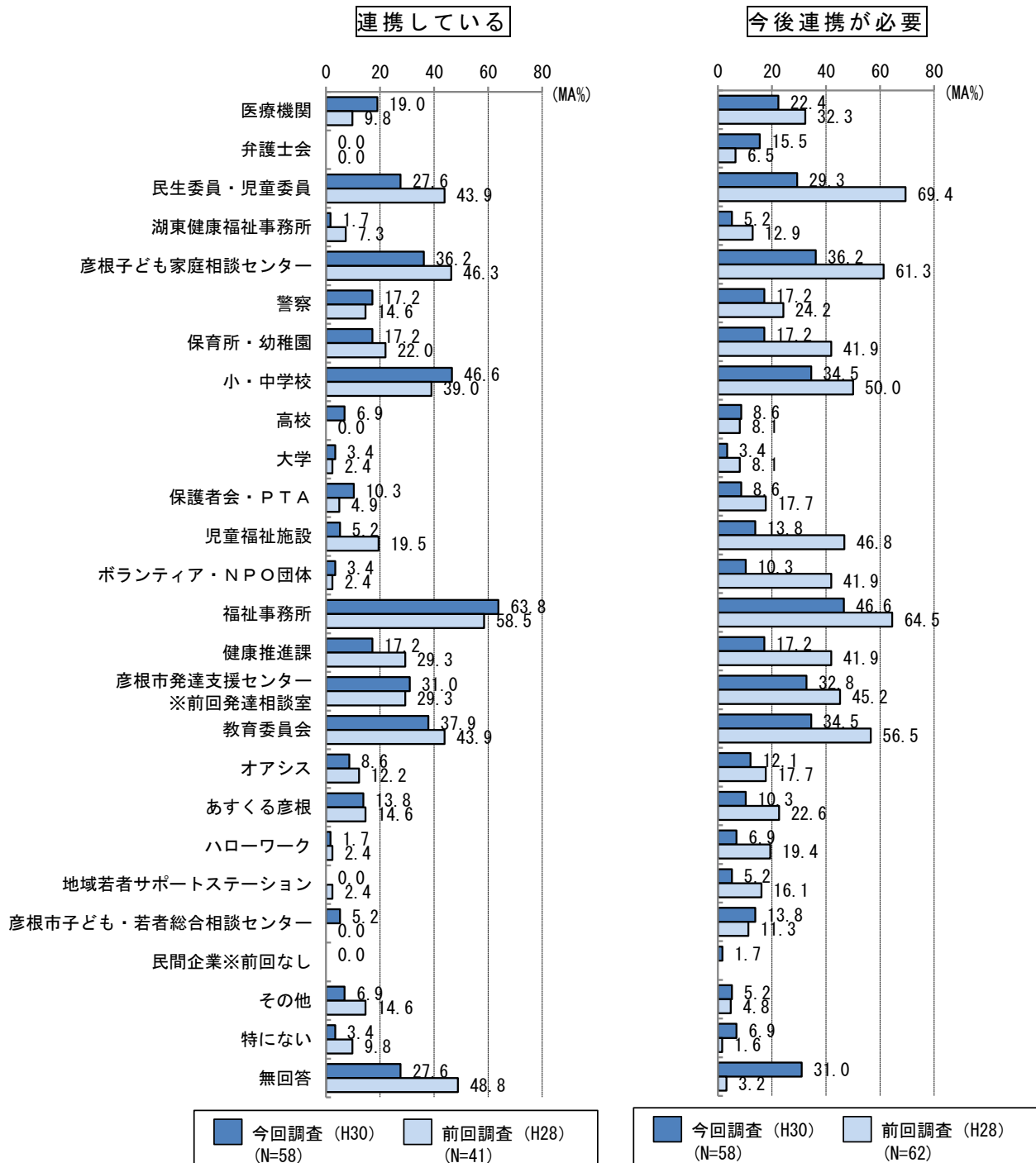
II-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

〔高等学校〕
・親に対してもスクールカウンセラーのカウンセリングを受けてもらうことがよくある。
経済的な支援
〔小学校〕
・学級費等の支払いの猶予。
〔中学校〕
・就学支援金、奨学のための給付金の活用。
・支払い期限の延長を認める。
〔大学〕
・授業料の減免。（2件）
・授業料の分納。
外国語への対応
〔保育所・幼稚園・認定こども園〕
・外国語翻訳した手紙（おたより）の配布。
・外国籍の親は、言葉の壁が大きい。園内に言葉の通じる親がいるので、その方に依頼して入園前、入園後の様々な準備物や書類、その他伝えてもらいたいことを、仲に立って伝えてもらった。
・人権政策課の翻訳、通訳を利用したり、翻訳アプリ等を利用したりして伝えるべきことを伝える。
〔小学校〕
・日本語での説明が難しい文書は、翻訳したものを渡したり、家庭訪問して説明したりする。
〔中学校〕
・保護者会時の通訳の同席。

〔5〕連携している機関や団体／今後連携が必要な機関や団体

問4 現在、貴校（園）において困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、連携している機関や団体などはありますか。（該当する番号すべてに○）

問6 今後必要な支援に取り組むため、連携が必要な機関や団体などはありますか。（該当する番号すべてに○）



困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、連携している機関や団体などについては、「福祉事務所」が63.8%と最も多く、次いで、「小・中学校」が46.6%、「教育委員会」が37.9%、「彦根子ども家庭相談センター」が36.2%、「彦根市発達

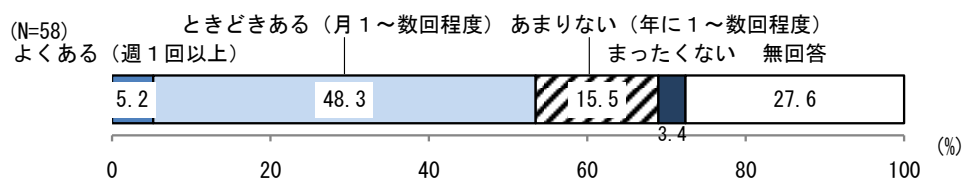
II-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

支援センター」が 31.0%となっています。

今後必要な支援に取り組むため、連携が必要な機関や団体は、「福祉事務所」が 46.6%と最も多く、次いで、「彦根子ども家庭相談センター」が 36.2%、「小・中学校」、「教育委員会」がそれぞれ 34.5%、「彦根市発達支援センター」が 32.8%となっています。

〔6〕他の機関や団体と連携する機会

問5 現在、貴校（園）において困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、他の機関や団体と連携する機会がどの程度ありますか。（該当する番号1つに○）



困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、他の機関や団体と連携する機会がどの程度あるかについては、「ときどきある（月1～数回程度）」が 48.3%と最も多く、次いで、「あまりない（年に1～数回程度）」が 15.5%となっています。

〔7〕他の機関や団体と連携する際の課題

問7 他の機関や団体と連携する際の課題を教えてください。

連携について

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・相談する際に相談内容について窓口が違っていることがあるので、窓口を一本化して、そこから各機関につなげられるようになればと思います。
- ・電話ですませようとするのは、いかがなものか。
- ・児童相談所、子育て支援課との関わりのある家庭の子どもの入園申請に際し、入園希望先がかたよらないよう、事前にバランスを考えて入園希望につなげてもらいたい。
- ・困難な家庭がどの機関と連携すれば良いのかわかりにくい。
- ・保護者が他の機関とつながることを求めず拒否することが多い。どの機関とつないでいけばよいのかわからないこともある。
- ・保護者が連携することを受け入れられなかったり、困った状況を認められない（受け入れられない）時の対応のあり方。

〔小学校〕

- ・どのような機関があり、どのように連携していくのが担当経験の薄い者にとっては、判断しづらい。

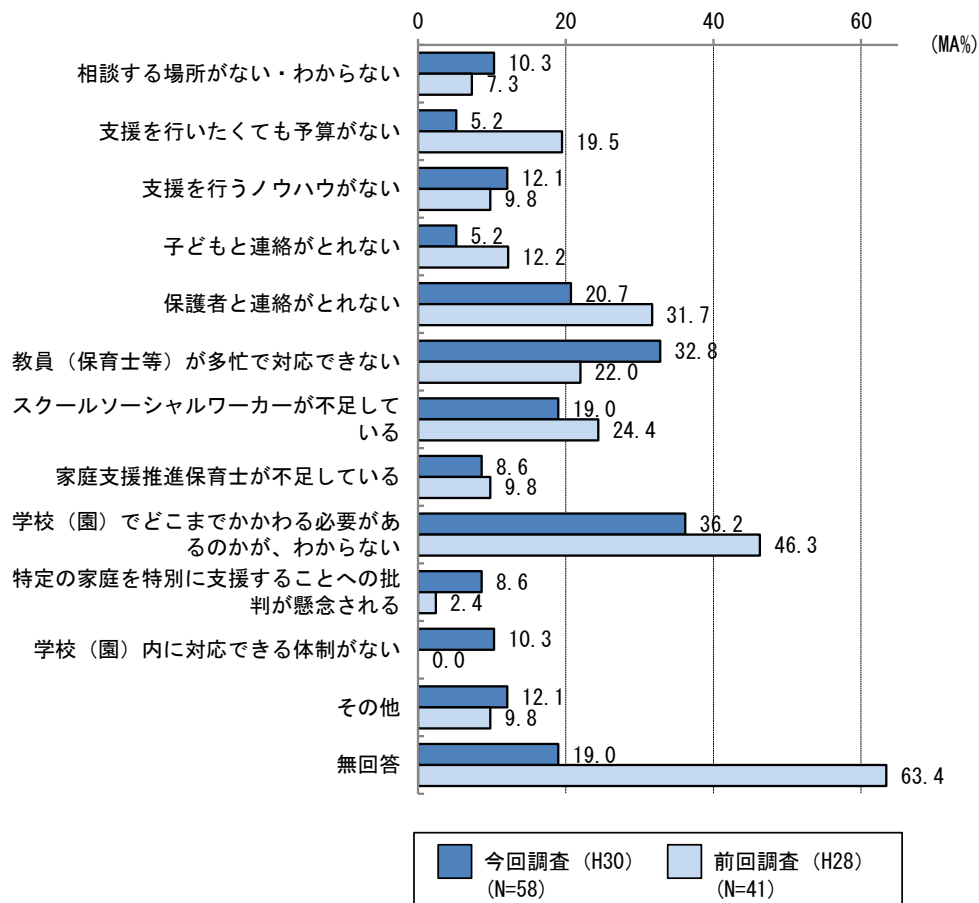
〔中学校〕

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的に困難で課題のある子どもや保護者は、生徒指導上の課題や虐待ネグレクト等の課題を併せもつ場合が多く、1人の生徒の対応を複数の機関と個別に対応しなければならないことがあり非効率である。 ・ どこに相談してよいのかわからない場合がある。 ・ どこの範囲まで関わってもらうかの判断が難しい。 ・ 複数の機関と関わったときに、一堂に会して交流したいが、時間を調整するのも難しく別々に話を聞いたりすると時間がかかってまとめていくのが大変。 ・ ケース会議を重ねるが解決に至らない。
<p>〔不明・無回答〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カルテのような経過観察表の統一化（関係機関の統一把握）
<p>個人情報について</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題のある家庭の情報をどこまでどの機関に相談したら良いのか、個人情報を守るという意味でも難しい課題である。 ・ 人権問題があるので、情報交換にも限度があり、本当のことがなかなかわからずに終わっているように感じます。 ・ 人権を尊重しながらプライドを傷つけないような体制で支援していきたい。 ・ 個人情報の保護について。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者及び本人の了解を得ること。
<p>情報共有について</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当職員が変わることもあるので、引継ぎは十分に行っていないといけないと思う。 ・ 内容の共有。
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者が変わるなどして、他機関内での情報の共有や引き継ぎが難しい。 ・ いかに情報を共有し、明確な役割分担をするか。
<p>時間の不足について</p>
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケース会議等を設定する時間がない。 ・ 時間の確保。 ・ ケース会等の時間の確保。度重なる会議による担当者の負担増。
<p>〔高等学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校側の教職員の日常の業務もあり、連携するための時間的な余裕が充分にない。
<p>その他</p>
<p>〔保育所・幼稚園・認定こども園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的に人手不足であることと、専門的に関われる職員がいない。 ・ 病気、けがなどで親の迎えの緊急を要する時、「連絡がつかない」、「迎えの体制が整えられない」といった場合の対応先。
<p>〔小学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 費用、日程調整。
<p>〔中学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイムリーな動きにつなぐりにくい。

〔8〕 困難な家庭の子どもや保護者に対する支援の課題

問8 現在、貴校（園）において困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、課題になっていることは何ですか。（該当する番号すべてに○）



（その他内訳）

〔保育園・幼稚園〕

・母親がどれだけ日本語わかっているか。

〔小学校・中学校・高等学校〕

・家庭への働きかけ支援に福祉が積極的にかかわってほしい。 ・教員の数足りない。

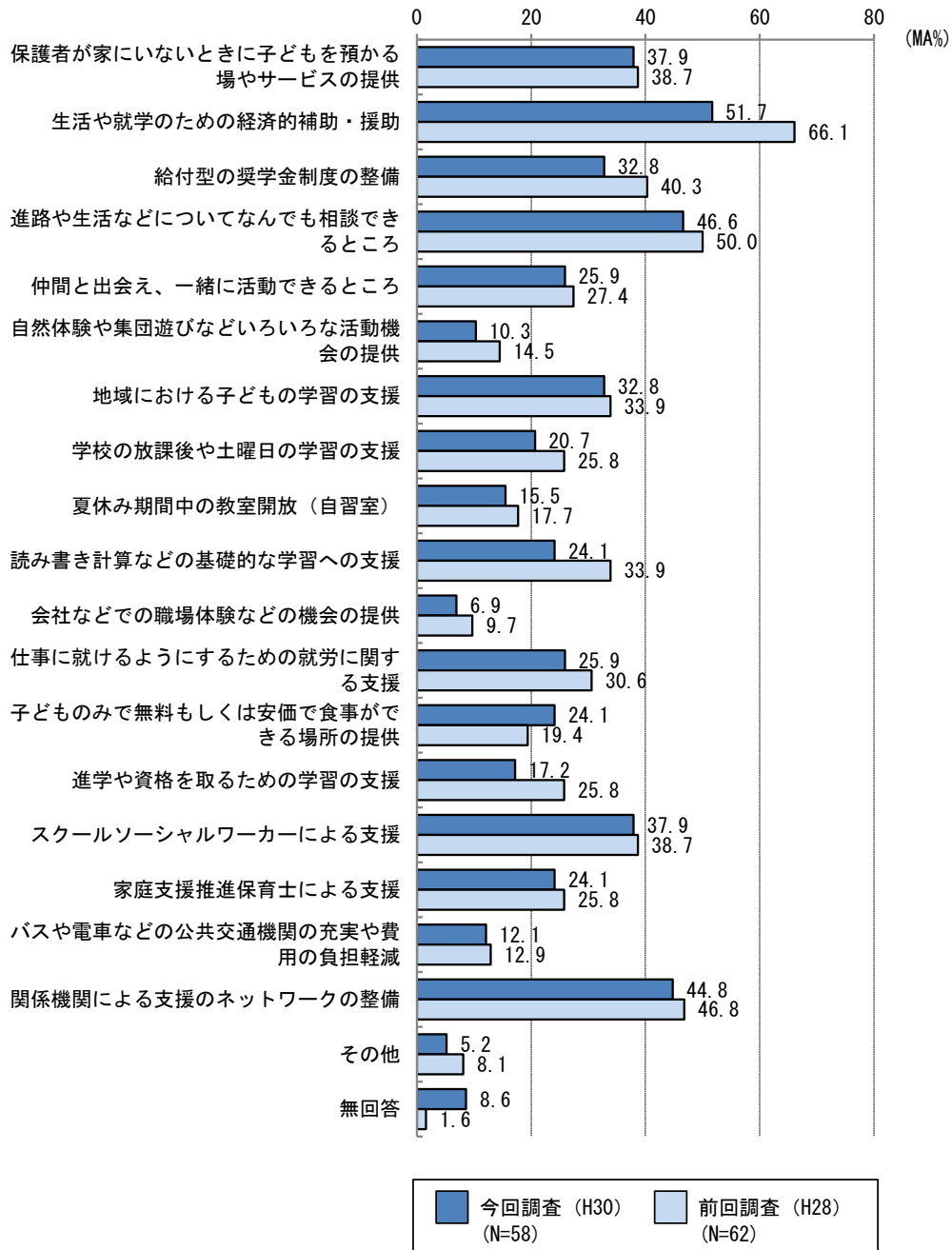
・親（保護者）の指導が必要な場合、どうすべきかということ。

・様々な学生の事情があり、大学として制度内での対応にならざるを得ない。

困難な家庭の子どもや保護者に対する支援の課題については、「学校（園）でどこまでかかわる必要があるのかが、わからない」が36.2%と最も多く、次いで、「教員（保育士等）が多忙で対応できない」が32.8%、「保護者と連絡がとれない」が20.7%となっています。

〔9〕 困難な家庭の子どもや保護者に対して必要な支援

問9 今後、困難な家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援が必要であると思いますか。（該当する番号すべてに○）



困難な家庭の子どもや保護者に対し必要な支援については、「生活や就学のための経済的補助・援助」が 51.7%と最も多く、次いで、「進路や生活などについてなんでも相談できる場所」が 46.6%、「関係機関による支援のネットワークの整備」が 44.8%となっています。

〔10〕 自由意見

問10 最後に、子どもの貧困やその対策について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

貧困が見えにくい

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・今年度はそれほど貧困な家庭はない。ただ貧困ではなくても保育料や材料費などが支払われず、滞っている家庭はある。どこからが貧困で貧困でないかを見きわめるのが非常に難しい。
- ・貧困家庭はなかなか見つけにくい状況で、保育料を払わない家庭がありますが、それが貧困とはつながりません。単にお金の使い方が誤っていたり、ルーズ**だったりする**ことが多いので、たくさんのお子どもたちの中から見つけるのは大変です。子育て支援、家庭支援の保育士が不足していて、取**り**組むことが大変です。
- ・今の**ところ**、地域では貧困家族はない。もし、園児が途中で生活に苦しくなったりした場合、早く気づいてあげられるように（保護者の方の様子や、園児の様子等）していきたい。
- ・余程ひどい状況でないと表に出てこないのが気付きにくい。「困っている」ことが相談できる（気楽に）機関を整備してほしい。
- ・幼稚園では、生活の困難な家庭が少数なため、目立ってしまうことがある。

〔小学校〕

- ・気をつけているが、見えにくい。子どもを通してなので余計に見えにくいと思われる。

〔不明・無回答〕

- ・貧困をアピールする家庭は少ないと思うので表面だけでなく、子どもの様子や、服装、言動などから早期に気づき、対応し、支援していくことが大切だと感じる。

その他

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・今年度初めて支援の必要がある園児を預かることになり、不安なことが多いです。子育て支援課の方と密に連絡を取り、しっかり支援できたらと思います。
- ・子どもの貧困と言われるが、原因はどこにあるのか。親の金銭感覚、清潔面に対する意識など、親自身の自覚と責任が一番問われるところではないか。まずは、親の指導が大切と思われる。
- ・社会（行政）の対応が充実すぎると（うれしいことではあるが）一方で、親の自覚、責任の力が低下していつている。
- ・みえていないだけかもしれませんが、身近にはいないと感じています。ただ、行政や、園、地域が共通理解をしておかなければならないのでは、思います。
- ・外国籍の子どもや保護者と意思疎通するための通訳さんがいつでも来てもらえる。または定期的に来てもらえる**体制**をつくってほしい（タガログ語、中国語等）。
- ・子どもは宝です。少子化に向っていく現代においてこの先 20 年、30 年先の社会を担ってくれる主人公であることを考えると子どもを育てることに十分な支援をしていくことが不可欠です。貧困ゆえに夢をあきらめなければならないのはなんとも悔しいことです。一人一人が夢をもてる社会になるよう知恵を出し合い十分な予算の確保と資源の有効活用をはかりたい。
- ・保護者や預り広場の支払いで困っておられる家庭、日々の生活に忙しく、子どもにあたたかく、優しく向き合えなくなっている家庭などがあり、子どもが不安定になっている。基本的な生活習慣が整わないなど、子どもの体や心の成長に影響が出てくることもある。
- ・人権の面において十分なあたたかい配慮を園児やクラスの園児、保護者への丁寧にしていく必要があり、職員のしっかりとした人権感覚や指導の力量が必要である。

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

〔小学校〕

- いろいろな課題をかかえる家庭、子どもがどんどん増えています。適切な支援援助をよろしくお願いします。
- 比較的安定した環境で生活をしている児童が多い。ただ、近年離婚に伴い、母子で親元である学区へ戻ってこられる家庭が目立つ。今のところその児童が経済的に困窮するということにはなっていないが注視していくことも必要であろう。
- 子どもは社会の宝であり、地域の未来そのものです。貧困に限らず、困難な状況にある子どもを社会合体で支え、負の連鎖を断ち切るためのしくみづくりが必要だと思います。まずは福祉や医療と教育がしっかり連携していくことが欠かせないと日々感じています。

〔中学校〕

- 子どもの教育に対しての援助が子どもに対して確実に使われるようにルールの整備をお願いしたい。
- 奨学金や給付金が適正に使われるような在り方。

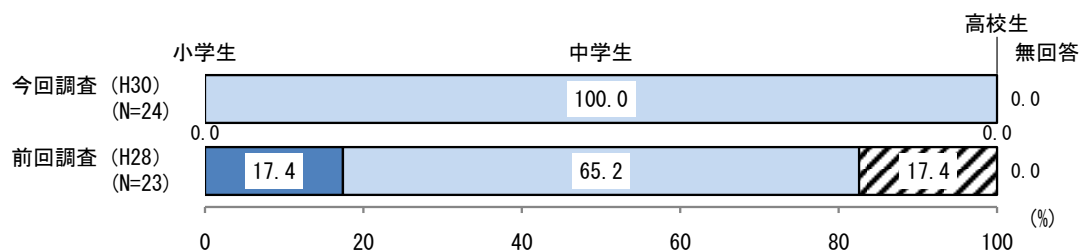
〔高等学校〕

- 子どもの困難さの背景のかなりの部分は、経済的な困難さがあると思う。従って、国・県・市が、それぞれの権限を使って経済的に困難な家庭への支援を行うべきである。日本の将来のためにも、教育のためにもっとお金を使うべきである。

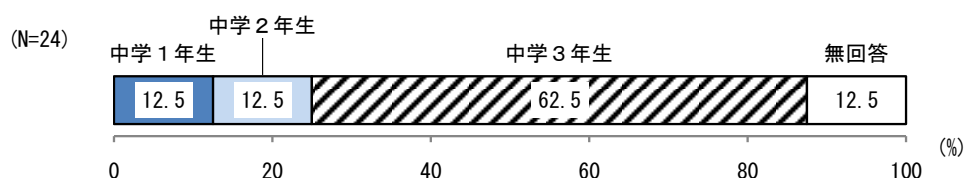
II-6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

〔1〕 学年

問1 あなたの学年を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけ、（ ）の中に数字を書いてください）



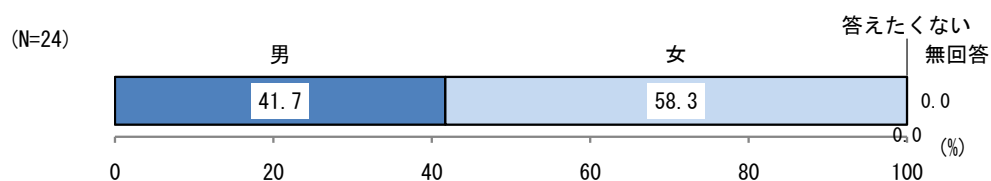
■ 学年



回答者は、すべて中学生で、学年は、「中学3年生」が62.5%と最も多くなっています。

〔2〕 性別

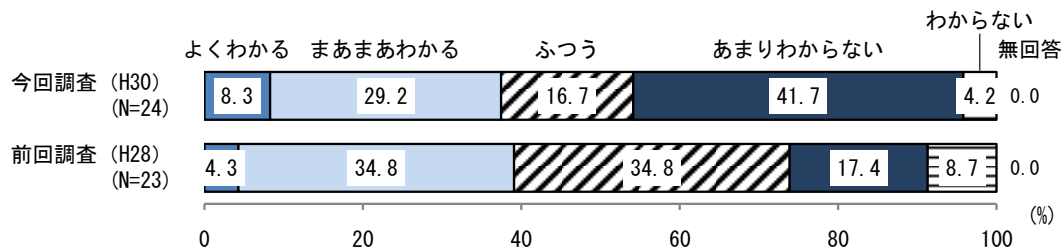
問2 あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）



性別は、「男」が41.7%、「女」が58.3%となっています。

〔3〕学校の授業（勉強）について

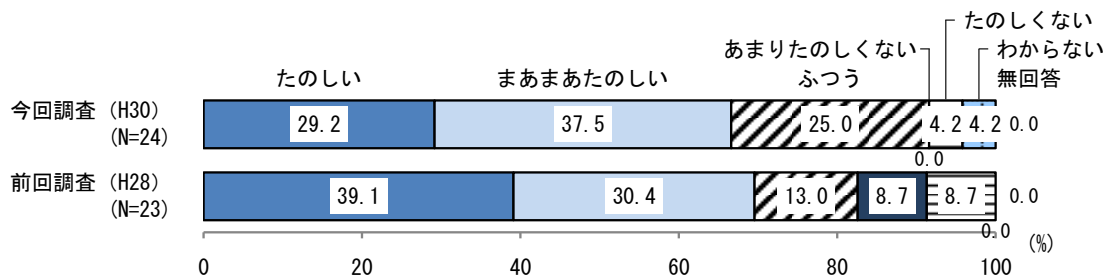
問3 あなたは、学校の授業（勉強）はよくわかりますか。（あてはまる番号1つに○）



学校の授業（勉強）の理解については、「あまりわからない」が41.7%と最も多く、次いで、「まあまあわかる」が29.2%となっています。

〔4〕学校について

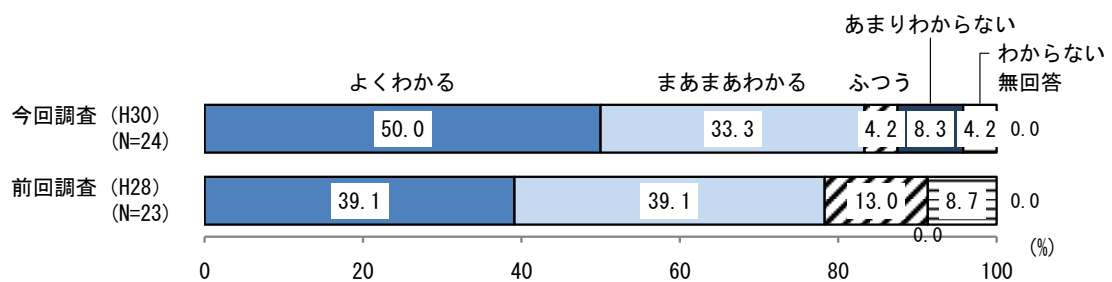
問4 あなたは、学校はたのしいですか。（あてはまる番号1つに○）



学校が楽しいかについては、「たのしい」と「まあまあたのしい」を合わせた『楽しい』が66.7%となっています。

〔5〕学習支援での勉強の理解について

問5 あなたは、ここでの勉強はよくわかりますか。（あてはまる番号1つに○）

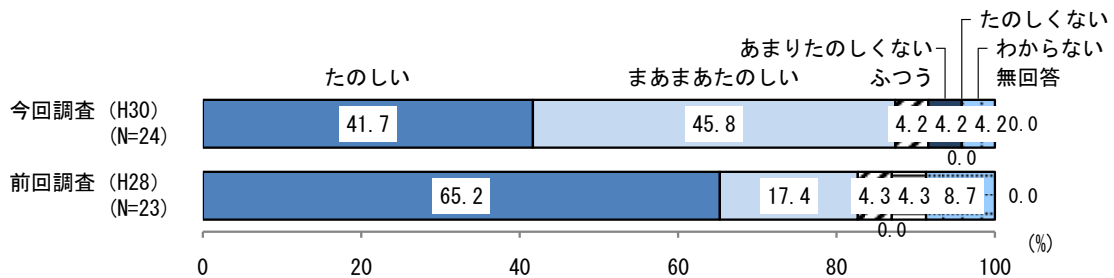


勉強がよくわかるかについては、「よくわかる」と「まあまあわかる」を合わせた『わかる』が83.3%となっています。

II-6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

〔6〕学習支援での勉強は楽しいか

問6 あなたは、ここでの勉強はたのしいですか。（あてはまる番号1つに○）

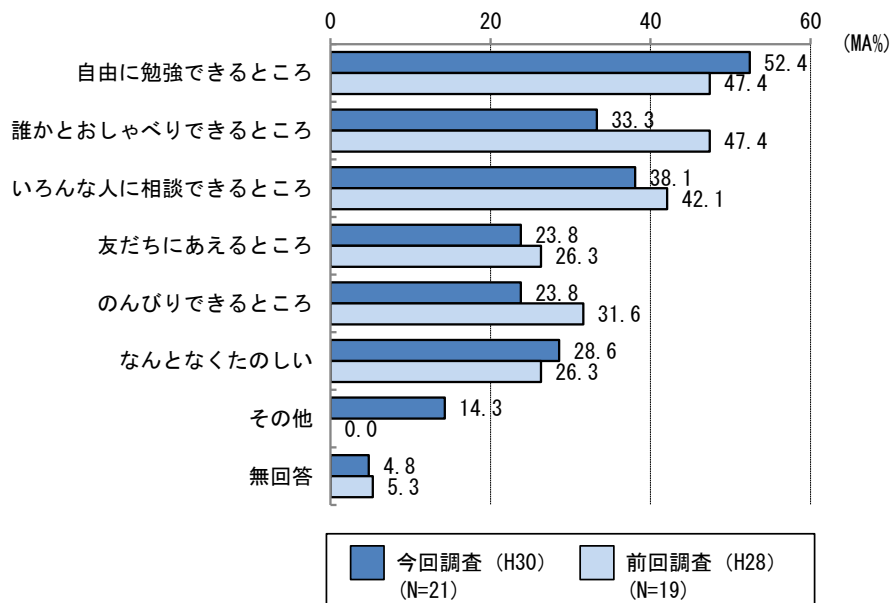


勉強は楽しいかについては、「たのしい」と「まあまあたのしい」を合わせた『たのしい』が87.5%となっています。

〔7〕学習支援での勉強が楽しいと思う理由

問6で「たのしい」か「まあまあたのしい」に○をつけた方のみ

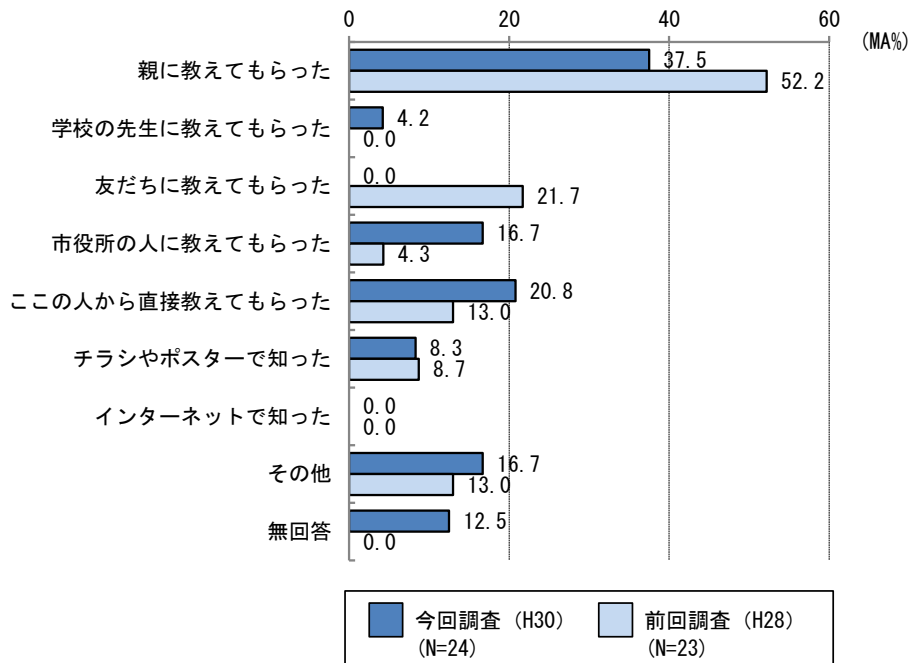
問6-1 ここは、どんなところがたのしいですか。「その他」を回答した人は、()の中にどんなところが楽しいかを書いてください。（あてはまる番号すべてに○）



学習支援での勉強が「たのしい」、「まあまあたのしい」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「自由に勉強できる場所」が52.4%と最も多く、次いで、「いろんな人に相談できる場所」が38.1%、「誰かとおしゃべりできる場所」が33.3%となっています。

〔8〕学習支援に来ることになったきっかけ

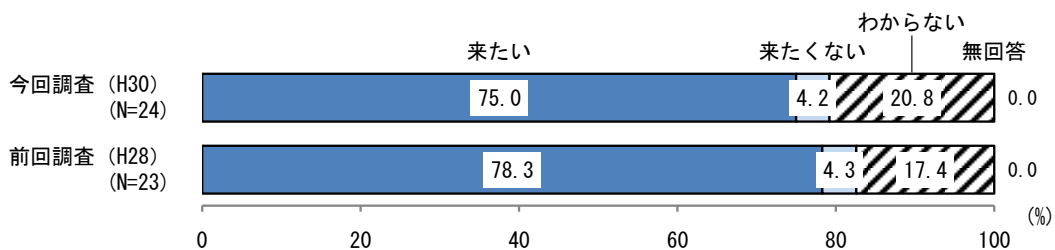
問7 あなたが、ここに来ることになったきっかけを教えてください。「その他」を回答した人は、()の中に、どういうきっかけでここに来ることになったかを書いてください。（あてはまる番号すべてに○）



学習支援に来ることになったきっかけについては、「親に教えてもらった」が37.5%と最も多く、次いで、「この人から直接教えてもらった」が20.8%、「市役所の人に教えてもらった」が16.7%となっています。

〔9〕これからも学習支援に来たいか

問8 あなたは、これからもここに来たいですか。（あてはまる番号1つに○）

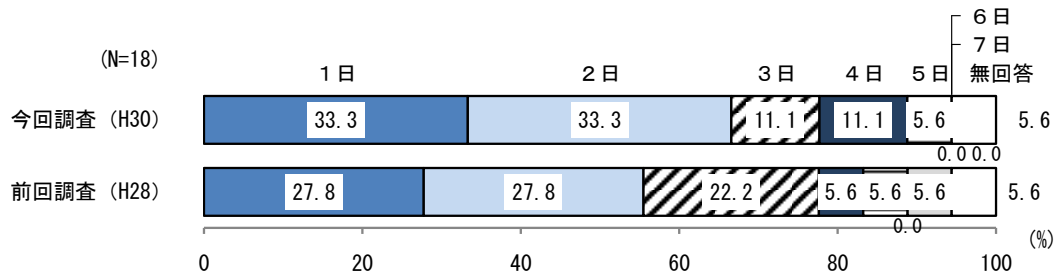


今後も学習支援に来たいかについては、「来たい」が75.0%、「来たくない」が4.2%、「わからない」が20.8%となっています。

〔10〕 週に何日くらい来たいと思うか

問8で「来たい」を選んだ方のみ

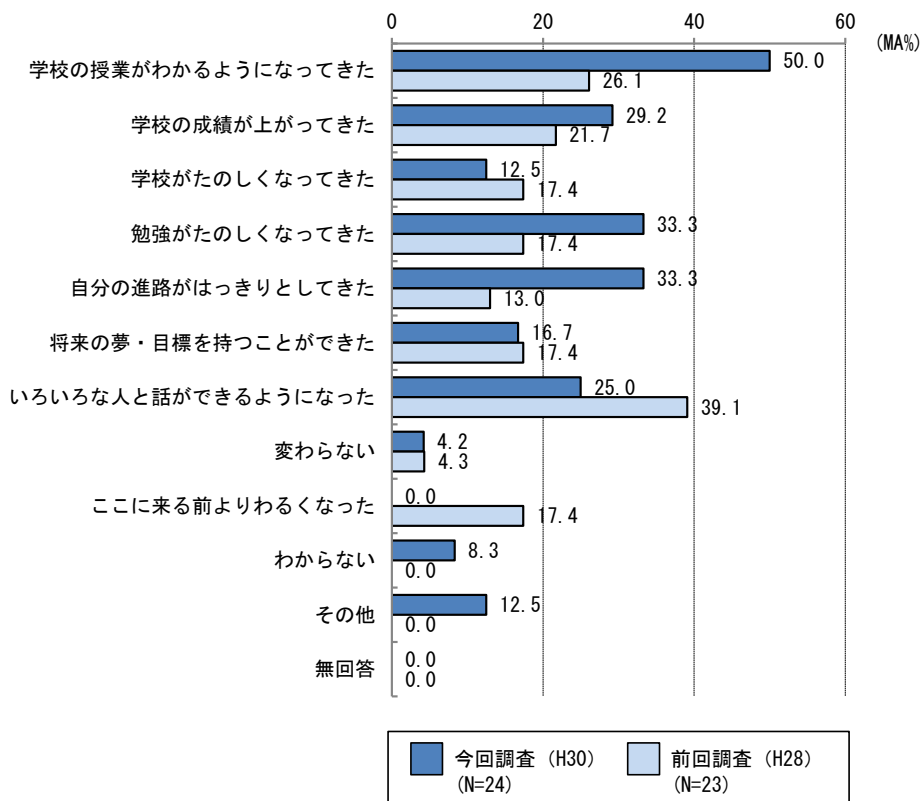
問8-1 あなたは、ここに、週に何日くらい来たいとおもいますか。（（ ）の中に、数字を書いてください）



週に何日くらい来たいと思うかについては、「1日」、「2日」がそれぞれ33.3%と最も多くなっています。

〔11〕 学習支援に来ることで変化はあったか

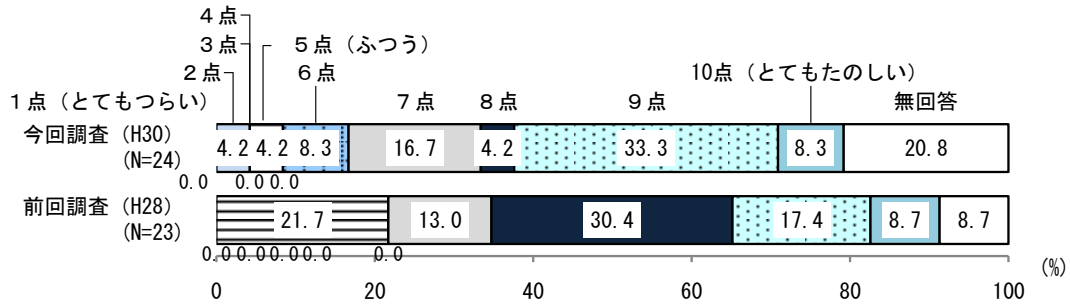
問9 あなたは、ここに来ることで、何か変化はありましたか。（あてはまる番号すべてに○）



学習支援に来ることであった変化については、「学校の授業がわかるようになってきた」が50.0%と最も多く、次いで、「勉強がたのしくなってきた」、「自分の進路がはっきりとしてきた」がそれぞれ33.3%なっています。

〔12〕 気持ちの変化

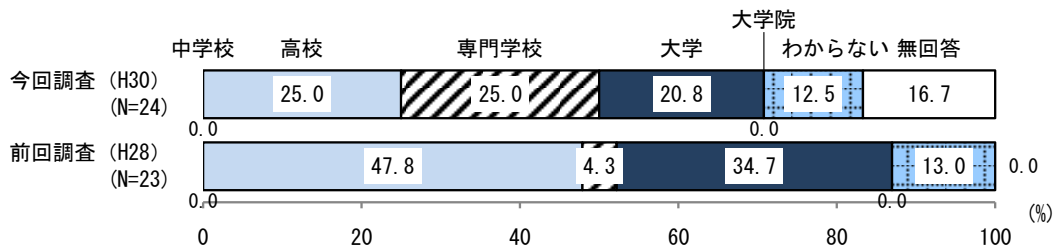
問10 あなたは、ここに来る前と今をくらべて、どんな気持ちの変化がありましたか。ここに来る前の気持ちを「ふつう（5点）」としたとき、今の気持ちを1～10点の間で回答してください。（あてはまる番号1つに○）



学習支援に来る前と比べてあった気持ちの変化については、良い方向への気持ちの変化があった子どもたちが多くなっています。

〔13〕 どの学校まで行きたいか

問11 あなたは、将来、どの学校までいきたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）



どの学校までいきたいと思うかについては、「高校」、「専門学校」がそれぞれ25.0%と最も多くなっています。

〔14〕 将来の夢や目標

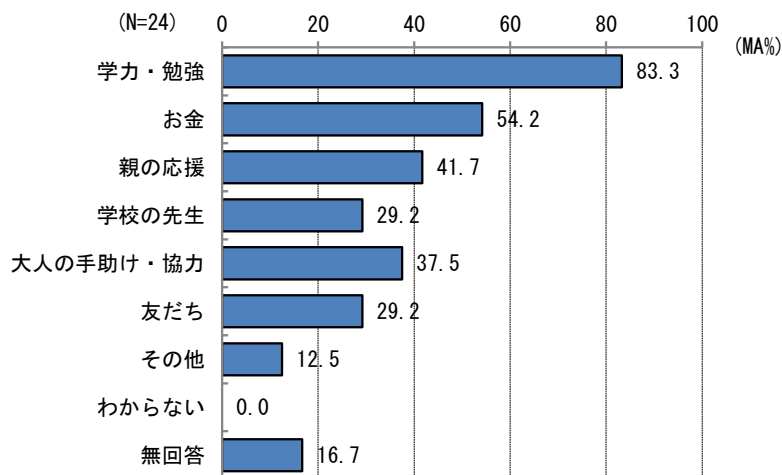
問12 あなたの、将来の夢や目標を教えてください。

将来の夢や目標

- ・介護福祉士 ・料理人 ・イラストレーター（3件） ・プログラマーになりたい
- ・学者になりたい ・まよっている。 ・韓国語、英語の通訳 ・看護師
- ・高校や大学で見つけられるといいなと思っています。

〔15〕 将来の夢や目標をかなえるために必要なもの

問13 あなたの、将来の夢や目標をかなえるために、必要なものは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）



将来の夢や目標をかなえるために必要なものについては、「学力・勉強」が83.3%と最も多く、次いで、「お金」が54.2%、「親の応援」が41.7%、「大人の手助け・協力」が37.5%なっています。

〔16〕 自由意見

問14 あなたが、ほかに伝えたいことや言いたいことがあれば、なんでもよいので自由に書いてください。

ほかに伝えたいことや言いたいこと

- ・学校で必要な物にお金がかかる。何も持ってきていないので全部買わないといけない。
- ・国語の問題の量やレベルを上げてほしい。
- ・日本の社会のしくみを知りたい。

II-7. 関係団体への聞き取り調査

I 調査実施概要

1 調査目的

保育・教育機関等を対象とした、子どもの貧困に関するアンケート調査の回答者に対して、回答内容についてさらに詳しくたずねる訪問インタビューの機会を設け、今後の計画策定にかかる子どもの貧困対策に関する施策の検討・立案等への基礎資料とする。

2 調査の位置づけ

子どもの生活に関する資源量アンケートおよび子どもへの支援に関するアンケート結果の補完的な意見の把握

3 調査対象

- ・子どもの生活に関する資源量アンケート回答者
(子ども食堂や学習支援などの団体の代表、スクールソーシャルワーカー、支援員など)
- ・子どもへの支援に関するアンケート回答者
(保育所・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・大学などの職員)

上記から計 13 件

4 調査手法

訪問によるデプスインタビュー（深層面接調査）

5 実施期間

平成 31 年 1～2 月

6 調査項目

- 経済的に困窮する家庭への接触機会
- 困難な家庭に関する具体的な状況
- 困難な家庭の子ども・保護者に対する支援の状況
 - ・子どもへの支援
 - ・保護者への支援
- 現在、支援を行う上で連携している機関や団体、連携の頻度
- 今後、支援に取り組むため、連携が必要に機関や団体
- 他の機関や団体と連携する際の課題
- 子どもや保護者の支援を行う上での課題
- 今後、困難な家庭の子どもや保護者に必要な支援
- 子どもの貧困やその対策についての意見

II 調査結果概要

ヒアリングによる発言内容全体を概観し、主要意見、主な傾向やその対策等について列記する。

①困難な家庭の子どもや保護者の実態

<全般>

- ・経済的な困窮がみられる家庭の件数については、調査対象により回答は様々である。調査方法は、アンケート結果を掘り下げる定性的なヒアリング調査であるため、「経済的な意味での困窮家庭は1件であるが、その他困り事を抱える家庭を含むと4件」、「就学援助者は30名弱いるが、要保護家庭の件数自体は3、4件」、「滞納があっても困窮しているかどうかわからない。明らかに困窮がみられるのは3人。生徒数500人のなかで10人弱と予想される」といった回答がみられた。
- ・全体として、経済的な困窮がみられる家庭という意味では、各学年（各年齢）で、10人以内といったところである。
- ・親子関係がうまくいかない家庭、就労の状況により子どもとの関わりが薄い家庭がみられる。
- ・経済的困窮、金遣いの粗さ、ネグレクト、力づく、過干渉など。

<保育所等>

- ・家庭支援にあがっている家プラス明らかに心配な家の件数として、10家族以内である。ただし、見えない部分は把握していない。

<小学校・中学校・高等学校>

- ・概ね小学校から高校については、1件という回答から30件程度という回答まで得られた。児童・生徒数によって割合は異なってくるが、各学年で1ケタ台までというところであり、10名を超えるほどではない。

<大学>

- ・大学では、経済的困窮のある子どもや家庭の件数について把握と断定は難しいが、授業料の滞納等が一定数みられる。また、奨学金制度等、何らかの助成金を得ている学生も一定数みられる。授業料の納付や奨学金を受けているからといって、生活困窮等の状況が顕著であるとは言い切れない。大学については、本人の意思により、身繕いや生活習慣等の選択ができアルバイト収入を得られる年齢に達しているためか、外見や生活態度から経済的な困窮を推し量ることは難しいと考えられる。

<子ども食堂>

- ・生活保護の受給家庭や困窮家庭、母子家庭を対象として実施。
- ・子どもは、あまり家庭の問題を語らない。

<学習支援>

- ・大津いじめ事件をきっかけに、いじめについての認識が高まっている。「これはいじめになるか」、「うちの子はいじめられているのでは」といった不安を抱える親が多くなっている。
- ・送迎時に保護者との接触があるため、預かり中の出来事をきちんと説明している。

②困難な家庭の具体的な状況

○支払いができない状況について

- ・滞納や長期未納のある人も、ノート等の支払い等についての滞納がみられず、短期的な一部の支払いについては、精一杯しようという姿勢自体はうかがえる。
- ・遠足や修学旅行の参加費、給食費の支払い、学級費の支払い等の滞納については、アプローチをかけている。
- ・担任からの連絡でなく、事務方から連絡して、お支払をお願いします。支払の計画を聞きながら、無理のないように支払っていただく。
- ・給食費の滞納が30件くらいあるという学校。
- ・多重債務の状態でも子どもにかかる費用が支払えないというケース。
- ・国や県の奨学金では不足、社協の制度を利用している例。
- ・生活保護の給付をはなれても依然、困窮していて、貸付が多いという問題がみられる。

○制服・体操服、学習用品が購入できない状況について

- ・卒業した生徒等の譲渡による制服・体操服等の保管がある。社会福祉協議会との連携により、生徒の状況を見越して制服だけでなく衣服・下着等を用意し、困っている生徒に与えている。
- ・転入、入校時に「制服が買えない」と学校に行ってくるケースがある。その場合は、学校でキープしている制服を与える。
- ・洋服や学習用具等を買ってもらえない家庭がある。選択制の教材の場合、困難家庭では買わない傾向にある。

○入浴、衛生について

- ・頭髪や身体の臭い、着衣の状況等により、入浴や洗濯がおろそかになっている状況がうかがえる。
- ・デリケートな部分であるので、注意の仕方にも工夫がいる。
- ・他の児童・生徒からの目から守るためにも、施設や校内のシャワー、お風呂を使わせて対応する。
- ・低年齢児のいる園等では、園で用意している下着・洋服を着替えさせて、洗濯する場合もある。
- ・施設での着替えや洗濯、入浴等により、それとなく、保護者に清潔な身繕いを促す。
- ・入浴していないことを、オープンな関係により、直接指摘するお母さんもおられる。
- ・子ども食堂で、においのある子どもに特に何かするのは特別扱いになるためしない。

○朝食等の摂取状況について

- ・経済的な困窮ということに関わらず、規律正しい朝食摂取を行っていない家庭が多くみられる。
- ・就寝時間が遅く、起床時間も遅く、朝食を摂っていないケースもみられ、背景にゲーム等の影響による夜更かし、多忙な保護者が準備をしないとといった状況が考えられる。
- ・朝食を摂っていない子どもは、痩せていたり、お昼の給食をたくさん食べたりする。
- ・朝食が果物だけとか、お菓子といったケースもみられる。
- ・低年齢児がいる保育施設では、朝ご飯を食べる時間がない子どももおり、朝の時間帯に持参した食べ物を食べる時間帯をとって対応している。
- ・保護者が3日ほど不在で、子どもに1,000円程度渡して、食品を自分で購入する子どもの

II-7. 関係団体への聞き取り調査

例。3日目には足りなくなり、社協が食料を持参して駆けつけるというケースもある。

- ・経済的困窮を抱える家庭では、保護者の帰宅が遅く、食材が乏しいという例もある。
- ・大阪や豊郷町のように「朝給食」があるとよいと思われる一定数の子どもがみられる。

○不登校について

- ・保育所・幼稚園においては、「保護者が連れてこない」というケースは少ないが、保護者の心理状態や家庭内のトラブル等、何らかの事情により子どもの養育がおろそかになるケースも浮かがる。
- ・小学校、中学校、高校については、不登校の児童・生徒は一定数みられる。回答例としては、「各学年に5人ずつくらいいる」、「家庭環境に問題があるケースが多い」
- ・不登校については、全欠の場合も多いが、「1学期は欠席していたが、2学期は時々出て来ている」、「好きな授業のときは来る」、「放課後に登校するときもある」といった変動や改善がみられる場合もある。
- ・不登校からの脱却に向け、担任が生徒の来やすい「この曜日に登校を」と決めていたり、「放課後でもいいから登校を」と促している場合もある。
- ・不登校までいかないが「学校に行きしぶる生徒も、頑張っけて登校している」ケースもある。
- ・不登校児・生徒には、登校を促す電話連絡、訪問もしている。
- ・連絡が取りづらいこともある。

○子どもや保護者との連絡がとれない状況について

- ・固定電話がなく携帯電話のみの家庭も多い。着信履歴で折り返しコールバックがある場合はいいが、出てもらえないだけでなく、着信拒否や不通等もみられる。
- ・インターホンに出ないご家庭もある。
- ・子育て支援課にケース担当の方がおられるので、担当の方に動いていただく。保護者と連絡をとっていただいたり、訪問することもある。
- ・訪宅しても出ない、電話に出ないケースは、そういう家であると決めつけがち。だが、そういう家庭こそ支援が必要である。

○外国籍の方への対応について

- ・両親ともに日本語が話せない場合もあるが、子どもがしっかり日本語を話せる家庭もある。
- ・両親のうち、どちらかが外国籍で日本語が話せない、子どももまだ話せないといったケースには、日本語の話せる保護者のほうへのアプローチで対応する。
- ・子どものテスト用紙に、漢字にはルビを振ることもある。
- ・保護者のどちらかが日本語が話せない場合、話せるほうの保護者にアプローチしたり、子どもが話せるので通訳を頼んだりといった対応をしている。
- ・外国籍でも非常に熱心で日本語コミュニケーションに意欲的な保護者もいる。
- ・外国籍の子どものうち、学習言語能力が低いと学力が低い傾向にある。友達とのコミュニケーションは図れるし、日常会話ができるために「問題なし」とすることに問題がある。
- ・外国籍の子どもたちが学力の低い傾向は、全国的な現象であり、今後も外国籍の児童・生徒が増えるため、大きな課題となる。
- ・家庭では多言語が飛び交い、アイデンティティはないし、言語の壁は大きい。
- ・学校や病院への書類記入など事務手続きについては、ある程度の語学力が必要。

○生活（リズム、態度、マナー）

- 両親が昼夜逆転のような生活の場合、生活リズムが子どもに影響してくる。
- 小さな子どもが、夜遅くまで起きているケースがみられる。
- 整理整頓ができていない。物が散乱している家、**ごみ**屋敷に近い家等がみられる。そういう家に限って、ペットを何種類も何匹も飼っている場合がある。すると臭いが発生する。動物好きということで、「優しさ」はあるが、寂しさを紛らわすためとも考えられる。
- 「何をするのも綱渡り的な生活」をしている家庭では、子どもも無理が言えない。
- 10時開始の子ども食堂に、11時になっても来ないため、電話をかけてあげると「寝ていた」というケースがある。食べるのは12時なので、11時までに連絡つけば来るよう促す。

○学力

- 中学生が下のきょうだいの面倒をみるケースでは勉強時間がなくなり、学力が低下する。
- 九九を言えない、分数の計算をわかっていない、アナログ時計の見方を知らない、住所が書けない、といった子どもたちがみられる。

○その他

- 上の子ども（きょうだい）に、乳幼児の面倒をみさせるケース。
- ゆとりがないためか、読み書き算数等、学力が遅れている。
- 1日3食が習慣化されていない家庭がみられる。
- 保護者に心の余裕がないことで、子どもにあたる。
- 保護者のダブルワークや夜勤で、子どもに接する時間が少ないケース。
- 親に構ってもらえない子どもが、学校で問題を起こし教師に構ってもらおうとするといったケースがみられる。
- 父子世帯、母子世帯は**子ども**との関係が1対1になるので、逃げ場がなくなる。
- 友達との関係性をつくりにくい子ども、距離をつかむのが難しいという子どもが多い。
- 中学校での給食が開始されたことにより、登校する人が増えただけでなく、コンビニ前で食べ散らかすといった光景もみられなくなった。
- 社会的擁護が必要な家庭は増えている一方、送迎が面倒なため、せっかくの支援をやめてしまうケースが増えている。
- 子ども食堂は、学校に行く・行かない、勉強についていけない・いけないといった話が多い。

③困難な家庭への支援

- 「子どもや保護者と本音で話す」ということを目指している。
- スクールカウンセラー、子育て支援課にはお世話になっている。
- 市の方には、お母さんの面接もしていただいている。
- 負の連鎖を断ち切る手立てが必要。母親も、子どもと同じように育てられてきたため、同じような子育てしかできないケース、同じような物言いしかできないケースがみられる。
- 困難な境遇に育った**親**の心理状態を救うことも必要。
- 「困っているが、やり方がわからない」という人への対応が必要。

○子どもへの支援

- 人とのコミュニケーションや学力面で、発達心配がある子どもについては、外部の専門家の発達相談、巡回相談や検査を受けてもらうということもある。
- 学校に行きしぶる子どもの現状に対して、学校として何ができるのか模索している。

II-7. 関係団体への聞き取り調査

- ・土曜支援を実施している。経済的な理由だけでなく、色々な理由で希望がある。塾に行けない子ども、学力的に厳しい子ども、自発的に進んで土曜支援に来たい子ども等。定員 20 名で実施している。
- ・高校生では精神的に不安定な状況にいる場合も多くスクールカウンセラーのカウンセリングを受けさせることも多い。教職員も子どもの支援についてスクールカウンセラーに相談することがある。
- ・学習面で課題のある生徒については、放課後や長期休暇中に個別指導を行っている。
- ・困難な家庭状況や虐待などが考えられる場合は子ども家庭相談センターに連絡をすることがある。
- ・子どもたちの出すシグナルに対して、できるだけことはするが、特別に抱っことかはせず、線引きしている。やりすぎると、期待されるため。言葉で認め、寄り添う。
- ・「声かけチェックシート」で、職員に声をかけてもらっていない子どもがないように確認している。
- ・放課後の時間帯、態度の指導に、自由なところときっちりするところでメリハリをつける。あいさつ時はお行儀よく、勉強が終われば自由に遊べるなど。

○保護者への支援

- ・親に対してもスクールカウンセラーのカウンセリングを受けてもらうことがある。
- ・経済的な困難が考えられる場合は市町の社会福祉関係と連携する場合がある。また、進学に際しての奨学金制度を紹介して利用してもらう場合もある。
- ・スクールカウンセラーの実態例として、年間 100 時間（県から派遣）、1 人当たり 1 時間、1 日 4 時間、月 2 回程度。親が受ける場合、不登校に関することが多い。
- ・学校への不信感や誤解が見受けられるが、学校ではない支援組織として、うまく間に入っている。「学校が悪い」といったことには同意しないが、極力お話は承る。
- ・自分自身で答えが導けるようにというスタンスでいる。
- ・実験的に、お迎え時のコーヒーサービスを行ったことがあるが、孤立者も顔のみえる関係が築けるなど好評を得た。何らかのかたちで、こうした場・機会づくりを常態化できるとよい。保育所、カフェ、文庫の複合機能や穏やかな気持ちになれる場など。

④現在、連携している機関・団体など

- ・「市の子育て支援課との連携が一番多い」という回答が多い傾向にあり、「何かあったときには子育て支援課さんに動いていただいて、お世話になっている」、「ご家庭への直接の連絡、訪問もしていただく」、「学校の担任等に話せないようなことも、相手が変わると話せる」といった実態がみられる。
- ・卒業後の進路決定のためのハローワークとの連携。
- ・何かトラブルがあれば、児童相談所との連絡が必要となる。
- ・社会福祉協議会
- ・子育て支援課や学習支援との情報交流がある。

⑤機関・団体との連携の頻度

- ・保育・教育機関において、連携が「よくある」のは、「子育て支援課」との回答傾向が強い。
- ・問題を地域で解決できる仕組みづくりがあるとよい。

⑥今後、連携が必要な機関・団体

- ・現在、連携している機関・団体との一層の結びつきを図る他、現在は連携していないが、新たに連携したいところを加えている回答が多い傾向がみられる。
- ・将来的な進路、社会人として就労していくにあたり、教育機関としては、ハローワークや企業・事業所とのパイプを強化することを望まれている。小学校では、体験学習との兼ね合いにおいての企業・事業所をあげる例もみられる。
- ・保育施設において、保護者支援に関して、警察との連携を必要とする声もある。保護者が警察にお世話になっていたことや、虐待や暴力、騒ぎ等の問題、家族内での親権トラブル等に関する対応等の局面に際して、つながりがあるとスムーズ。
- ・小・中・高への入学時の連携が必要。
- ・虐待への対策に関連して、今後、警察との連携が必要と考えている。
- ・母子家庭の就労に関連して、民間企業との連携。

⑦他の機関や団体と連携する際の課題

- ・経済的な困難を抱える家庭は、虐待やネグレクト等の他の課題を併せ持つ複合的な事例が多い。そのため、一人の生徒に対して、複数の機関が連携をとりながら個別対応していく必要がある。
- ・学校側の教職員の日常の業務もあり連携するための時間的な余裕が十分でない。
- ・他機関との連携に際し、「主として担うのは誰か」となる。

⑧困難な子ども・保護者に対する支援を行う上での課題

- ・スクールソーシャルワーカーの存在はありがたいが、もっと活用できるとよい。本市では、現在、必要時に対応というかたちであるため、問題が浮上してもタイムリーに相談できず、棚上げになってしまいがちである。
- ・スクールソーシャルワーカーは常駐していれば理想だが専門職がない。
- ・将来的にはスクールソーシャルワーカーが増員配置される方向であると思うが、どのように対応してくれるのかイメージがわからない。
- ・子どもにとって「ああいう人になりたい」というモデルがなく、関わっている目の前の親をモデルにすると、将来が限定される。
- ・希望者の多い保育所としては、本当に保育が必要な方に入っていただきたい。いったん入ると辞めてもらうのは難しいが、そこを調整できるとよい。預かりが長期にわたる人の見極めも検討していく必要がある。
- ・学童は、ひしめき合って勉強する場であり、苦痛を感じる子どももいるが、怒って自宅に帰っていく場にはしたくない。
- ・時間を少しずらして、学童の延長のような場があるとよい。

⑨今後、困難な子ども・保護者に必要な支援

- ・1年入学時に訪問して家庭状況を把握。
- ・子どもが相談しやすい仕組みづくり。基本的には担任が相談に応じて解決に向かうのが望ましいが、養護教諭やカウンセラーに頼る子どももみられる。

II-7. 関係団体への聞き取り調査

- ・専門職や外部の専門家の支援が必要な場合、つなげて相談に至るまでの期間を要するため、もう少しスピーディな対応が可能になるとよい。
- ・不登校の児童・生徒に対するケア。通信制の教育機関を受験するとか、何らかの手立てを打つ必要があるが、本人と話ができないケースがある。何の見通しもない場合、どうしていかかが課題。⇒子ども・若者総合相談センター
- ・「どう育てていいかわからない親」というのがあるため、子育てに関する学びが必要。
- ・将来「頑張ればあんなふうになれる」という、実現可能で身近なモデルケースを紹介する。
- ・ごはんをつくらない家庭があるため、子どもが料理できるように、自立できるように支援していく必要がある。
- ・民間による放課後の居場所づくり。支援できる場があるとよい。
- ・家に居れそうにない家庭がある。シェアハウスの要望もあり、福祉圏域を超えるところで実現できないか。
- ・子ども食堂を拡張したような「みらい食堂」ができるとよい。
- ・子ども食堂で、つくるボランティア、関わるボランティアはいるが、施設でのボランティアがいない。
- ・基礎学力の支援が必要。
- ・夕食に近い時間帯での子ども食堂の展開が課題。子ども食堂は先輩モデルに触れられる場にもなり得る。長い目でみた就労支援の場としての機能をもつあるいは、別途、場を設ける。
- ・キャリア設計、将来を考えるゲーム感覚のグループワークで、夢や進路についての疑似体験。
- ・社会性の育成。就労感の育成。

⑩子どもの貧困やその対策についての意見

- ・持っているもの、着ているものでは、貧困かどうかわからない。
- ・生活保護費の適正な活用。本当に必要な人に支援が届くようにすることが大事。娯楽費や嗜好品代に浪費しているケースを見聞きするため。
- ・子どもの困難さの背景のかなりの部分は経済的な困難さがあると思う。従って国・県・市がそれぞれの権限を使って経済的に困難な家庭への支援を行うべきである。日本の将来のためにも教育のためにもっとお金を使うべきである。
- ・子どもの教育に対しての援助が子どもに対して確実に使われるようにルールの整備をお願いしたい。
- ・色々な課題を抱える家庭、子どもがどんどん増えている。行政には、適切な支援・援助をお願いしたい。
- ・各家庭の状況を把握し、それぞれに応じた支援が必要。
- ・生活支援については、「経済的に困っている」、「片づけられない」といった問題点をきっちり探ることが需要。
- ・「支援される側」にも、「誰かの役に立ちたい」という思いがあるため、支援する側、支援される側の垣根を超える発想も大事。
- ・学力が低いまま、社会人となった大人向けに、「学び直しの場」ができるとよい。